

茨城県 水戸市

# 東前原遺跡

(第17地点第2次)

(仮称) ツルハドラッグ水戸東前店新築  
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2019年3月

水戸市教育委員会

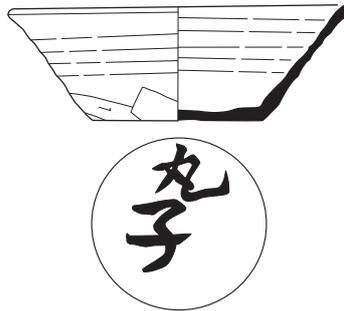


茨城県 水戸市

とう まえ はら い せき  
東 前 原 遺 跡

(第17地点第2次)

(仮称) ツルハドラッグ水戸東前店新築  
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2019年3月

水戸市教育委員会



## ごあいさつ

水戸市域の東側にある東前原遺跡は、那須岳を水源とする那珂川右岸の台地上に位置しています。本遺跡の周辺には、文献に残る最古の貝塚である国指定史跡「大串貝塚」や、6世紀後半に築造された首長墓とみられる北屋敷古墳群、奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落と考えられている梶内遺跡など、多くの重要遺跡が残されており、古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられています。

近年、東前原遺跡が位置する東前町周辺は、区画整理事業に伴い宅地化が急速に進んでおり、周辺に位置する遺跡の様相も大きく様変わりしています。埋蔵文化財は、その性格上、開発などにより一度壊されてしまうと、二度と現状に復すことができないため、私たちひとりひとりが大切に保存しながら後世に伝えていかなければならない貴重な財産です。本市教育委員会といたしましては、その意義や重要性を踏まえ、開発事業との調和を図りながら、文化財の保護・保存に努めているところです。

この度の調査では、50軒近くの古墳時代から奈良・平安時代に至る竪穴建物跡群が確認されました。特に奈良時代前半の竪穴建物跡からは、本市では初の出土例となる基石がまとまって検出されるとともに水晶製の切子玉や鉄製のくるる鉤が出土するなど、一般集落とは異なる様相を示す貴重な成果を得ることができました。

ここに刊行する本書が、豊かな地域史の一端を復元することで貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へ繋がることを願い、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら、今回の調査実施にあたり、多大なる御理解と御協力を賜りました近隣住民の皆様方、並びに種々の御指導・御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます、ごあいさつといたします。

平成31年3月

水戸市教育委員会

教育長 本 多 清 峰

## 例 言

1. 本書は、茨城県水戸市東前町地内に所在する東前原遺跡第 17 地点の発掘調査報告書である。
2. 調査は、(仮称) ツルハドラッグ水戸東前店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、水戸市教育委員会が実施した。

本多 清峰 水戸市教育委員会教育長

事務局

関口 慶久 水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター所長

米川 暢敬 同主幹

新垣 清貴 同主幹

廣松 滉一 同文化財主事

丸山優香里 同埋蔵文化財専門員

松浦 史明 同埋蔵文化財専門員

染井 千佳 同埋蔵文化財専門員

有田 洋子 同囑託員 (公開活用担当)

昆 志穂 同囑託員 (庶務担当)

米川 健太 同臨時職員

3. 出澤秀行・大和ハウス工業株式会社から発掘調査業務委託を受けて有限会社毛野考古学研究所茨城支所は、水戸市教育委員会の監督のもと発掘調査を実施した。担当者は土生朗治である。
4. 調査期間は、平成 30 年 5 月 23 日～平成 30 年 8 月 7 日、整理期間は、平成 30 年 9 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日で、調査面積は 3443.50 m<sup>2</sup>である。
5. 調査・整理担当者、執筆分担は以下の通りである。  
【発掘調査】 土生朗治 (有限会社毛野考古学研究所)  
【整理作業】 土生朗治、賀来孝代 (有限会社毛野考古学研究所)  
執筆分担は、第 1 章第 1 節、第 2 章を新垣が、第 1 章第 2～4 節、第 3・4 章を土生が担当し、賀来が編集した。
6. 本書に関わる資料は水戸市教育委員会が保管している。
7. 20 号竪穴建物出土石製品の石材は、茨城県自然博物館 小池渉氏に鑑定していただいた。
8. 発掘調査から本書刊行に至るまで、下記の方々・諸機関からご指導・ご協力を賜りました。記して感謝申し上げます (敬称略)。  
【個人】 稲田健一、宇留野主税、川口武彦、窪田恵一、小池渉  
【機関】 茨城県教育庁文化課、茨城県自然博物館
9. 本書の作成にあたっては、高橋真弓、鬼山由子、仙波菜津美、石山亜希子、大滝千晶、成田恵美の協力を得た。
10. 発掘調査参加者は以下の通りである。  
石崎靖也、石山匠、市毛祐一、大津智美、小山義則、海後晴美、小河原百合子、小久保勝司、佐藤武志、佐藤としえ、鈴木潤一、立原正一、仲沢栄、村上巧兒、茂垣裕二、安井忠一、渡辺恵子

## 凡 例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図、水戸市発行2千5百分の1都市計画図である。
2. 出土遺物の注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。  
SI・・・竪穴建物　SB・・・掘立柱建物　SE・・・井戸　SX・・・陥し穴　SK・・・土坑  
SD・・・溝　Pit・・・ピット　K・・・攪乱
3. 実測図で使用した縮尺は以下の通りである。違う縮尺を使う場合は個別に表示している。  
竪穴建物・掘立柱建物・井戸・陥し穴・土坑・溝・ピット・・・1/60　全体図・・・1/300
4. 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、( )内数値が計測推定値を、< >内数値は残存値を表す。

# 目 次

ごあいさつ

例言

凡例

第1章 調査に至る経緯と調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	2
第4節 基本層序	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3節 既往の調査	7
第3章 遺構と遺物	10
第1節 竪穴建物	10
第2節 掘立柱建物	87
第3節 井戸	90
第4節 陥し穴	91
第5節 土坑	95
第6節 溝	100
第7節 道路	100
第8節 ピット	107
第9節 遺構外出土遺物	108
第4章 総括	125

# 挿 図 目 次

第1図 東前原遺跡 第17地点試掘調査	1	第11図 3号竪穴建物	17
第2図 基本層序	2	第12図 4A・4B号竪穴建物	18
第3図 遺跡の位置	3	第13図 3号竪穴建物出土遺物	19
第4図 周辺の遺跡	4	第14図 4A号竪穴建物出土遺物(1)	19
第5図 既往の調査地点	7	第15図 4A号竪穴建物出土遺物(2)	20
第6図 調査区全体図	11	第16図 4B号竪穴建物出土遺物	20
第7図 1A・1B号竪穴建物	13	第17図 5号竪穴建物	21
第8図 2号竪穴建物	14	第18図 5号竪穴建物出土遺物(1)	22
第9図 1B号竪穴建物出土遺物	15	第19図 5号竪穴建物出土遺物(2)	23
第10図 2号竪穴建物出土遺物	15	第20図 6号竪穴建物	24

第 21 図	6 号竪穴建物出土遺物	25	第 69 図	29 号竪穴建物	66
第 22 図	7 号竪穴建物	26	第 70 図	29 号竪穴建物出土遺物	67
第 23 図	7 号竪穴建物出土遺物	27	第 71 図	31 号竪穴建物	69
第 24 図	8 号竪穴建物	28	第 72 図	31 号竪穴建物出土遺物	69
第 25 図	8 号竪穴建物出土遺物	28	第 73 図	32 号竪穴建物	70
第 26 図	9 号竪穴建物	29	第 74 図	32 号竪穴建物カマド	71
第 27 図	9 号竪穴建物出土遺物	30	第 75 図	32 号竪穴建物出土遺物 (1)	72
第 28 図	10 号竪穴建物	31	第 76 図	32 号竪穴建物出土遺物 (2)	73
第 29 図	10 号竪穴建物出土遺物	32	第 77 図	32 号竪穴建物出土遺物 (3)	74
第 30 図	11 号竪穴建物	33	第 78 図	33 号竪穴建物	75
第 31 図	11 号竪穴建物出土遺物 (1)	34	第 79 図	33 号竪穴建物出土遺物	75
第 32 図	11 号竪穴建物出土遺物 (2)	35	第 80 図	34 号竪穴建物出土遺物	75
第 33 図	12 号竪穴建物	37	第 81 図	34 号竪穴建物	76
第 34 図	12 号竪穴建物出土遺物 (1)	38	第 82 図	35 号竪穴建物	77
第 35 図	12 号竪穴建物出土遺物 (2)	39	第 83 図	35 号竪穴建物出土遺物	78
第 36 図	13 号竪穴建物	40	第 84 図	36 号竪穴建物	79
第 37 図	13 号竪穴建物出土遺物 (1)	41	第 85 図	36 号竪穴建物出土遺物	80
第 38 図	14 号竪穴建物	42	第 86 図	37 号竪穴建物	80
第 39 図	13 号竪穴建物出土遺物 (2)	43	第 87 図	37 号竪穴建物出土遺物 (1)	81
第 40 図	14 号竪穴建物出土遺物	43	第 88 図	37 号竪穴建物出土遺物 (2)	82
第 41 図	15 号竪穴建物	44	第 89 図	38 号竪穴建物	83
第 42 図	15 号竪穴建物出土遺物	45	第 90 図	39 号竪穴建物	83
第 43 図	16 号竪穴建物	46	第 91 図	40 号竪穴建物	84
第 44 図	16 号竪穴建物出土遺物 (1)	47	第 92 図	41 号竪穴建物	84
第 45 図	16 号竪穴建物出土遺物 (2)	48	第 93 図	38・39・40・41・42 号竪穴建物出土遺物	85
第 46 図	17A 号竪穴建物出土遺物	48	第 94 図	42 号竪穴建物	86
第 47 図	17A・7B 号竪穴建物	49	第 95 図	1 号掘立柱建物	87
第 48 図	17B 号竪穴建物出土遺物	50	第 96 図	2 号掘立柱建物	88
第 49 図	18 号竪穴建物	51	第 97 図	3 号掘立柱建物	89
第 50 図	18 号竪穴建物出土遺物	52	第 98 図	掘立柱建物出土遺物	91
第 51 図	19 号竪穴建物	52	第 99 図	1・2 号井戸	91
第 52 図	19 号竪穴建物出土遺物 (1)	53	第 100 図	井戸出土遺物	92
第 53 図	19 号竪穴建物出土遺物 (2)	54	第 101 図	1・2・3 号陥し穴	93
第 54 図	20 号竪穴建物	55	第 102 図	2 号陥し穴・土坑出土遺物	94
第 55 図	20 号竪穴建物出土遺物 (1)	56	第 103 図	土坑 (1)	96
第 56 図	20 号竪穴建物出土遺物 (2)	57	第 104 図	土坑 (2)	97
第 57 図	21 号竪穴建物	58	第 105 図	1 号溝	99
第 58 図	21 号竪穴建物出土遺物	59	第 106 図	道路関連溝 (2・3・4・5・6・8・9 号)	101
第 59 図	22 号竪穴建物	60	第 107 図	道路関連溝 (西部分)	103
第 60 図	22 号竪穴建物出土遺物	60	第 108 図	道路関連溝 (中央部分)	104
第 61 図	24 号竪穴建物	61	第 109 図	道路関連溝 (東部分)	105
第 62 図	25 号竪穴建物	62	第 110 図	溝出土遺物	106
第 63 図	24 号竪穴建物出土遺物	63	第 111 図	ピット出土遺物	109
第 64 図	25 号竪穴建物出土遺物	63	第 112 図	遺構外出土遺物	109
第 65 図	26 号竪穴建物	64	第 113 図	遺構外・表土出土遺物	110
第 66 図	27 号竪穴建物	64	第 114 図	古墳～平安時代の集落変遷図	127
第 67 図	28 号竪穴建物	65	第 115 図	6～7 世紀の土器	129
第 68 図	26・27・28 号竪穴建物出土遺物	65	第 116 図	茨城県内出土のクルル鉤	129
			第 117 図	須恵器ヘラ記号集成図	130

## 表 目 次

表 1	主要な周辺遺跡一覧表	5	表 12	出土遺物観察表 (9)	119
表 2	既往の調査一覧表	9	表 13	出土遺物観察表 (10)	120
表 3	ピット一覧表	108	表 14	出土遺物観察表 (11)	121
表 4	出土遺物観察表 (1)	111	表 15	出土遺物観察表 (12)	122
表 5	出土遺物観察表 (2)	112	表 16	出土遺物観察表 (13)	123
表 6	出土遺物観察表 (3)	113	表 17	出土遺物観察表 (14)	124
表 7	出土遺物観察表 (4)	114	表 18	須恵器ヘラ記号一覧表	131
表 8	出土遺物観察表 (5)	115	表 19	出土遺物集計表 (1)	132
表 9	出土遺物観察表 (6)	116	表 20	出土遺物集計表 (2)	133
表 10	出土遺物観察表 (7)	117	表 21	出土遺物集計表 (3)	134
表 11	出土遺物観察表 (8)	118			

## 写 真 図 版 目 次

図版 1	西調査区, 東調査区, 1・2・3号竪穴建物	図版 18	8・9・10号竪穴建物遺物
図版 2	4A・4B・5・6・7号竪穴建物	図版 19	11号竪穴建物遺物
図版 3	7・8・9・10号竪穴建物	図版 20	11・12号竪穴建物遺物
図版 4	10・11・12・13号竪穴建物	図版 21	12・13号竪穴建物遺物
図版 5	13・14・15・16・17A・17B号竪穴建物	図版 22	13・14・15号竪穴建物遺物
図版 6	17A・17B・18・19・20号竪穴建物	図版 23	15・16・17A号竪穴建物遺物
図版 7	20・21・22・24号竪穴建物	図版 24	17B・18・19号竪穴建物遺物
図版 8	25・26・27・28号竪穴建物	図版 25	19・20号竪穴建物遺物
図版 9	29・31・32号竪穴建物	図版 26	20・21・22号竪穴建物遺物
図版 10	32・33・34・35・36号竪穴建物	図版 27	24・25・26・27・28・29号竪穴建物遺物
図版 11	37・38・39・41・42号竪穴建物, 1号井戸	図版 28	29・31・32号竪穴建物遺物
図版 12	2号井戸, 1・2・3号陥し穴, 1号掘立柱建物	図版 29	32・33・34・35号竪穴建物遺物
図版 13	1・5・12号土坑, 1号溝, 1号道路遺構	図版 30	36・37号竪穴建物遺物
図版 14	1・2・3・4A号竪穴建物遺物	図版 31	37・38・39・40・42号竪穴建物遺物
図版 15	4A・4B・5号竪穴建物遺物	図版 32	41号竪穴建物, 1・2・3号掘立柱建物, 1・2号井戸, 2号陥し穴, 1・5・6号土坑遺物
図版 16	5号竪穴建物遺物	図版 33	1・2・3号溝, 6・29号ピット, 遺構外・表土遺物
図版 17	6・7号竪穴建物遺物		

# 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

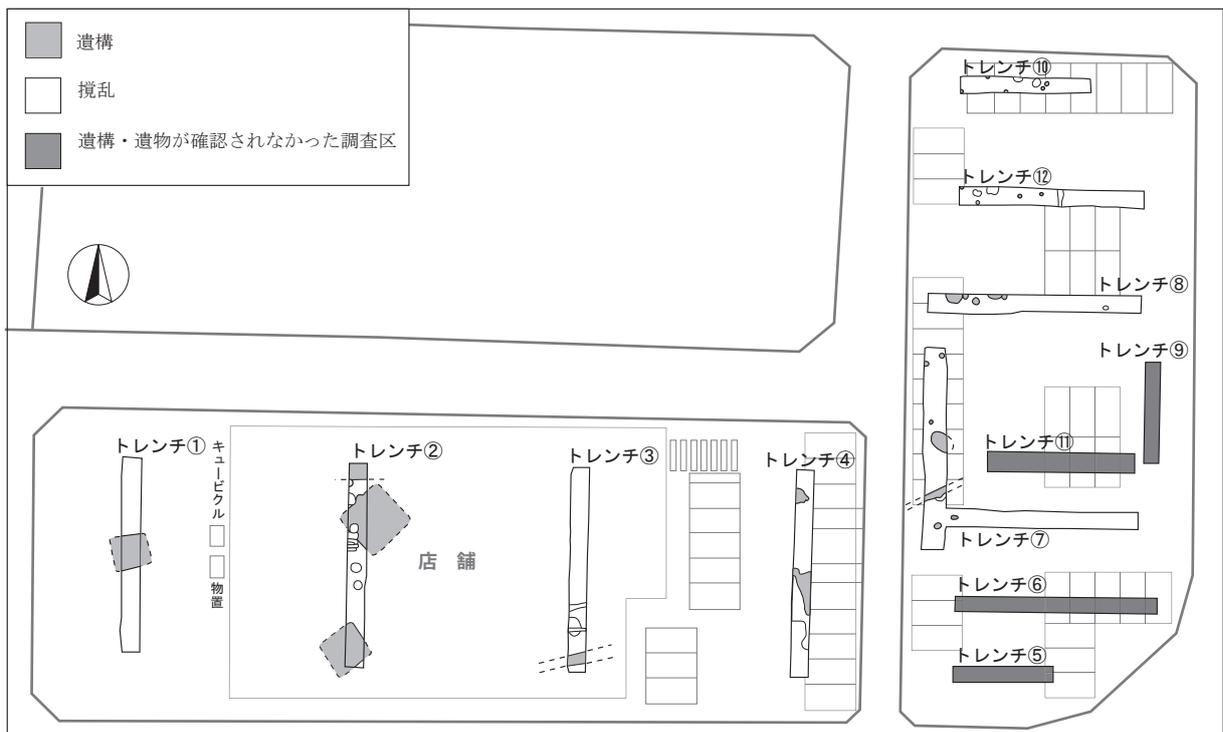
## 第1節 調査に至る経緯

平成30年2月20日付けで、物販店舗建設に伴い、大和ハウス工業株式会社茨城支社長 成田誠（以下「事業者」という）から、水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」が提出された。

開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当しており、工事着手60日前までに茨城県教育委員会教育長あて文化財保護法第93条に基づく届出を提出する必要があること、遺跡の発掘調査を必要とする場合には原因者の協力をお願いする旨回答した（平成30年2月23日付け・教埋第1712号）。

その後、平成30年3月7～8日と13～14日に試掘調査を実施した。計12本の調査区を設定し、掘削したところ、4か所を除き8か所の調査区から竪穴建物跡や土坑、ピット、溝などの遺構とともに遺物が検出された（東前原遺跡第17地点第1次調査、教埋第1713号、第1図）。その後、市教委は現状保存に向け事業者と協議を重ねたが、工事による影響は不可避であり、埋蔵文化財の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、事業者から提出のあった文化財保護法第93条第1項に基づく届出について、記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して、茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進達した（平成30年4月26日付け教埋第1714号）。この通知に対し、県教委教育長から平成30年5月10日付け文第308号にて、工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果、重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受けて、市教委は工事対象地のうち埋蔵文化財が確認され、開発により影響を受ける面積3,443.50㎡を調査対象とし、平成30年5月23日～平成30年8月31日の期間に有限会社毛野考古学研究所の支援を受けて記録保存を目的とした本発掘調査を実施することとした。



第1図 東前原遺跡 第17地点試掘調査 (1/2,000)

## 第2節 調査の経過

平成30年5月23日東前原遺跡第17地点表土除去作業を開始する。5月26日には遺構の確認作業を開始し28日には西側調査区の西端から堅穴建物・溝の掘り込みを開始する。遺構は堅穴建物跡42軒、掘立柱建物跡3棟、土坑や溝などが予想を超える数で確認される。6月～7月と順次東側に向かって調査を進め、8月初旬には東側調査区の掘り込み・図面作成・空撮写真撮影がほぼ終了する。その後ピットや土坑の調査もれがないかを確認し、8月7日に現地調査を完了する。

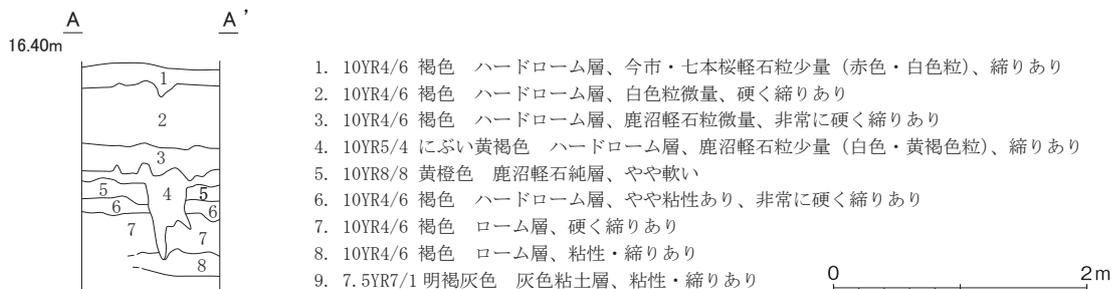
## 第3節 調査の方法

調査区は水戸市教育委員会による試掘の結果を基に設定した。表土除去は重機を使用して遺構確認面まで掘り下げた。その後人力作業により遺構確認を行い、遺構の掘り下げを行った。遺構の測量は、世界測地系平面直角座標第IX系上の公共座標に基づいて行なった。公共座標上で、調査範囲外側の北西角のX軸37850、Y軸62480を起点として、南方向と東方向に10mおきにグリッドラインを設定し、交差したマス目に第6図にあるようにA1からG12までグリッド名を振り遺構の位置を示した。調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。遺構の記録は1/20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、1/10、1/20を使用した。遺跡全測図は1/200で作成した。写真撮影は、白黒35mm判、リバーサル35mm判、デジタルカメラ（1,600万画素）を使用し、調査の各段階に随時行った。

## 第4節 基本層序

調査区の基本堆積土層は、西側の調査区の西部に位置する4号堅穴建物付近のA地点で堅穴建物の調査が終了したのちに、重複している近世の井戸（1号井戸 D-2グリッド）の深部の調査と絡めて記録した。

1～4層は硬質な褐色ハードローム層で、1層中には今市・七本桜軽石粒を少量含んでいる。3～4層中には赤城山鹿沼テフラ（Ag-KP）粒を少量含んでいる。5層は赤城山鹿沼テフラの純層でやや軟らかい。7・8層はやや粘性のある褐色ローム層で、9層は灰褐色粘土層である。



第2図 基本層序

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

水戸市は、関東平野の北東部、茨城県のほぼ中央に位置する。市域の北部には、西から東へ流れる那珂川とその支流により形成される沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。その下流域右岸の大半が水戸市域となる那珂川は、栃木県的那須連山を水源として、八溝山地の西縁を南へ流れた後、烏山の南から方向を東へ変えて八溝山地を横断し、今度は御前山を背にして南東へ方向を変えて那珂台地と東茨城台地との間を太平洋へと流れ出る。この那珂川が存在により、栃木県域に広がる那須野原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸部とが水上交通によって結ばれることから、歴史的に水戸市域は交通の要衝地となるが多かった。

東前原遺跡は、東茨城台地の北東部をなす水戸台地の東側縁辺、標高約19mのところの位置しており、東西300m、南北150mほどの畑地に展開する。当該地周辺は明治18(1885)年には広範囲にわたって松林であったことが確認できるが(第3図)、近年では土地区画整理事業に伴い、大規模な土地改変が行われ、宅地化が進んでいる。

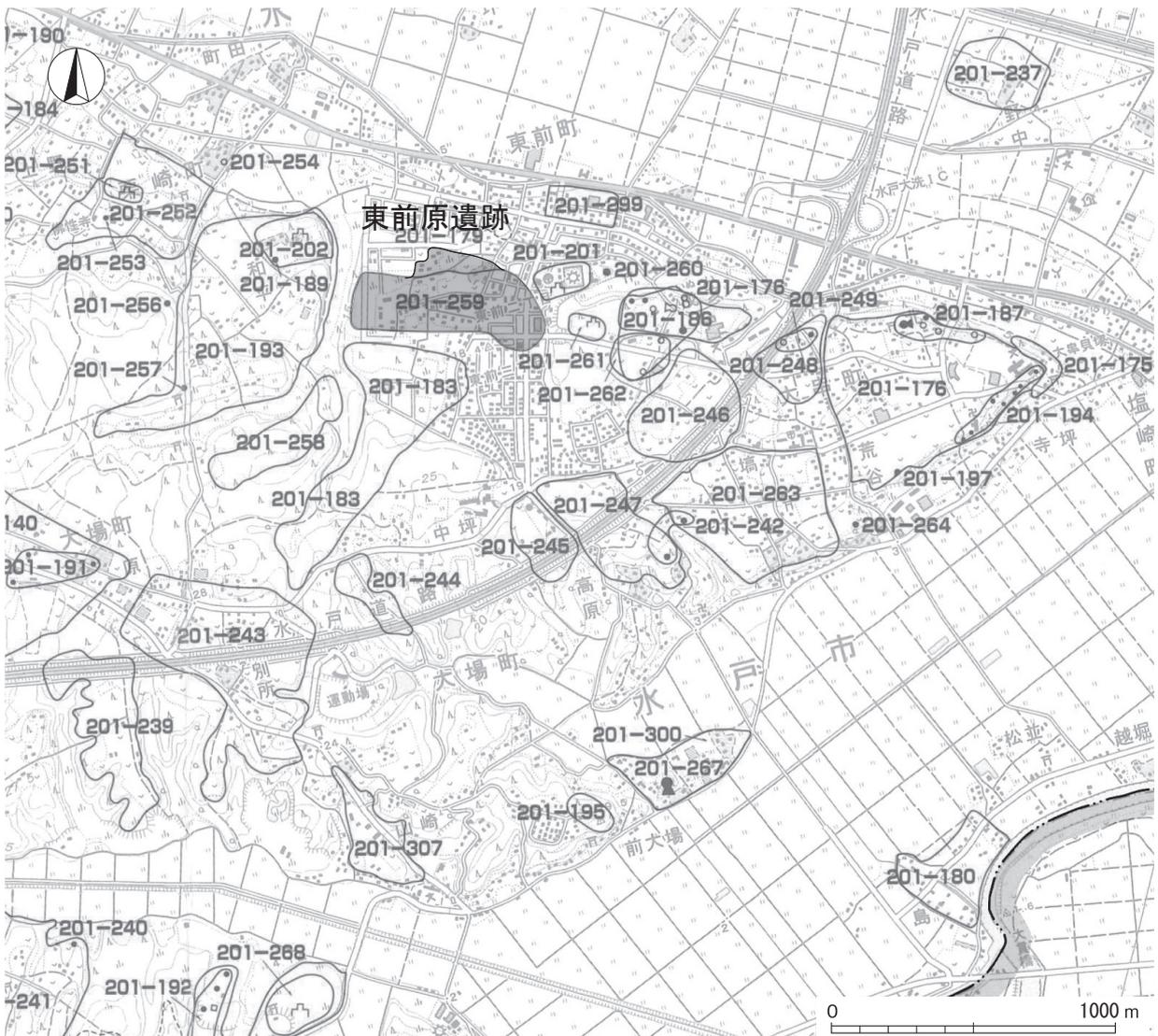


第3図 遺跡の位置 (1/25,000 明治18年測量 第一師管地方迅速測圖)

## 第2節 歴史的環境

東前原遺跡が立地する東茨城台地，特に東端部には，縄文から近世に至るまで，数多くの遺跡が密集している。ここでは東前原遺跡の周辺に分布する遺跡群とそれらを取り巻く歴史的環境を概観する。

東前原遺跡周辺における人々の営みの歴史は先土器時代にまで遡る。当該期の資料は，東前原遺跡と石川川を挟んだ対岸に位置する森戸古墳群からの出土例が知られているのみである。森戸古墳群では，第12号墳（大六天古墳）の発掘調査において，チャートやメノウから構成される石器群の出土が報告されている。それら石器群の大部分は墳丘盛土・周溝覆土内からの出土であるが，剥片であるものの，1点が周溝底面のローム中から出土している（伊藤 1976）。これらの資料のほか，明確に遺跡としてくられた範囲内での採集ではないが，水戸市百合が丘，下入野町地内などにおいて，ガラス製黒色デイスイトや硬質頁岩製の神子柴型尖頭器が採集されている（川口 2005, 2008）。縄文時代の遺跡としては，第一に挙げるべきは大串貝塚であろう。大串貝塚は『常陸國風土記』那賀郡条に記された巨人伝説とともに著名な前期貝塚であり，貝塚としては，文献に記載された世界最古のものである。一部が国指定となっているが，その名に恥じめ豊富な出土資料は，質・量ともに茨城県下における当該



第4図 周辺の遺跡

表1 周辺の主な遺跡一覧

遺跡番号	名称	所在地	種別	遺物	備考
201-006	下畑遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中・後), 打製石斧, 石鏃, 石錘, 磨石, 凹石, 石棒, 石剣, 土器片錘, 土師器(古後)	
201-141	雁沢遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中), 弥生土器(後), 土師器(古前)	
201-175	大串貝塚	塩崎町	貝塚	縄文土器(前・後), 石製品, 貝刀, 釣針・刺突具	一部国指定
201-176	大串遺跡	塩崎町	集落跡	縄文土器(前・後), 土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平), 布目瓦, 灰釉陶器	
201-183	小原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-186	金山塚古墳群	大串町	古墳	円筒埴輪, 鉄鏃, 刀子	前方後円(1), 円3(5)
201-187	大串古墳群	大串町	古墳	五獣鏡, 銅輪, 直刀, 鉄鏃, 壺鏡, 素環鏡板付轡	前方後円1, 円1(5)
201-189	愛宕神社古墳	栗崎町	古墳		
201-192	森戸古墳群	森戸町	古墳	土師器(古), 円筒埴輪, 形象埴輪, 勾玉	前方後円1, 方0(1), 円15(17)
201-193	上平遺跡	栗崎町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-201	椿山館跡	東前町	城館跡		
201-202	和平館跡	栗崎町	城館跡		
201-242	高原古墳群	大場町	古墳		円2
201-244	諏訪前遺跡	大場町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-245	沢幡遺跡	大場町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平), 墨書土器, 円面硯, 紡錘車, 砥石, 鉄鏃, 鉄鎌	
201-246	梶内遺跡	大串町	集落跡	土師器(古後, 奈・平), 須恵器(奈・平), 刀子, 円面硯, 墨書土器, 陶器, 古銭, 煙管	
201-247	高原遺跡	大串町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(奈・平), 須恵器(奈・平), 土師質土器, 煙管	
201-248	北屋敷遺跡	大串町	集落跡	土師器(古後, 奈・平), 須恵器(奈・平), 瓦, 陶器	
201-249	北屋敷古墳群	大串町	古墳	形象埴輪, 直刀, 小刀, 鉄鏃	円1(2)
201-251	伊豆屋敷跡	栗崎町	城館跡		
201-252	上野遺跡	栗崎町	集落跡		
201-253	佛性寺古墳	栗崎町	古墳		
201-254	フジヤマ古墳	栗崎町	古墳		
201-256	諏訪神社古墳	栗崎町	古墳		
201-257	千勝神社古墳	栗崎町	古墳		
201-258	打越遺跡	栗崎町	集落跡	土師器(奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-259	東前原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(古, 奈・平), 須恵器(奈・平)	本調査遺跡
201-260	住吉神社古墳	東前町	古墳		
201-261	大串原館跡	大串町	城館跡		
201-263	宮前遺跡	大串町	集落跡	土師器(奈・平), 須恵器(奈・平),	
201-299	上の下遺跡	東前町	包蔵地		

期の貝塚を凌駕している(水戸市教委 2010)。また、下畑遺跡では、加曾利E式、大木8b式期の竪穴建物跡をはじめとする遺構群が確認されており(井上 1985)、複式炉を有する住居跡が発見されるなど、中期から後期にかけての人々の営みを窺うことができる。

弥生時代については、東前原遺跡周辺における状況も水戸市全域における傾向に変わらず、生活の痕跡は他時期のそれに比べてやや低調な傾向にある。しかしながら、後期に至っては、丘陵沿いの台地上や縁辺部に立地する小原遺跡、高原遺跡、雁沢遺跡などで遺物の採集や出土が報告されており、これらの調査成果の蓄積により、徐々にではあるが、水戸市域における弥生時代の土地利用の様相が像を結びつつある。

古墳時代を迎えると、大串古墳群、北屋敷古墳群、高原古墳群、森戸古墳群などを筆頭に、古墳が活発に築造されるようになる。これらの古墳のうち、北屋敷古墳群第2号墳では発掘調査が実施されており、円筒埴輪、武人をはじめとする人物埴輪、馬形埴輪など形象埴輪が多く出土した(井上 1995)。このうち、ほぼ全身が出土

した武人埴輪は水戸市指定文化財となっている。集落の分布としては、中期の集落に係る資料に乏しく、周辺では管見に触れないが、前期の集落としては大串遺跡（井上 1994）、後期の集落としては梶内遺跡（梶村 1995）、小原遺跡（第3地点）などの調査事例がある。当該台地上においては、前期・後期ともに活発な土地利用がみとれる反面、中期における土地利用が緩慢であると言わざるを得ない。このことは集落展開の動態について、中期において相応の変動があったことを示唆するものである。

奈良・平安時代となり、律令制下の中央政権体制が構築されていくなか、水戸市域においても地方末端支配を目的とした郡衙及び郡寺の造営が、渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群において行われ、律令体制の中へと組み込まれていくこととなる。水戸市は全域が常陸国那賀郡域内にあり、当該遺跡周辺は同郡芳賀里（郷）に比定される（中山 1979）。当該時期の遺跡として、まず注目すべきは大串遺跡の存在である。大串遺跡第7地点における発掘調査では、断面V字状を呈する大型の溝によって区画された内部に、整然と並ぶ総地業の礎石建物跡3棟が確認されている。また、束柱をもち、壺地業を有する桁行6間×梁行3間の大型の掘立柱建物跡なども発見され、一般集落とは大きく異なる様相を示している。大型の掘立柱建物柱抜き取り穴からは多量の炭化材と共に炭化米が、区画溝からは炭化した穎稲や穀稲が出土しており、これらの建物が正倉としての性格を有し、火災により焼失していたことが明らかになっている。また、「厨」銘墨書土器も出土するなど、官衙的色彩の強さが目立つ遺構・遺物群から、本遺跡は那賀郡内に設置された正倉別院であったであろうことが指摘されている（水戸市教委 2007）。

このほか、梶内遺跡は、7世紀から10世紀まで、途中希薄になる時期は存在するものの、比較的長く継続する集落跡として注視すべき遺跡である。当該遺跡では、「舎人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書土器、9点もの円面硯を出土しており、官衙関連遺跡としての性格を匂わせる（梶村 1995）。また、東前原遺跡直近に位置する小原遺跡では、近年相次いで実施した発掘調査の成果により、6世紀から9世紀にかけて存続した集落であることが明らかになっており、「官」銘墨書土器の出土から、梶内遺跡と同様の性格を有している可能性が考えられる（太田・土生 2015、齋藤・米川 2016）。以上のような遺跡群の集中する様は、『常陸國風土記』那賀郡条の「平津驛家西一二里有岡名曰大櫛」の記事（秋本 1958）とあわせ、東前原遺跡とその周辺地域が、常陸国那賀郡芳賀里（郷）の中核ともいえる地域であったことを物語っている。

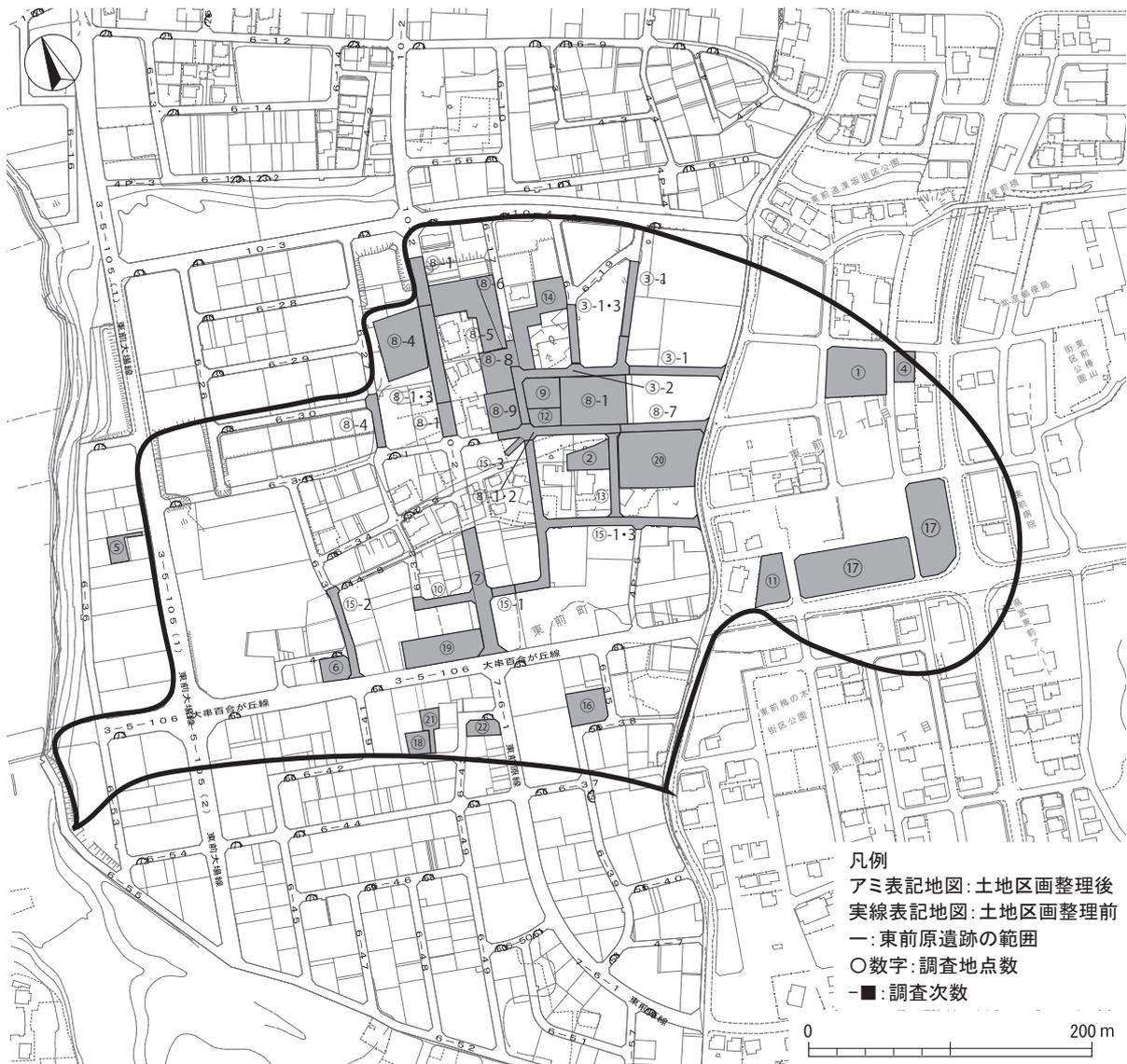
武士が実権を握る中世に、東前原遺跡が所在する旧常澄村域と重なる恒富郷を根拠としていたのは、常陸平氏大掾氏の一流である石川氏であった（常澄村史編さん委員会編 1989）。東前原遺跡周辺の当該時期の遺跡としては、椿山館跡、和平館跡、大串原館跡が挙げられる。いずれの城館跡も土塁の残存が報告されているが、調査事例が少なく、その詳細については不明な点が多い（水戸市教育委員会 1999）。

近世において、当該地域の台地上は水戸城下の外縁部にあたり、必ずしも前代のような求心力を有する地域であるとは言い難い。しかしながら、当該時期に帰属する溝跡や土坑などは各所で散見され、その土地利用の痕跡を窺うことはできる。なかでも、『新編常陸国誌』などに立原伊豆守の居所と記されている伊豆屋敷跡では、発掘調査の結果、3条の土塁と1条の溝跡が確認されている（井上 1998）。

以上のように、東前原遺跡が立地する台地上には、縄文時代から近世に至るまで、豊富な遺跡が所在している。古代には、大串遺跡や梶内遺跡などの官衙関連遺跡が展開をみせ、古代常陸国那賀郡の中核であった台渡里官衙遺跡群との色濃い関連性は疑うべくもない。現在、東前原遺跡周辺における調査の蓄積には目覚ましいものがある。これらの調査成果の丹念な検討から、当該地域の歴史像が結ばれていくことが期される。

### 第3節 既往の調査

東前原遺跡における発掘調査は、平成20(2008)年の第1地点の試掘調査から始まり、今次調査地点を含めて現時点において、計13地点において行われている(第4図, 第2表)。これらの半数は個人住宅建築に伴う調査面積が狭小な試掘調査であり、東前原遺跡南端部に位置する第6地点にて性格不明遺構が1基確認されたことを除き、明確に埋蔵文化財として捉えられる遺構は検出されていない。しかしながら、表採や調査区表土中では少なからず遺物が散見されることから、埋蔵文化財が確認できなかった地点周辺に未だ発見されていない遺構が存在している可能性は極めて高い。また、近年の土地区画整理事業に伴う市道敷設範囲や整地予定地では、3地点(総調査面積434.5㎡)に亘る試掘調査を実施しており、そのほぼ全ての調査区で濃密な埋蔵文化財の分布を確認している。そのうち、注目されるのは第3地点第2次及び第8地点第2次・第3次の本発掘調査である。第3地点第2次では、竪穴建物跡11軒(奈良・平安)や掘立柱建物跡2棟(時期不明)、土坑9基(奈良・平安時代, 中近世)、溝跡6条(奈良・平安時代)、柱状穴遺構1基(時期不明)を検出しており、出土遺物としては、



第5図 既往の調査地点

土師器、須恵器、鉄製品、石製品、獣骨がある。竪穴建物跡は、一辺が6 mを超えるものから2.5 mの小型のものなど様々な規模のものがみられ、主軸方向は北北西—南南東を主とするが、東—西に向いたものもわずかに存在することから、異なる時期の集落が展開していたことが推測される。なお、当該地点で確認された竪穴建物跡の多くは、北壁にカマドを持つ形状を基本としているが、そのうち1軒のみ、真北隅にカマドを持つ竪穴建物跡が確認されていることも注視される。

第8地点第2次では、竪穴建物跡6軒（奈良・平安）、掘立建物跡5軒（中近世）、ピット5基（中近世）、土坑9基（中近世）、ピット状遺構群1群（中近世）、溝跡2条（中近世）が確認されており、遺物は土師器（奈良・平安）、須恵器（奈良・平安）、土師質土器（中近世）、陶磁器、銅製品（煙管）が出土している。ほとんどの竪穴建物跡は全体の1/2程度のみを検出に留まり、全容は確認できなかったが、建物の主軸は概ね南—北方向に向いており、1軒のみ一辺が7 m程の大型の竪穴建物跡があるものの、それ以外は4 m程度のもが多く、規模や出土遺物から奈良・平安時代に帰属するものと考えられる。その他、中～近世の円形や方形の粘土張り土坑も検出されている。第8地点第3次では、竪穴建物跡19軒（弥生・奈良・平安）、掘立柱建物跡3軒（奈良・平安）、ピット98基（奈良・平安）、土坑12基（奈良・平安）、溝跡2条（奈良・平安）、竪穴状土坑1基（奈良・平安）、井戸跡1基（中近世以降）、土坑1基（中近世以降）が確認されており、弥生土器、土師器（奈良・平安）、須恵器（奈良・平安）、灰釉陶器（奈良・平安）、土器（奈良・平安）、瓦（奈良・平安）、土製品（奈良・平安）、手捏土器（奈良・平安）、石製品（奈良・平安）、鉄製品（奈良・平安）が出土している。当該地点では、東前原遺跡においては初の確認事例である弥生時代後期の竪穴住居跡1軒を確認している。また、調査区中央には東西に走る大型の溝跡を検出しており、集落を圍繞する区画溝としての機能が想定されているが、薬研状の形状や周辺に中世館跡が点在する環境から中世以降まで時期が下ることも考えらえる。なお、本調査区においてもこの溝跡の延長部分が確認されている。

これらの多くの竪穴建物跡から、一時その営みが確認されない時期もあるものの、古墳～奈良・平安時代にかけて展開した比較的規模の大きい集落跡であることは明白である。また、中～近世の遺構も点在しており長期間に亘って土地利用がなされてきた遺跡である。

表2 既往の調査一覧表

地点	回数	種別	調査年月日	調査箇所	調査原因	遺構	遺物
1	1	試	平成20年11月11日	東前2丁目57・60	個人住宅建築	—	○
2	1	試	平成24年2月2日	東前第二土地区画50街区8	個人住宅建築	—	—
3	1	試	平成26年5月8日～5月6日	東前第二土地区画6-17・18・20・21号線(部分)	土地区画整理事業	○	○
	2	本	平成27年2月9日～3月10日	東前第二土地区画18・6・20・21号線		○	○
4		試	平成26年7月30日	東前2丁目61, 62	個人住宅建築	—	○
5		試	平成27年1月22日	東前第二土地区画75街区15	個人住宅建築	—	—
6		試	平成27年4月28日	東前第二土地区画33街区2	個人住宅建築	○	○
7	1	試	平成27年5月8日	東前町1124-1～1126	土地区画整理事業	○	○
	2	本	平成28年3月28日～4月21日			○	○
8	1	試	平成27年6月16日～6月19日	東前第二土地区画43街区22(部分)	土地区画整理事業	○	○
	2	本	平成27年12月22日～平成28年1月20日	東前第二土地区画6-22・31号線(部分), 同48街区3・4, 同6-2・22・31号線部分	土地区画整理事業	○	○
	3	本	平成28年3月1日～4月6日	東前第二土地区画10-2号線(部分)	土地区画整理事業	○	○
	4	本	平成28年3月8日～5月16日	東前第二土地区画42街区3・8・18・20他6-27号線の一部	土地区画整理事業	○	○
	5	本	平成28年5月25日～7月7日	東前第二土地区画43街区32・37・39・41・42・43・44・45	土地区画整理事業	○	○
	6	立	平成28年7月12日	東前第二土地区画43街5・28・38・40・36他39の一部	土地区画整理事業	○	○
	7	本	平成28年12月25日～平成29年1月7日	東前第二土地区画6-22号線(部分)	土地区画整理事業	○	○
	8	本	平成29年6月7日～7月26日	東前第二土地区画43街区9, 同6-17号線(部分)	土地区画整理事業	○	○
	9	本	平成29年7月20日～8月26日	東前第二土地区画43街区22(部分)	農業用倉庫建築	○	○
9		試	平成27年7月15日	東前第二土地区画48街区6・7	個人住宅建築	—	—
10	1	試	平成28年8月19日	東前第二土地区画6-33号線(部分)	土地区画整理事業	○	○
	2	本	平成28年11月10日～12月28日			○	○
11		試	平成28年9月2日	東前町2-42-2～4	宅地造成	○	○
12	1	試	平成29年3月24日	東前第二土地区画48街区8	個人住宅建築	○	○
	2	本	平成29年5月11日～6月2日			○	○
13	1	試	平成29年3月24日	東前第二土地区画6-25号線	土地区画整理事業	○	○
	2	本	平成29年8月18日～8月30日			○	○
14	1	試	平成29年12月15日～19日	東前第二土地区画44街区2・3・10・12・同5の一部	土地区画整理事業	○	○
	2	本	平成30年7月3日～8月17日			○	○
15	1	試	平成29年12月15日～21日	東前第二土地区画6-32号線(部分)	土地区画整理事業	○	○
	3	本	平成30年6月27日～9月19日			○	○
	2	本	平成30年7月27日～9月19日			東前第二土地区画6-17・22・23号線(部分)	個人住宅建築
16		試	平成29年12月21日	東前第二土地区画53街区20	個人住宅建築	○	○
17	1	試	平成30年3月7日～14日	東前町2-35・36・37・38	店舗建設	○	○
	2	本	平成30年6月20日～8月31日			○	○
18		試	平成30年4月24日	東前町第二土地区画64街区15	個人住宅建築	—	○
19	1	試	平成30年5月1日	東前第二土地区画34街区7・10・11・15・18	福祉施設建築	○	○
	2	試	平成31年1月25日			○	○
	3	立	平成31年1月25日			—	○
	4	本	平成31年2月20日～21日			○	○
20	1	試	平成30年8月2日	東前第二土地区画46街区4	個人住宅建築	○	○
	2	立	平成31年1月24日			—	○
21		試	平成31年1月17日	東前第二土地区画64街区12	個人住宅建築	—	○
22		試	平成31年2月26日	東前第二土地区画63街区1	個人住宅建築	○	○

## 第3章 遺跡の位置と環境

### 第1節 竪穴建物

1A号竪穴建物（第7図，図版1・14）

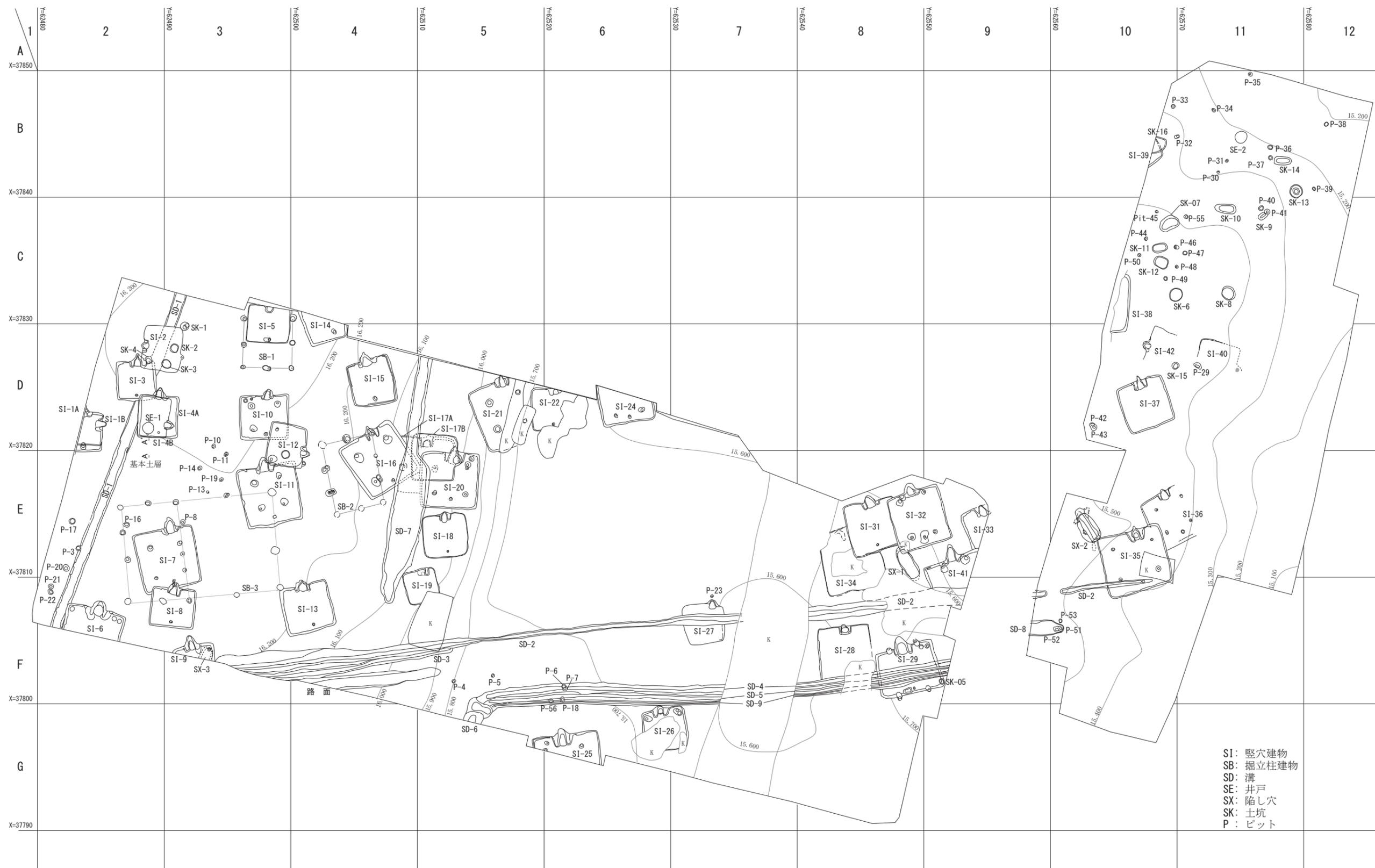
**位置** 西調査区西部 D2 グリッドに位置する。**重複関係** 1B号竪穴建物と重複しており，1B号竪穴建物よりも古い。**規模と平面形** 南北方向 3.10m，東西方向 2.08m 以上の方形で西側は調査区外に延びている。**主軸方向** N—2°—W。**覆土** 覆土はローム粒を多量に含んだ暗褐色土を主体とし，ローム小・中ブロックを多量に含むため埋め戻し堆積と見られる。**ピット** カマドの対面にある P1 は出入り口に関係すると見られる。

**カマド** 北壁側にあり，カマドの右側半分を調査した。カマドの規模は燃焼室幅 0.3m 以上，袖部が残存していないため壁から煙道部の掘り込み奥行きは 0.3m で，比較的小さなカマドであったものと見られる。**床面** 床面はカマドの前面から出入り口ピットにかけて硬化している。**遺物** 実測遺物なし。**所見** カマドを北壁中央に持ち方形の小型竪穴である点から 9 世紀代に建てられたものと見られる。1B 号竪穴建物に再利用されるようにして建て替えられているので，1B 号竪穴建物が出土遺物から 10 世紀中葉前後に廃絶していると思われるので遅くとも 10 世紀前葉頃には廃絶しているものと見られる。

1B号竪穴建物（第7・9図，表4，図版1・14）

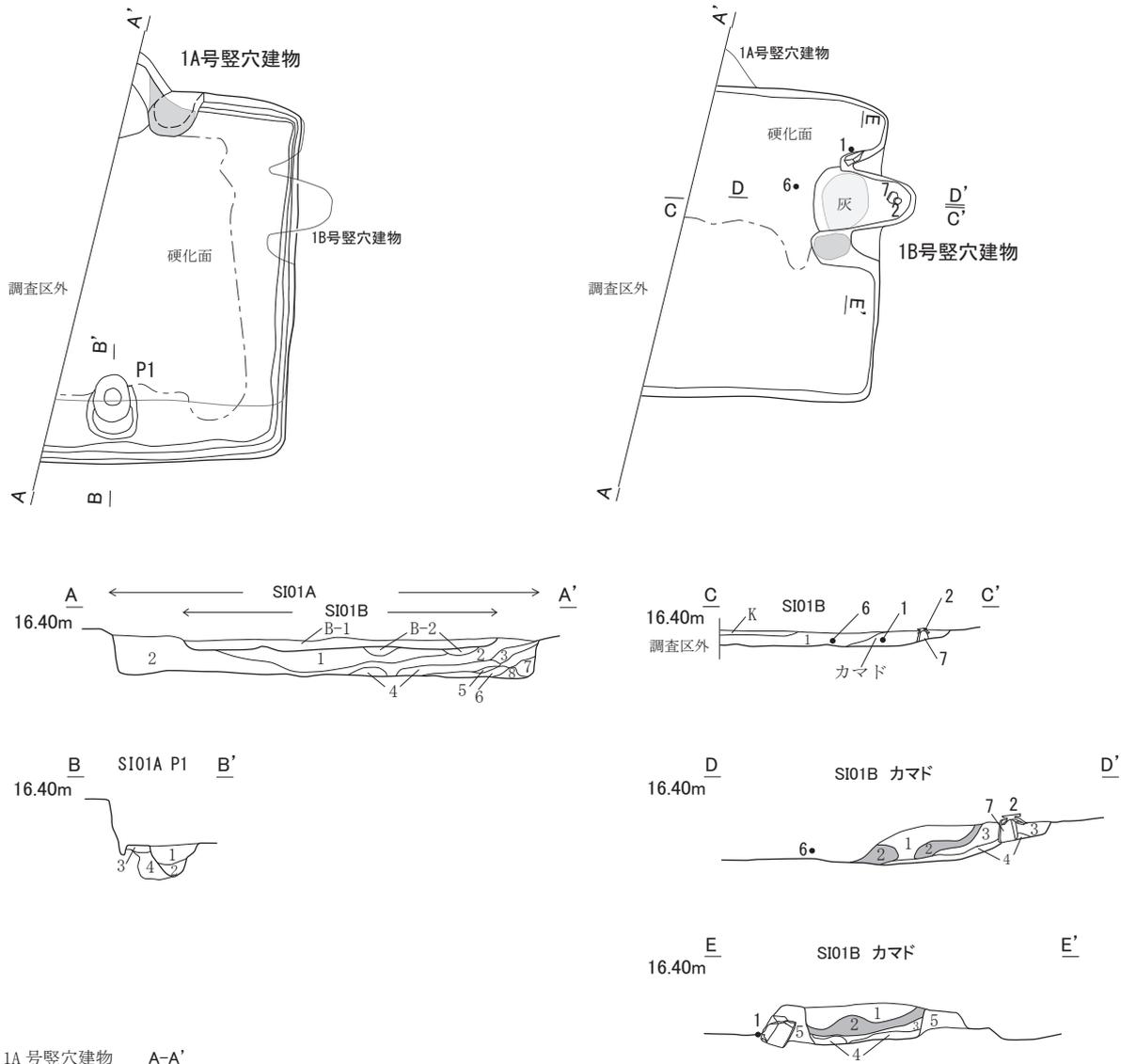
**位置** 西調査区西部 D2 グリッドに位置する。**重複関係** 1A号竪穴建物と重複し，1A号竪穴建物を埋め戻して構築しているものと見られる。**規模と平面形** 南北方向 2.59m，東西方向 1.84m 以上の東西方向に長い長方形と推測される。**主軸方向** N—182°—E。**覆土** 覆土はローム粒を少量含んだ黒褐色土を主体としやや締りがある。カマド周辺の覆土上～中層にはカマドが壊れて散らばった灰褐色粘土ブロックが大量に含まれている。

**カマド** 東壁中央部やや北寄りの位置にある。袖部は粘土と凝灰岩質泥岩の石材を使用して構築している。カマドの規模は幅 1.02m，燃焼室の幅は 0.44m，焚口から煙道部立ち上がりまでの奥行きは 0.82m，焚口から 0.69m 奥に石製の支脚が据え付けられた状態で出土している。**床面** カマド前面に当たる竪穴建物の北側半分が硬化している。**遺物** 土器・石製品が出土している。土器は土師器類で内面黒色処理の椀・皿，足高高台椀，体部を縦方向にヘラケズリした口縁部が短く外反する甕などが覆土やカマド周りから破片で出土している。カマドには凝灰岩質泥岩の切石材を使用していたようでカマド向かって左袖内から破片が 1 点と支脚として 7 が設置された状態で出土している。**所見** 1・2 の椀は 10 世紀中葉頃，3 の皿は 9 世紀第 4 四半期以降，4 の小型甕も 5 の甕よりは古いと見られ，1・2・5 の時期が竪穴建物の廃絶の時期を示唆し，3・4 はより古い段階の 1A 号竪穴建物に係る土器の再堆積と推定される。



第 6 図 調査区全体図





1A号竖穴建物 A-A'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小・中ブロック多量, 粘土小・中ブロック少量, 軟らかい
2. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, 粘土小・中ブロック少量, 軟らかい
3. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土小・中ブロック多量, 縮りあり
4. 7.5YR4/2 暗褐色 粘土小・大ブロック主体, 粘性・縮りあり
5. 5YR3/2 暗赤褐色 焼土小・中ブロック中量, 暗赤褐色土多量, やや軟らかい
6. 5YR7/2 明褐灰色 粘土主体, 焼土小ブロック少量, 粘性あり
7. 5YR2/2 黒褐色 焼土小ブロック少量, 黒褐色土中量, やや軟らかい
8. 2.5YR6/3 にぶい橙色 焼土小・中ブロック主体, やや粘性あり

1A号竖穴建物 P1 B-B'

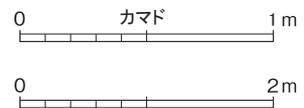
1. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR4/4 褐色 ローム主体, ローム小ブロック中量, 軟らかい
3. 7.5YR4/3 褐色 ローム主体, ローム小ブロック少量, 軟らかい
4. 10YR4/4 褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック多量, やや縮りあり

1B号竖穴建物 C-C'

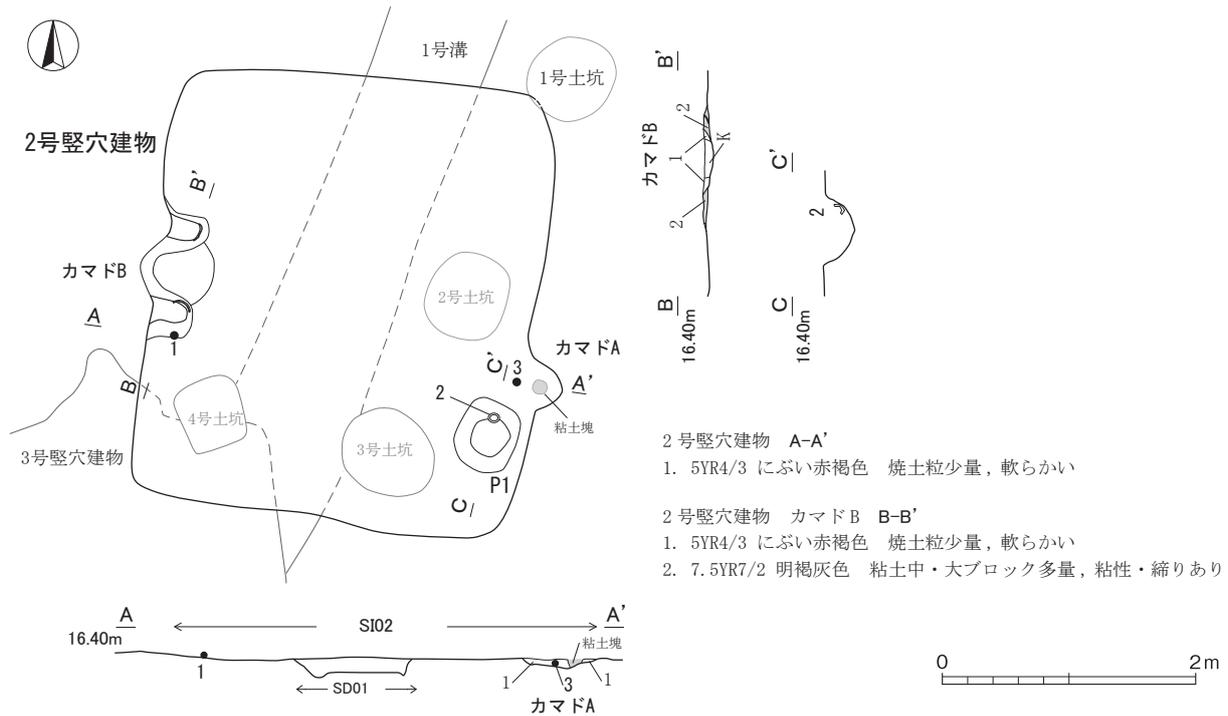
1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, やや縮りあり

1B号竖穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
2. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土粒・粘土小ブロック少量, 縮りあり
3. 5YR4/3 にぶい赤褐色 粘土粒・粘土小ブロック多量, 軟らかい
4. 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒・焼土小ブロック中量, 炭化物粒中量 軟らかい
5. 7.5YR6/2 灰褐色 粘土小・中ブロック少量, 粘性・縮りあり



第7図 1号A・B竖穴建物



第8図 2号堅穴建物

2号堅穴建物 (第8・10図, 表4, 図版1・14)

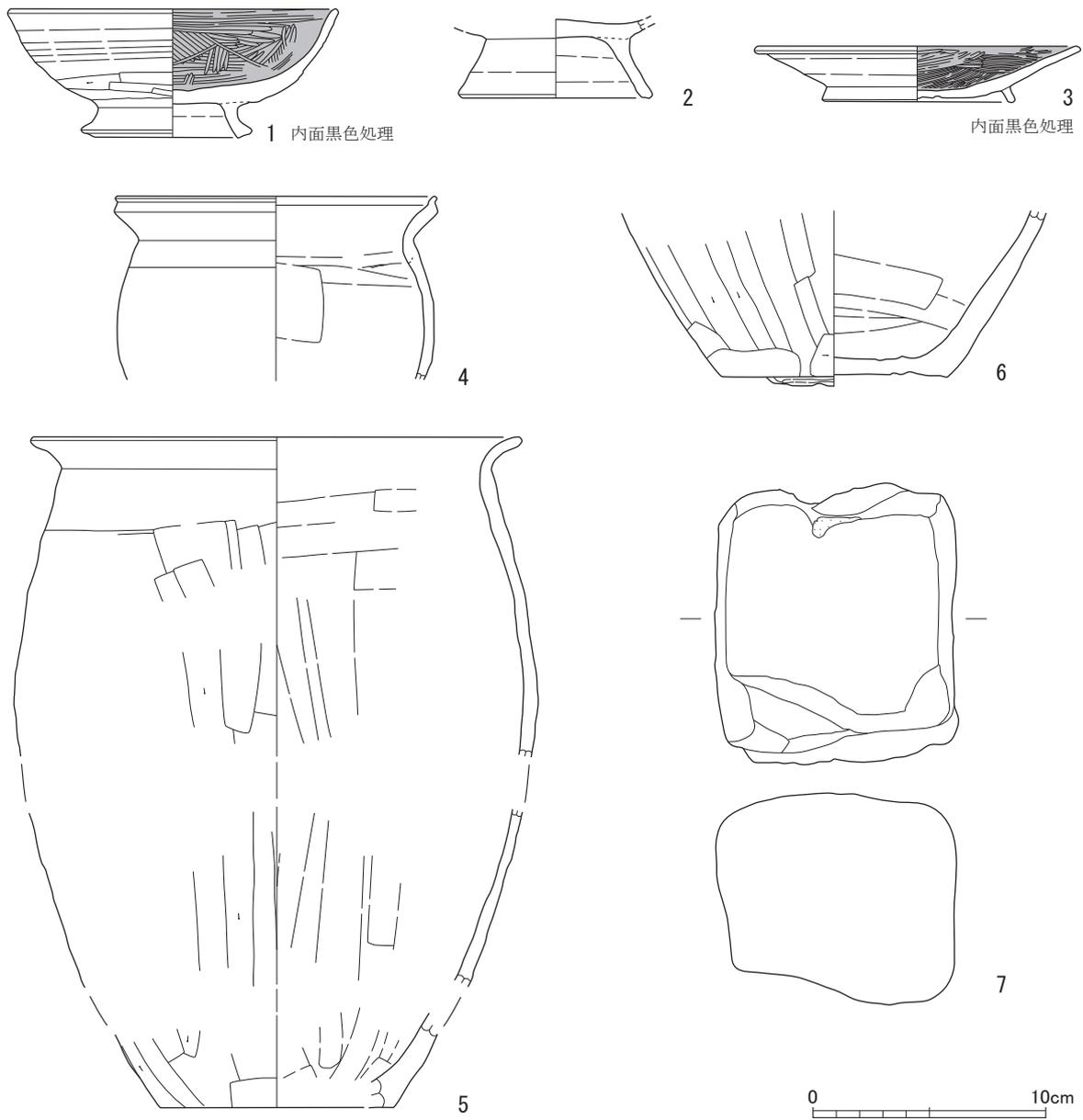
**位置** 西調査区西部 D2・3 グリッドに位置する。 **重複関係** 1号溝と重複し, 1号溝の覆土上層を掘り込んで構築している。 **規模と平面形** 南北方向 3.60m, 東西方向 3.10m の縦長長方形。 **主軸方向** カマドA : N—198°—E, カマドB : N—82°—W)。 **覆土** 覆土はほとんど残存していない。 **ピット** P1 は掘り方が長方形の平面で長辺の方向が堅穴建物の東壁と平行する位置から見て 2号堅穴建物に伴うものと判断した。

**カマド** 東西壁側に 2 基あり, 袖部の残存状況が比較的良かった西壁側のカマドBが新しいカマドと判断した。カマドBの規模は幅 1.02m, 燃烧室幅 0.38m, 焚口から煙道部の立ち上がり部までの奥行きは 0.48m である。東壁側のカマドAは袖部が残存しておらず, 規模は東壁面の部分で幅 0.4m, 壁から煙道部の立ち上がり部までの掘り込みの奥行きは 0.28m である。 **床面** カマドBの前面に当たる堅穴建物の中央部東側が特に硬化している。

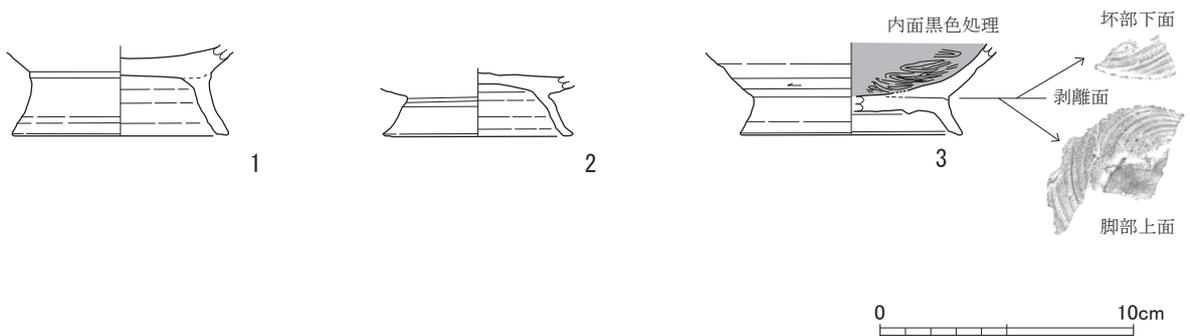
**遺物** 土器・石製品が出土している。1・2の椀は 10 世紀第 2 四半期, 3の椀は第 3 四半期頃のものに形状が近く全体に 10 世紀中葉前後頃の遺物と見られる。 **所見** カマドAとカマドBの段階があり, カマドBの段階が残存状況から新しいと判断される。カマドAの段階の堅穴建物は南北方向にやや長い堅穴建物の東壁やや南寄りにカマドが設置されていたものと見られる。その後同じ堅穴建物の西壁中央にカマドを設置しなおし, 10 世紀中葉前後頃に廃絶しているものと見られる。

3号堅穴建物跡 (第11・13図, 表4, 図版1・14)

**位置** 西調査区西部 D2 グリッドに位置する。 **重複関係** 4号堅穴建物と重複し, 4号堅穴建物の北西部とカマド左袖を掘り込んで構築している。 **規模と平面形** 南北方向 3.06m, 東西方向 3.13m の方形。 **主軸方向** N—1°—E。 **覆土** 覆土は下層の 10 層と上層の 1 層中にローム小ブロックを多く含み, 7層の間層を挟んで埋め戻しが行われていると見られる。 **ピット** P1 は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁側にあり,



第9图 1号B竖穴建物出土遺物



第10图 2号竖穴建物出土遺物

規模は幅 1.35m, 燃焼室幅 0.51m, 焚口から煙道部の立ち上がり部までの奥行きは 0.74m である。 **床面** 全体的に硬化している。 **遺物** 須恵器・土師器が出土している。須恵器の坏 2 は二次底部面をもち、底部調整に丁寧な指ナデと一方向のヘラケズリを併用している。体部内面に炭化物が付着しており灯明皿としての用途に 2 次利用しているようである。5 の須恵器蓋は 8 世紀前半代のものの混入と見られる。 **所見** 須恵器は木葉下窯跡群産で、蓋は 8 世紀前半、坏・高台付坏は 8 世紀第 2～3 四半期頃のもの、盤は 8 世紀第 4 四半期以降のものと思われる。土師器の小型甕は 8 世紀後半頃のものかと思われる。

#### 4A 号竪穴建物（第 12・14・15 図, 表 4, 図版 2・14・15）

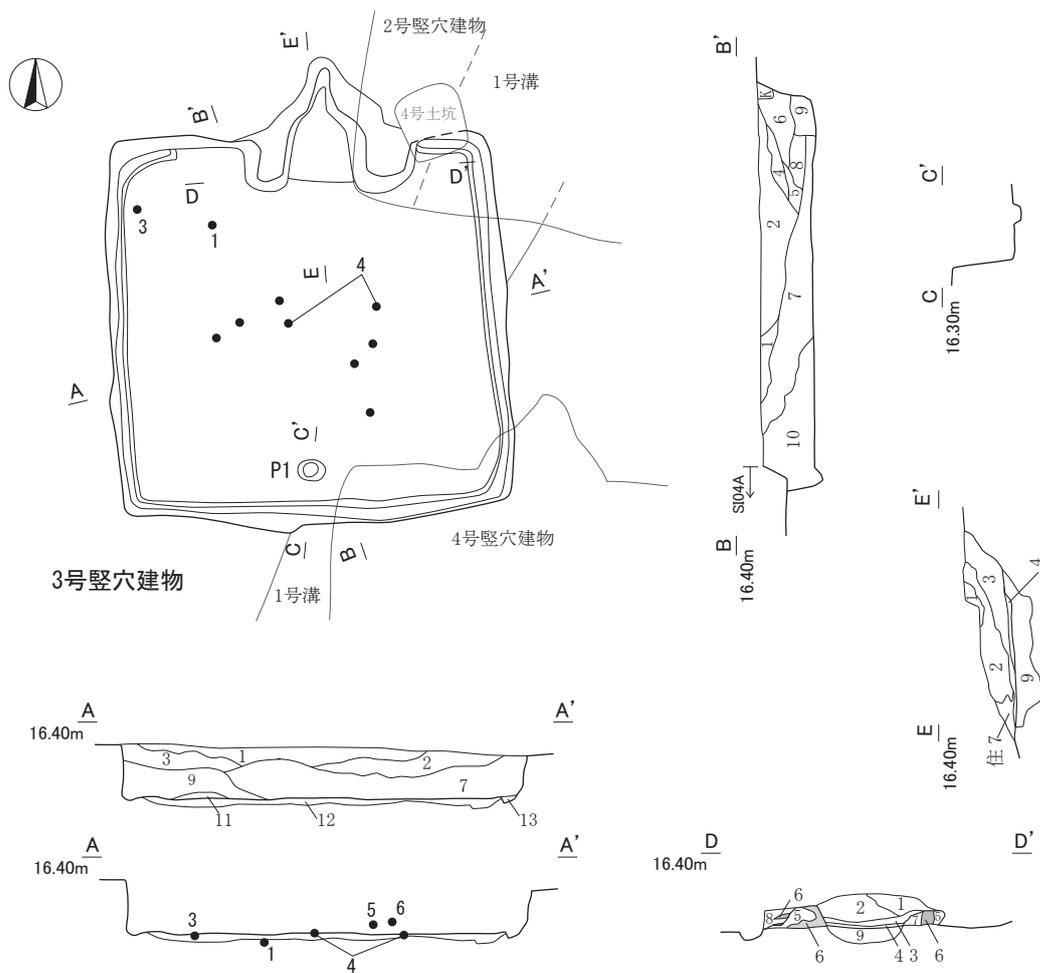
**位置** 西調査区西部 D2・3 グリッドに位置する。 **重複関係** 4B 号竪穴建物と重複し、4B 号竪穴建物は 4A 号竪穴建物を埋め戻して構築している。1 号井戸に南西部を掘り込まれている。3 号竪穴建物の南東部を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 南北方向 3.32m, 東西方向 2.34m の縦長長方形。 **主軸方向** N—6°—E。 **覆土** 覆土は黒色土・ローム中ブロックを多量に含んだ黒褐色土を主体としており埋め戻し土層と見られる。 **ピット** P1 は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 東壁側やや南寄りの位置にあり、規模は幅 0.75m, 燃焼室幅 0.36m, 奥行き 0.56m である。 **床面** 竪穴建物中央部のカマド前面から出入り口部にかけて硬化している。 **遺物** 土師器・須恵器・鉄製品が出土している。須恵器坏は 1 が木葉下窯跡群産で 9 世紀第 2 四半期～第 4 四半期頃のもの、2・3 は海面骨針が胎土中に見えないが石英・チャートを含み木葉下の主要生産地周辺の製品かと思われる。底部外面のヘラ記号「六」「井」が特徴である。4 は新治窯跡群産の小野窯跡 1 号窯段階頃（9 世紀第 3 四半期頃）のもの、7 の土師器甕は体下半部がカマドの奥に逆位で出土しており支脚として設置されていたものと思われる。カマドから出土した不明鉄製品は断面 8mm 角の棒状製品で端部は角のまま細くなって釘のように木質に打ち込むような形状となっている。 **所見** 出土遺物から 9 世紀の終わり頃には廃絶しているものと見られる。

#### 4B 号竪穴建物（第 12・16 図, 表 5, 図版 2・15）

**位置** 西調査区西部 D2・3 グリッドに位置する。 **重複関係** 4A 号竪穴建物と重複し、4A 号竪穴建物を埋め戻して構築されている。1 号井戸に南西部を掘り込まれている。 **規模と平面形** 南北方向 3.37m, 東西方向 3.17m の方形。 **主軸方向** N—96°—E。 **覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含んだ黒褐色土を主体としている。 **カマド** 北壁側中央部にあり、袖部が切られて残存していない、燃焼室奥側が残存し、規模は燃焼室幅 0.49m, 奥行き 0.73m である。奥行き 0.69m の位置に支脚が据え付けられた状態で残存していた。 **床面** カマド前面から竪穴建物中央部が硬化している。 **遺物** 出土していない。 **所見** 重複する 4A 号竪穴建物が 9 世紀の終わり頃と見られるので、本竪穴建物は 10 世紀初め頃には 4A 号竪穴建物を再利用する形で建てられているものと思われる。

#### 5 号竪穴建物（第 17・18・19 図, 表 5, 図版 2・15・16）

**位置** 西調査区西部 C3・D3 グリッドに位置する。 **重複関係** 1 号掘立柱建物と重複しているが柱穴とは切り合っていないため新旧関係は不明である。 **規模と平面形** 南北方向 3.0m 以上, 東西方向 3.40m の方形。 **主軸方向** N—7°—E。 **覆土** 覆土はローム粒を含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。 **ピット** P1 は出入り口に関係する穴と見られる。 **床面** 西側壁寄りに軟質な部分が目立つ。 **遺物** 土師器・須恵器が出土している。11・12 の土師器の甕・甔は廃絶時に床面に残され、そのまま埋没したような出土状況である。2 の



3号竪穴建物 A-A' B-B'

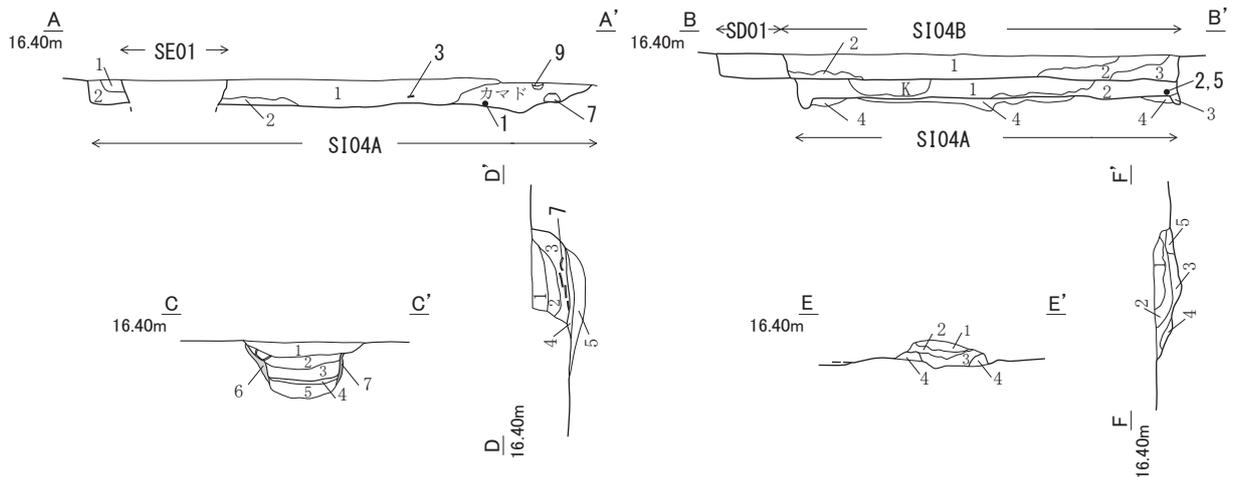
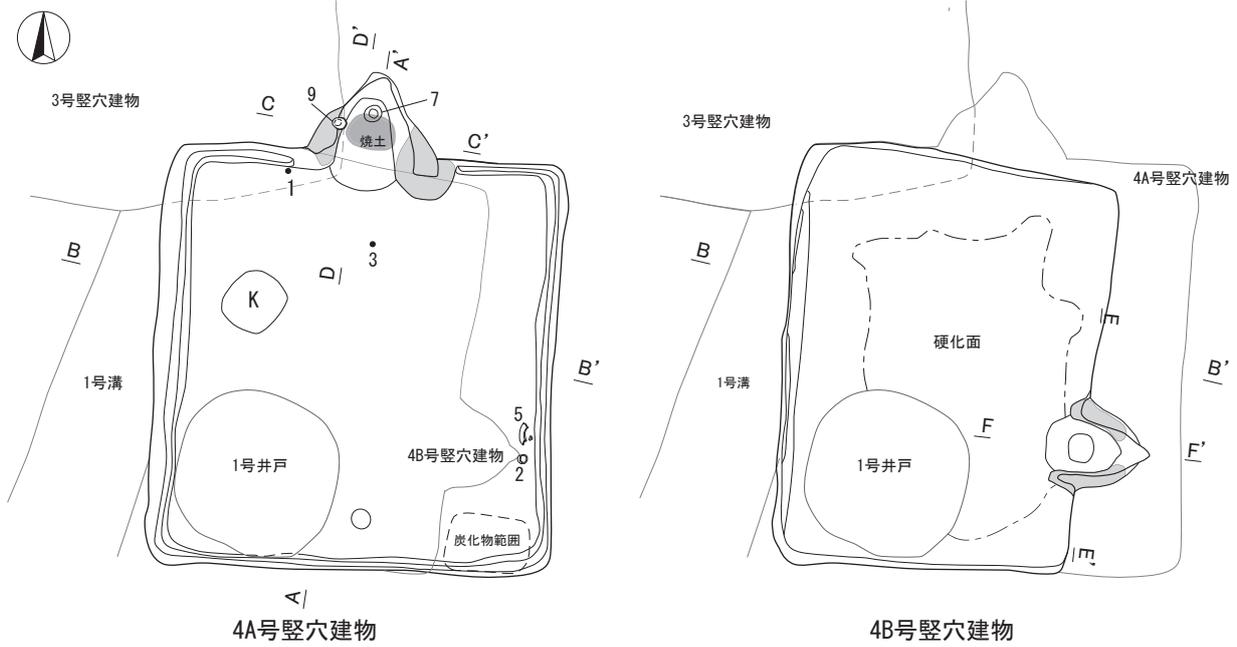
1. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, 粘性・締りあり
2. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, 粘性・締りあり
3. 10YR3/2 黒褐色 ローム小ブロック微量, 粘性・締りあり
4. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック微量, 粘性・締りあり
5. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒微量, ローム中ブロック微量, 焼土小ブロック微量, 粘性・締りあり
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒微量, 炭化粒少量, 粘性・締りあり
7. 10YR4/4 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック少量, 粘性・締りあり
8. 10YR8/4 浅黄橙色 粘土の純層, 粘性・締りあり
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量, 粘性・締りあり
10. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック少量, 粘性・締りあり
11. 10YR3/1 黒褐色 粘性・締りあり
12. 10YR3/2 暗褐色 ローム小～大ブロック中量, 硬く締りあり, 床下堆積層
13. 10YR3/2 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量, 軟い, 壁溝覆土

3号竪穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, やや締りあり
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色 明黄褐色ローム小ブロックを少量含有する特大ブロック主体, 粘性・締りあり (カマド粘土の崩落ブロック層)
3. 5YR3/3 暗褐色 焼土粒中量, 粘土中ブロック中量, やや粘性あり, やや軟い
4. 7.5YR2/1 黒色 炭化物粒を多量に含む灰層, 軟い
5. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 締りあり
6. 7.5YR7/4 にぶい黄褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり
7. 5YR3/3 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, ローム小ブロック少量, やや軟い
8. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒・小ブロック少量, 軟い
9. 7.5YR3/2 暗褐色 ローム小～大ブロック中量, 硬く締りあり

0 2m

第11図 3号竪穴建物



4A号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, 黒色土中ブロック・ローム中ブロック多量, 縮りあり, 埋土
2. 7.5YR4/3 褐色 ローム小・中ブロック主体, 縮りあり
3. 7.5YR3/2 暗褐色 ローム粒中量, 軟らかい
4. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム小ブロック中量, 硬く縮りあり

4A号竖穴建物 カマド C-C' D-D'

1. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土粒少量, 軟い
2. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック, 焼土大ブロック多量, 縮りあり
3. 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒多量, 縮りあり
4. 7.5YR3/3 暗褐色 やや縮りあり
5. 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒中量, 軟らかい
6. 7.5YR5/1 褐灰色 粘土大ブロック多量, 焼土小ブロック中量, 縮りあり
7. 7.5YR6/6 橙色 焼土粒少量, ローム主体, 縮りあり

4B号竖穴建物 B-B'

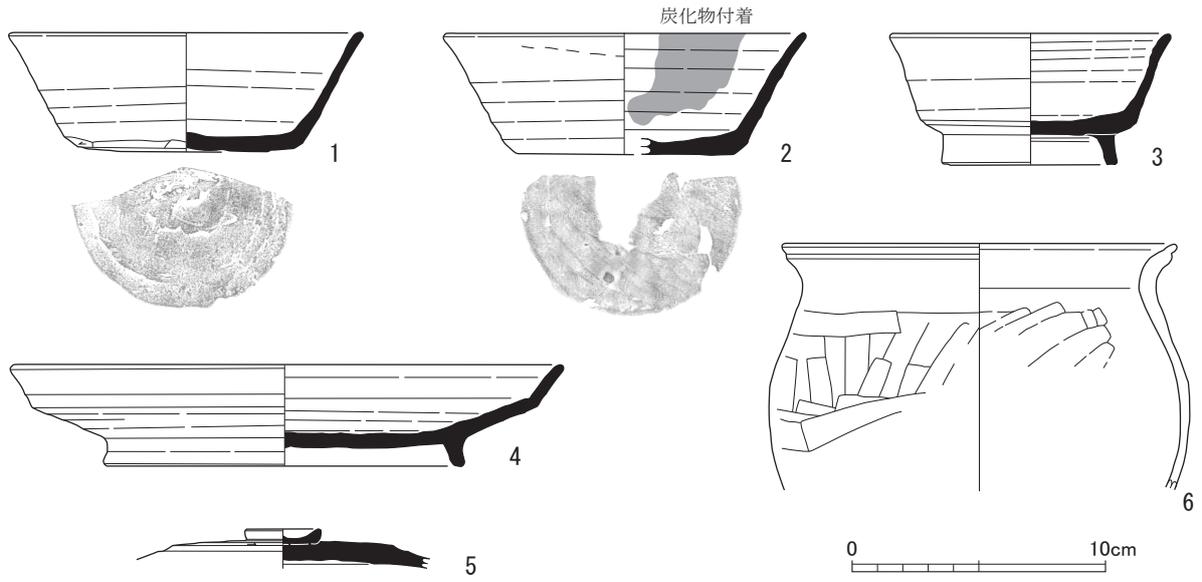
1. 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒少量, やや縮りあり
2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや縮りあり
3. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 軟い

4B号竖穴建物跡 カマド E-E' F-F'

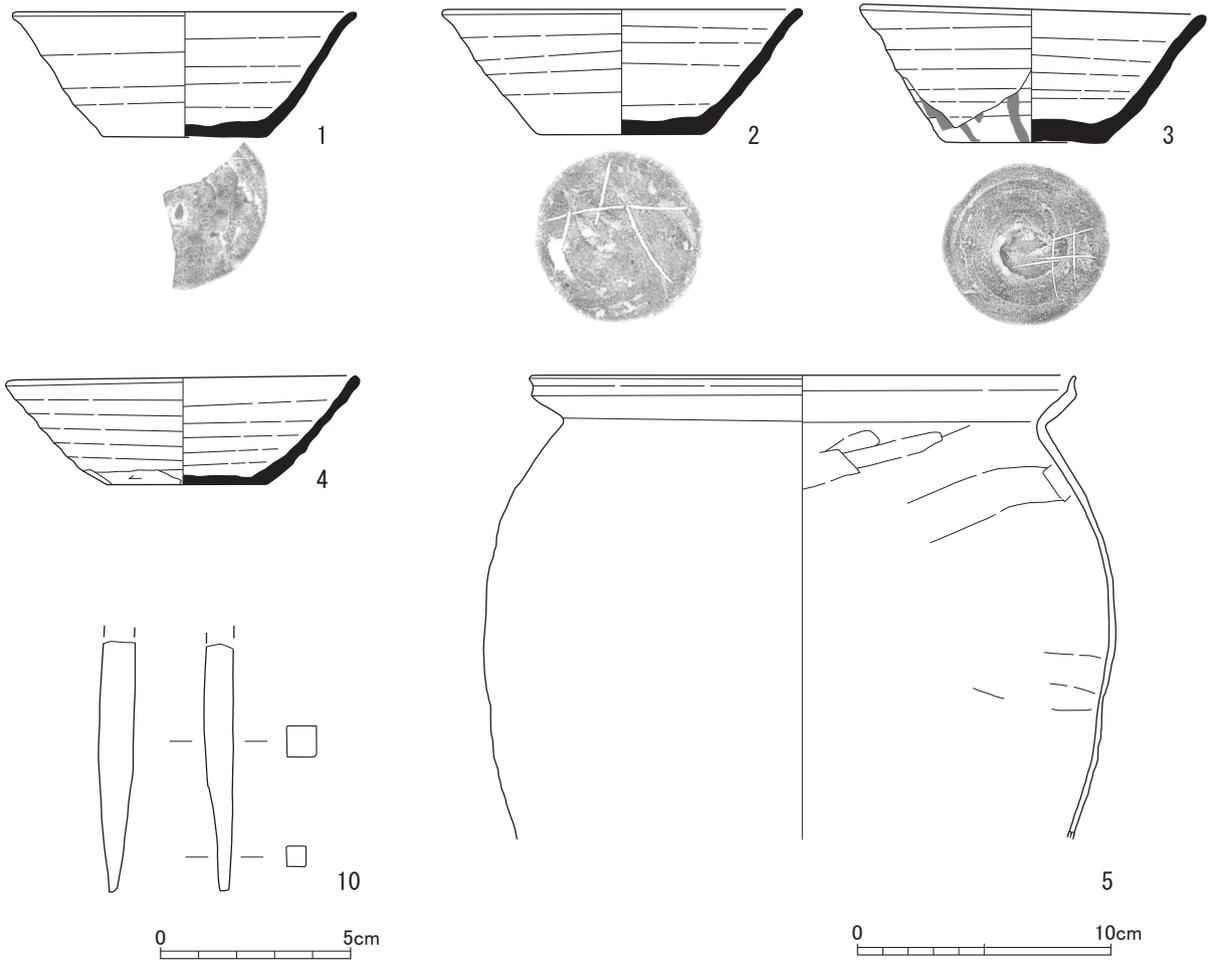
1. 7.5YR4/2 灰褐色 2層粘土粒中量, 軟らかい
2. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック, 焼土大ブロック多量, 縮りあり
3. 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒多量, 縮りあり
4. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒少量, 縮りあり
5. 7.5YR3/2 黒褐色 炭化物流粒多量, 焼土粒少量, 軟らかい



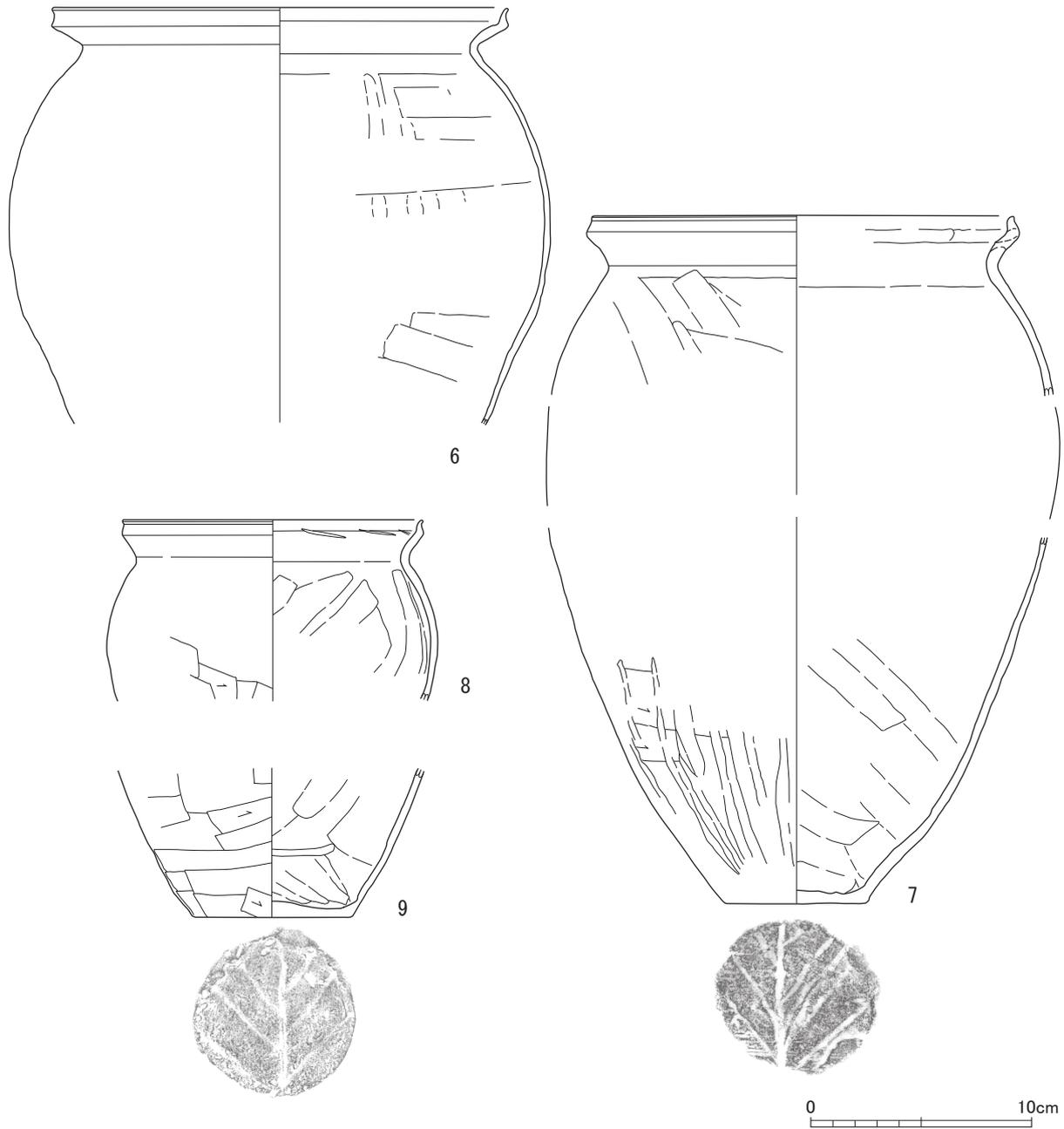
第12図 4A・4B号竖穴建物



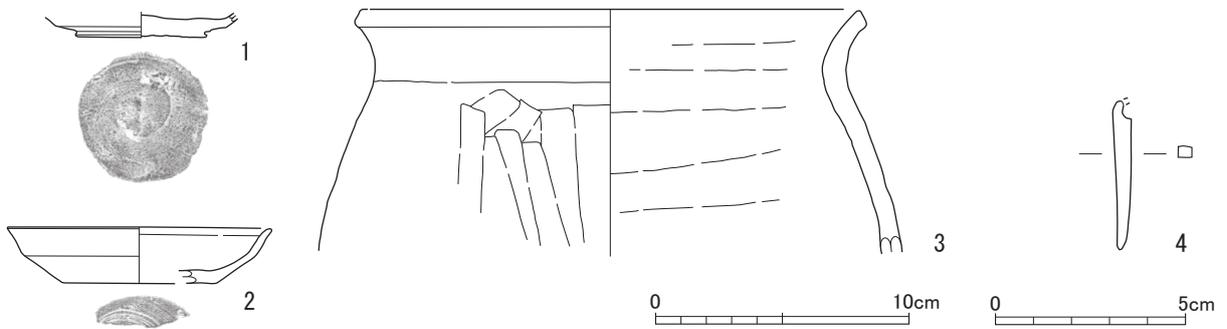
第13図 3号竖穴建物出土遺物



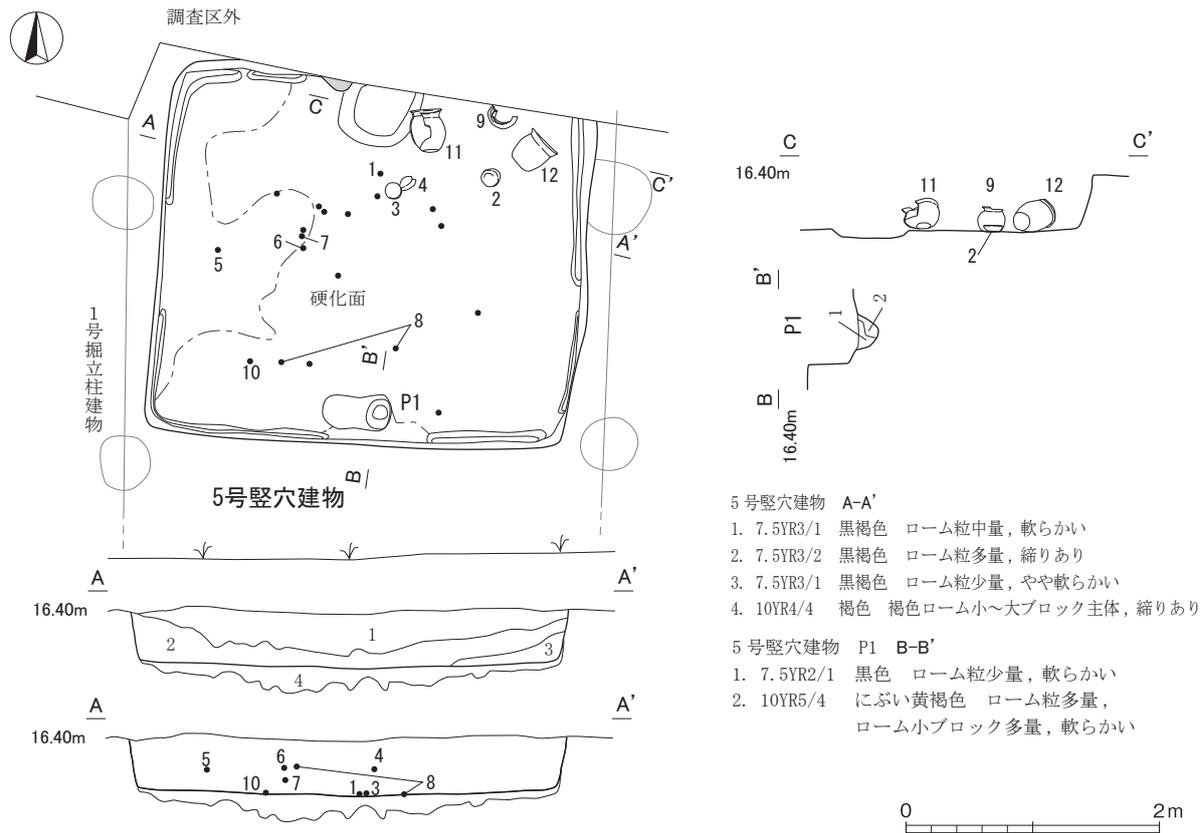
第14図 4A号竖穴建物出土遺物(1)



第 15 图 4A 号竖穴建物出土遺物 (2)



第 16 图 4B 号竖穴建物出土遺物



第 17 図 5号堅穴建物

須恵器坏も床面から, その他の須恵器・土師器は覆土中から出土している。須恵器の坏は底径・器高指数から 8 世紀第 2～3 四半期頃のものと考えられ, 底部は回転ヘラケズリ調整のものと底部手持ちヘラケズリを多方向に施すものがある。体部下端は二次底部面を残すものと回転ヘラケズリをしてしまうものがある。須恵器盤は底部が水平で短い口縁が付く 8 世紀第 2 四半期頃のもの, 有台盤は 8 世紀後半頃のものである。所見 出土遺物には 8 世紀第 3 四半期頃を中心とした須恵器類を多く含むので, 堅穴建物として機能していたのは 8 世紀第 2 四半期～第 3 四半期頃にかけてと思われる。

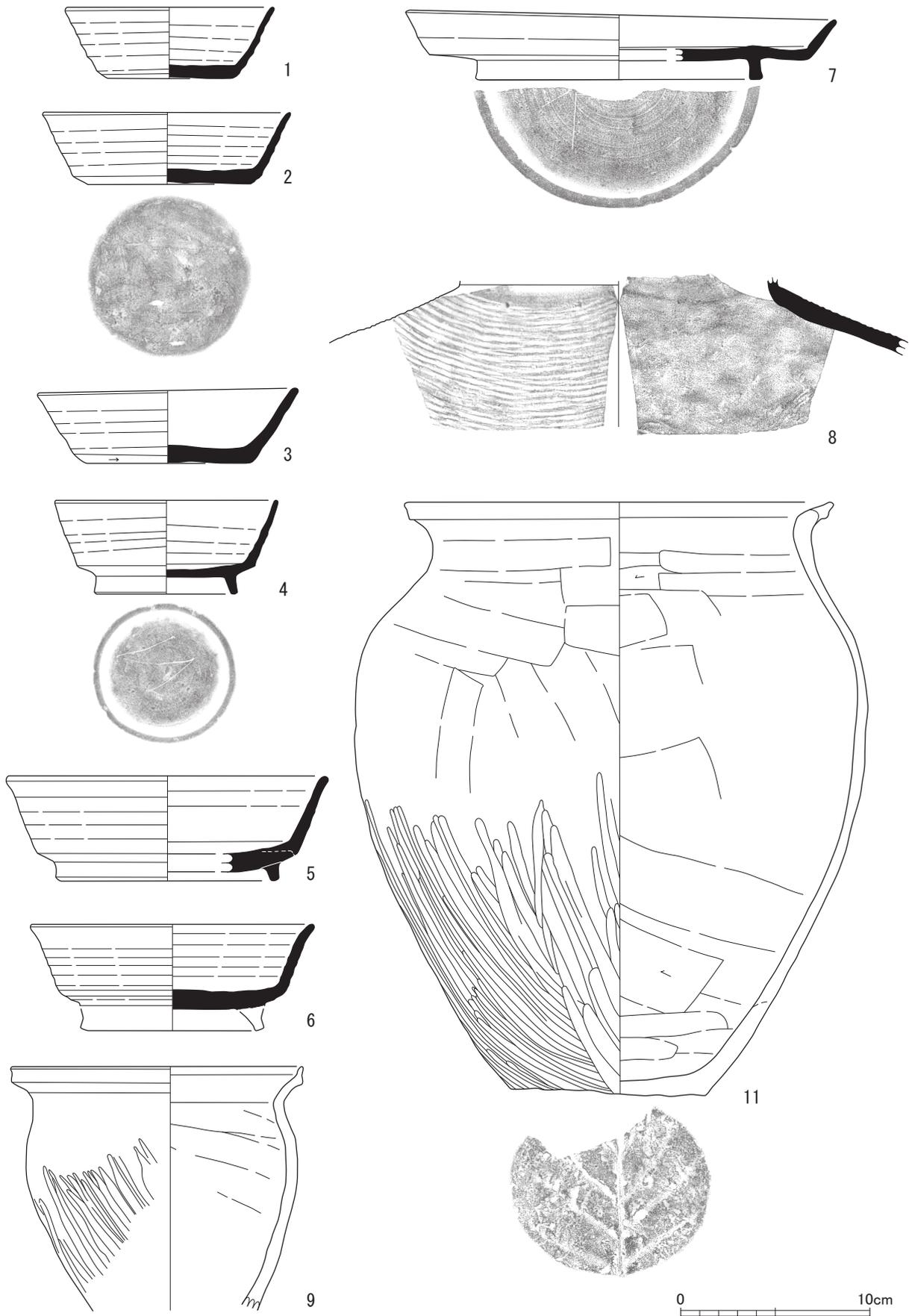
6号堅穴建物 (第 20・21 図, 表 5, 図版 2・17)

**位置** 西調査区西部 F2 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 2.2m 以上, 東西方向 4.71m。 **主軸方向** N-22°-E。 **覆土** 覆土は褐色ロームの小～大ブロックを多量に含んだ埋め戻し土を主体としている。

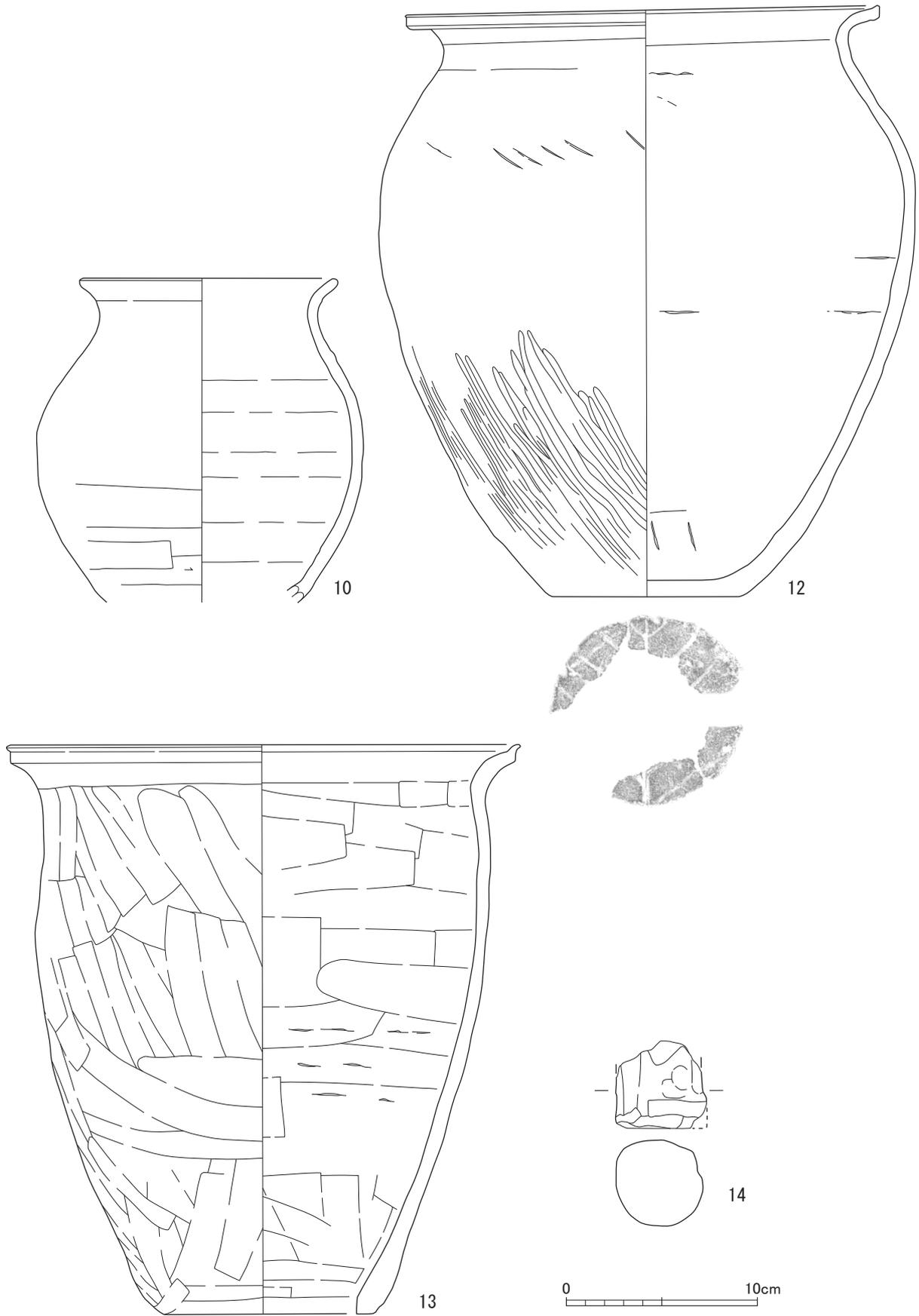
**ピット** 支柱穴は P1・2 で北壁際に接して壁を少し掘り込んでいる。P3～5 は深さ 4～20 cm の浅い穴である。

**カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅 1.70m, 燃焼室幅 0.80m, 奥行き 0.86m である。 **床面** 西側壁寄り幅 0.9m の範囲が軟質になっている。 **遺物** 土器・鉄製品が出土している。須恵器の坏は底径・器高指数から 9 世紀第 2～4 四半期頃のもので, 底部外面に「丸子」の墨書が書かれている。鉄製品は 3 点とも刀子で 5 の刀子は茎部分が三つ折れしたものである。

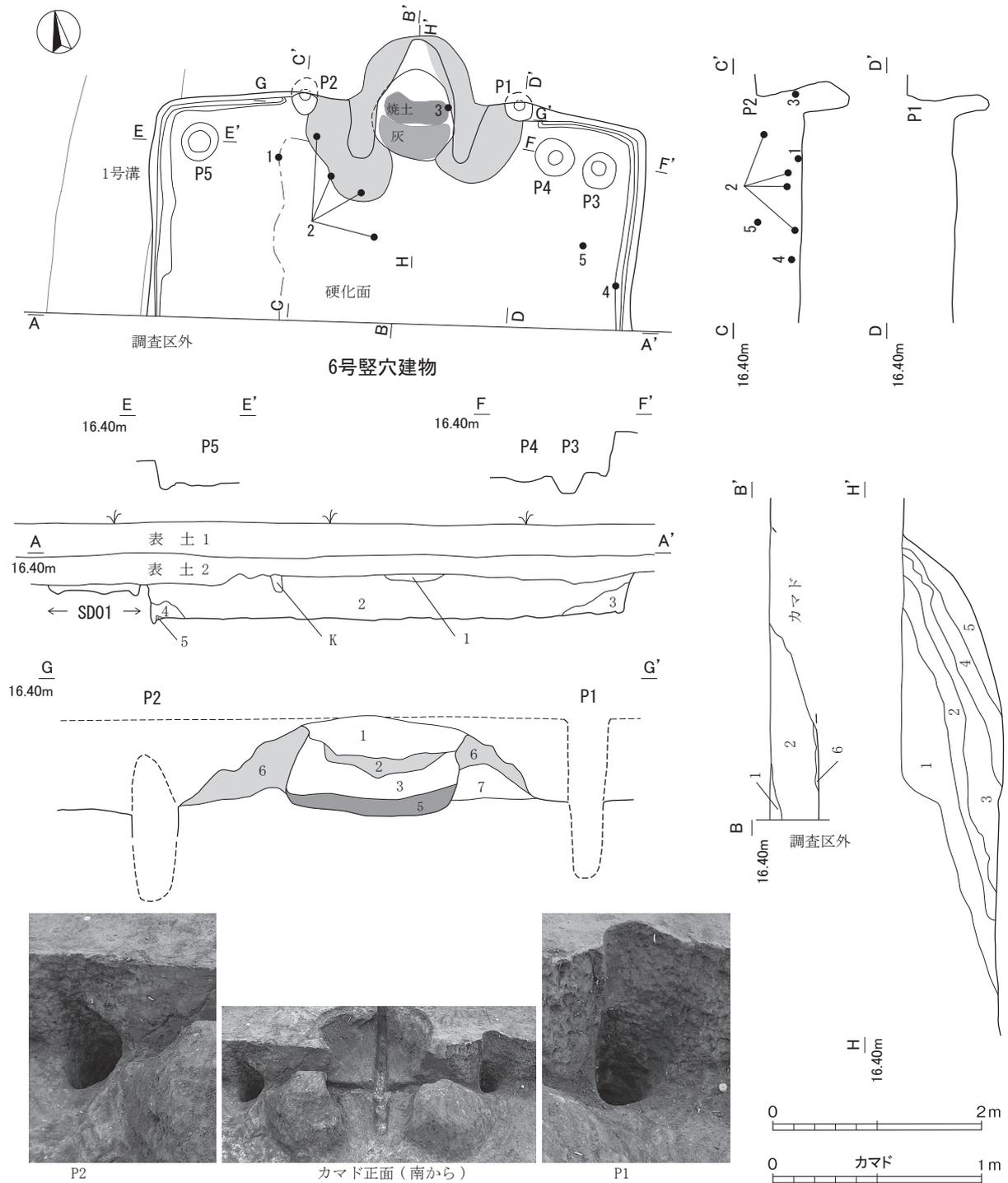
**所見** 出土遺物から 9 世紀後半頃の堅穴建物と見られ, 刀子が多く「丸子」墨書とともに律令期の下級役人に係る堅穴建物であろうか。「丸子」は大伴氏に連なる丸子連や古墳時代の 7 世紀頃に多い複数の「まるこのみこ」名の皇子に所属した丸子部を連想させる。



第 18 图 5 号竖穴建物出土遺物 (1)



第19图 5号竖穴建物出土遺物(2)



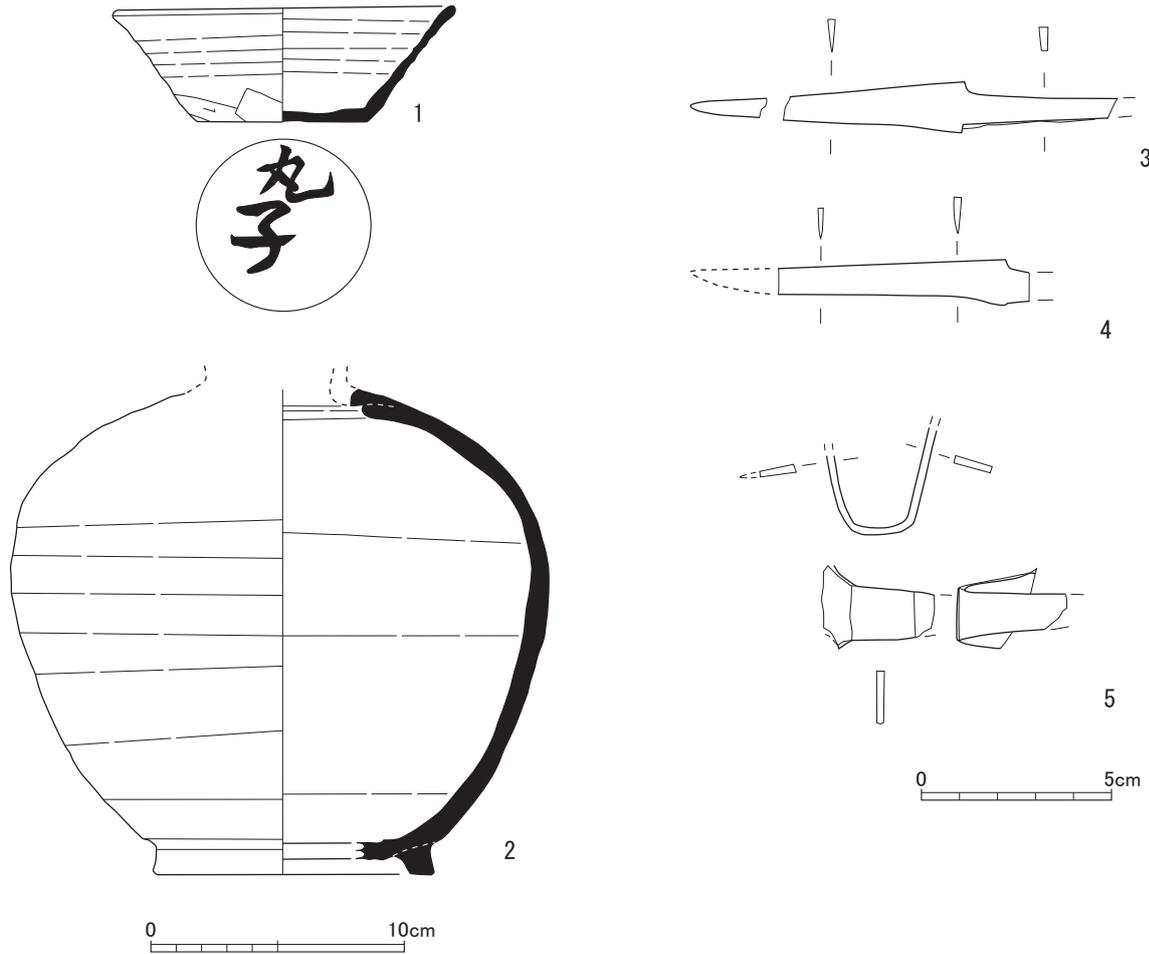
6号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
2. 10YR4/4 褐色 ローム少~大ブロック多量, 縮りあり, 埋め土
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体, ローム小ブロック少量, 縮りあり
4. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒極少量, やや粘性あり, 縮りあり (SD01 覆土の落下層か)
5. 7.5YR5/3 にぶい褐色 ローム小ブロック主体, やや軟い
- 表土1 7.5YR4/1 褐灰色 耕作土層, 縮りあり
- 表土2 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム大ブロック主体, 鹿沼バミス粒・小ブロック多量, 黒褐色土大ブロック少量 ビニル片

6号竪穴建物跡 カマド G-G' H-H'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, 下層に粘土小~大ブロック中量, やや縮りあり
2. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土小~大ブロック多量, 粘性・縮りあり
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, 縮りあり
4. 7.5YR3/1 黒褐色 焼土粒・焼土小ブロック中量, 軟い
5. 5YR4/2 灰褐色 粘土小ブロック中量, 粘性・縮りあり
6. 7.5YR5/2 灰褐色 粘土中・大ブロック主体, 粘性・縮りあり
7. 7.5YR5/3 にぶい褐色 ローム小・中ブロック中量, 粘土小ブロック中量, 粘性・縮りあり

第20図 6号竪穴建物



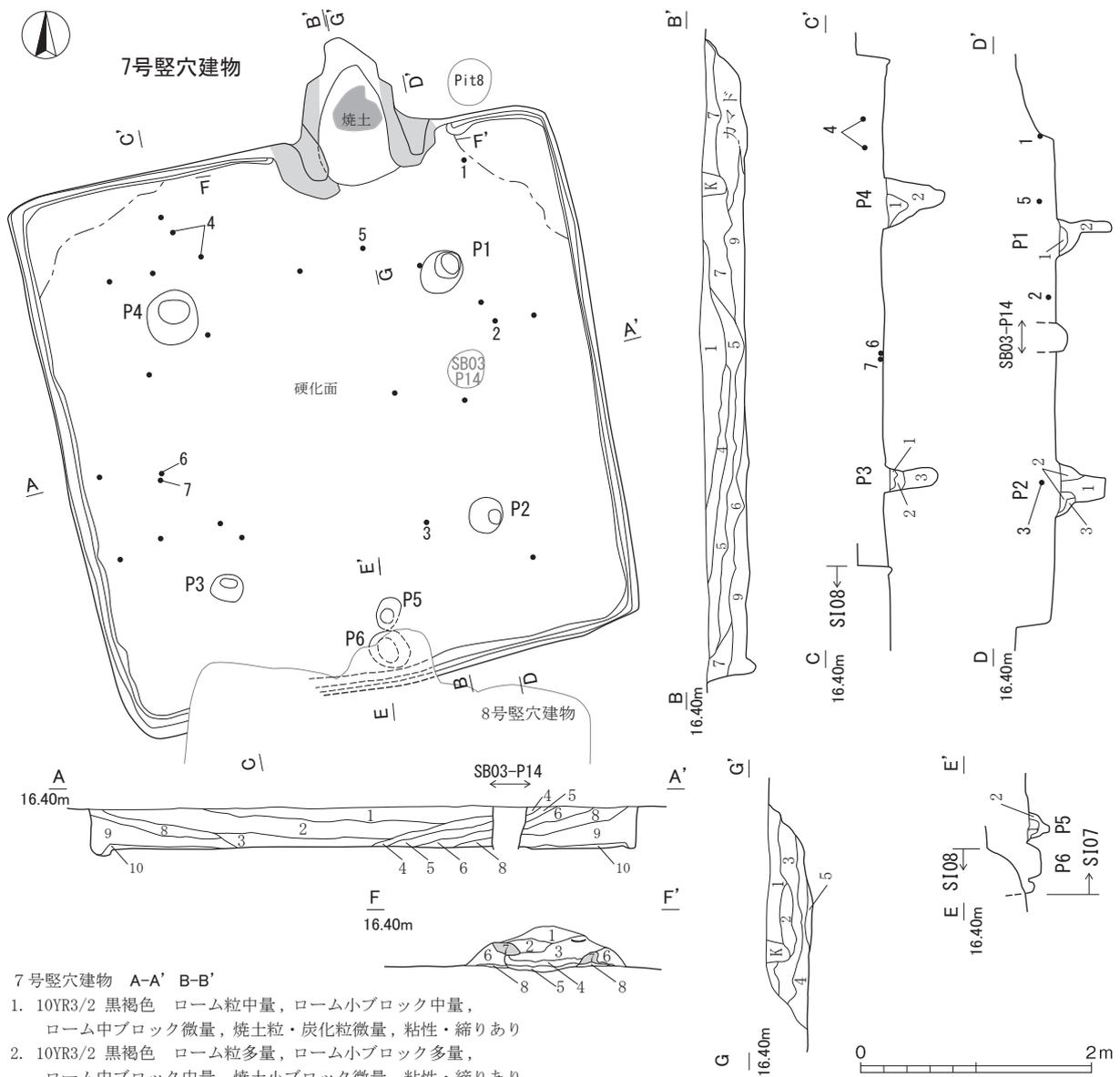
第21図 6号竪穴建物出土遺物

7号竪穴建物（第22・23図，表5・6，図版2・3・17）

**位置** 西調査区西部E2・F2・E3・F3グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向4.85m，東西方向4.70mの方形。**主軸方向** N-15°-W。**覆土** 覆土は黒褐色土・暗褐色土のローム小・中ブロックを多く含んだ土層で埋め戻されていると見られるが，特に南東側の堆積は竪穴の外から流し込んでいるような状況を示している。**ピット** 支柱穴はP1～P4。P5・6は出入り口に関係する穴と見られる。**カマド** 北壁中央部東寄りの位置にあり，規模は幅1.40m，燃烧室幅0.61m，奥行き1.03mである。**床面** 北西隅と北東隅部を除いて全体に硬化している。**遺物** 土器・鉄製品が出土している。遺物は全体に覆土から出土したものが多い。須恵器は底部が丸底気味のものと同底のもの，回転ヘラケズリのものと同ヘラ切り無調整のものがある。底径・器高指数から8世紀第2～3四半期頃のものと同見られる。鉄製品は小札と考えられる細長く薄い板状のもので，端部に穿孔がある。**所見** 出土遺物から少なくとも8世紀中葉頃には使用されていた竪穴建物と同見られる。

8号竪穴建物（第24・25図，表6，図版3・18）

**位置** 西調査区西部F2・F3グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.12m，東西方向3.52mの方形。**主軸方向** N-6°-E。**覆土** 覆土はローム小・中ブロックを多く含む黒褐色土・暗褐色土を主体として埋め戻されていると見られる。**ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。**カマド** 北壁中央部にあり，規模は幅1.03m，燃烧室幅0.47m，奥行き0.73mである。**床面** 北西部と西壁寄り，南壁の西寄り付近を除いて硬化している。**遺物** 土器・石製品が出土している。1の高台付坏は，内面にわずかに墨痕があつて平滑で



7号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量, 焼土粒・炭化粒微量, 粘性・縮りあり
2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック微量, 粘性・縮りあり
3. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム中ブロック少量, 粘性・縮りあり
4. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム中ブロック微量, 粘性・縮りあり
5. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック微量, 粘性・縮りあり
6. 10YR4/4 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック微量, 粘性・縮りあり
7. 10YR2/1 黒褐色 ローム大ブロック微量, ローム粒多量, 粘性・縮りあり
8. 10YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック微量, 粘性・縮りあり
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック微量, 粘性・縮りあり
10. 地山と見られる, ほぼ掘り方なし

7号竪穴建物 P1 D-D'

1. 7.5YR2/1 黒色 炭化物粒極少量, ローム粒極少量, 軟い
2. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒極少量, 軟い

7号竪穴建物 P2 D-D'

1. 7.5YR4/3 褐色 粘土小ブロック中量, ローム粒多量, 軟い
2. 7.5YR4/3 褐色 粘土小ブロック中量, 黒色土中ブロック中量, やや軟い
3. 10YR4/6 褐色 ローム主体, やや縮りあり

7号竪穴建物 P3 C-C'

1. 7.5YR2/1 黒色 黒色土ブロック主体, 縮りあり
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
3. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 軟い

7号竪穴建物 P4 C-C'

1. 7.5YR2/1 黒色 炭化物粒少量, ローム粒極少量, 軟い
2. 7.5YR1.7/1 黒色 ローム粒極少量, 軟い

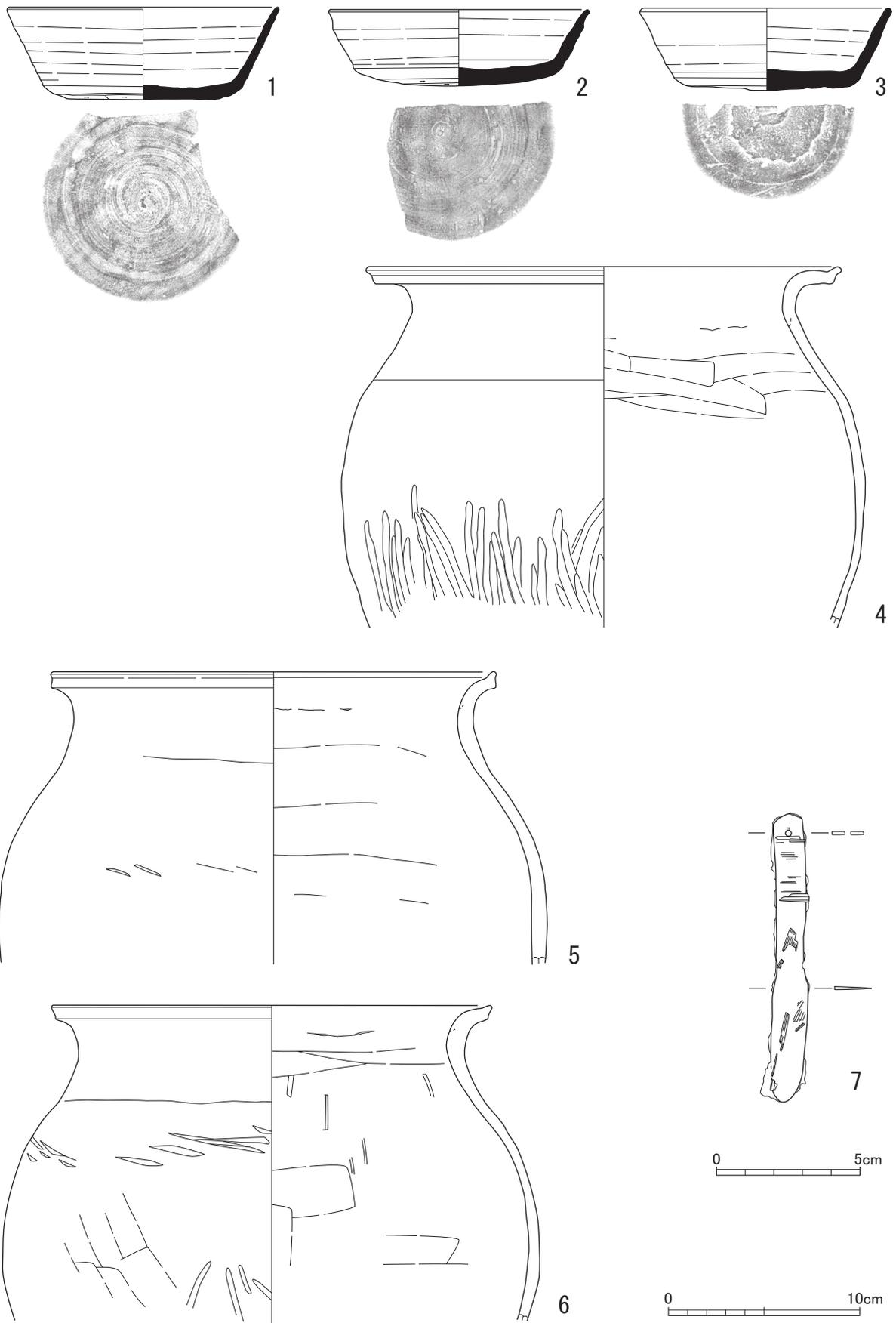
7号竪穴建物 P5 E-E'

1. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒少量, 軟い
2. 7.5YR4/3 褐色 黒色土小ブロック少量, やや軟い

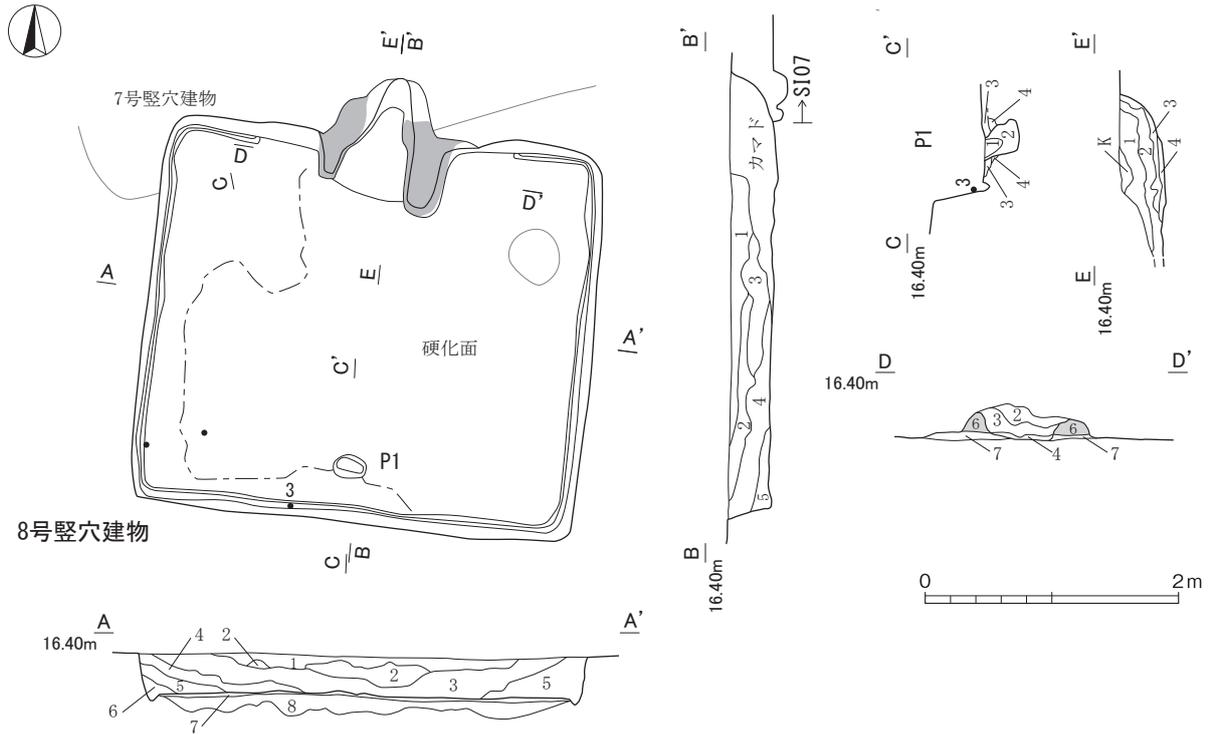
7号竪穴建物 カマド F-F' G-G'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 縮りあり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, 粘土小・中ブロック少量, やや軟い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, 粘土小・中ブロック多量, 縮りあり
4. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, 粘土小・中ブロック少量, 縮りあり
5. 5YR3/1 黒褐色 灰・炭化物粒多量, 軟い
6. 7.5YR5/3 にぶい褐色 ローム粒中量, 粘土小・中ブロック多量, やや縮りあり
7. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
8. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒少量, やや粘性あり, 縮りあり

第22図 7号竪穴建物



第 23 图 7 号竖穴建物出土遺物



8号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, ローム小・中ブロック多量, 締りあり
2. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒極少量, 硬く締りあり
3. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小・中ブロック中量, やや軟い
4. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小・中ブロック少量, やや締りあり
5. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小・中ブロック多量, 軟い
6. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小・中ブロック中量, 軟い
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体, 非常に締りあり
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体, 締りあり

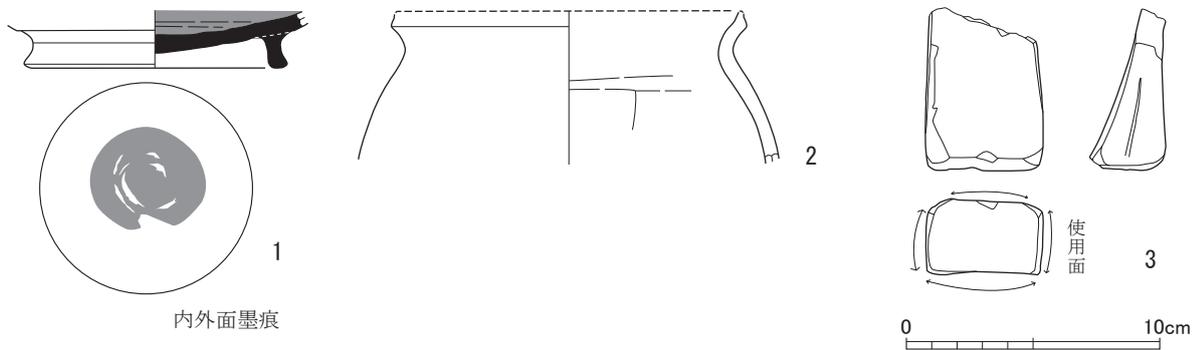
8号竪穴建物 P1 C-C'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 軟い
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, やや軟い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体, 非常に締りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体, 締りあり

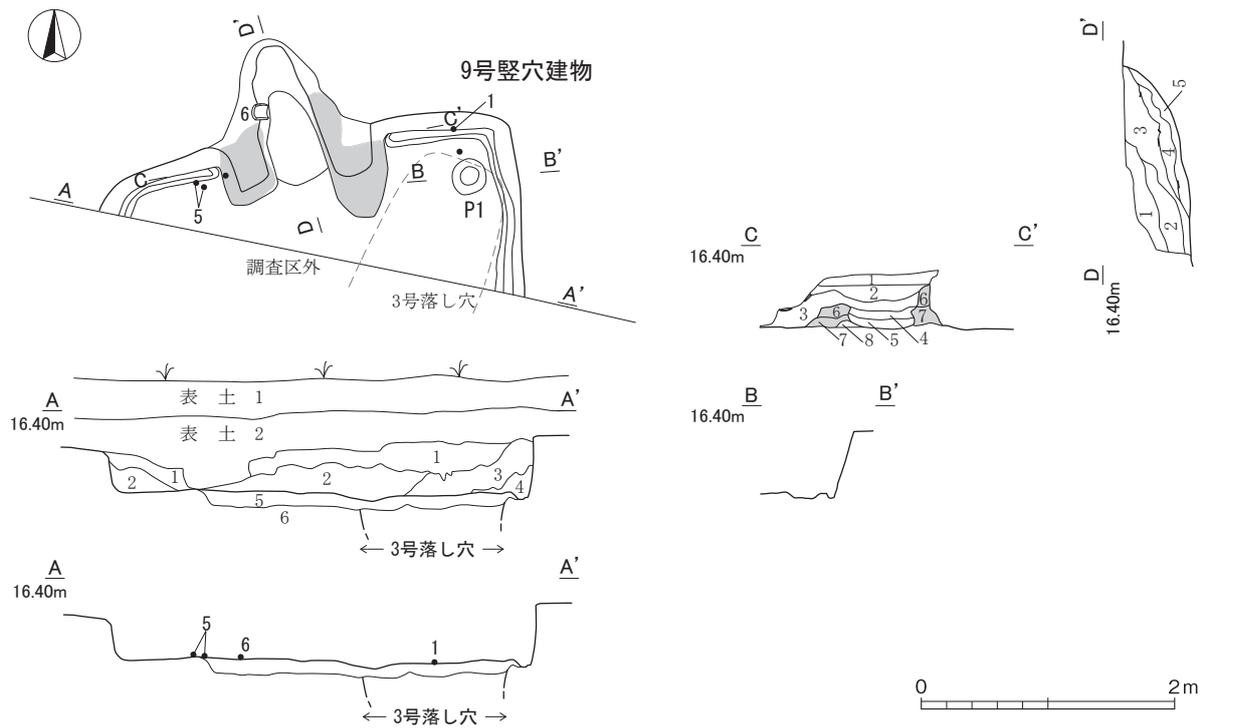
8号竪穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, やや軟い
2. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, 焼土粒少量, 軟い
3. 7.5YR6/2 灰褐色 粘土中・大ブロック主体, 粘性・締りあり
4. 7.5YR2/2 黒褐色 焼土粒多量, 軟い
5. 7.5YR5/2 灰褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり
6. 7.5YR7/4 にぶい橙色 橙色小・中ブロック中量, 粘性・締りあり
7. 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 締りあり

第24図 8号竪穴建物跡



第25図 8号竪穴建物出土遺物



9号竪穴建物 A-A'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小ブロック少～中量，締りあり
  2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小ブロック多量，締りあり
  3. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小ブロック少量，締りあり
  4. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小～大ブロック中量，やや軟い
  5. 7.5YR4/3 褐色 ローム小～大ブロック多量，締りあり
  6. 7.5YR3/3 暗褐色 下層土坑かP 2 8の覆土，軟い
- 表土1 7.5YR4/1 褐灰色 耕作土層，締りあり  
 表土2 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム大ブロック主体，鹿沼パミス粒・小ブロック多量，黒褐色土大ブロック少量，ビニル片

9号竪穴建物跡 カマド C-C' D-D'

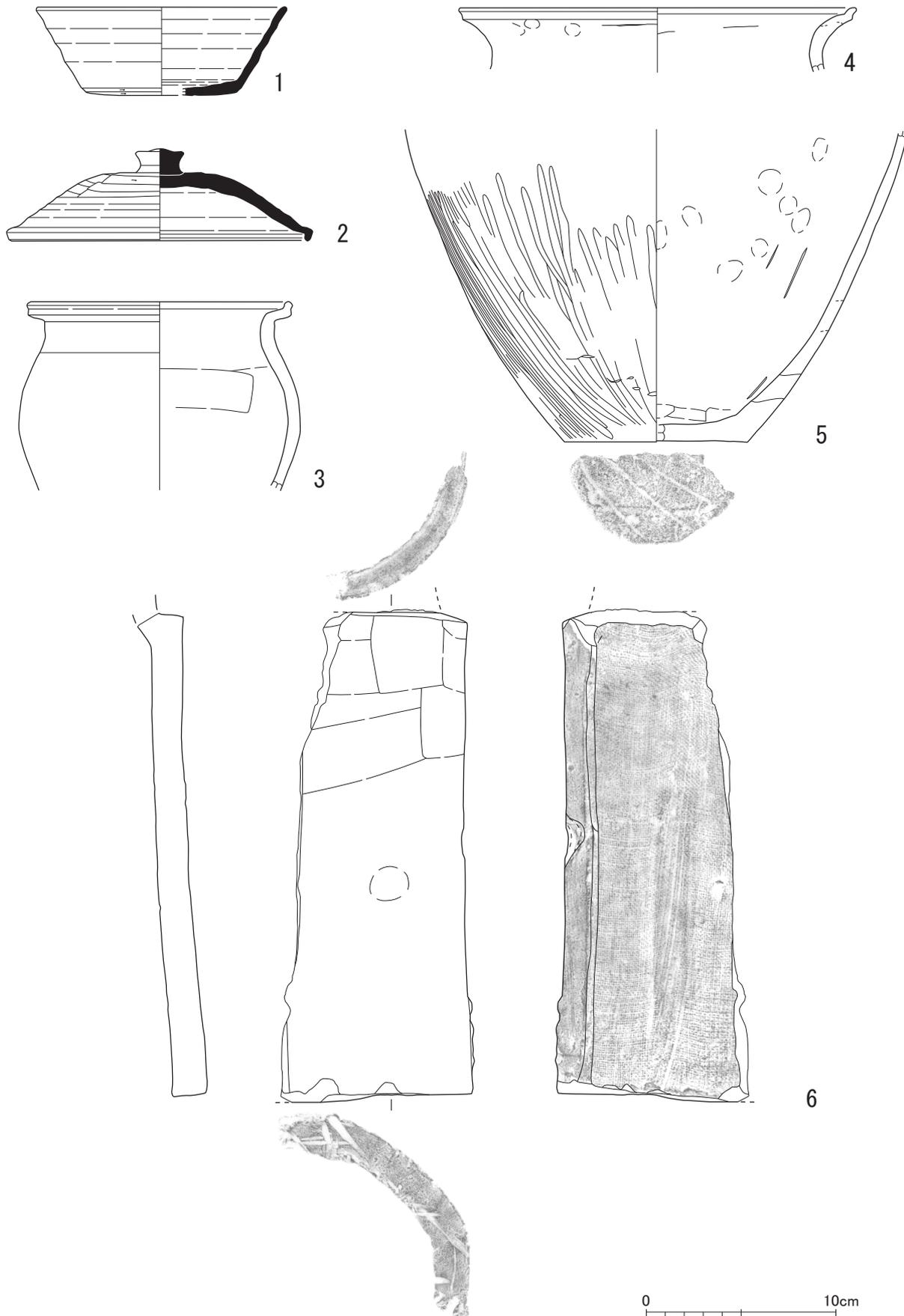
1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量，粘土粒極少量，締りあり
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色 粘土中・大ブロック主体，粘性・締りあり
3. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土粒中量，やや軟い
4. 5YR6/4 にぶい橙褐色 粘土中ブロック主体，焼土小ブロック中量，軟い
5. 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒多量，炭化物粒少量，灰層に相等，軟い
6. 7.5YR4/2 褐色 粘土粒・粘土小ブロック中量，締りあり
7. 7.5YR4/2 褐色 粘土粒・粘土小ブロック多量，やや軟らかい
8. 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒中量，軟い

第26図 9号竪穴建物

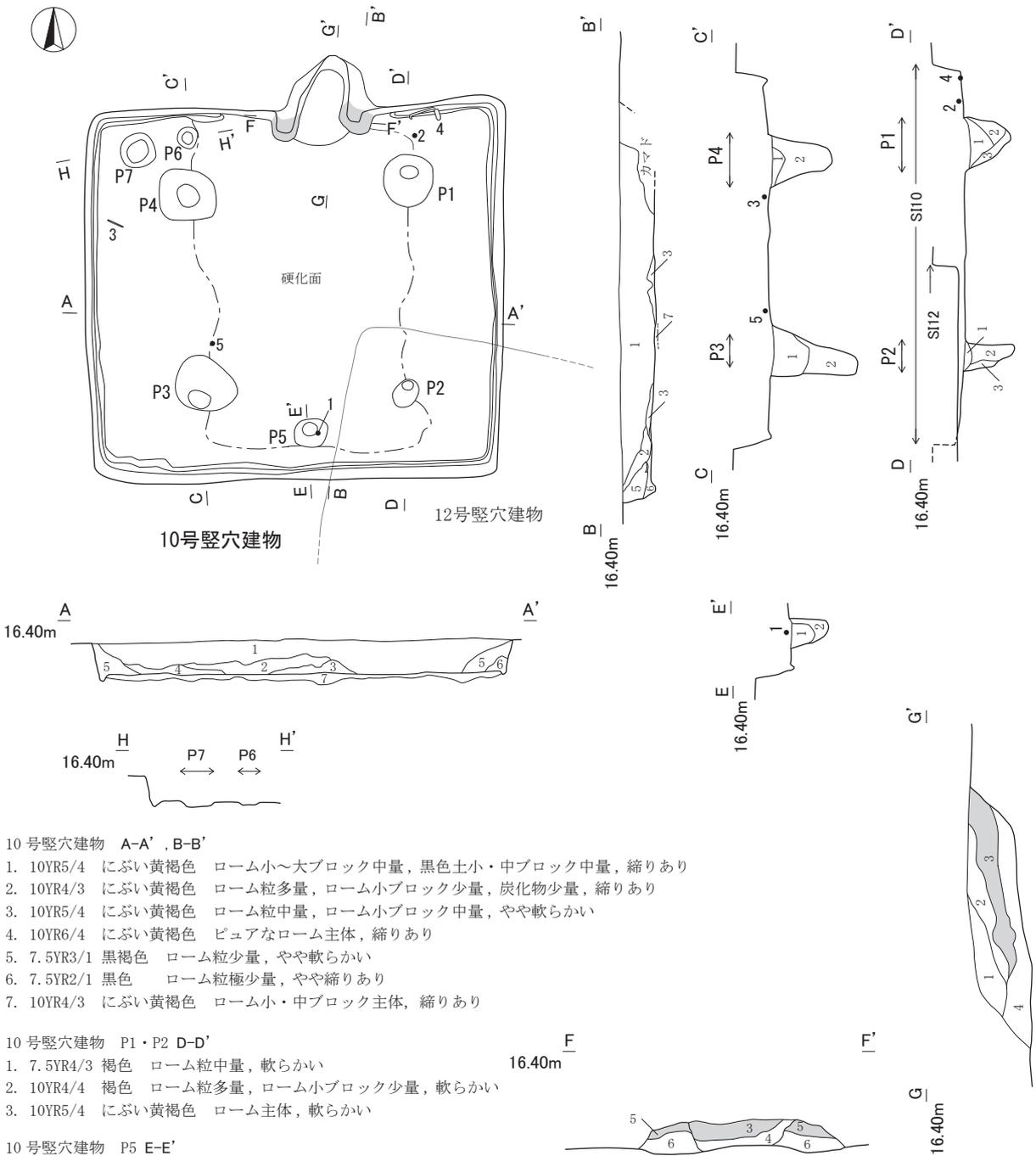
転用硯として二次利用されているものと見られる。外底面にも筆でかすれながら円を描画した墨痕がある。石製品は折損した凝灰岩製の砥石である。 **所見** 出土遺物から9世紀中葉頃には使用されていた竪穴建物と見られる。

9号竪穴建物 (第26・27図, 表6, 図版3・18)

**位置** 西調査区西部F3グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向1.36m以上，東西方向3.20mの方形。 **主軸方向** N-11°-W。 **覆土** 覆土は，建物廃絶後に壁際に自然堆積と見られる黒褐色土が流入し，その後ローム小ブロックを多く含む土で埋め戻されている。 **ピット** P1は竪穴建物の隅にあり深さ4cm程の浅いくぼみ穴である。 **カマド** 北壁中央部にあり，規模は幅1.30m，燃烧室幅0.42m，奥行き0.71mである。燃烧室奥の煙道への立ち上がり部の左側壁に丸瓦が立てられて出土している。用途としてはその位置関係からカマド煙道側壁や天井部の補強材として設置されているものと思われる。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 須恵器・土師器と丸瓦が出土している。須恵器の坏は底部切り離し後周縁ナデ調整の8世紀後半期頃のものである。 **所見** 出土遺物から8世紀後半代の竪穴建物と見られる。



第 27 图 9 号竖穴建物出土遺物



10号竪穴建物 A-A', B-B'

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム小～大ブロック中量, 黒色土小・中ブロック中量, 縮りあり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 炭化物少量, 縮りあり
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, やや軟らかい
4. 10YR6/4 にぶい黄褐色 ピュアなローム主体, 縮りあり
5. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, やや軟らかい
6. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒極少量, やや縮りあり
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体, 縮りあり

10号竪穴建物 P1・P2 D-D'

1. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒中量, 軟らかい
2. 10YR4/4 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム主体, 軟らかい

10号竪穴建物 P5 E-E'

1. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒少量, やや軟らかい
2. 10YR4/4 褐色 ローム主体, ローム小ブロック多量, 軟らかい

10号竪穴建物 P3 C-C'

1. 10YR4/4 褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック多量, 軟らかい
2. 7.5YR3/4 暗褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック多量, 軟らかい

10号竪穴建物 P4 C-C'

1. 7.5YR2/1 黒色 黒色土中・大ブロック主体, 縮りあり
2. 10YR4/4 褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック多量, 軟らかい

10号竪穴建物 カマド F-F' G-G'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, やや軟らかい
2. 5YR3/3 暗赤褐色 ローム粒中量, 焼土粒少量, やや軟らかい
3. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック・焼土粒多量, 縮りあり
4. 5YR3/2 暗赤褐色 粘土・焼土粒中量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
5. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック, 粘性・縮りあり
6. 7.5YR4/3 褐色 ローム小ブロック中量, 縮りあり



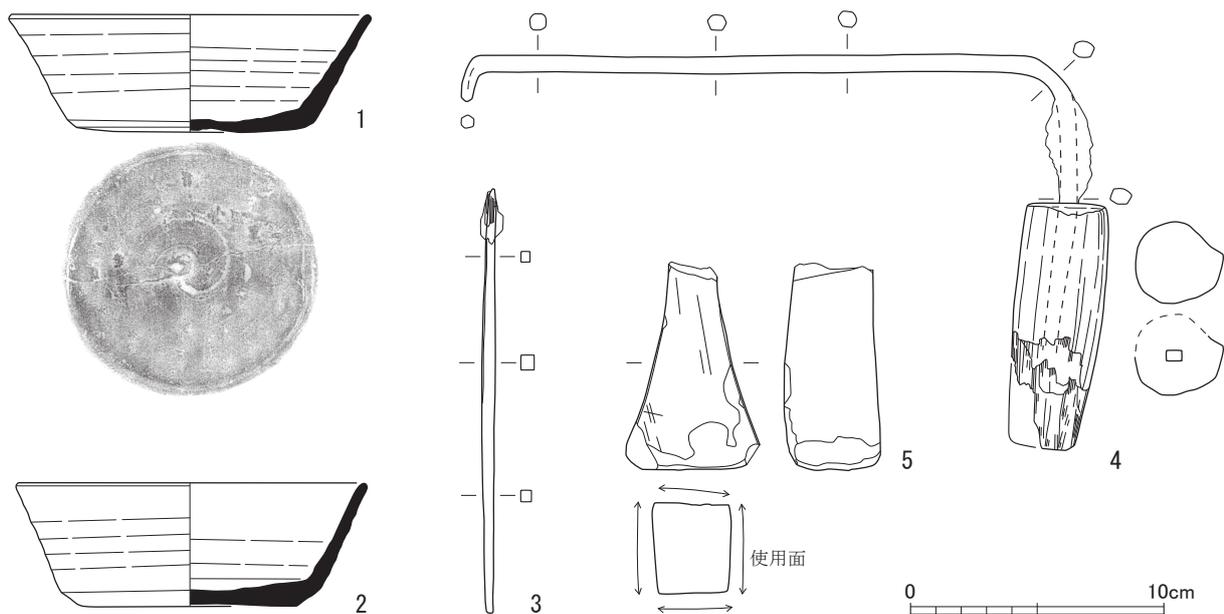
第28図 10号竪穴建物

10号竪穴建物（第28・29図、表6、図版3・4・18）

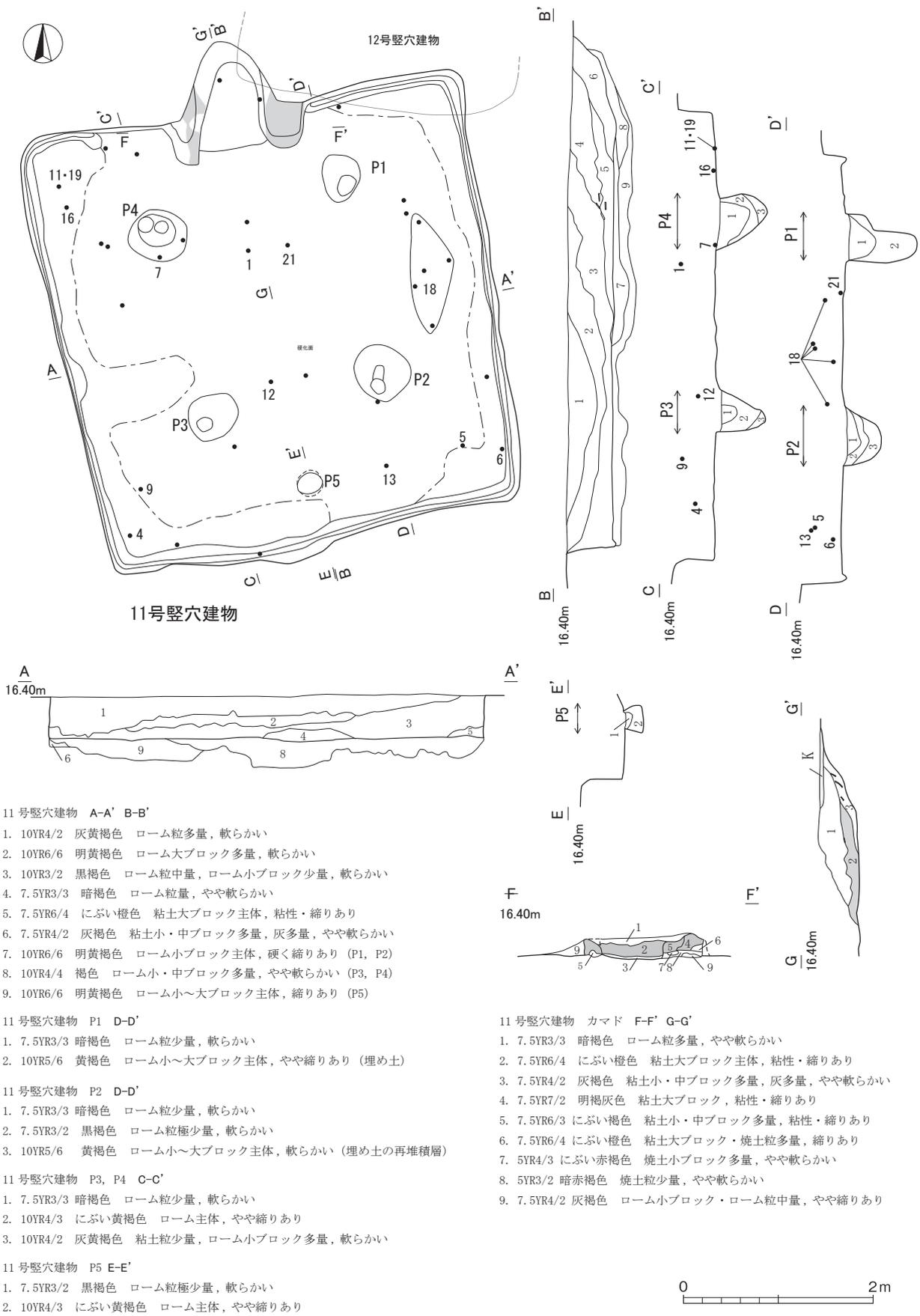
**位置** 西調査区西部D3グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.54m、東西方向3.9mの方形。深さ0.3m。**主軸方向** N-1°-W。**覆土** 覆土はにぶい黄褐色土を主体とし、ロームブロックの含有が多い。**ピット** 支柱穴はP1～P4。P5は出入りに関する穴と見られる。P6・7は深さ4cm程の浅いくぼみ穴である。**カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅0.95m、燃焼室幅0.35m、奥行き0.72mである。**床面** カマドの前面から出入り口前面にかけての4本支柱穴の内側が硬化している。**遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。須恵器坏は底部回転ヘラケズリと底部周辺をナデ調整しているものがあり、器形から8世紀第2～3四半期頃のものと思われる。鉄製品はクルル鉤で柄の木質部も残存している。カマド右脇の床面上から出土している。3の棒状鉄製品は用途不明だが鉄製紡錘車の芯の部分にでもなるのかと思われる。**所見** 8世紀代の竪穴建物でクルル鉤の出土から倉庫を管理するような人物が関係している竪穴建物と想像される。

11号竪穴建物（第30・31・32図、表6・7、図版4・19・20）

**位置** 西調査区西部E3・E4グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向4.72m、東西方向4.60mの方形。深さ0.47m。**主軸方向** N-16°-W。**覆土** 覆土はカマドの崩壊に伴う粘土が床面に流入堆積した後、黒褐色土が堆積し、その後褐色ロームブロックの層が投げ込まれ、最後にローム粒を多量含んだ灰黄褐色土が堆積している。**ピット** 支柱穴はP1～P4。P5は出入りに関する穴と見られる。P1の底面に柱の据替の跡が見られる。**カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.46m、燃焼室幅0.62m、奥行き0.91mである。**床面** 壁寄りの部分全体と西壁の中央南寄りからP3に延びる幅の狭い範囲を除いて硬化している。**遺物** 土師器・須恵器・鉄製品が出土している。須恵器は坏・蓋・高台付坏・コップ形土器・盤・長頸瓶・円面硯・甕が、土師器は甕が、鉄製品は釘が出土している。須恵器坏は8世紀第2～3四半期頃のものである。**所見** コップ形須恵器や円面硯、長頸瓶など出土遺物が多様で、計量やその記録といった役割をもつ竪穴建物の可能性がある。



第29図 10号竪穴建物出土遺物



11号竖穴建物 A-A' B-B'

- 1. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒多量, 軟らかい
- 2. 10YR6/6 明黄褐色 ローム大ブロック多量, 軟らかい
- 3. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
- 4. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒量, やや軟らかい
- 5. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり
- 6. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土小・中ブロック多量, 灰多量, やや軟らかい
- 7. 10YR6/6 明黄褐色 ローム小ブロック主体, 硬く締りあり (P1, P2)
- 8. 10YR4/4 褐色 ローム小・中ブロック多量, やや軟らかい (P3, P4)
- 9. 10YR6/6 明黄褐色 ローム小〜大ブロック主体, 締りあり (P5)

11号竖穴建物 P1 D-D'

- 1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, 軟らかい
- 2. 10YR5/6 黄褐色 ローム小〜大ブロック主体, やや締りあり (埋め土)

11号竖穴建物 P2 D-D'

- 1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, 軟らかい
- 2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒極少量, 軟らかい
- 3. 10YR5/6 黄褐色 ローム小〜大ブロック主体, 軟らかい (埋め土の再堆積層)

11号竖穴建物 P3, P4 C-C'

- 1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, 軟らかい
- 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体, やや締りあり
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土粒少量, ローム小ブロック多量, 軟らかい

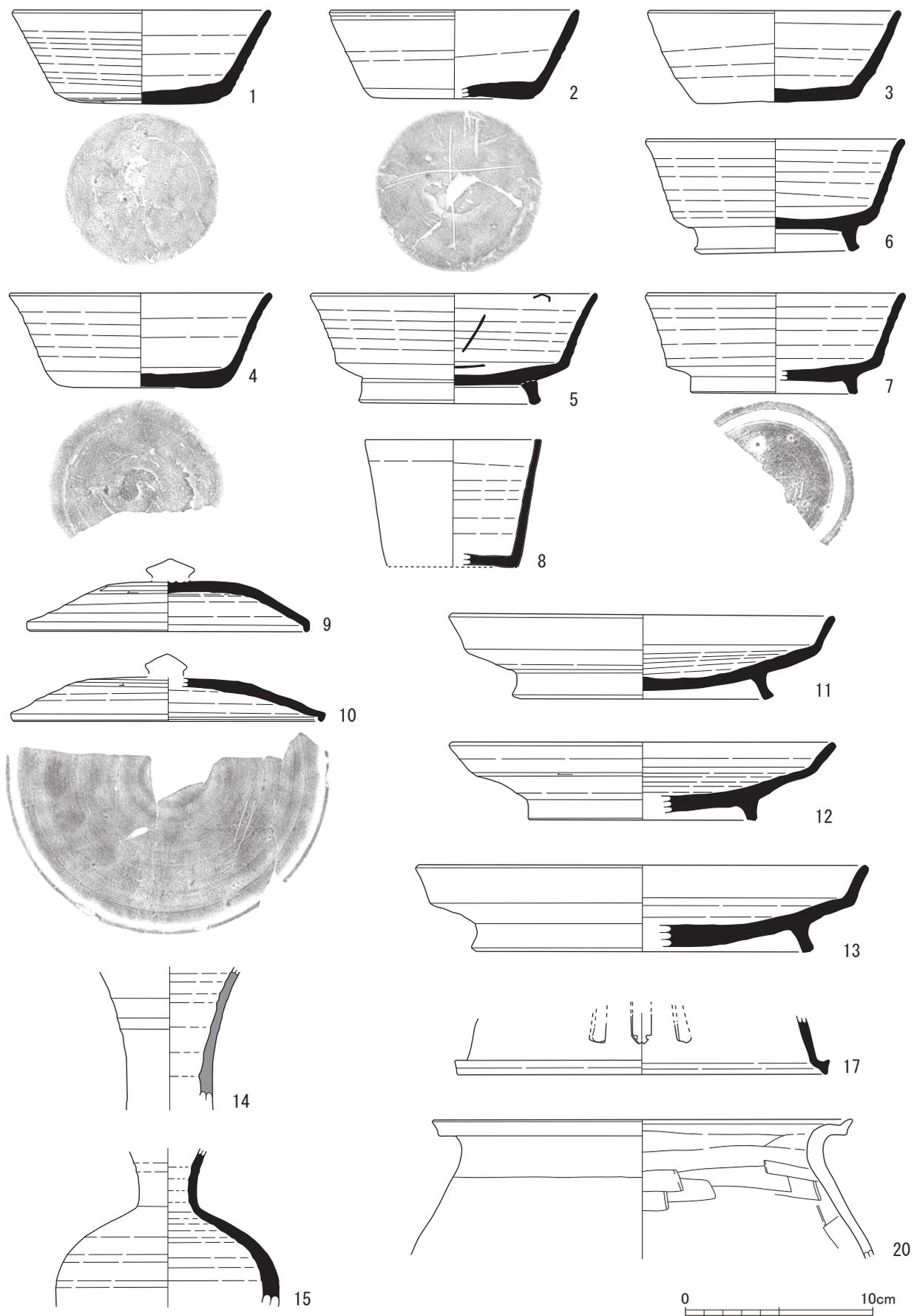
11号竖穴建物 P5 E-E'

- 1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒極少量, 軟らかい
- 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体, やや締りあり

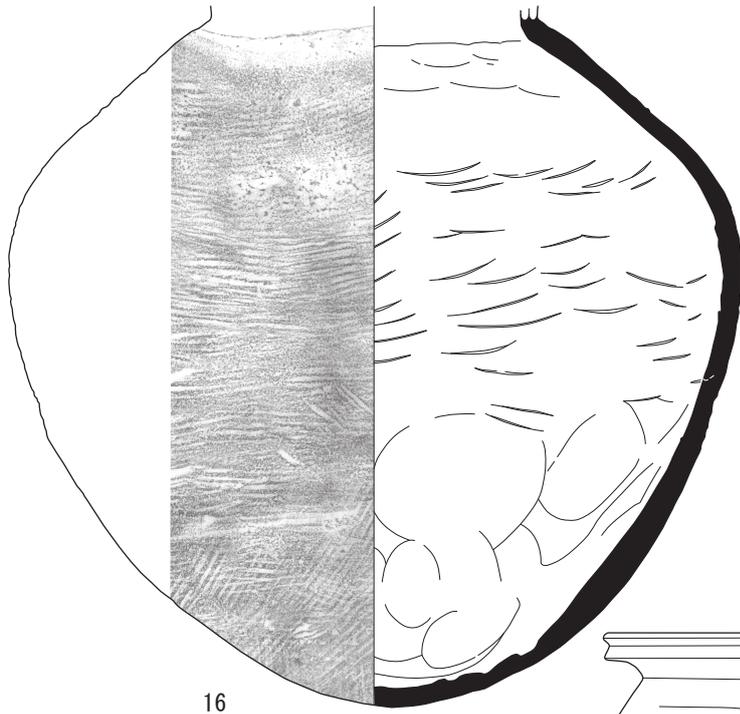
11号竖穴建物 カマド F-F' G-G'

- 1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, やや軟らかい
- 2. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり
- 3. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土小・中ブロック多量, 灰多量, やや軟らかい
- 4. 7.5YR7/2 明褐灰色 粘土大ブロック, 粘性・締りあり
- 5. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土小・中ブロック多量, 粘性・締りあり
- 6. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック・焼土粒多量, 締りあり
- 7. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック多量, やや軟らかい
- 8. 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒少量, やや軟らかい
- 9. 7.5YR4/2 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒中量, やや締りあり

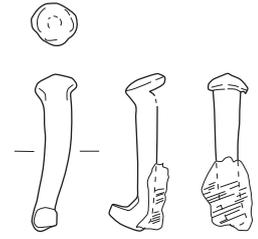
第30図 11号竖穴建物



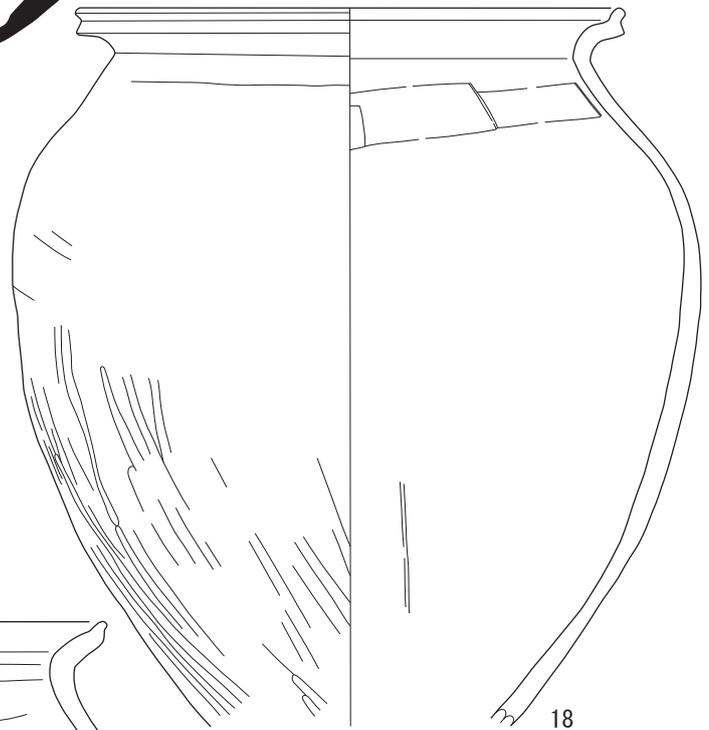
第 31 图 11 号竖穴建物出土遺物 (1)



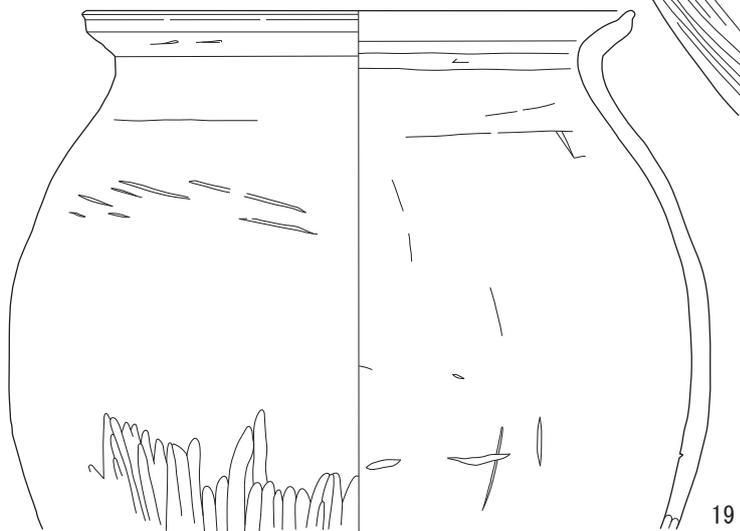
16



21



18



19



第 32 图 11 号竖穴建物出土遺物 (2)

12号竪穴建物（第33・34・35図，表7・8，図版4・20・21）

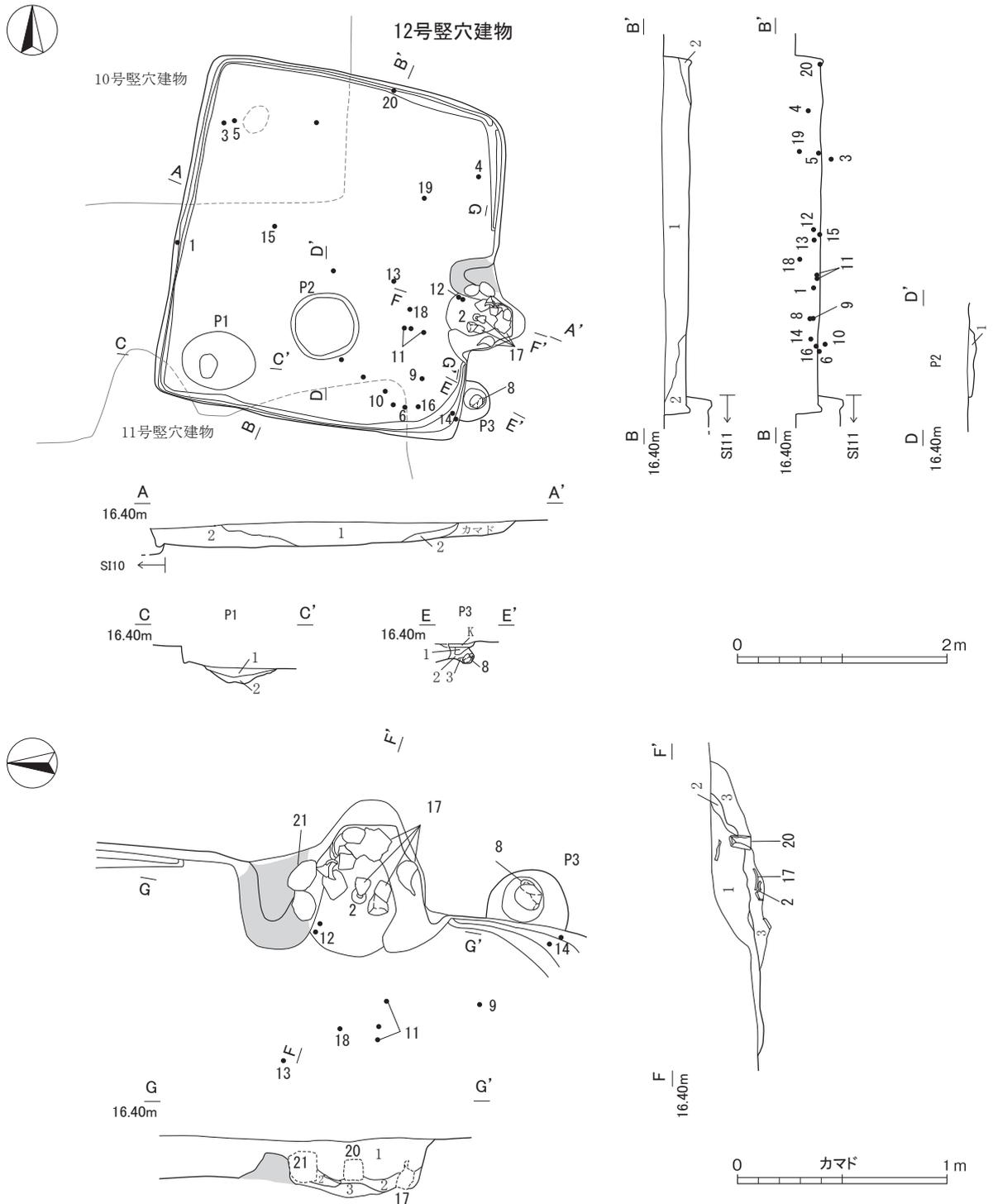
**位置** 西調査区西部D3・D4・E3・E4グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.34m，東西方向2.94mの南北方向に長い長方形。**主軸方向** N—192°—E。**覆土** 覆土はロームを小～中量含んだ黒褐色土が堆積している。**ピット** 主柱穴はなく，P1・2は床を10cm程掘り下げたくぼみ穴。P3はカマドの設けられた東壁の南隅近くに壁を穿ってやや斜め方向に穿たれた穴で，土器片と自然石が出土している。**カマド** 東壁中央部やや南寄りの位置にあり，規模は幅1.03m，燃焼室幅0.37m，奥行き0.64mである。焚口から0.3mのカマド中軸線上に自然石の支脚が残存している。**床面** P1・2を除いて全体に硬化している。**遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。土器はロクロ土師器の小皿をはじめとして椀・足高高台椀・三脚土器脚部・甕・羽釜が出土している。小皿は2～4の口径・器高の大きさが揃っており，口径が10～10.5cm，器高が2～2.5cmである。**所見** 小皿の口径と器高が年代とともに小さく・低くなっていくことは，群馬県の事例や茨城県内のこれまで確認されている10～11世紀代の遺跡の事例から，大方認められそうだと認識されてきていると思う。また10世紀以降群馬県を念頭に置いた西からの影響の強さも認識されつつあると思われる（三浦1990，田口・土生2014）。12号竪穴建物の小皿は11世紀第2四半期の年代を示していると思われる。

13号竪穴建物（第36・37・39図，表8，図版4・5・21・22）

**位置** 西調査区西部F3・F4グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.72m，東西方向3.95mの方形。深さ0.45m。**主軸方向** N—10°—W。**覆土** 覆土はローム粒を多量に含んだ褐色土・暗褐色土を主体としている。**ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。**カマド** 北壁中央部にあり，規模は幅1.21m，燃焼室幅0.61m，奥行き0.69mである。**床面** 西壁寄りと北東隅から東壁寄りの一部を除いて全体に硬化している。**遺物** 須恵器・土師器が出土している。須恵器坏類は8世紀第2～3四半期のもので，第3四半期のものが主体である。土師器甑の体部には縦に四か所の補修孔が見られる。**所見** 8世紀後半の主柱穴をもたない簡素な竪穴建物であると見られ，割れた土師器甑を補修して使用するなど質素な生活の一面が垣間見られる。

14号竪穴建物（第38・40図，表8，，図版5・22）

**位置** 西調査区西部C4・D4グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.10m以上，東西方向3.24m。深さ0.36m。**主軸方向** N—21°—W。**覆土** 覆土は下層が褐色のロームを主体とする土層で上層は黒褐色土の自然堆積層と見られる。**ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。**床面** 全体に硬化している。**遺物** 須恵器の坏と蓋，土師器の坏，土製品の支脚が出土している。1の須恵器の坏は小振りな丸底気味の坏で木葉下窯跡群産と見られる。3の須恵器蓋はかえりがやや甘くなった新治窯跡群産の製品である。土師器の坏は口縁部が外反して開く丸底気味の坏で，体部外面の口縁部と底部の境付近の調整が甘く，成形時に生じたと見られる罅・皺痕が観察される。**所見** 3の須恵器の蓋は，新治窯跡群のX2段階（一丁田に後続する段階）に該当すると思われる。新治窯跡群のX2段階は8世紀第1四半期と第2四半期の間頃の時期とされている。



12号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや軟らかい
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 締りあり

12号竪穴建物 P1 C-C'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, やや締りあり

12号竪穴建物 P2 D-D'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, やや軟らかい

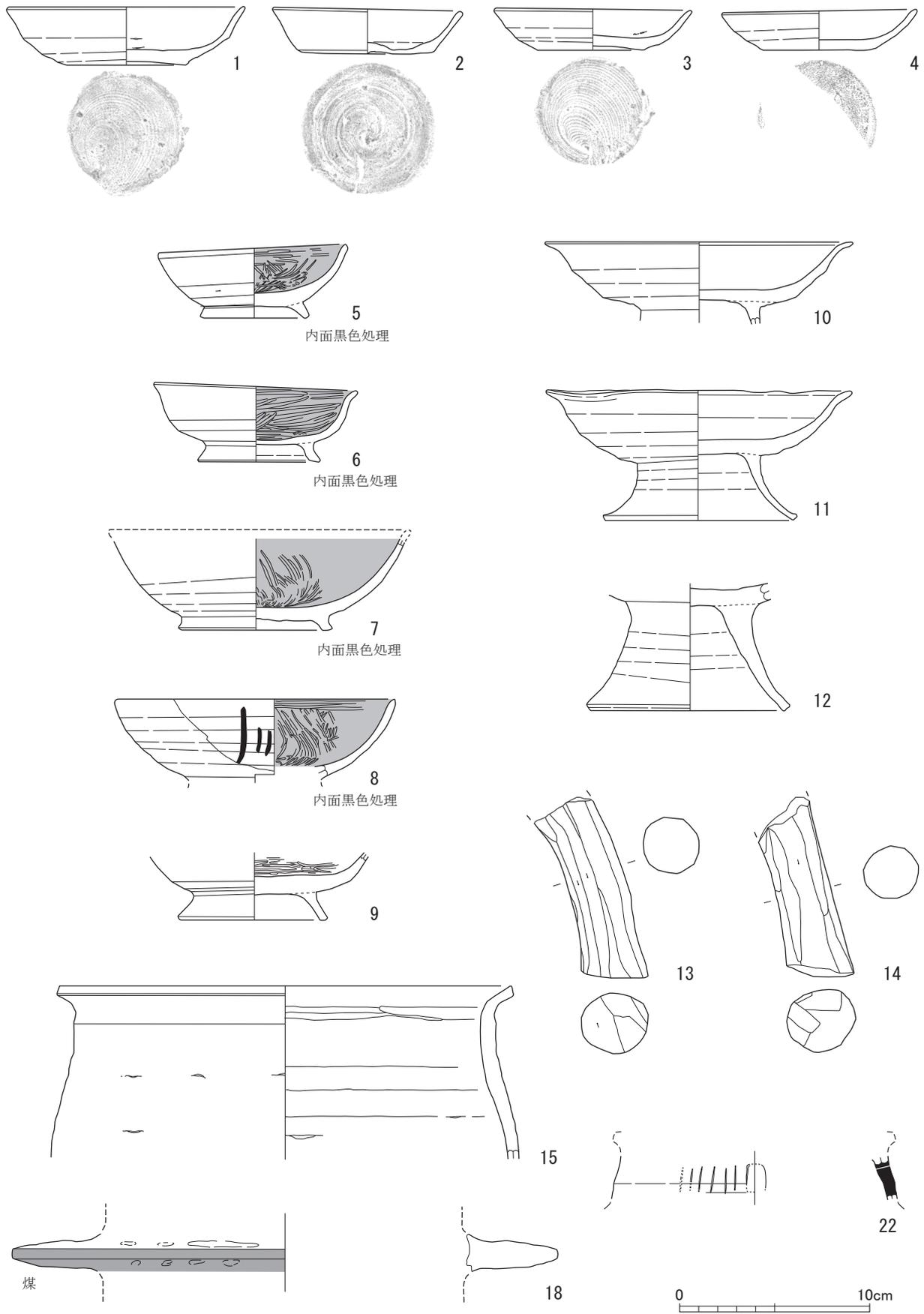
12号竪穴建物 P3 E-E'

1. 7.5YR4/3 褐色 ローム主体, 締りあり
2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
3. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 軟らかい

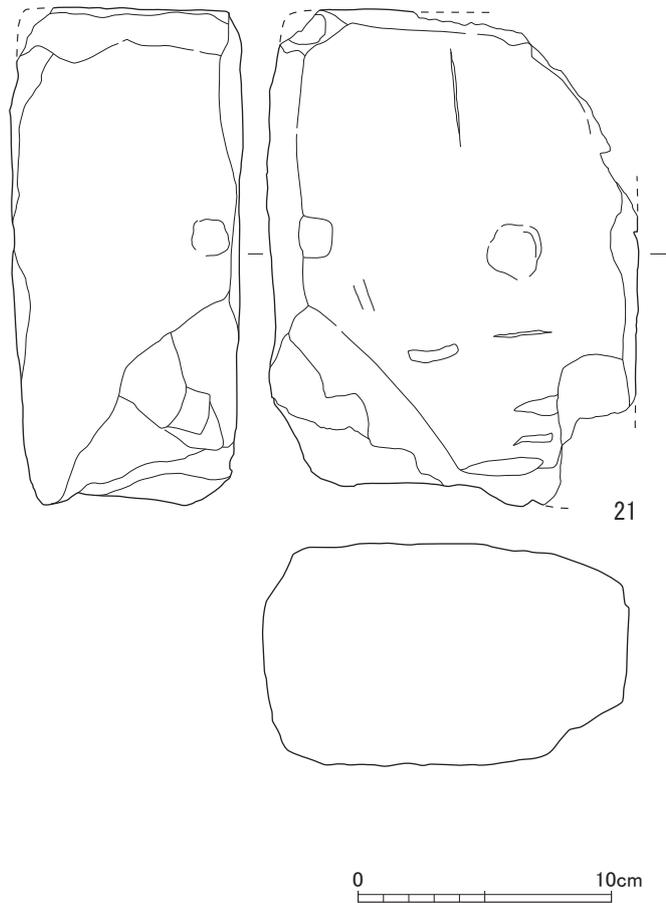
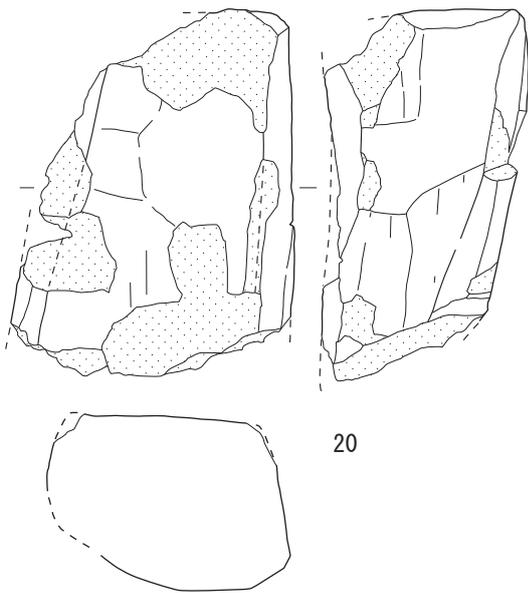
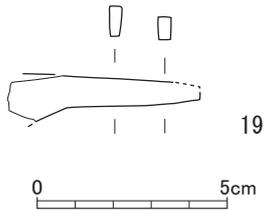
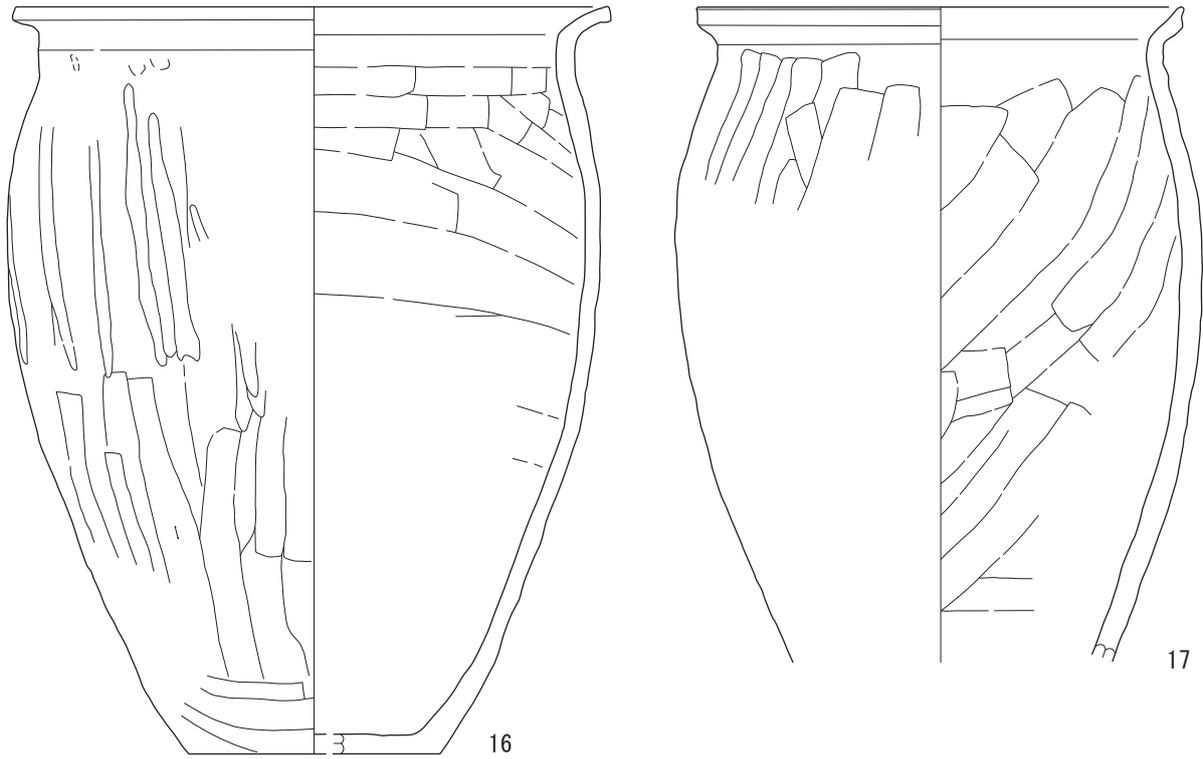
12号竪穴建物カマド F-F' G-G'

1. 7.5YR4/4 褐色 ローム粒多量, 粘土粒少量, 締りあり
2. 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土粒中量, やや軟らかい
3. 5YR2/1 黒褐色 灰層, 焼土粒少量, 軟い

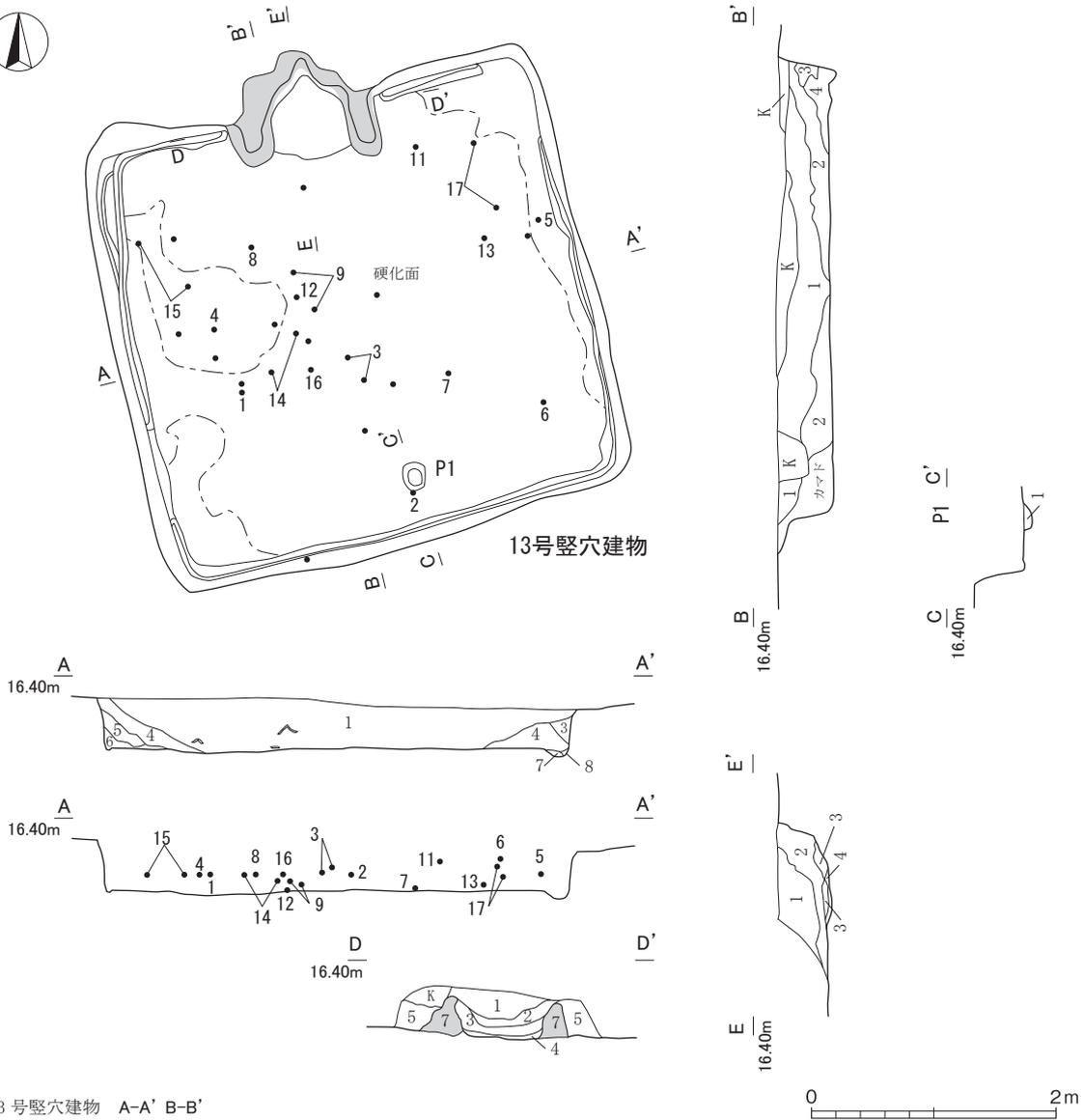
第 33 図 12号竪穴建物



第 34 图 12 号竖穴建物出土遺物 (1)



第 35 图 12 号竖穴建物出土遺物 (2)



13号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, 締りあり
2. 10YR4/4 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 締りあり
3. 10YR5/6 黄褐色 ローム大ブロック主体, 締りあり
4. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 炭化物粒極少量, 軟らかい
5. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 締りあり
6. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック中量, 締りあり
7. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中~多量, ローム小ブロック少量, 締りあり
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体, 軟らかい, 壁崩落層か

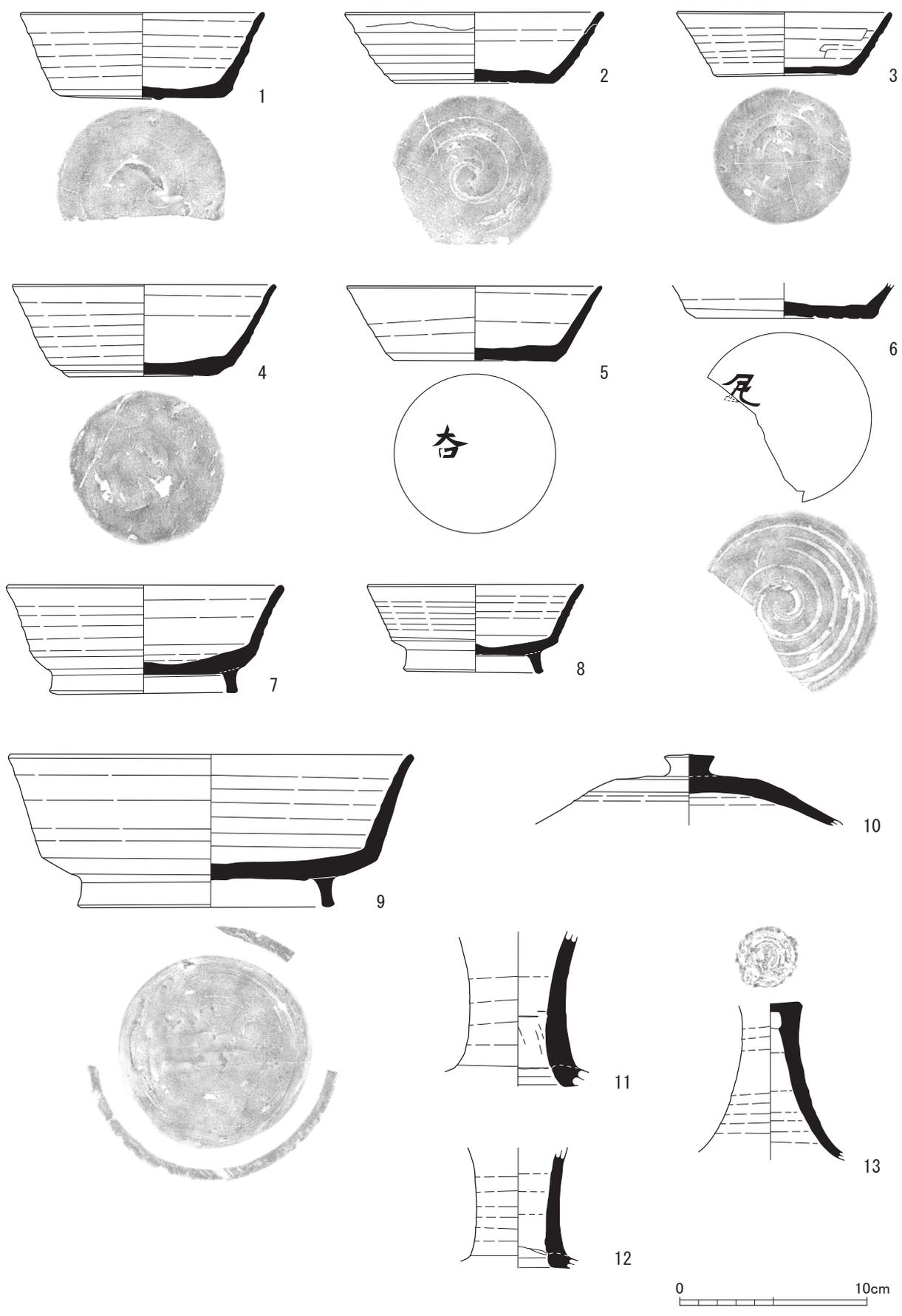
13号竪穴建物 P1 C-C'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 軟らかい

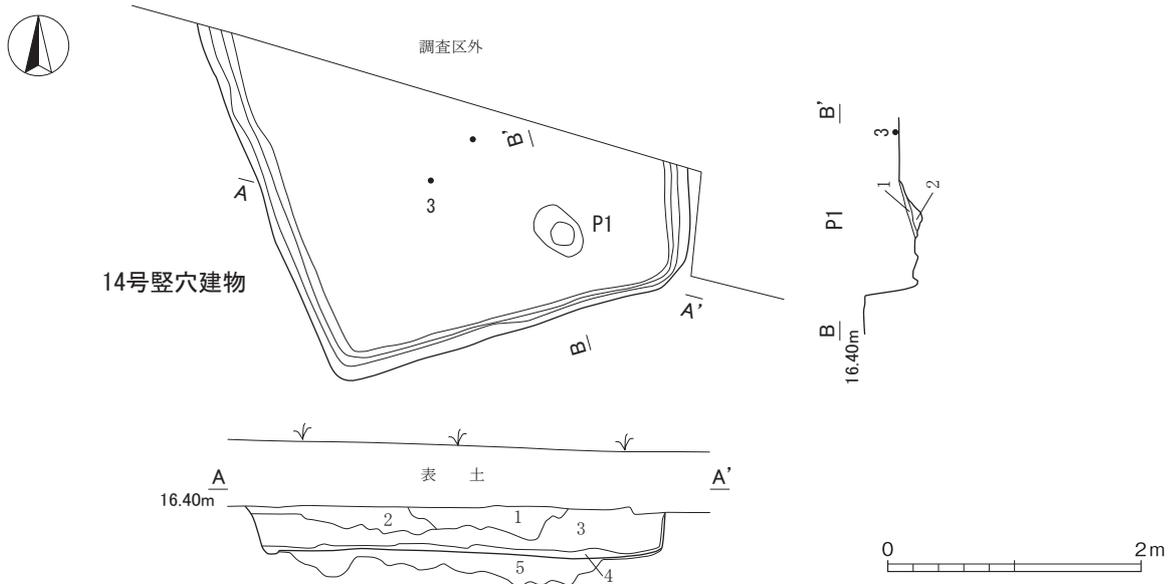
13号竪穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, 炭化材片少量, 締りあり
2. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土粒多量, 焼土小ブロック中量, 粘性・締りあり
3. 5YR5/3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック多量, 灰中量, 軟らかい
4. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土粒中量, 締りあり
5. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒多量, 締りあり
6. 7.5YR6/2 灰褐色 粘土粒多量, 焼土小ブロック少量, やや軟らかい
7. 10YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック少量, 袖芯部, 粘性・締りあり

第36図 13号竪穴建物



第 37 図 13 号竪穴建物出土遺物 (1)



14号竪穴建物 A-A'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや締りあり
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, やや締りあり
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
4. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 床直上に堆積した薄い土層, 締りあり
5. 10YR7/6 明黄褐色 ローム小・中ブロックが固化した竪穴建物床面, 非常に硬く締りあり

14号竪穴建物 P1 B-B'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒・ローム中小ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR4/4 褐色 暗褐色土小ブロック中量, 軟らかい

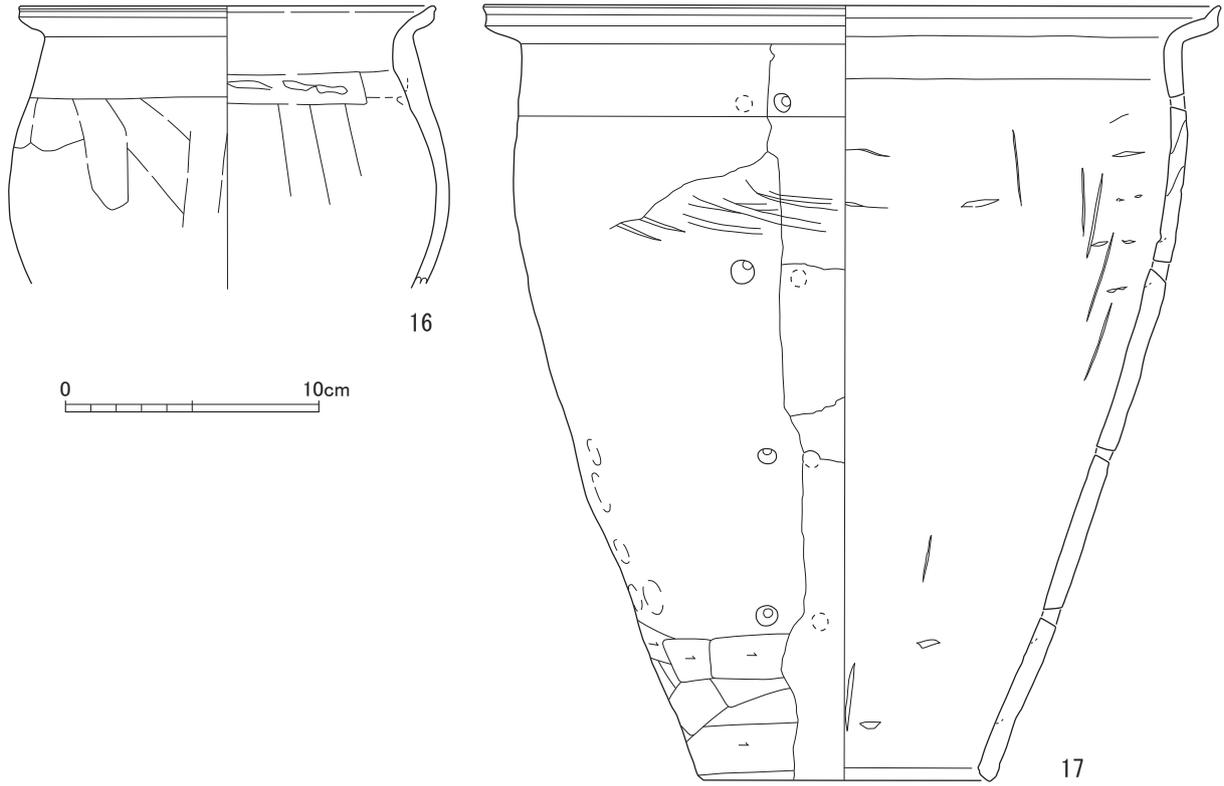
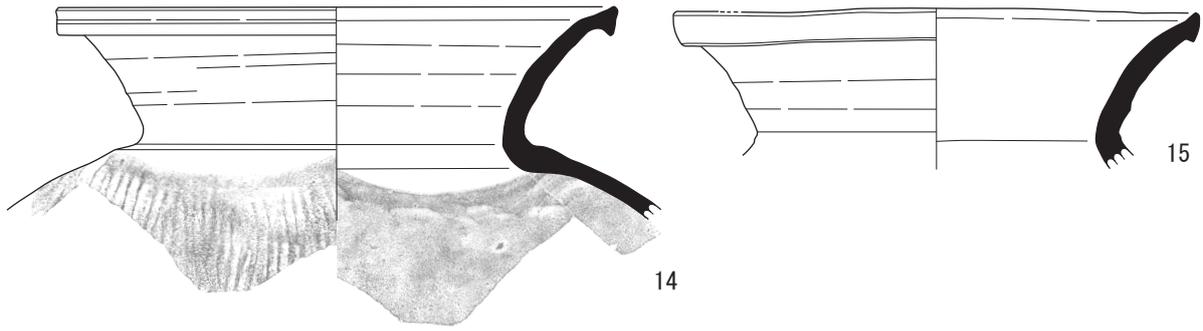
第38図 14号竪穴建物

15号竪穴建物 (第41・42図, 表9, 図版5・22・23)

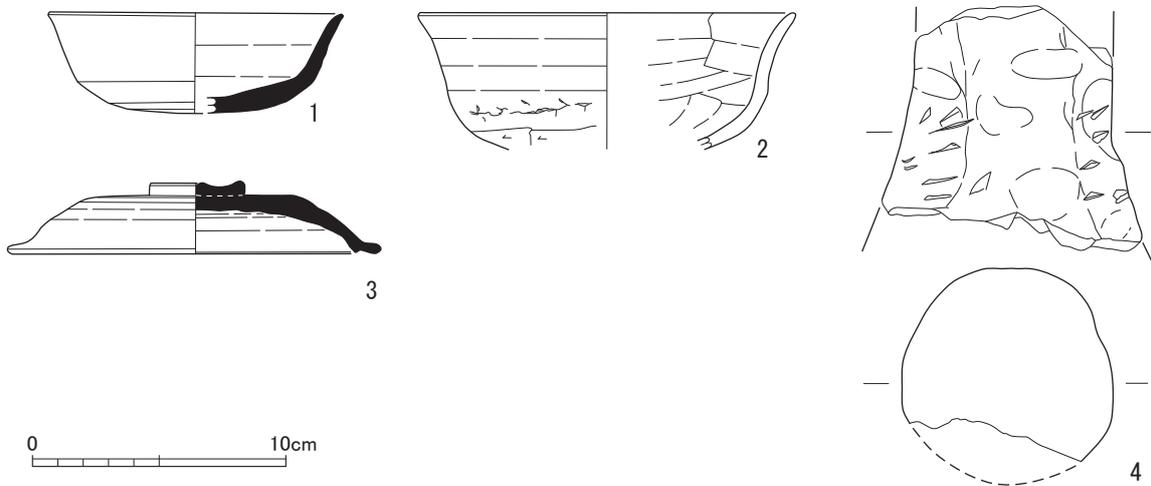
**位置** 西調査区中央部D4グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.57m, 東西方向3.56mの方形。深さ0.39m。**主軸方向** N-13°-W。**覆土** 覆土は褐色のロームを主体としており, 壁際に堆積する3・5層は黒褐色の自然堆積層で, 7~10層はカマドの崩壊に伴う堆積土層である。**ピット** P1は出入り口に関する穴と見られる。**カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅1.54m, 燃焼室幅0.8m, 燃焼室奥行き0.76mである。粘土を多く含む5・7層がカマド袖部の本体の残存と見られる。**床面** 南壁寄りの一部を除いて全体に硬化している**遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。土器は須恵器の坏・盤, 土師器は甕が出土している。須恵器の坏は8世紀第2~3四半期頃のものである。鉄製品は刀子, 石製品は紡錘車と砥石である。**所見** 出土遺物から8世紀後半代の竪穴建物で, 四本柱の主柱穴を床面にもたない小型の竪穴建物である。

16号竪穴建物 (第43・44・45図, 表9, 図版5・23)

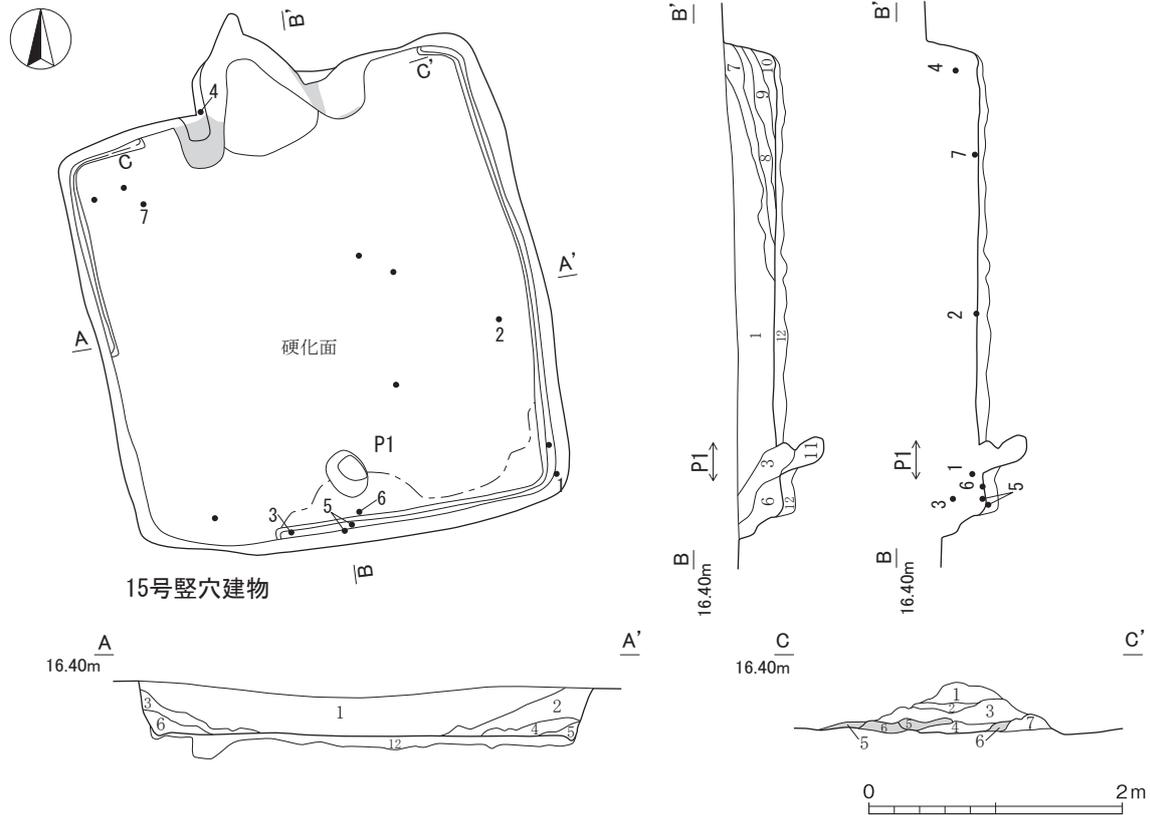
**位置** 西調査区中央部D4・E4グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向4.84m, 東西方向4.85mの方形。深さ0.32m。**主軸方向** N-40°-W。**覆土** 覆土はローム粒を多く含んだ暗褐色土を主体としている。**ピット** 主柱穴はP1~P4。P5, P6は出入り口に関する穴と見られる。**カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅1.09m, 燃焼室幅0.56m, 燃焼室奥行き1.0mである。**床面** 北西隅部の攪乱範囲以外は全体に硬化している。**遺物** 土師器の坏・鉢・甕・甌・壺が出土している。**所見** 出土している土師器は6世紀後葉頃の土器と見られる。



第 39 図 13 号竖穴建物出土遺物 (2)



第 40 図 14 号竖穴建物出土遺物



15号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量, 焼土小ブロック中量, 黒色土小ブロック中量, ローム大ブロック中量, やや縮りあり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
3. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 焼土粒極少量, 縮りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量, 縮りあり
5. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量, 縮りあり
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土粒・粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック中量, 縮りあり
8. 7.5YR3/1 黒褐色 粘土小・中ブロック多量, 黒色土大ブロック多量, 縮りあり
9. 7.5YR7/4 にぶい橙色 粘土中ブロック主体, 粘性・縮りあり
10. 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土粒少量, 粘土小・中ブロック中量, 軟らかい
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, 軟らかい
12. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小ブロック多量, 縮りあり

15号竪穴建物 カマド C-C'

1. 10YR4/4 褐色 ローム粒多量, やや軟らかい
2. 7.5YR3/1 黒褐色 粘土小・中ブロック多量, 黒色土大ブロック多量, 縮りあり
3. 7.5YR7/4 にぶい橙色 粘土中ブロック主体, 粘性・縮りあり
4. 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土粒少量, 粘土小・中ブロック中量, 軟らかい
5. 7.5YR7/4 にぶい橙色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
6. 7.5YR7/4 にぶい橙色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
7. 5YR4/3 にぶい赤褐色 炭化物粒・灰多量, 軟らかい

第41図 15号竪穴建物

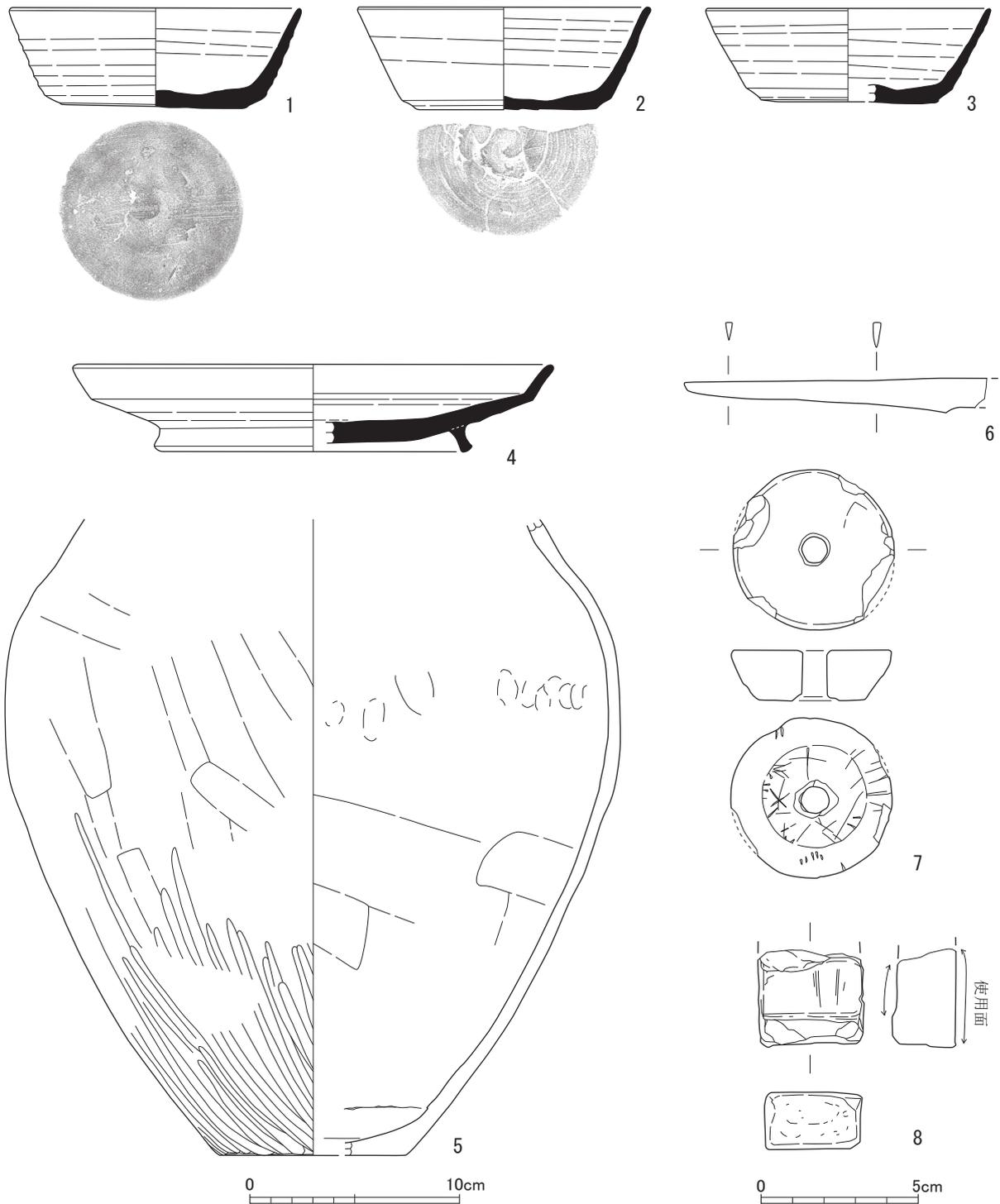
17A号竪穴建物 (第46・47図, 表9, 図版5・6・23)

**位置** 西調査区中央部 D4・D5・E4・E5 グリッド付近を中心に位置する。 **重複関係** 7B号竪穴建物と重複し, 7B号竪穴建物によって床やカマドを掘り込まれている。 **規模と平面形** 東西方向4.42m, 南北方向もおそらく4mを超える大きさと見られる。残存する深度は0.20m。 **主軸方向** N-1°-E。 **カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅1.04m, 燃焼室幅0.48m, 燃焼室奥行き0.51mである。 **床面** 17B号竪穴建物に削平されている。

**遺物** 土師器甕が出土している。6世紀末~7世紀初め頃の長胴甕片である。 **所見** カマドの基部が残存しており, 規模は小さいものの袖部分が竪穴内にしっかりと伸びており古墳時代的なカマドである。わずかに出土した土師器甕の年代が竪穴建物の時期を示していると考えられる。

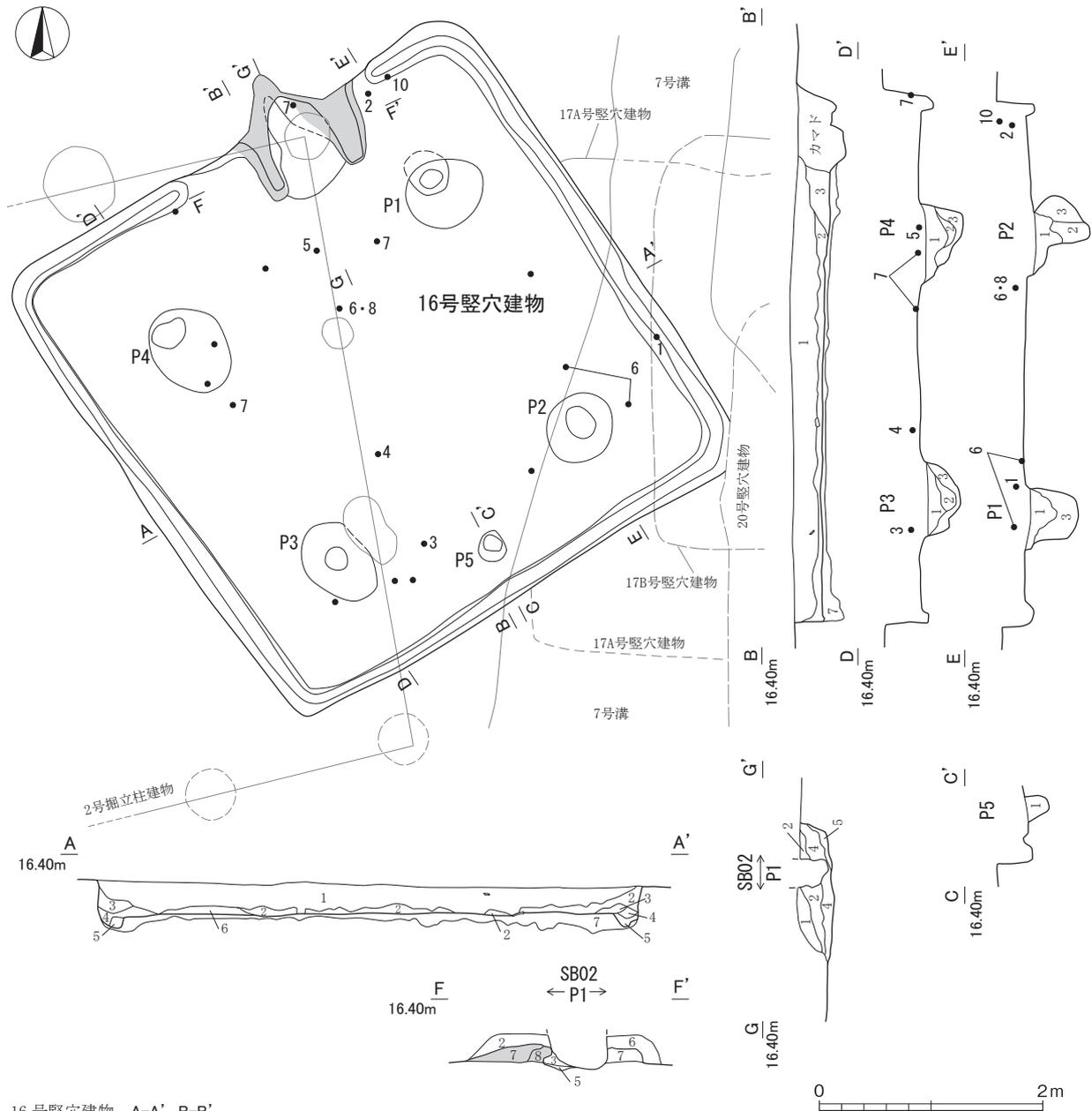
17B号竪穴建物 (第47・48図, 表9, 図版5・6・24)

**位置** 西調査区中央部 D4・D5・E4・E5 グリッド付近を中心に位置する。 **重複関係** 17A号竪穴建物と重複し, 17A号竪穴建物の床やカマドを掘り込んでいる。 **規模と平面形** 南北方向3.68m, 東西方向3.64mの方形。



第 42 図 15 号竪穴建物出土遺物

**主軸方向** N-191°-E。 **覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含む黒褐色土・暗褐色土を主体としている。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 1.0m, 燃烧室幅 0.50m, 燃烧室奥行き 0.55m である。焚口から奥へ 0.27m, カマド中軸線から左に 5 cm 寄った位置に椀を二つ重ねて支脚が据え付けられ残存していた。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器と煤の付着した磨石破片が出土している。土師器は坏・小皿・椀・甕で、小皿は口径 11.3 cm, 器高 2.6 cm である。 **所見** 1 の土師器小皿は口径・器高値から見て 10 世紀の第 3 四半期頃のものと思われるので、10 世紀前半～中葉頃の竪穴建物となると見られる。



16号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, 黒色土小ブロック多量, 締りあり
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒多量, ローム中ブロック中量, 締りあり
3. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, 黒色土小ブロック多量, 締りあり
4. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, 黒色土小ブロック多量, 締りあり
5. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, 黒色土小ブロック多量, やや締りあり
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体, やや軟らかい
7. 10YR4/5 褐色 ローム小ブロック多量, 締りあり

16号竪穴建物 C-C'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, 軟らかい

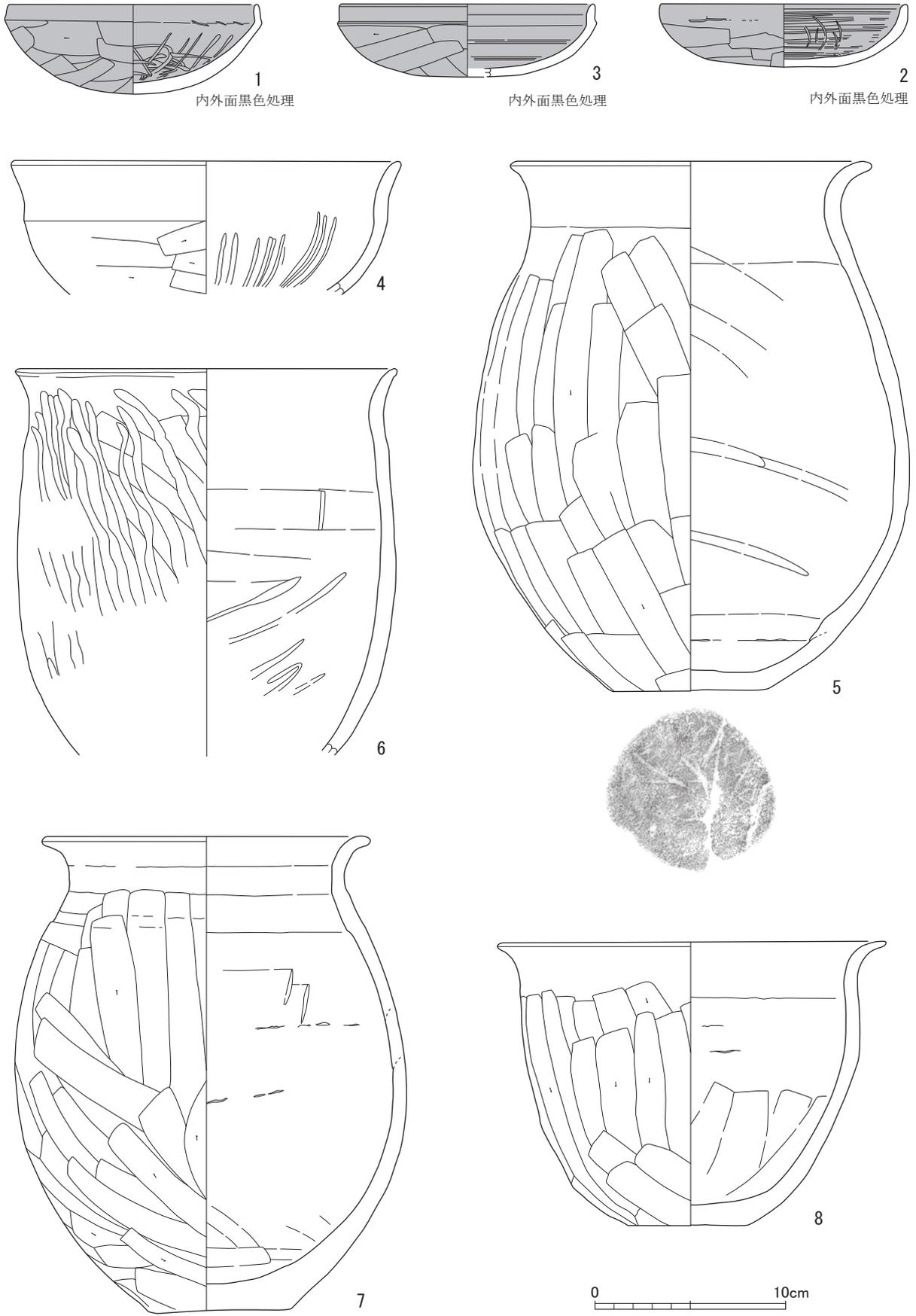
16号竪穴建物 D-D' E-E'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや軟らかい
2. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, 軟らかい
3. 10YR3/4 褐色 ローム主体, ローム小～大ブロック多量, やや軟らかい

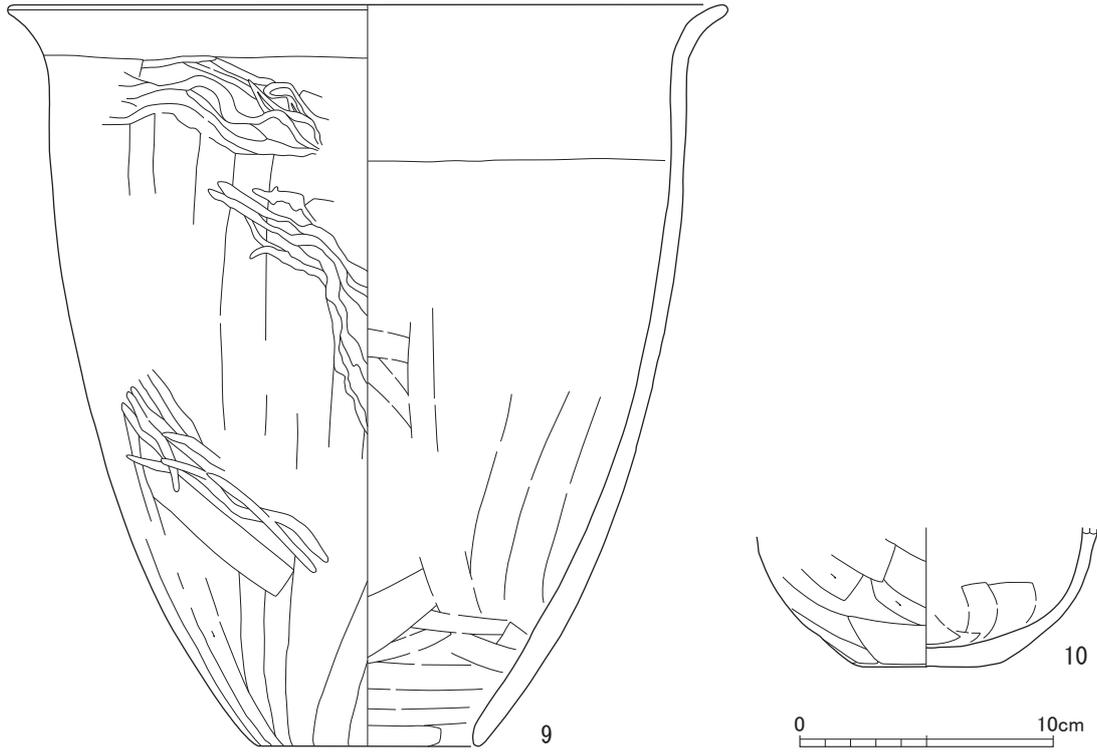
16号竪穴建物 カマド F-F' G-G'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 粘土粒少量, やや締りあり
2. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒少量, 粘性・締りあり
3. 5YR6/3 にぶい橙色 粘土小・中ブロック多量, 焼土粒・焼土小ブロック少量, やや軟らかい
4. 7.5YR3/2 黒褐色 粘土粒中量, 締りあり
5. 5YR5/6 明赤褐色 焼土小・中ブロック多量, 締りあり
6. 7.5YR4/2 灰褐色 黒色土少ブロック中～多量, 粘土粒多量, 締りあり
7. 7.5YR6/6 橙色 粘土中・大ブロック主体, 締りあり
8. 7.5YR6/2 灰褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり

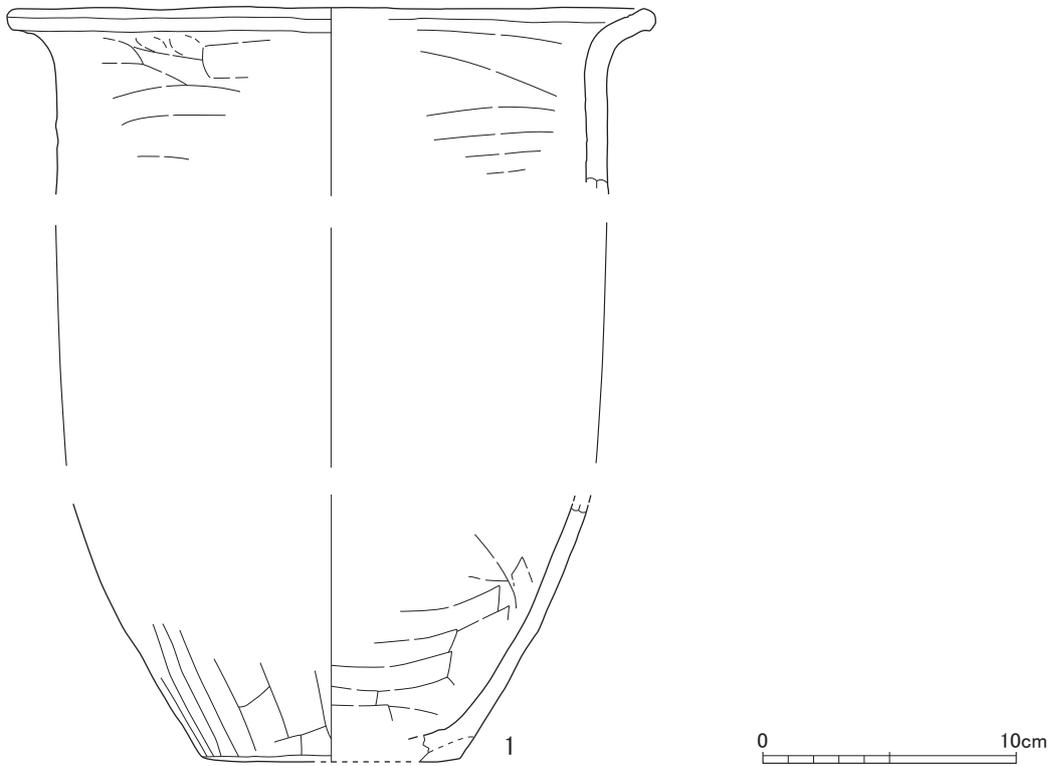
第43図 16号竪穴建物



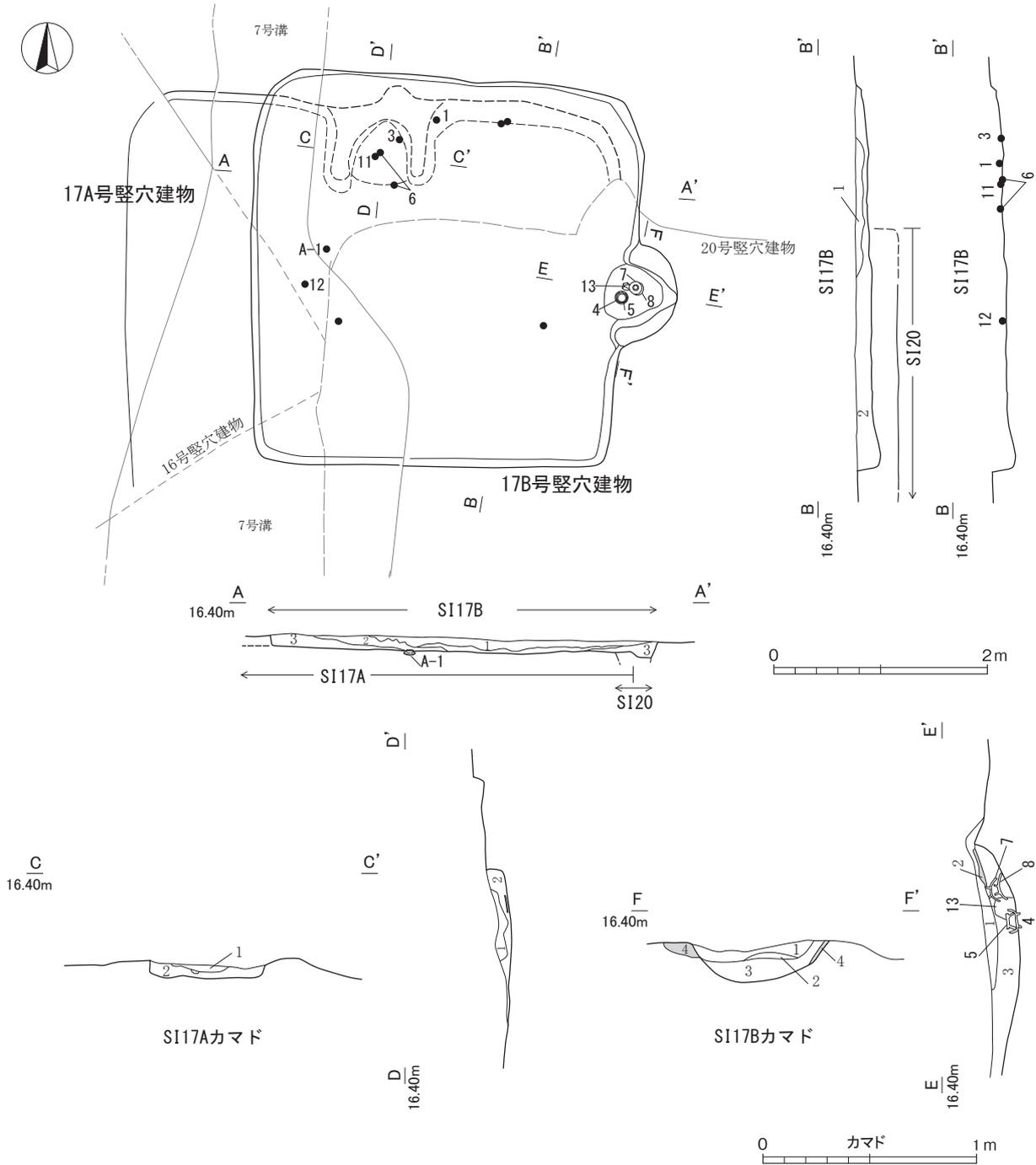
第44图 16号竖穴建物出土遺物(1)



第 45 図 16 号竖穴建物出土遺物 (2)



第 46 図 17A 号竖穴建物出土遺物



17B号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
3. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 縮りあり

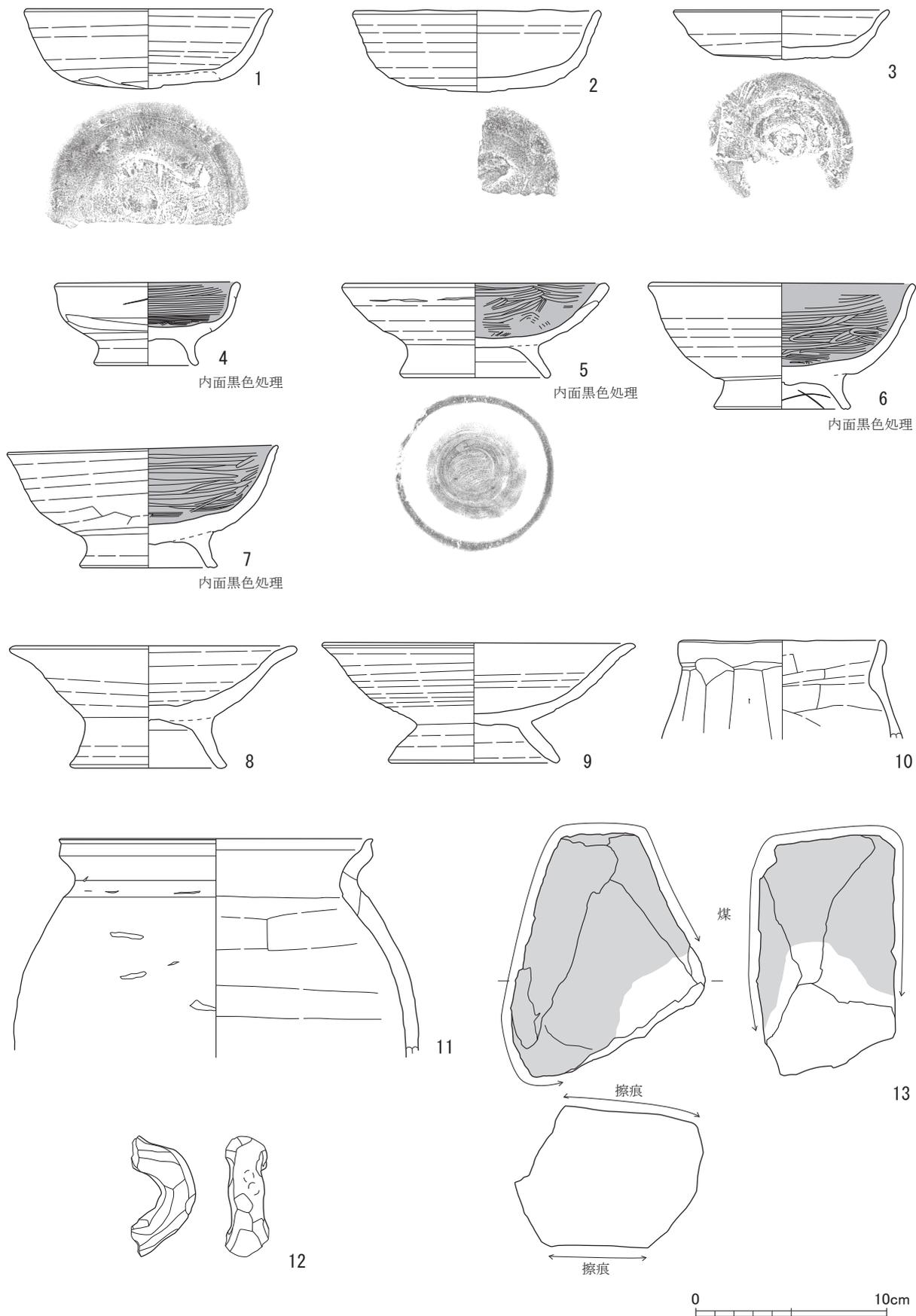
17A号竪穴建物カマド C-C' D-D'

1. 5YR5/3 にぶい赤褐色 粘土主体, 焼土粒少量, 粘性・縮りあり
2. 2.5YR4/6 黒褐色 焼土小・中ブロック主体, ガリガリとして縮りあり

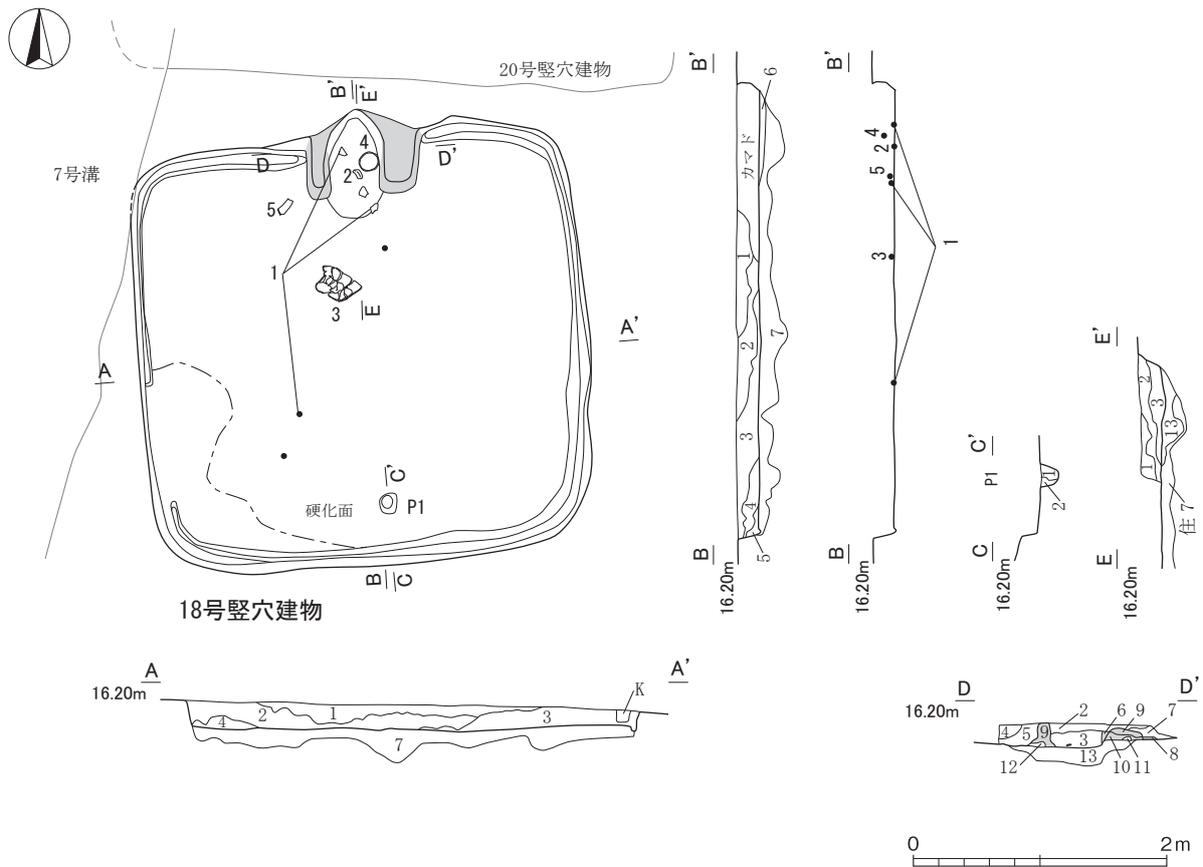
17B号竪穴建物カマド E-E' F-F'

1. 5YR4/3 にぶい赤褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
3. 7.5YR5/2 灰褐色 粘土小・中ブロック多量, 焼土粒中量, 粘性・縮りあり
4. 5YR5/6 明赤褐色 表面焼土化した粘土大ブロック層, 粘性・縮りあり

第47図 17A・17B号竪穴建物



第 48 图 17B 号竖穴建物出土遺物



18号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒中量, ローム土小ブロック少量, 締りあり, 人為堆積
2. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒多量, ローム土小ブロック中量, 締りあり, 人為堆積
3. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒多量, ローム土小ブロック中量, 黒色土小ブロック中量, 締りあり, 人為堆積
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム土小ブロック中量, 締りあり
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量, 軟らかい
6. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土粒, 焼土小ブロック多量, 軟らかい
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色 黒色土小ブロック中量, 締りあり

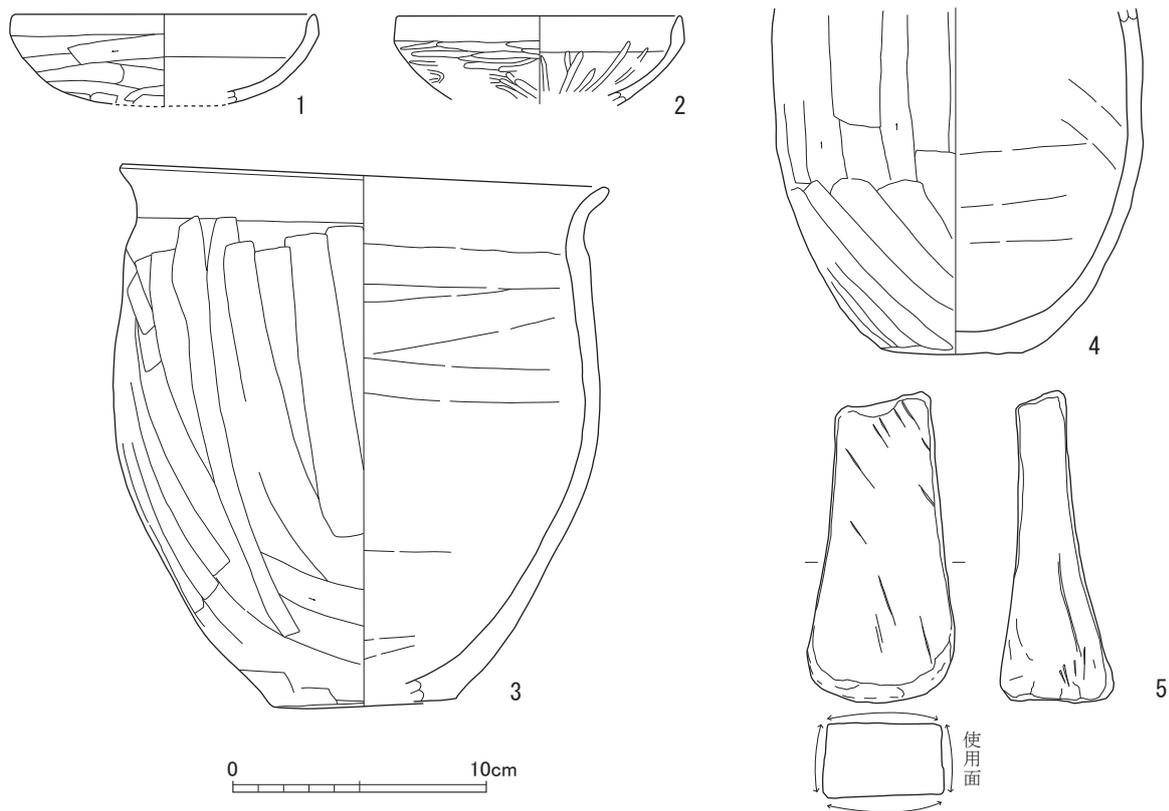
18号竪穴建物 P1 C-C'

1. 7.5YR5/2 灰褐色 ローム粒少量, 軟らかい
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色 ローム粒・ローム小ブロック多量, やや締りあり

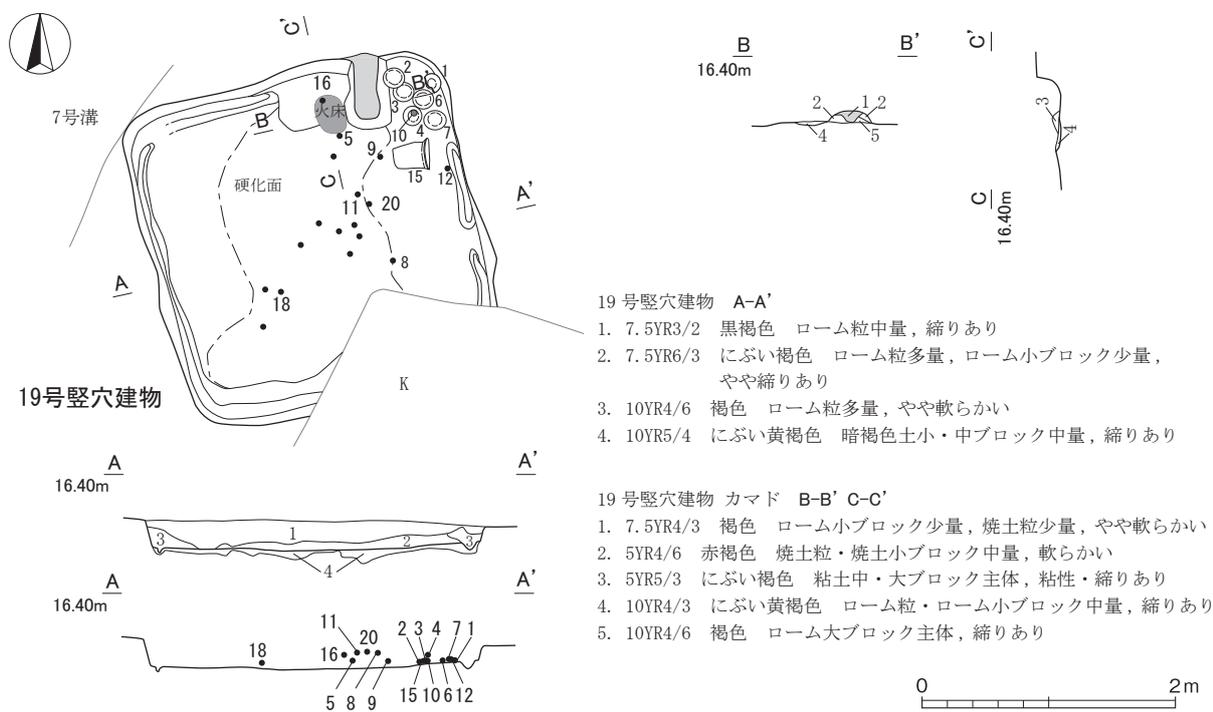
18号竪穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土粒・粘土小ブロック多量, 粘性・締りあり
2. 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土小・中ブロック多量, 粘土小・中ブロック多量, 締りあり
3. 5YR6/4 にぶい橙色 粘土中・大ブロック, 焼土小多量, 軟らかい
4. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム中ブロック少量, 黒褐色土小ブロック少量, 締りあり
5. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, 粘土中ブロック少量, 炭化物粒少量, 締りあり
6. 7.5YR5/3 にぶい褐色 焼土・焼土小ブロック中量, ガサガサと硬い
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色 焼土粒少量, ローム粒中量, 締りあり
8. 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少量, 軟らかい
9. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック層, 粘性・締りあり
10. 7.5YR5/3 暗褐色 焼土粒・焼土小ブロック中量, 硬い
11. 7.5YR3/1 黒褐色 炭化物粒多量, やや軟らかい
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック多量, 締りあり
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小～中ブロック主体, 締りあり

第49図 18号竪穴建物



第50図 18号竪穴建物出土遺物



19号竪穴建物

19号竪穴建物 A-A'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 縮りあり
2. 7.5YR6/3 にぶい褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, やや縮りあり
3. 10YR4/6 褐色 ローム粒多量, やや軟らかい
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色 暗褐色土小・中ブロック中量, 縮りあり

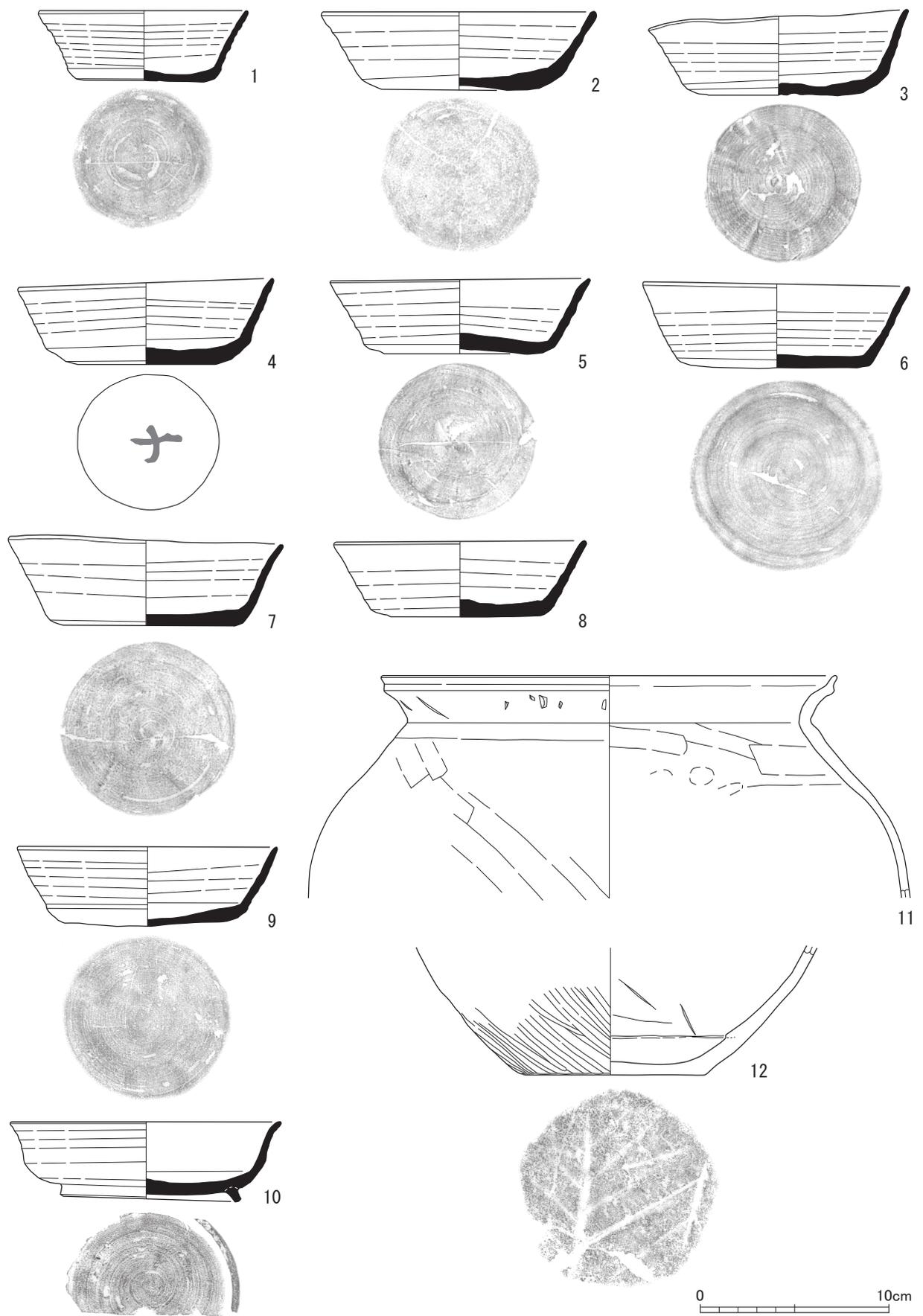
19号竪穴建物 カマド B-B' C-C'

1. 7.5YR4/3 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒少量, やや軟らかい
2. 5YR4/6 赤褐色 焼土粒・焼土小ブロック中量, 軟らかい
3. 5YR5/3 にぶい褐色 粘土中・大ブロック主体, 粘性・縮りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒・ローム小ブロック中量, 縮りあり
5. 10YR4/6 褐色 ローム大ブロック主体, 縮りあり

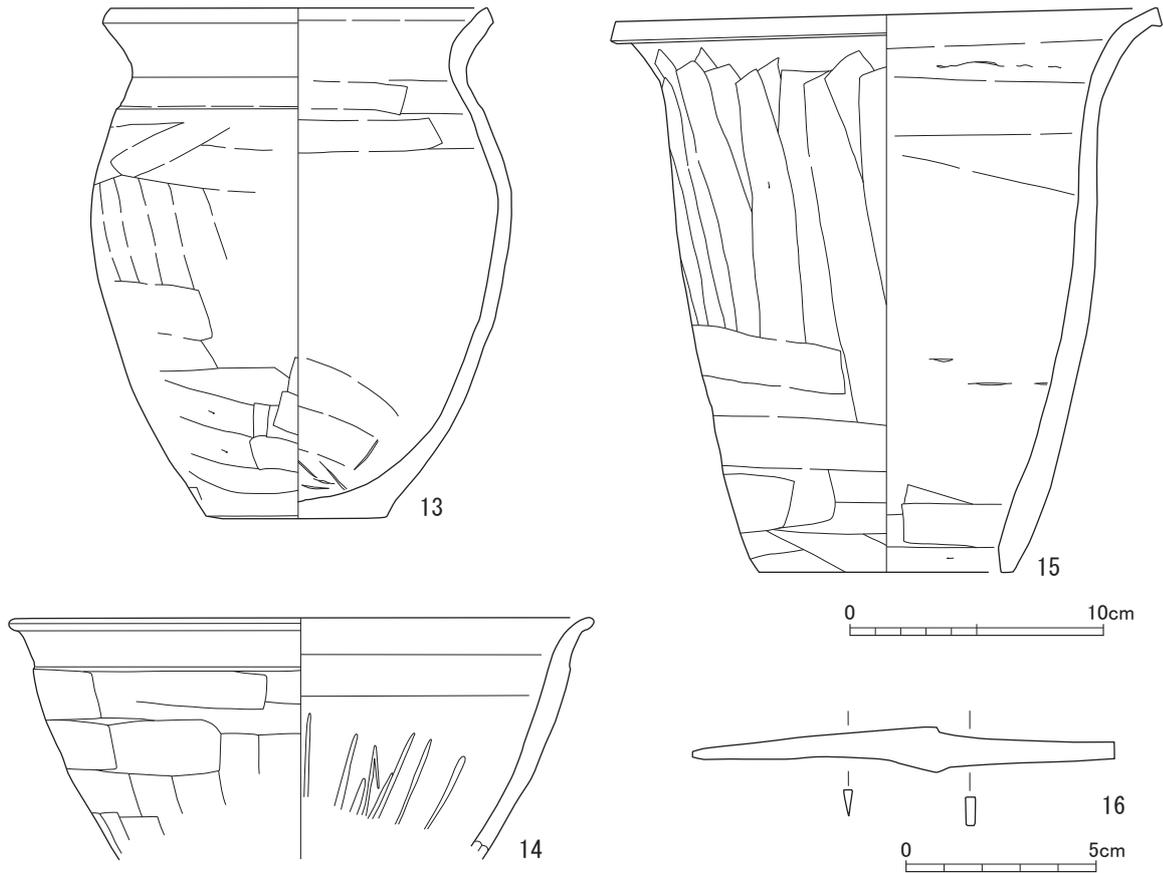
第51図 19号竪穴建物

18号竪穴建物 (第49・50図, 表10, 図版6・24)

**位置** 西調査区中央部E5グリッドを中心に位置する。**規模と平面形** 南北方向3.44m, 東西方向3.55mの方形。深さ0.18m。**主軸方向** N-11°-W。**覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含む灰黄褐色土を主体



第 52 図 19 号竪穴建物出土遺物 (1)

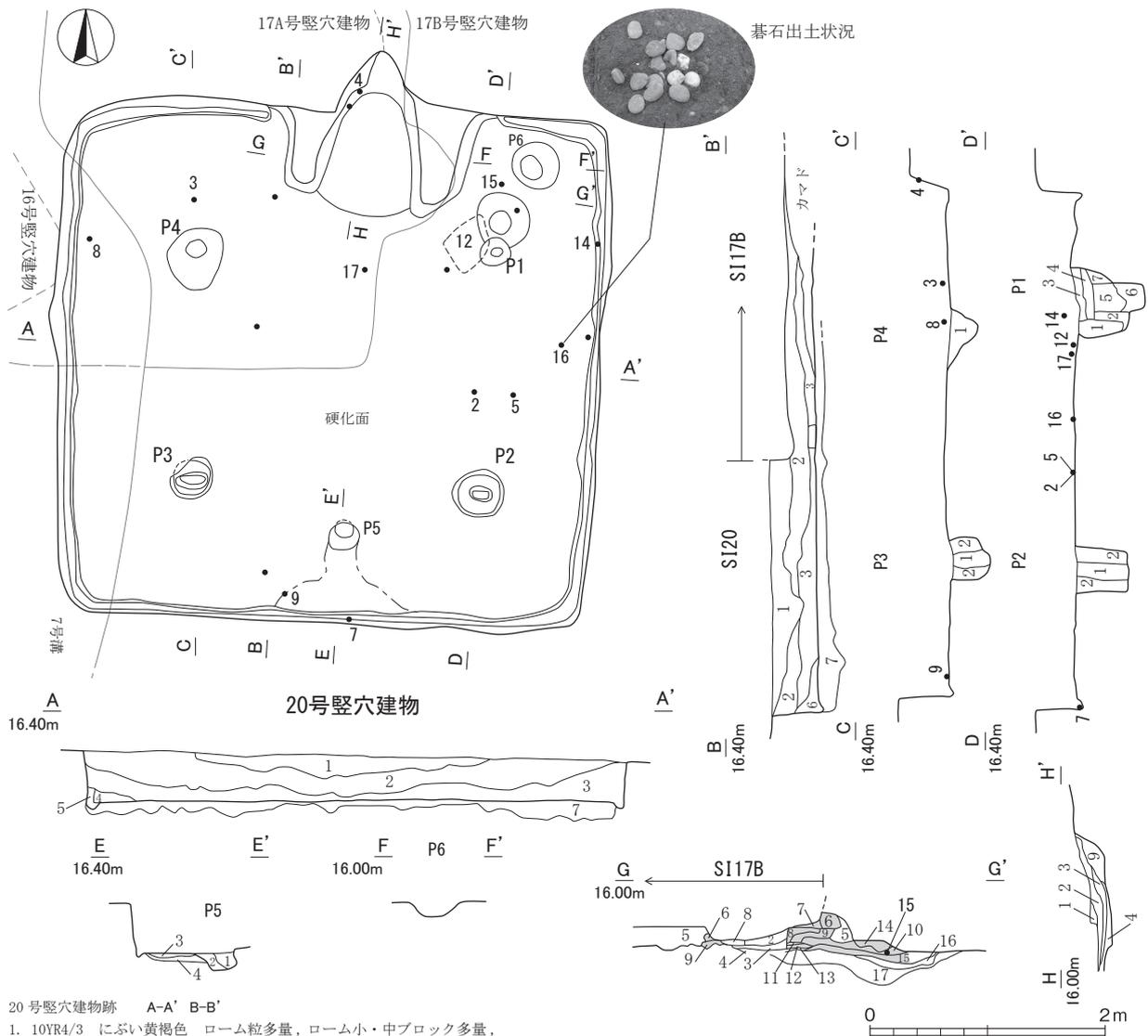


第 53 図 19 号竪穴建物出土遺物 (2)

とする人為的な堆積土と見られる。 **ピット** 柱穴は P1 が出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 0.90m, 燃焼室幅 0.39m, 燃焼室奥行き 0.78m である。 **床面** 南西隅部を除いて全体に硬化している。 **遺物** 土師器・石製品の砥石が出土している。 **所見** 土師器の坏・甕の形状は 6 世紀末～7 世紀始め頃のものかと思われる。

19 号竪穴建物跡 (第 51・52・53 図, 表 10, 図版 6・24・25)

**位置** 西調査区中央部 E4・E5・F4・F5 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 2.65m, 東西方向 2.58m の方形。深さ 0.23m。 **主軸方向** N-17° -W。 **覆土** 覆土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体としている。 **カマド** 北壁中央部にあり、左袖本体は失われているが、火床部と粘土を使用した右袖、左袖基部がかろうじて残存している。規模は幅 0.88m, 燃焼室幅 0.24m, 燃焼室奥行き 0.59m である。 **床面** カマドの前面から竪穴建物中央部と南西隅部にかけて硬化している。 **遺物** 土器・鉄製品が出土している。土器は須恵器の坏・高台付坏, 土師器の鉢・甕・甔, 鉄製品は刀子が出土している。須恵器の坏・高台付坏はカマドの右脇の竪穴建物北東隅の床上にまとまってそのまま置かれた状況で、さらにその南側には完形の甔が横転した状況で出土している。須恵器の坏は形態的には 8 世紀第 2～3 四半期頃のもので底部回転ヘラケズリのもので大半を占めている。有台坏が稜椀の形態である。 **所見** 遺構の時期は須恵器の坏の底部調整や須恵器の稜椀が 8 世紀第 2 四半期後半頃の生産品と見られていることなどから、8 世紀第 3 四半期でもあまり新しい時期ではないものと見られる。



20号竪穴建物跡 A-A' B-B'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小・中ブロック多量, 黒色土小ブロック少量, 締りあり
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 粘土小・中ブロック少量, 締りあり
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, 粘土小・中ブロック中量, 締りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, 粘土小・中ブロック多量, 締りあり
5. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
6. 10YR6/4 にぶい黄褐色 ローム大ブロック多量, ローム粒中量, 軟らかい
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体, 硬く締りあり

20号竪穴建物跡 P3 C-C'

1. 7.5YR2/1 黒色 黒色土大ブロック主体, ローム中ブロック中量, 軟らかい
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック多量, やや締りあり

20号竪穴建物跡 P4 C-C'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小〜中ブロック多量, 黒色土小ブロック中量, 軟らかい

20号竪穴建物跡 P1 D-D'

1. 10YR3/1 黒褐色 ローム粒主体, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒主体, ローム小ブロック多量, 締りあり
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム・粘土中・大ブロック多量, 硬く締りあり
4. 10YR3/3 暗褐色 ローム小・中ブロック中量, 締りあり
5. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, 軟らかい
6. 10YR3/2 黒褐色 ローム大ブロック中量, ローム粒多量, ローム小ブロック多量, 軟らかい
7. 10YR3/2 黒褐色 ローム小・中ブロック中量, やや軟らかい

20号竪穴建物跡 P2 D-D'

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック多量, 黒色土小ブロック中量, 締りあり

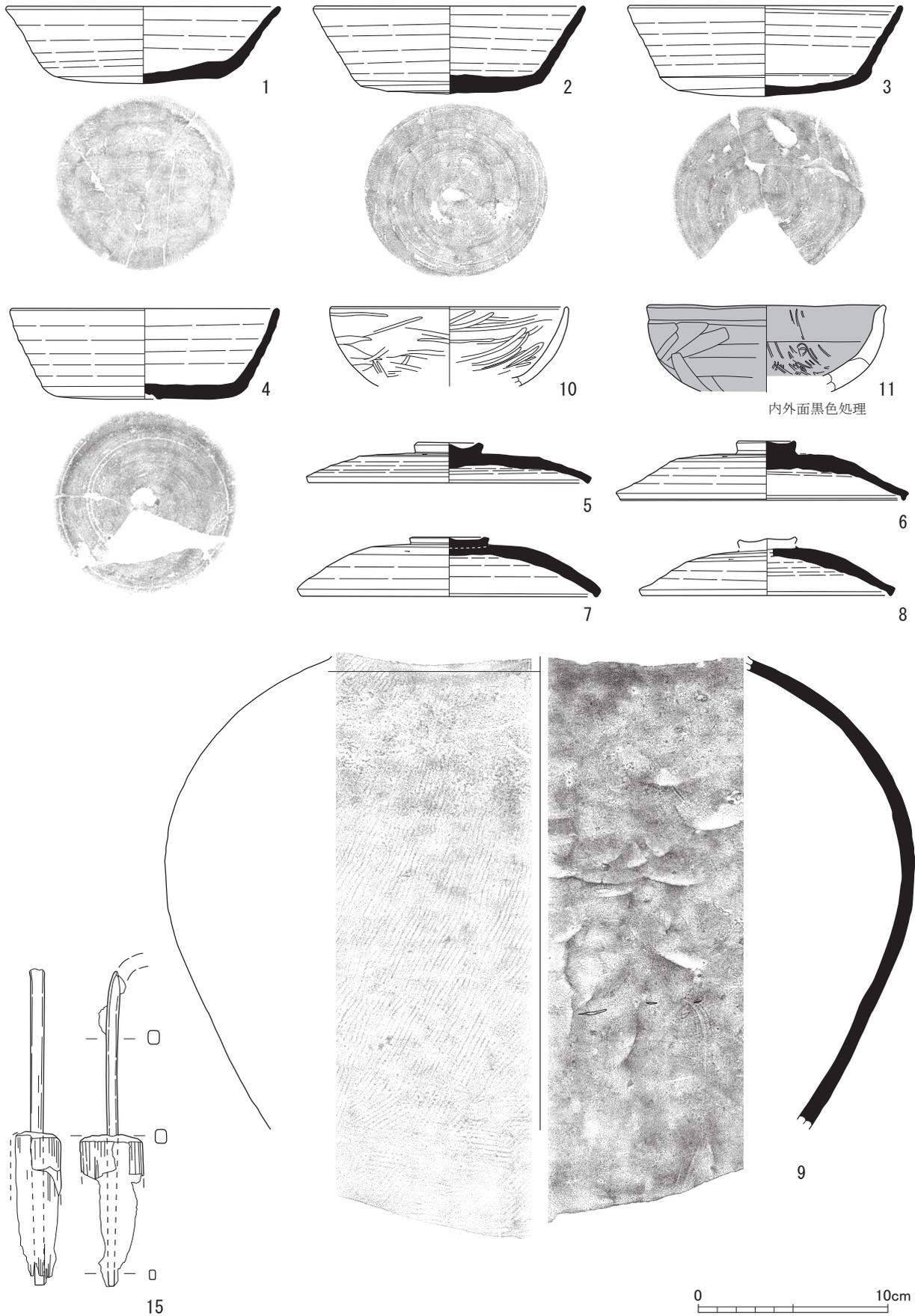
20号竪穴建物跡 P5 E-E'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, やや締りあり
3. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
4. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 締りあり

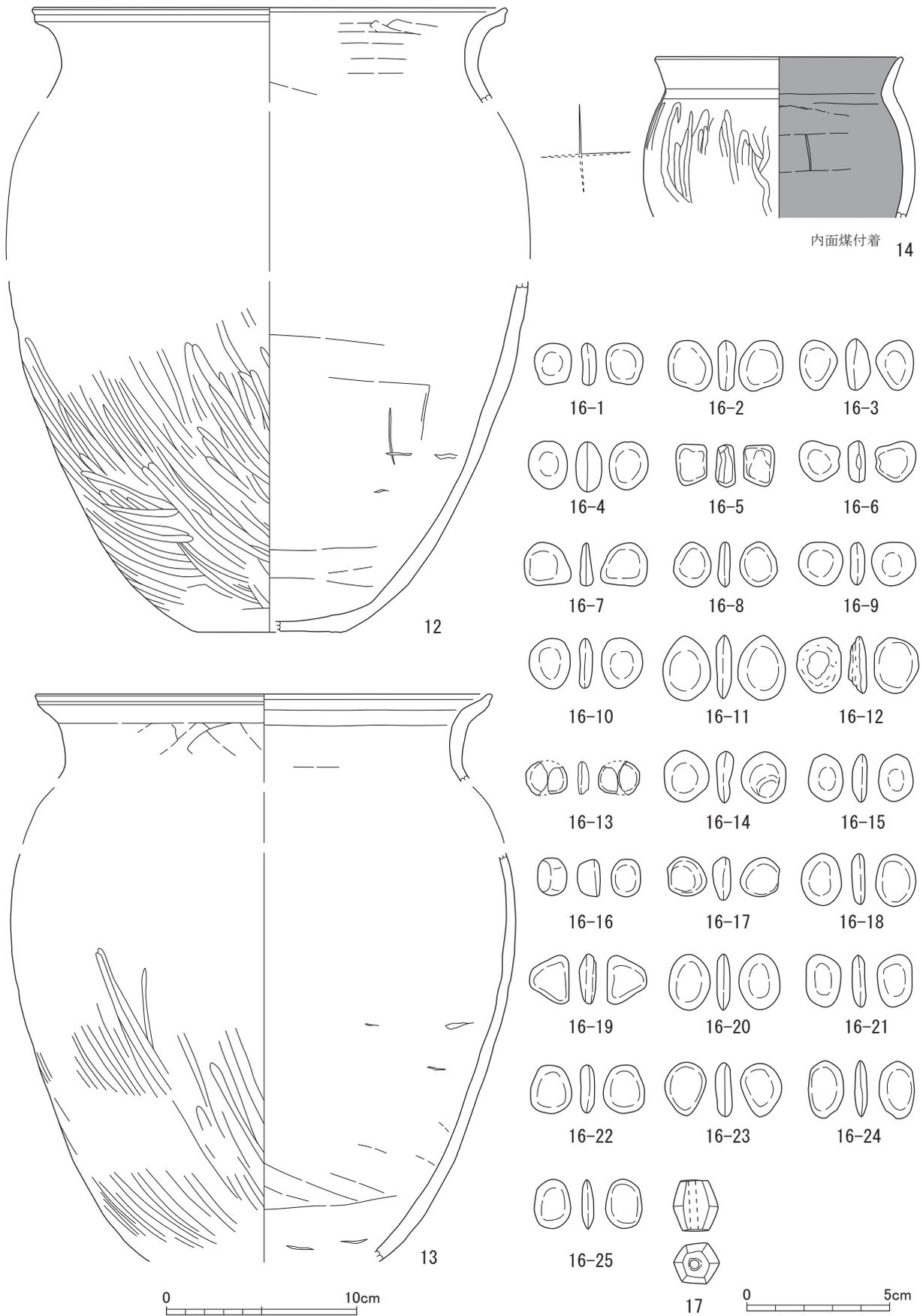
20号竪穴建物跡カマド G-G' H-H'

1. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土小・中ブロック主体, 締りあり
2. 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少量, 炭化物粒少量, 締りあり
3. 7.5YR7/3 にぶい橙色 粘土中ブロック主体, 粘性・締りあり
4. 7.5YR3/1 黒褐色 炭化物多量焼土粒少量, やや軟らかい
5. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土小・中ブロック少量, ローム粒中量, ローム大ブロック少量, 締りあり
6. 10YR6/5 にぶい黄褐色 黄褐色粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり
7. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土小ブロック・粘土粒多量, 締りあり
8. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土小ブロック多量, 焼土小ブロック中量, 締りあり
9. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土小ブロック多量, 締りあり
10. 10YR5/2 灰褐色 粘土粒中量, 粘土小ブロック中量, 黒色土少ブロック少量, 締りあり
11. 7.5YR3/1 黒褐色 炭化物粒多量, 焼土粒少量, やや軟らかい
12. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土小ブロック多量, 締りあり
13. 7.5YR3/1 黒褐色 炭化物粒多量, 焼土粒少量, やや軟らかい
14. 10YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック多量, 締りあり
15. 10YR5/2 灰褐色 粘土小・中ブロック中量・ローム小ブロック多量, 締りあり
16. 7.5YR2/1 黒色 炭化物粒多量, 粘土小ブロック少量, ローム中ブロック少量, 軟らかい
17. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム小〜大ブロック多量, 黒褐色土小〜大ブロック多量, 締りあり

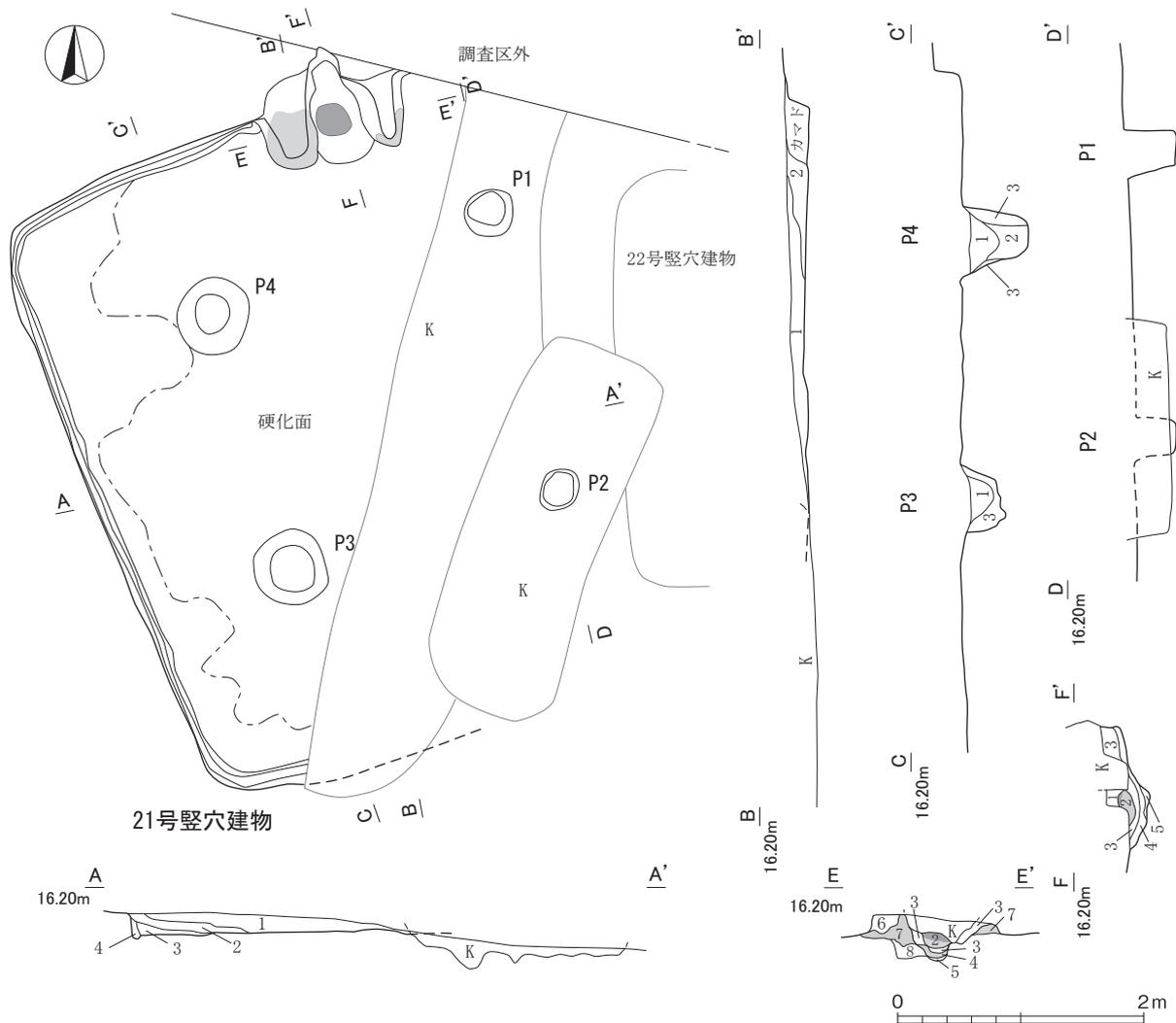
第54図 20号竪穴建物



第 55 图 20 号竖穴建物出土遺物 (1)



第 56 図 20 号竪穴建物出土遺物 (2)



21号堅穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや締りあり
2. 10YR4/3 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, やや締りあり
3. 10YR2/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, やや締りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, 軟らかい

21号堅穴建物 P3, P4 C-C'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, ローム小・中ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR4/4 褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック多量, 軟らかい
3. 10YR4/4 褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック多量, 締りあり

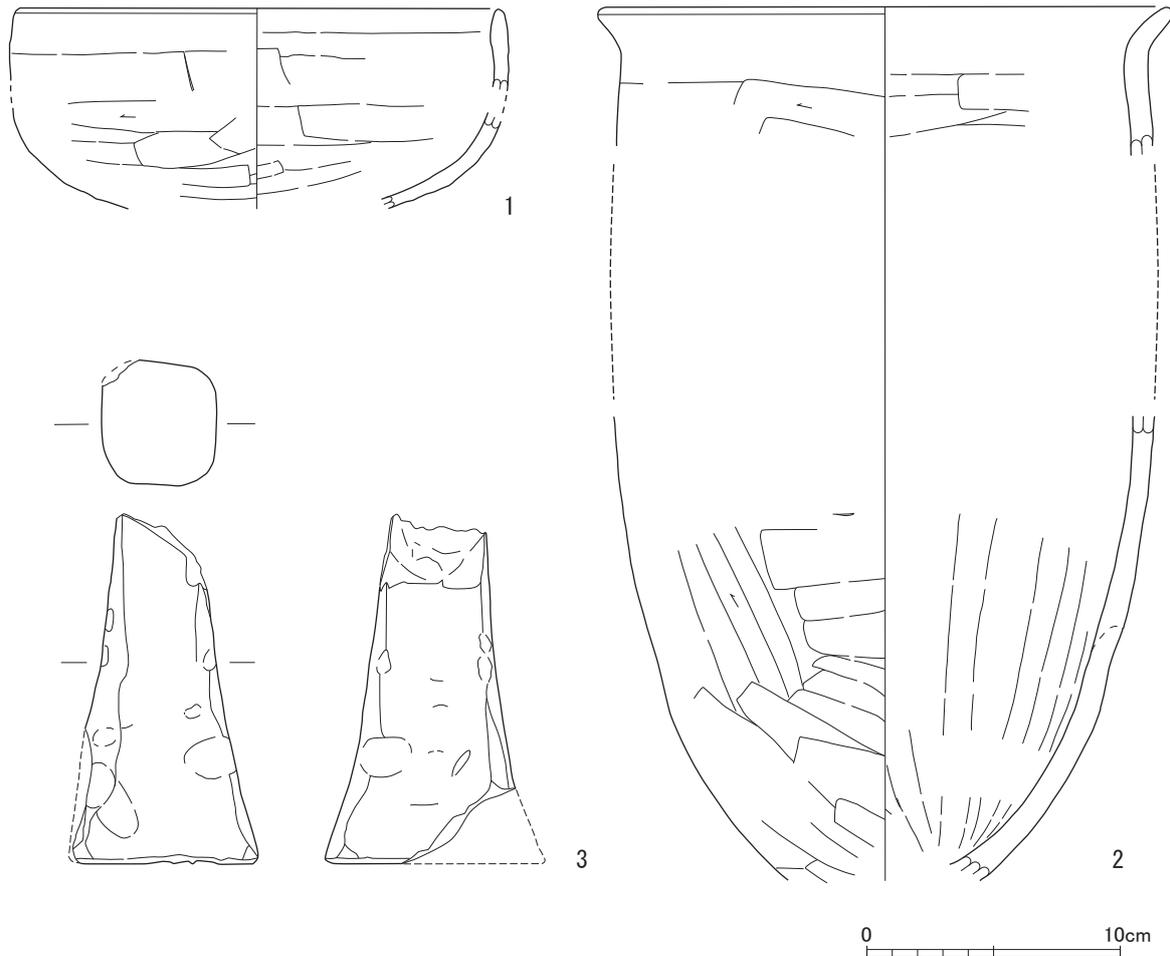
21号堅穴建物 カマド E-E' F-F'

1. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土小・中ブロック中量, 粘性・締りあり
2. 5YR5/3 にぶい赤褐色 やや焼土化した粘土大ブロック, 粘性・締りあり
3. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック多量, 粘性・締りあり
4. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土小ブロック少量, 焼土粒少量, 炭化物・灰中量, やや軟らかい
5. 7.5YR4/3 褐色 粘土小・中ブロック中量, 締りあり
6. 5YR5/3 にぶい赤褐色 やや焼土化した粘土大ブロック, 粘性・締りあり
7. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック多量, 粘性・締りあり

第57図 21号堅穴建物

20号堅穴建物 (第54・55・56図, 表10・11, 図版6・7・25・26)

**位置** 西調査区中央部 E5 グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向 4.41m, 東西方向 4.63m の方形。深さ 0.41m。主軸方向 N-1°-E。**覆土** 覆土は下層に粘土が多く, 中層は黒褐色土, 上層はロームの小・中ブロックを多く含んだ人為的な堆積土層と見られる。**ピット** 主柱穴は P1~P4 で, P5 は出入り口に関係する穴と見られる。P6 は堅穴の隅にあり深さ 11 cm 程のくぼみ穴である。P1 の底面に柱の据替の跡が見られる。**カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅 1.54m, 燃烧室幅 0.70m, 燃烧室奥行き 1.06m である。**床面** P5 の南側を除いて全体に硬化している。**遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。土器は須恵器の坏・蓋・甕, 土師器の坏・甕, 鉄製品はクルル鉤が出土している。須恵器の坏は 8 世紀第 2~3 四半期のものである。石製品は

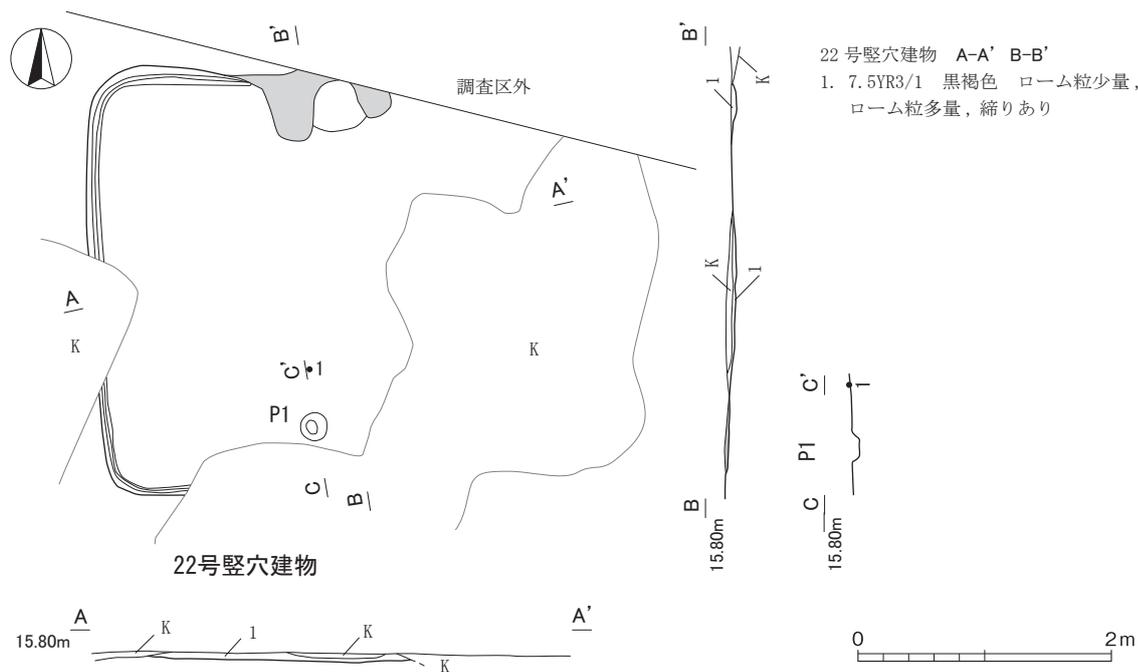


第 58 図 21 号竪穴建物出土遺物

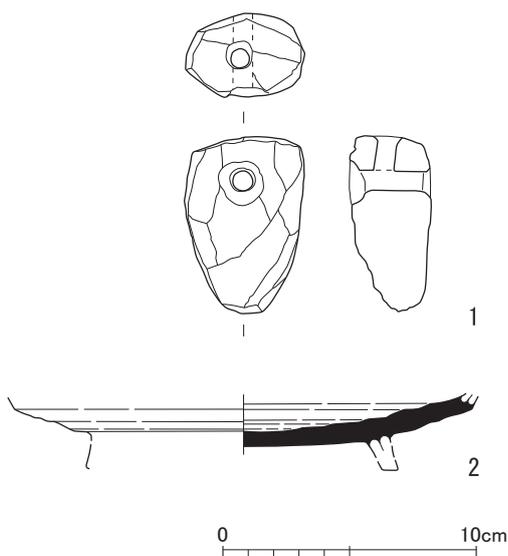
水晶製切子玉 1 点と扁平で小型の自然石 25 点が出土している。扁平な小型自然石は黒色を主体として白色・灰色・赤色等があり大きさや形状から基石を想起させる。これには当時流行している盤双六の駒の可能性も否定できないが、ここでは基石と呼ぶ。基石は床面近くから拳大程の範囲で上下にも重なるようにまとまって出土している。(第 54 図-16) 切子玉はカマドの前面の床上からわずかに浮いて出土している。クルル鉤と見られる把手のついた鉄製品はカマドの崩壊土の下から出土している。 **所見** 切子玉の出土状況は切子玉と床面の間にカマド粘土の流失土が 1～2 cm 堆積しており、建物廃絶→カマドの崩壊流失→切子玉堆積という順番で、竪穴建物廃絶後に一定の時間があってから切子玉がカマドの前に置かれたのか、あるいは切子玉は紐に通して吊るされる形の通常の使用法と思われるので、竪穴廃絶の儀礼において木の枝かなにかにかけられて吊るされた切子玉が一定時間を置いて落下したのではないかと想像される。基石は袋状のものに入れられて床面に残されたものかと思われる。時期は 8 世紀中葉と見られる。

21 号竪穴建物 (第 57・58 図, 表 12, 図版 7・26)

**位置** 西調査区中央部 D5 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 5.20m, 東西方向 4.5m 以上。深さ 0.20m。 **主軸方向** N—22° —W。 **覆土** 残存する覆土は薄く, ロームを少量含んだ暗褐色土が堆積している。 **ピット** 支柱穴は P1～P4 である。 **カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅 1.29m, 燃烧室幅 0.41m, 燃烧室奥行き 0.80m である。 **床面** 西壁寄りを除いて全体に硬化している。 **遺物** 土師器の鉢と甕, 土製の支脚が出土している。 **所見** 土師器の鉢・甕は 6 世紀末～7 世紀始め頃のものと思われる。



第 59 図 22 号竪穴建物



第 60 図 22 号竪穴建物出土遺物

22 号竪穴建物 (第 59・60 図, 表 12, 図版 7・26)

**位置** 西調査区中央部 D5・D6 グリッドに位置する。

**規模と平面形** 南北方向 3.43m, 東西方向 3.72m 以上。

深さ 0.05m。 **主軸方向** N-3°-W。 **覆土** 残存

する覆土が薄く, ロームを少量含んだ黒褐色土が堆積し

ている。 **ピット** P1 は出入り口に関する穴と見ら

れる **カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅 0.97m, 燃

焼室幅 0.38m, 燃烧室奥行き 0.45m である。 **床面** 耕

作等の攪乱によって硬化面が捉えにくかった。 **遺物**

須恵器の盤と軽石製の浮きが出土している。 **所見** 須

恵器の盤は 8 世紀の後半頃のものと思われる。

24 号竪穴建物 (第 61・63 図, 表 12, 図版 7・27)

**位置** 西調査区中央部 D6 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 4.24m, 東西方向 3.5m 以上。深さ

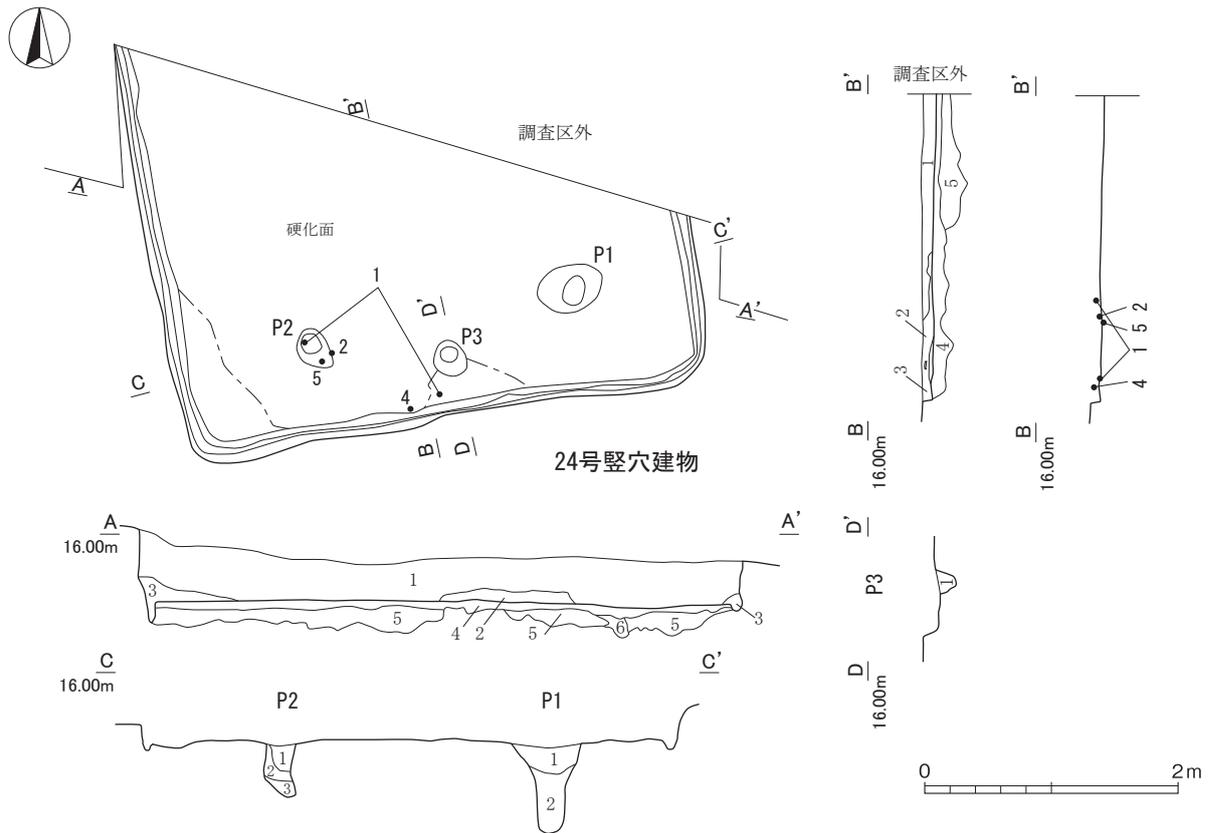
0.56m。 **主軸方向** N-12°-W。 **覆土** 覆土はローム粒の含有の多い黒褐色土が堆積している。 **ピット**

支柱穴は P1~P2 で, P3 は出入り口に関する穴と見られる。 **カマド** 調査区外にあったと思われるが, 現

在は削平されて存在していない。 **床面** P3 の南側と南西隅部を除いて硬化している。 **遺物** 須恵器の坏・

高台付坏・蓋が P2 付近や P3 付近の覆土下層から出土している。 **所見** 須恵器の坏は 8 世紀第 3 四半期頃のもの

と見られる。



24号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 焼土粒少量, 軟らかい
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック中量, やや軟らかい
3. 7.5YR5/2 灰褐色 粘土中ブロック主体, 粘性・締りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック多量, 黒褐色土小ブロック少量, 硬く締りあり
5. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 締りあり
6. 10YR3/4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 軟らかい

24号竪穴建物 P1 C-C'

1. 7.5YR2/1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, やや締りあり
2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・ローム小ブロック中量, 軟らかい

24号竪穴建物 P2 C-C'

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 軟らかい
3. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい

24号竪穴建物 P3 D-D'

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・ローム小ブロック中量, 軟らかい

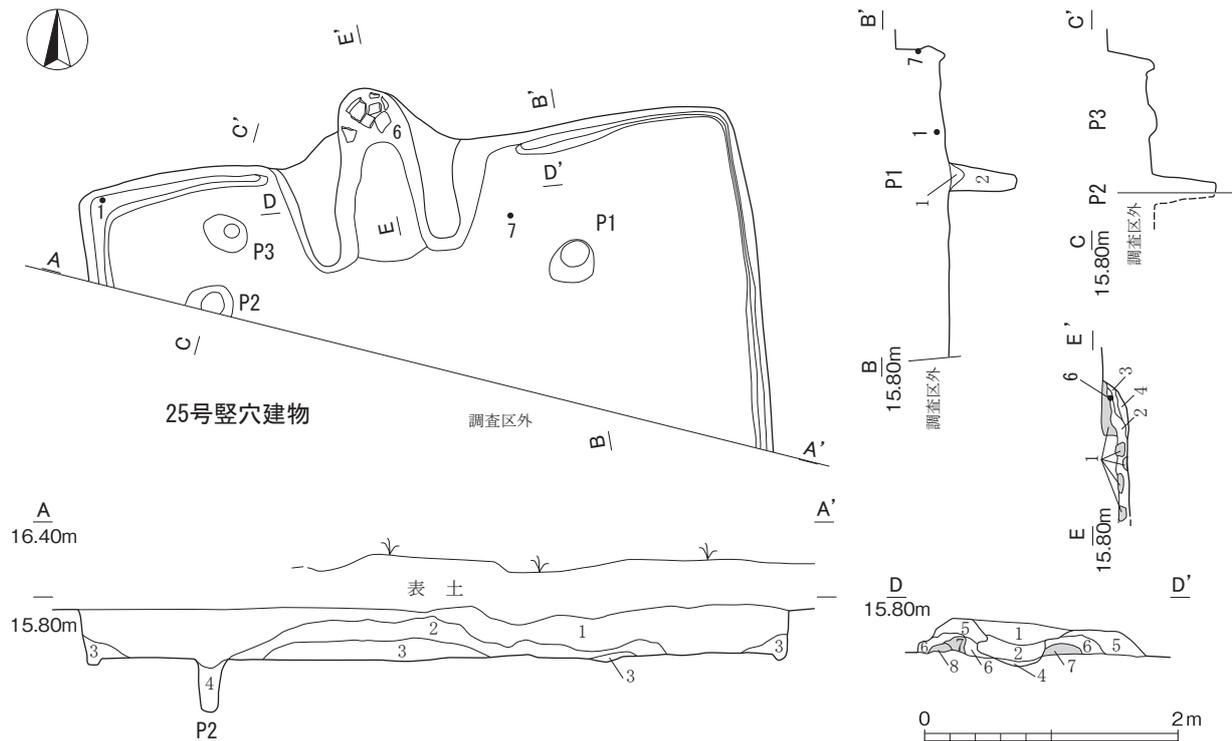
第61図 24号竪穴建物

25号竪穴建物 (第62・64図, 表12, 図版8・27)

**位置** 西調査区中央部 G5・G6 グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向 2.80m 以上, 東西方向 5.24m。深さ 0.39m。**主軸方向** N-8°-W。**覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを多く含んだ暗褐色土を主体としている。**ピット** 主柱穴は P1・2 で P3 は深さ 4 cm 程の浅いくぼみ穴である。**カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅 1.60m, 燃焼室幅 0.46m, 燃焼室奥行き 0.95m である。**床面** 全体に硬化している。**遺物** 土師器・鉄製品が出土している。土師器は丸底器形の坏で半球形のものや体部と口縁部の境に稜をもつ内外面黒色処理の坏が出土している。土師器の甕は長胴甕で, 7 は甑の上半部になると思われる。鉄製品は鎌で先端部が欠損している。**所見** 土師器の長胴甕 6 の器形は栃木県上三川町の薄市遺跡 K-54 住居跡出土のもの(築木・田熊 1989) に似ており, 7 世紀中葉頃に位置付けられている。

26号竪穴建物跡 (第65・68図, 表12, 図版8・27)

**位置** 西調査区中央部 G6・G7 グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向 3.36m, 東西方向 3.56m の僅か



25号堅穴建物 A-A'

1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、やや締りあり
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、やや締りあり
3. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多中量、ローム小ブロック少量、やや締りあり
4. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、軟らかい

25号堅穴建物 P1 B-B'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 軟らかい
2. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、軟らかい

25号堅穴建物 カマド D-D' E-E'

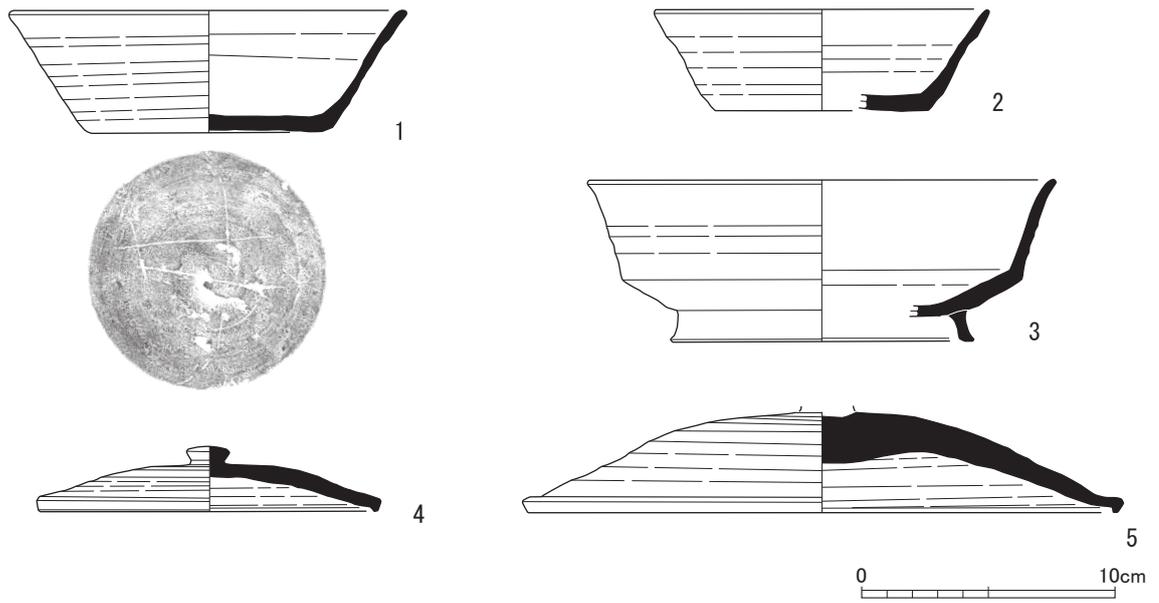
1. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土主体、粘性・締りあり
2. 10YR4/2 灰褐色 粘土粒中量、ローム粒少量、軟らかい
3. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土粒・焼土小ブロック多量、軟らかい
4. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土粒・焼土小ブロック少量、炭化物・灰中量、軟らかい
5. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土ブロック主体、粘性・締りあり
6. 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土小・中ブロック多量、粘土小ブロック少量、締りあり
7. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土大ブロック主体、粘性・締りあり
8. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土大ブロック多量、焼土小ブロック少量、粘性・締りあり

第62図 25号堅穴建物

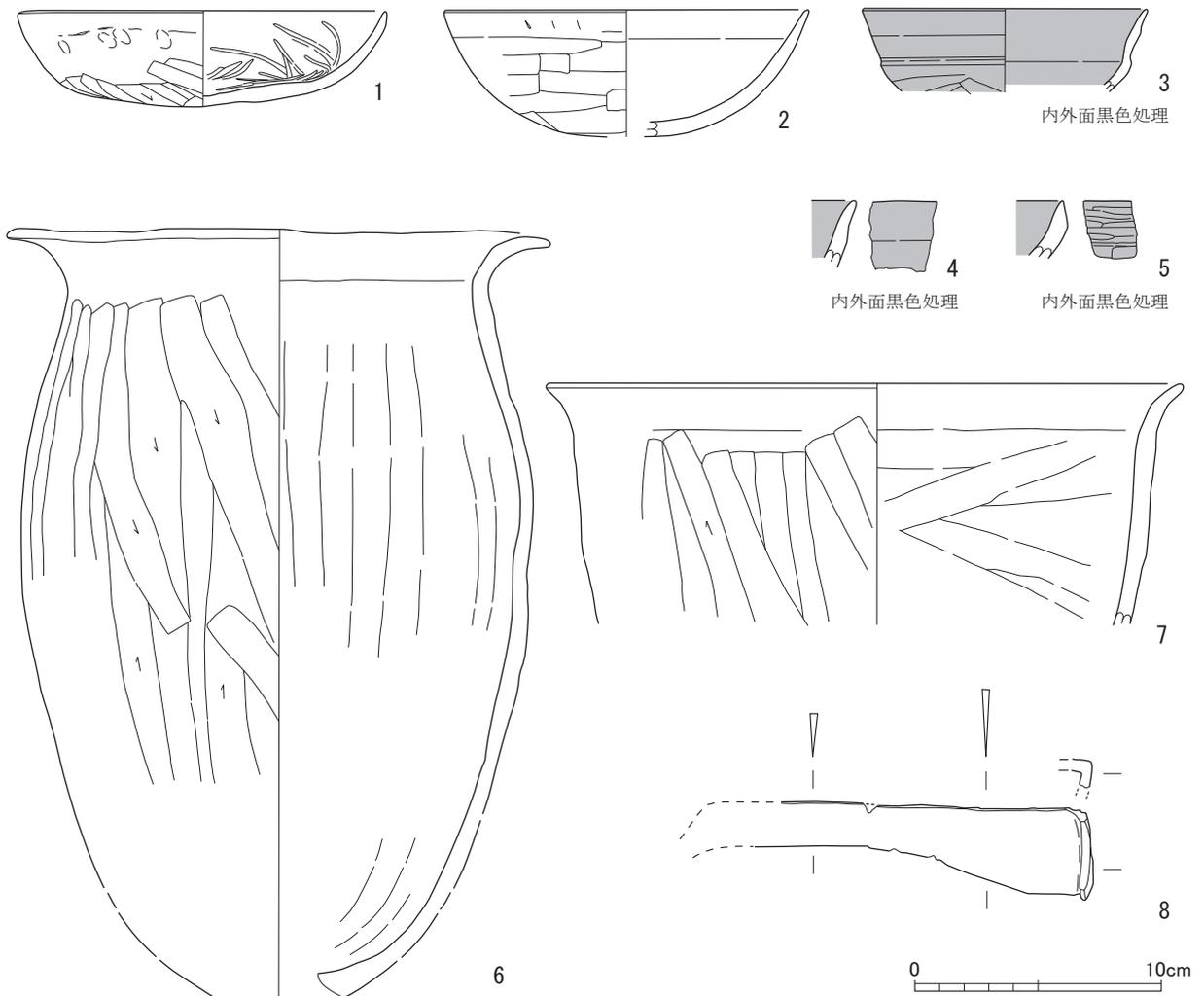
に東西方向に長い方形。 **主軸方向** N-8°-W。 **覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを多く含んだ暗褐色土を主体としている **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 1.31m、燃焼室幅 0.34m、燃焼室奥行き 0.44m である。 **床面** 壁際を除いた堅穴中央部が硬化している。 **遺物** 須恵器の坏と瓦小片が出土している。須恵器坏は 8 世紀第 2～3 四半期の器形である。二次底部面が浅く、底部調整が回転ヘラ切後ナゲ調整であり新しい傾向と見て 8 世紀第 3 四半期頃のものと思われる。 **所見** 主柱穴をもたない小型の堅穴建物で 8 世紀第 4 四半期には廃絶している堅穴建物である。

27号堅穴建物 (第66・68図, 表12, 図版8・27)

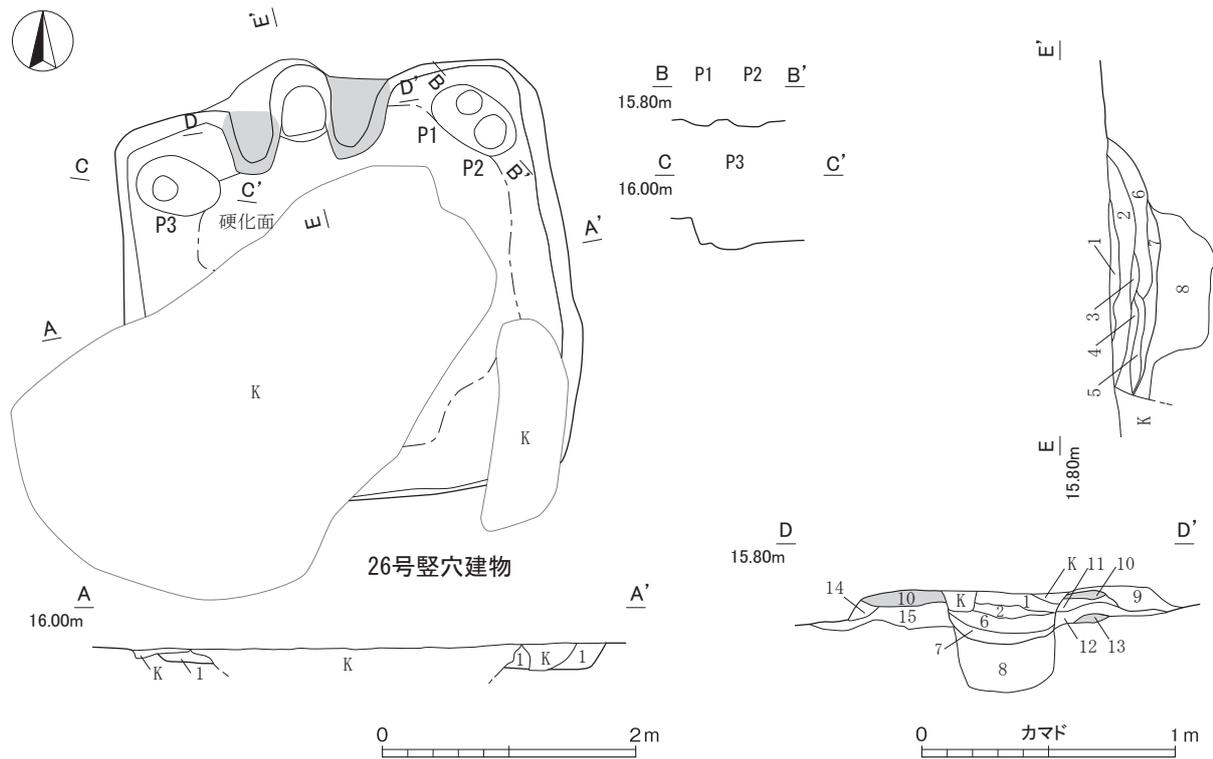
**位置** 西調査区中央部 F 7 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 3.23m、東西方向 3.26m の方形。深さ 0.12m。 **主軸方向** N-10°-W。 **覆土** 覆土はローム小ブロックをやや多く含んだ暗褐色土を主体としている。 **カマド** 北壁東端にあり、規模は幅 1.15m、燃焼室幅 0.47m、燃焼室奥行き 0.59m である。 **床面** カマド前面から堅穴建物中央部やや東寄りにかけて硬化している。 **遺物** ほとんど遺物が出土していない。1 は不明鉄製品で、鉄鏃の頸部か紡錘車の芯などのようなものであろうか。 **所見** 小型の堅穴建物でカマドの位置が堅穴建物の隅によっており、一般的には 9 世紀後半以降の時期になるものと思われる。



第 63 图 24 号竖穴建物出土遺物



第 64 图 25 号竖穴建物出土遺物



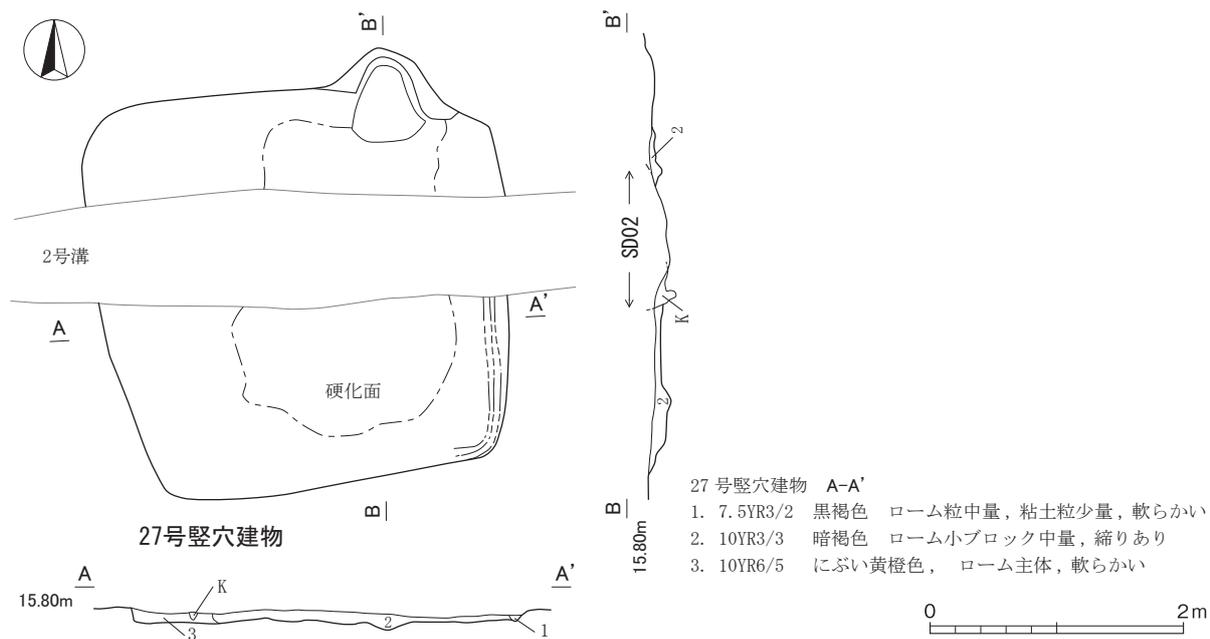
26号竪穴建物 A-A'

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 縮りあり

26号竪穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 7.5YR7/2 明褐色 粘土小・中ブロック主体, 粘性・縮りあり
2. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土小ブロック中量, 粘性・縮りあり
3. 5YR3/2 暗赤褐色 炭化物粒含む灰層, 焼土粒少量, 軟らかい
4. 7.5YR5/4 にぶい褐色 ローム小・中ブロック主体, 非常に縮りあり
5. 10YR4/4 褐色 ローム小中ブロック多量, 縮りあり
6. 5YR3/2 暗赤褐色 粘土中ブロック多量, 粘性・縮りあり
7. 10YR3/3 暗褐色 粘土小ブロック少量, ローム小・中ブロック少量, 軟らかい
8. 10YR4/6 褐色 ローム小中ブロック多量, 縮りあり
9. 10YR3/1 黒褐色 ローム粒中量, 粘土粒少量, 硬く縮りあり
10. 7.5YR7/2 明褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
11. 7.5YR5/2 灰褐色 粘土小ブロック中量, 粘性・縮りあり
12. 7.5YR3/1 黒褐色 粘土粒少量, 焼土粒少量, 粘性・縮りあり
13. 7.5YR7/2 明褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
14. 10YR6/4 にぶい橙色 ローム小・中ブロック主体, 縮りあり
15. 5YR3/4 暗赤褐色 粘土中ブロック中量, 粘土小ブロック少量, 縮りあり

第65図 26号竪穴建物

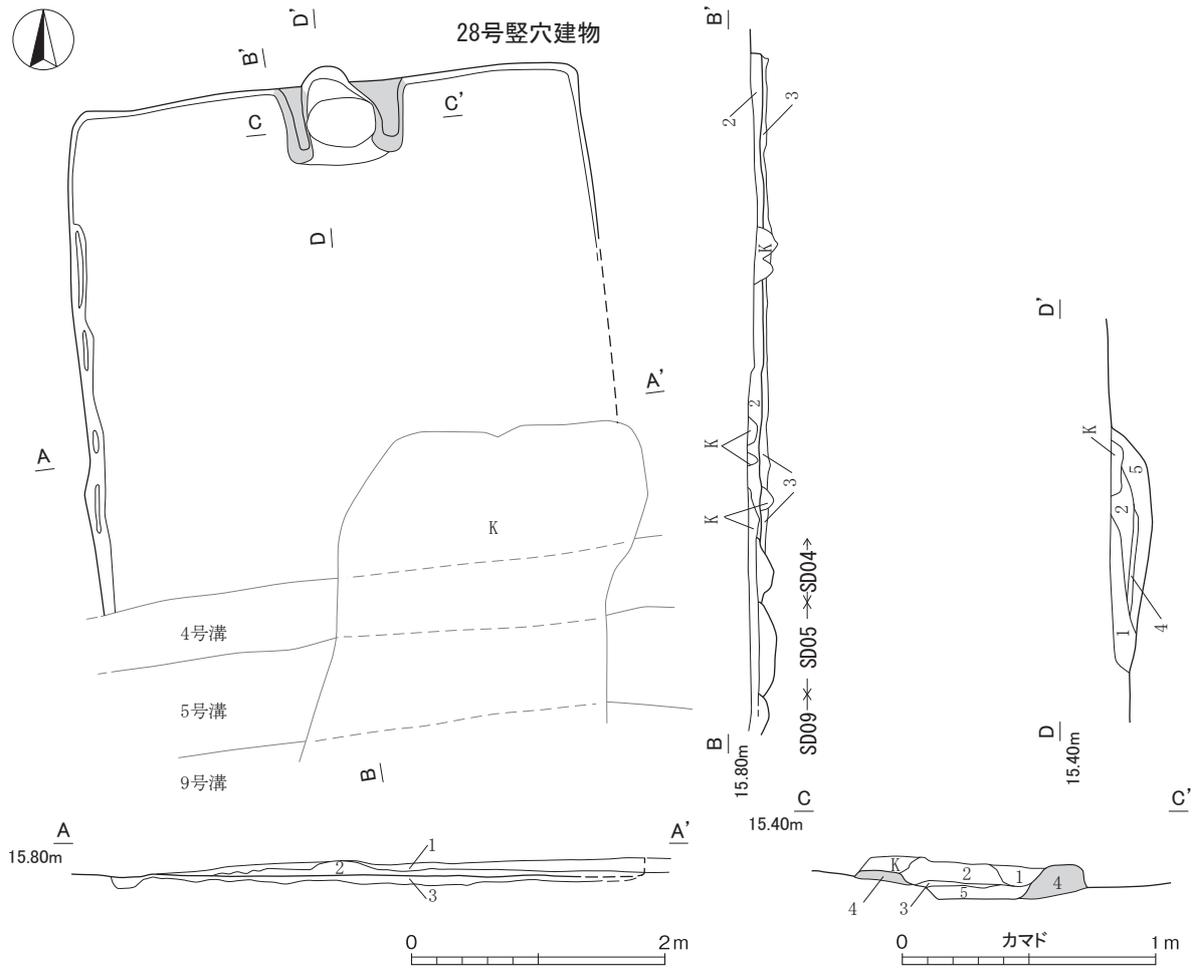


27号竪穴建物

27号竪穴建物 A-A'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 粘土粒少量, 軟らかい
2. 10YR3/3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 縮りあり
3. 10YR6/5 にぶい黄橙色, ローム主体, 軟らかい

第66図 27号竪穴建物



28号竖穴建物 A-A' B-B'

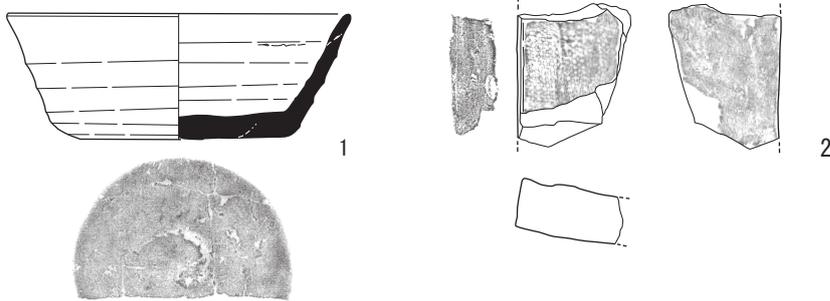
1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 締りあり
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中量, 粘土粒中量, 締りあり
3. 10YR6/5 にぶい黄橙色 ローム主体, 軟らかい

28号竖穴建物 カマド C-C' D-D'

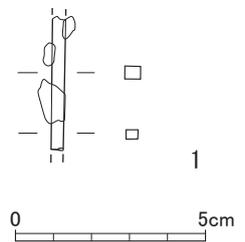
1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 締りあり
2. 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土中ブロック主体, 締りあり
3. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土粒中量, 締りあり
4. 7.5YR3/1 黒褐色 粘土主体, 締りあり
5. 7.5YR4/2 灰褐色 炭化物・灰多量, 軟らかい

第67図 28号竖穴建物

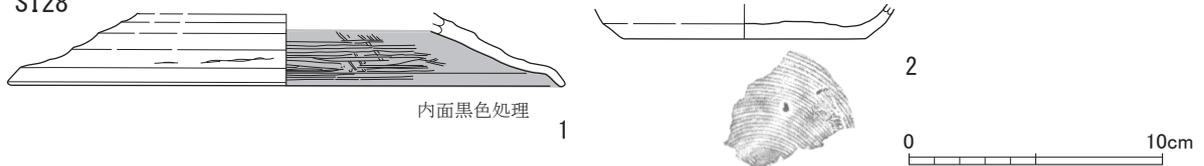
SI26



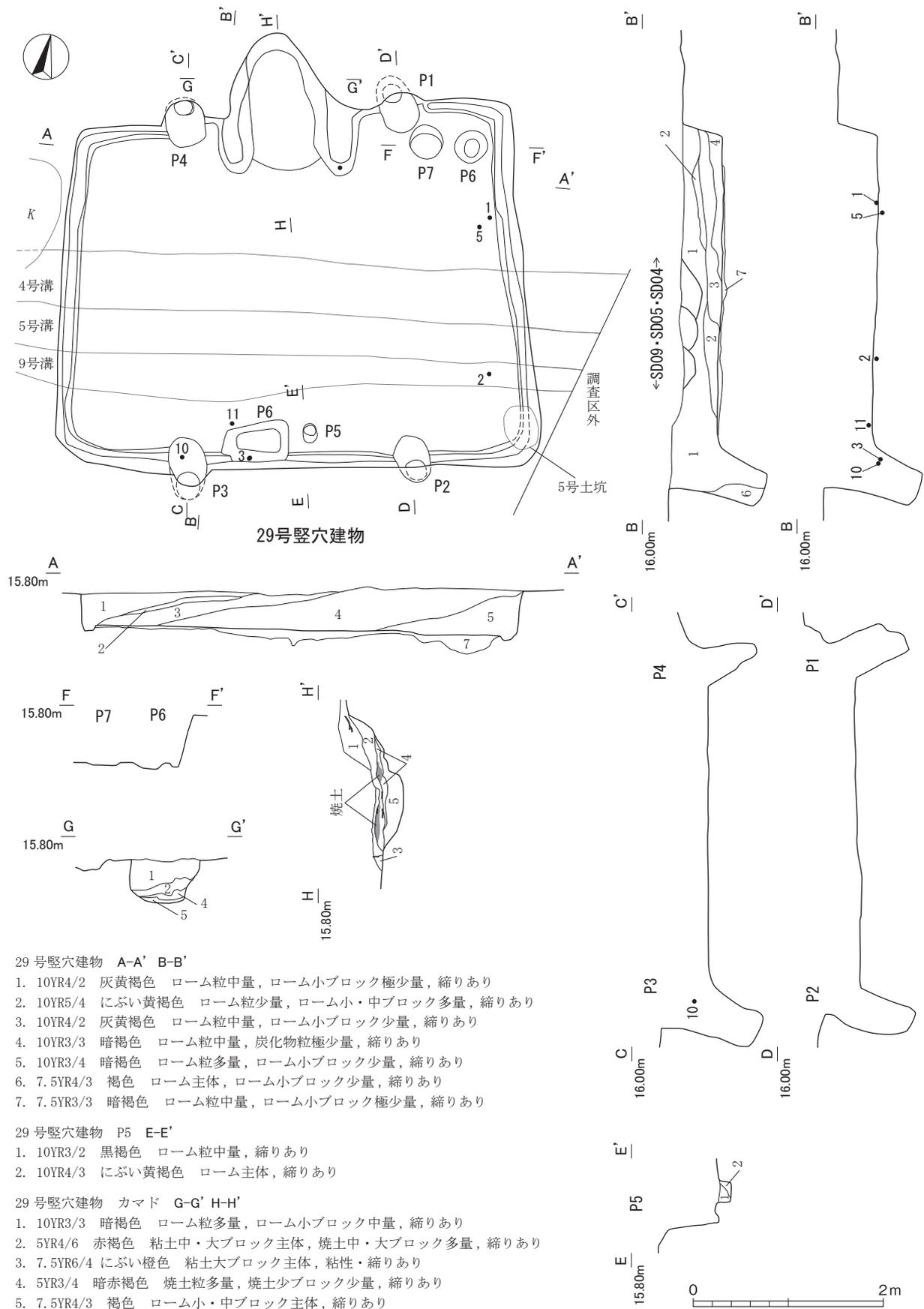
SI27



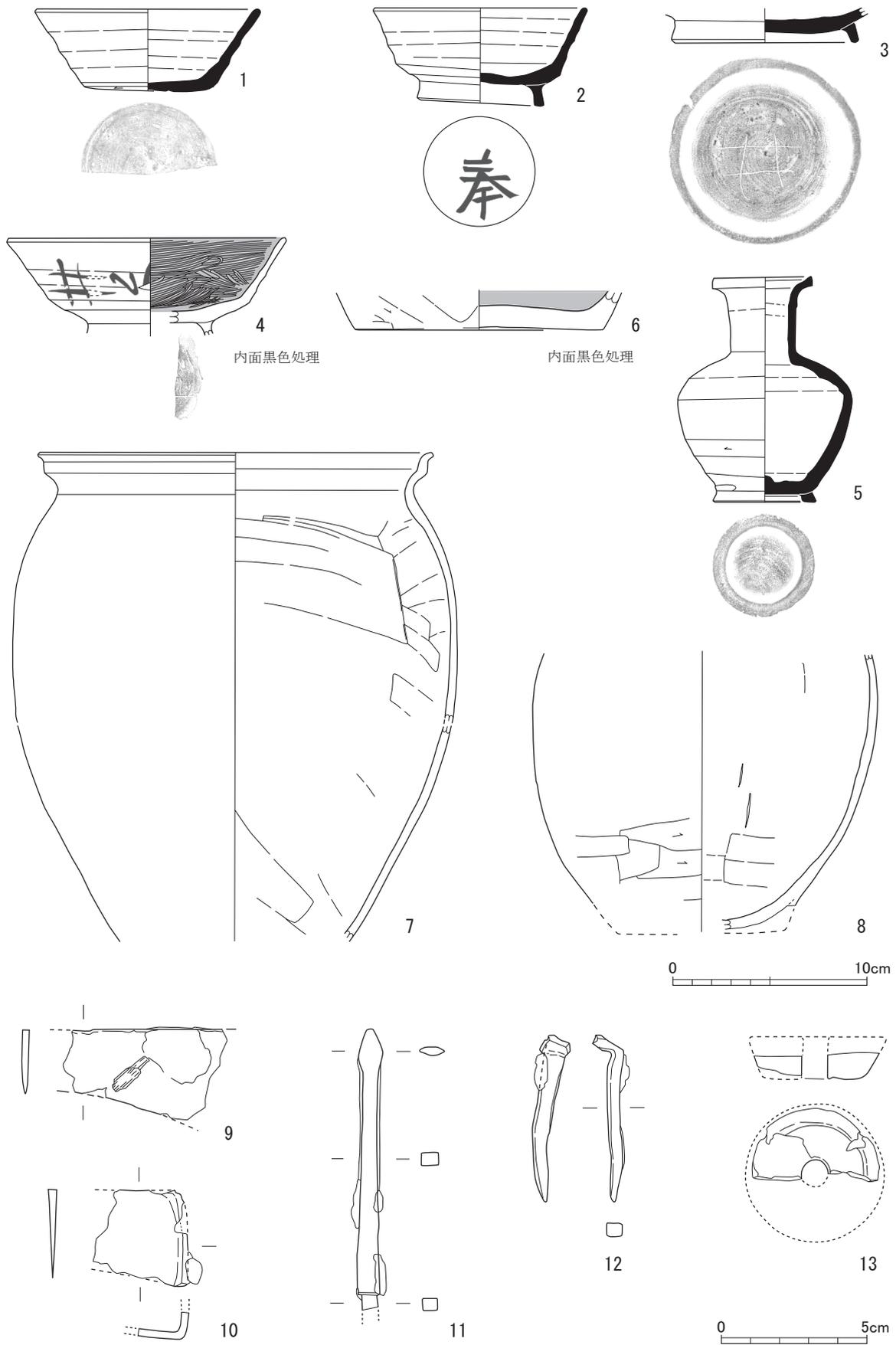
SI28



第68図 26・27・28号竖穴建物出土遺物



第 69 図 29 号竪穴建物



第70图 29号竖穴建物出土遺物

28号竪穴建物（第67・68図，表12，図版8・27）

**位置** 西調査区西部F8グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.54m以上，東西方向4.17mの方形と見られる。深さ0.09m。**主軸方向** N—6°—W。**覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土を主体としている。**ピット** 主柱穴は確認できなかった。**カマド** 北壁中央部にあり，規模は幅0.94m，燃焼室幅0.54m，燃焼室奥行き0.68mである。**床面** 中央東寄りの部分に硬化がみられた。**遺物** 土師器の坏と蓋が出土している。土師器の蓋は，須恵器と同じ様にロクロ成形してから内面黒色処理とミガキを行い酸化焰焼成したものである。坏はロクロ成形，酸化焰焼成，底部回転糸切りで，底径が大きく須恵器であれば8世紀代の時期のものと思われるが，完全な酸化焰焼成のため土師器とした。**所見** 内面黒色処理のロクロ成形土器は8世紀の後葉から9世紀前葉の時期を主体としており，この竪穴建物もこの時期頃のものと思われる。

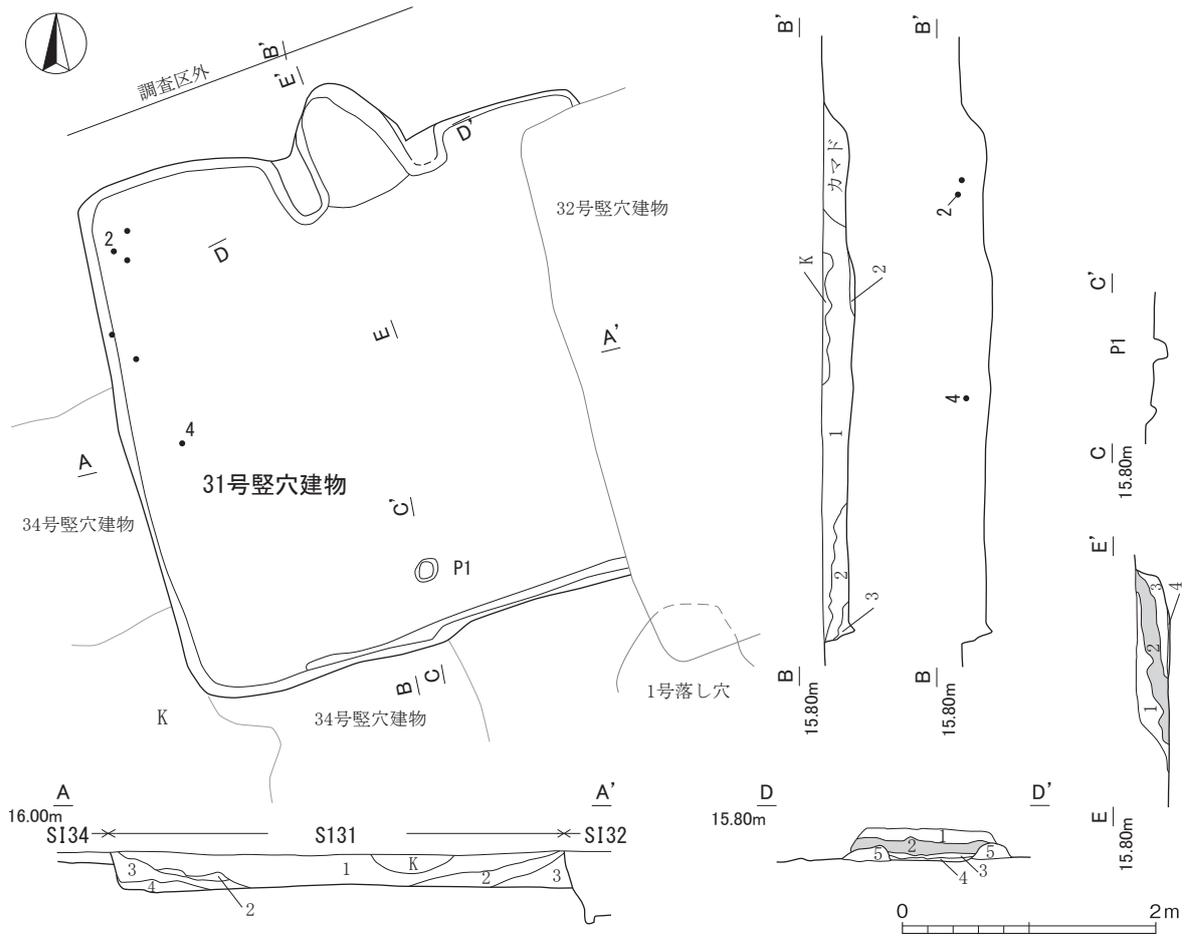
29号竪穴建物（第69・70図，表12・13，図版9・27・28）

**位置** 西調査区西部F8・F9グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向3.68m，東西方向4.84mの横長長方形。深さ0.51m。**主軸方向** N—11°—W。**覆土** 覆土は上層からローム粒やローム小ブロックを含んだ灰黄褐色土，人為的な堆積と見られるにぶい黄褐色土，ロームや炭化物粒を含んだ暗褐色土層が堆積している。**ピット** 主柱穴はP1～P4まで，P5は出入り口に関する穴と見られる。P6は出入口ピット近くにある方形気味の深さ5cm程の浅いくぼみ穴である。**カマド** 北壁中央部にあり，規模は幅1.47m，燃焼室幅0.66m，燃焼室奥行き0.92mである。**床面** 全体に硬化している。**遺物** 土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土している。須恵器の5の小瓶と1の須恵器坏片は近接して床上から，2の須恵器高台付坏も床面近くから出土している。須恵器坏は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期頃のものである。2の高台付坏の底部高台内には墨書文字「奉」，3の盤の底部に「井」の線刻，4の土師器高台付坏体部に墨書「□井」が見られる。鉄製品は，鎌・鉄鏃・釘。13は石製紡錘車片である。**所見** 長方形の平面形で北壁際と南壁際にそれぞれ主柱穴を2本ずつ設ける竪穴建物で，出土遺物から9世紀前半頃に廃絶していると思われる。

30号竪穴建物 欠番

31号竪穴建物（第71・72図，表13，図版9・28）

**位置** 西調査区西部E8グリッドに位置する。**重複関係** 32号竪穴建物と重複し，32号竪穴建物によって東側の床を掘り込まれている。**規模と平面形** 南北方向は西側が4.24m，南北方向の東側は3.82m，東西方向4.12mの北壁の西側部分がやや突出する方形。深さは0.31m。**主軸方向** N—13°—W。**覆土** 覆土は上層のローム小ブロックを多く含む暗褐色土が人為的な埋め戻し堆積と見られる。下層は黒褐色・暗褐色土が外から流れ込み，床面中央に向かって薄くなるように堆積している。**ピット** 主柱穴は確認できなかった。P1は出入り口に関する穴と見られる。**カマド** 北壁中央部にあり，規模は幅1.4m，燃焼室幅0.58m，燃焼室奥行き0.92mである。**床面** 不明瞭ながらカマド前面から中央部付近に硬化が見られた。**遺物** 土師器・鉄製品・石製品が出土している。土師器の坏はロクロを使用した須恵器の成形だが，調整に底部を含めて内外面黒色・ミガキ処理したものである。鉄製品は刀子，石製品は砥石である。**所見** 大型の竪穴建物であるが床に主柱穴を見つることができなかった。出土遺物は9世紀前葉頃のものかと思われる。



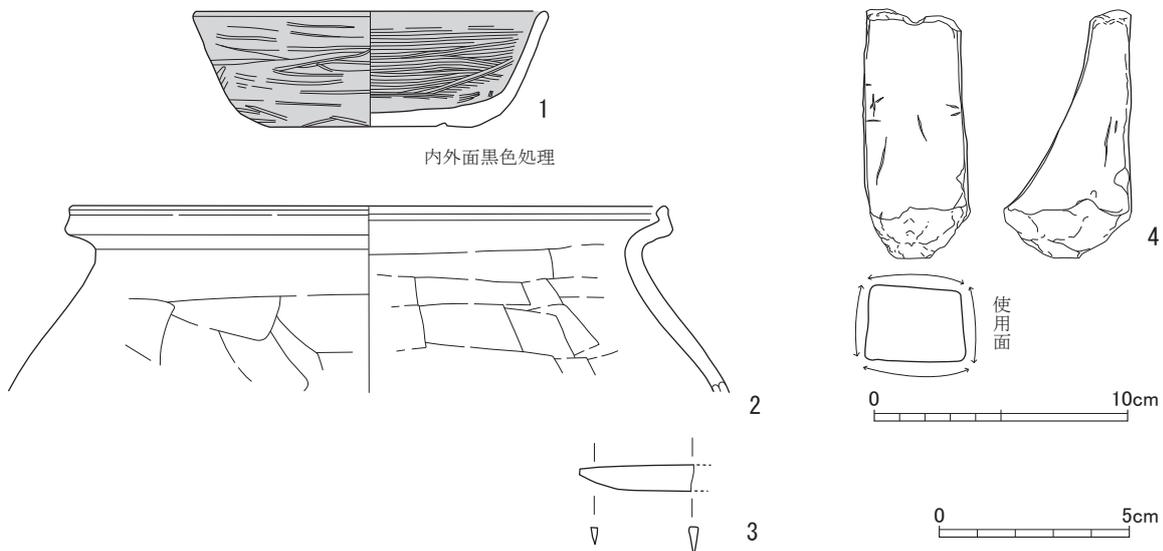
31号竖穴建物 A-A' B-B'

- 1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 縮りあり
- 2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
- 3. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
- 4. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 縮りあり

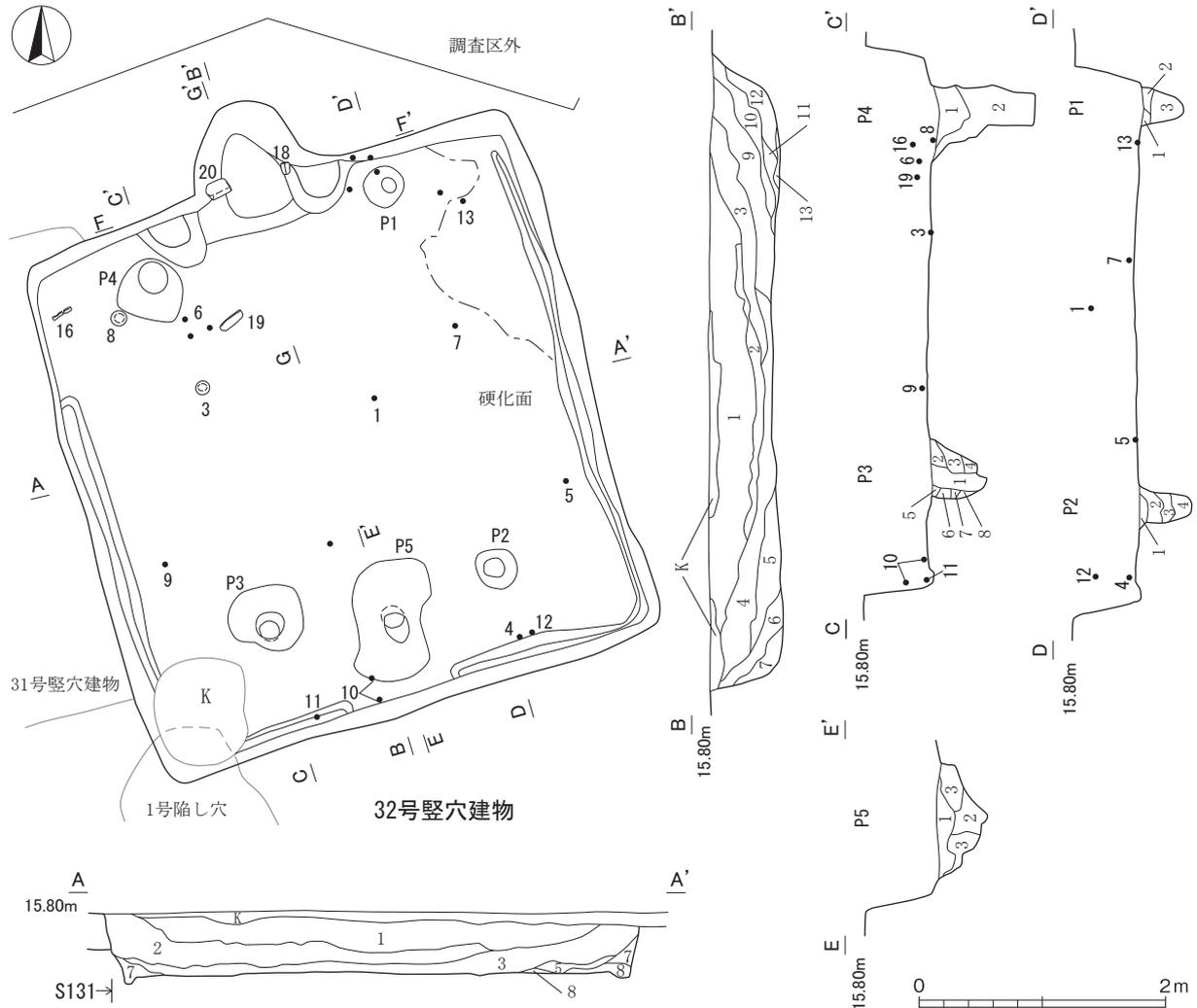
31号竖穴建物 カマド D-D' E-E'

- 1. 7.5YR4/4 褐色 粘土粒中量, ローム粒・ローム小ブロック中量, 縮りあり
- 2. 5YR5/3 にぶい褐色 粘土主体, 粘性・縮りあり
- 3. 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒中量, 焼土小ブロック中量, 軟らかい
- 4. 5YR3/2 暗赤褐色 炭化物粒多量, 灰多量, 軟らかい
- 5. 7.5YR4/4 褐色 ローム粒中・多量, ローム小ブロック少量, 縮りあり

第71図 31号竖穴建物



第72図 31号竖穴建物出土遺物



32号堅穴建物 A-A' B-B' F-F' G-G'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, やや軟らかい
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 締りあり
3. 7.5YR3/1 黒褐色 粘土粒中量, ローム小ブロック少量, やや軟らかい
4. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや軟らかい
5. 10YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 黒褐色土中ブロック中量, やや軟らかい
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック少量, 軟らかい (出入口ピット梯子材痕か)
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ソフトローム主体, 軟らかい (壁ロームの崩落層か)
8. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, 締りあり

32号堅穴建物 P1 D-D'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒・ローム小ブロック中量, 軟らかい
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色 ローム主体, 締りあり
3. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小・中ブロック中量, 軟らかい

32号堅穴建物 P2 D-D'

1. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中量, 軟らかい
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, 鹿沼パミス粒中量, 軟らかい
3. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 軟らかい
4. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい

32号堅穴建物 P3 C-C'

1. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒少量, ローム小・中ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒少量, ローム小・中ブロック中量, 軟らかい
3. 10YR6/4 にぶい黄褐色 ローム中・大ブロック主体, 締りあり
4. 10YR7/6 明黄褐色 鹿沼パミス中ブロック多量, 締りあり
5. 10YR3/4 暗褐色 ローム中ブロック多量, 締りあり
6. 10YR6/4 にぶい黄褐色 ローム中・大ブロック主体, 締りあり
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム中・大ブロック主体, 暗褐色土中ブロック少量, 締りあり
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム中・大ブロック主体, 暗褐色土大ブロック少量, 締りあり

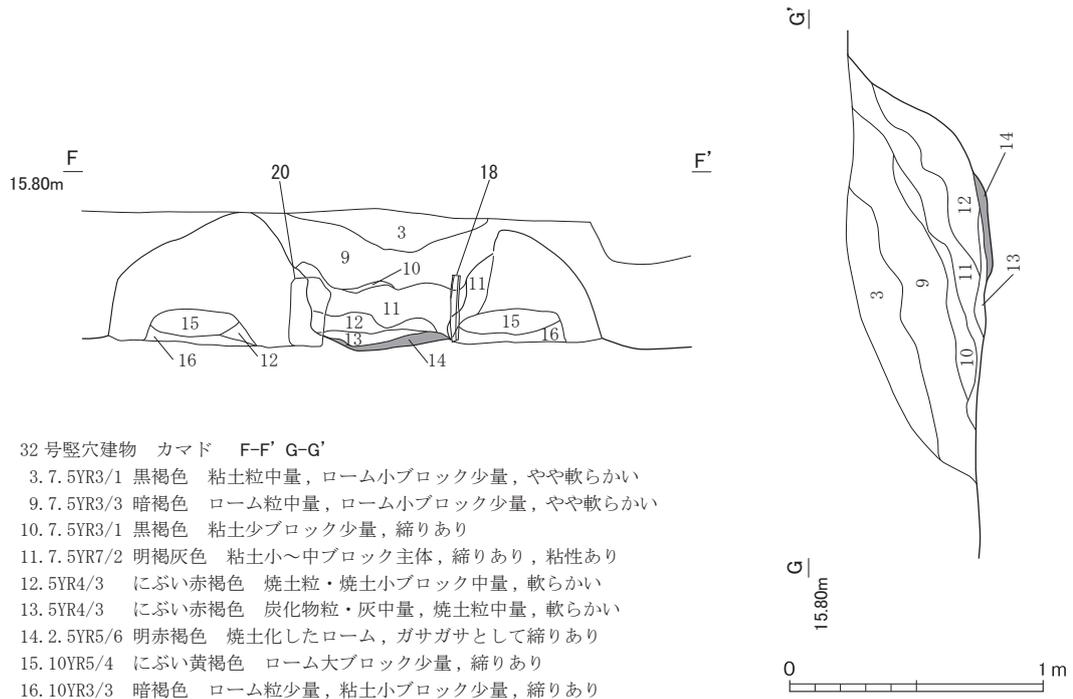
32号堅穴建物 P4 C-C'

1. 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, やや締りあり
2. 7.5YR3/4 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい

32号堅穴建物 P5 E-E'

1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, ローム中ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小~大ブロック多量, 締りあり

第73図 32号堅穴建物



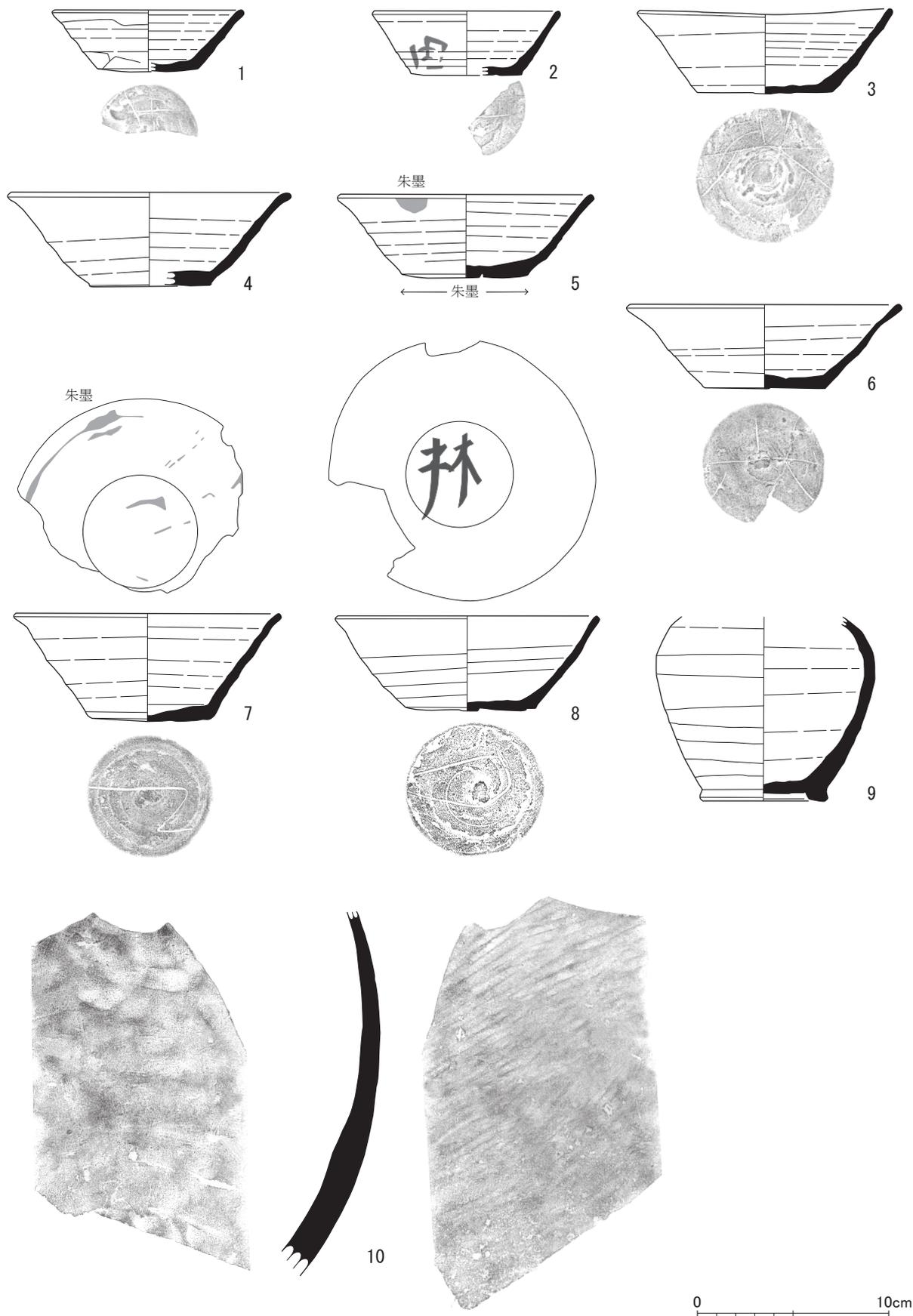
第74図 32号竪穴建物カマド

32号竪穴建物 (第73・74・75・76・77図, 表13, 図版9・10・28・29)

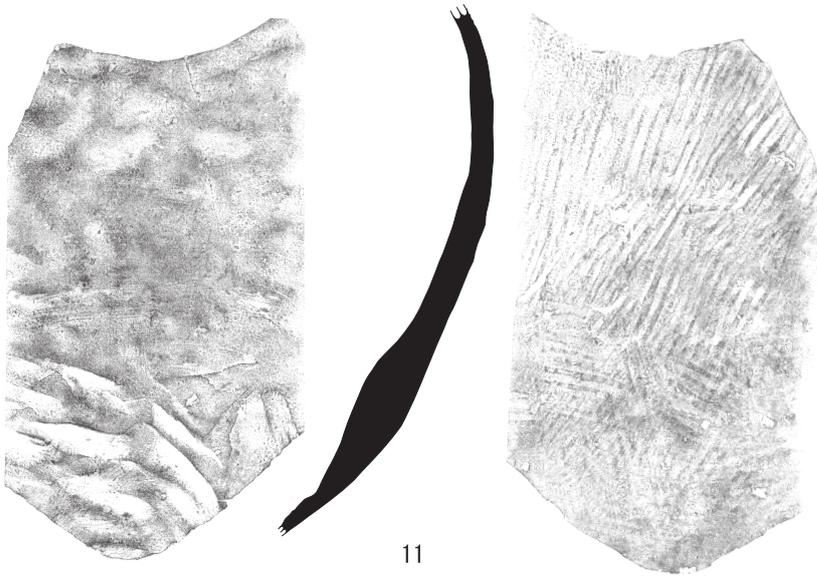
**位置** 西調査区西部 E8・E9 グリッドに位置する。 **重複関係** 31号竪穴建物と重複し, 31号竪穴建物の東部を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 南北方向 4.27m, 東西方向 4.49m の南北方向にやや長い方形。 **主軸方向** N-14° -W。 **覆土** 覆土は黒褐色土・暗褐色土が交互に流れ込むようにして堆積している。ローム粒やローム小ブロックの含有も目立つが自然堆積土層かと見られる。 **ピット** 主柱穴は P1～P4。P5 は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり, 規模は幅 1.74m, 燃焼室幅 0.44m, 燃焼室奥行き 1.02m である。燃焼室内壁に軟質な凝灰岩質泥岩の切石材 20 とやや硬質の泥岩 18 を立てて設置している。天井部を支える構築材としているものと見られる。このうちやや硬質な泥岩は 床面から出土している同じ材質の石材 19 と接合した。19 もカマドで使用されていた痕跡が残り支脚用途等で使用されていたものと推測される。 **床面** 東壁北寄りの壁際以外全体に硬化している。 **遺物** 土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土している。須恵器は坏・長頸瓶・甕, 土師器は甕が出土している。5 と 7 の須恵器坏は底部外面が平滑に磨られ, 5 は底部外面全体と口縁をつまんだ時の指に朱墨が着いていたと思われるような形と位置に, 7 は内面に点々と朱墨が付着した状態である。底部へラ記号は 3 と 6 の坏に「六」が, 墨書は 2 の坏体部外面に「西」, 8 の坏内面に「林」が書かれている。鉄製品は火打金と刀子が出土している。 **所見** 4本柱で構成される大型建物であるが, 北側2本の柱が壁際に寄って設置されている特徴をもっている。出土している須恵器の坏は9世紀中葉〜後半頃のもので9世紀前半代に建てられた建物と見られる。

33号竪穴建物 (第78・79図, 表14, 図版10・29)

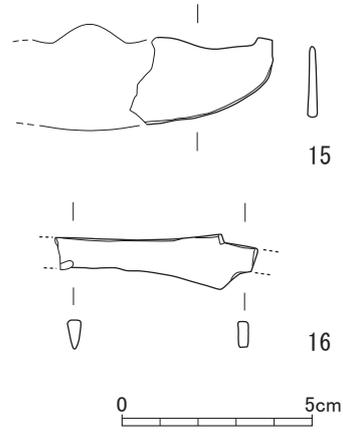
**位置** 西調査区西部 E9 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 2.95m 以上, 東西方向 2.2m 以上。深さ 0.34m。 **主軸方向** N-22° -W。 **覆土** 覆土は暗褐色土を主体としローム小ブロックの含有も目立つ, 周囲に竪穴建物が多いため掘削土の再堆積が多い環境下にあったものと思われる。 **ピット** 主柱穴・出入口ピットとも確認できなかった。 **カマド** 北壁中央部にあり, 規模は推定幅 1.1m, 燃焼室幅 0.5m, 燃焼室奥行き



第 75 图 32 号竖穴建物出土遺物 (1)



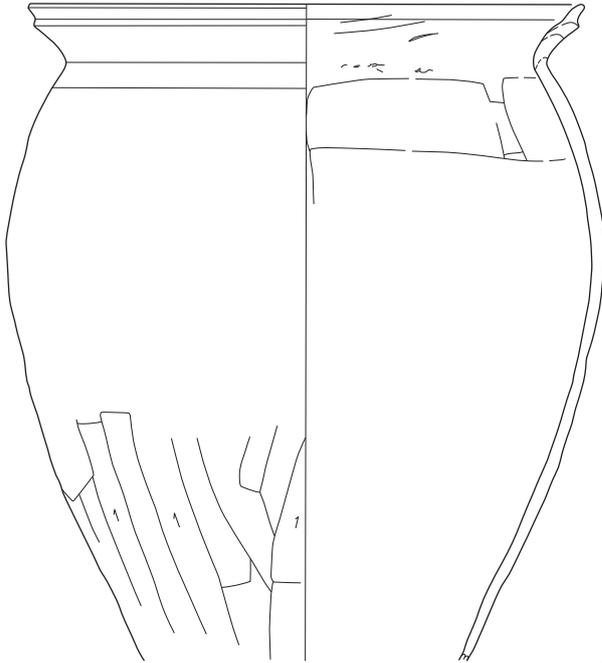
11



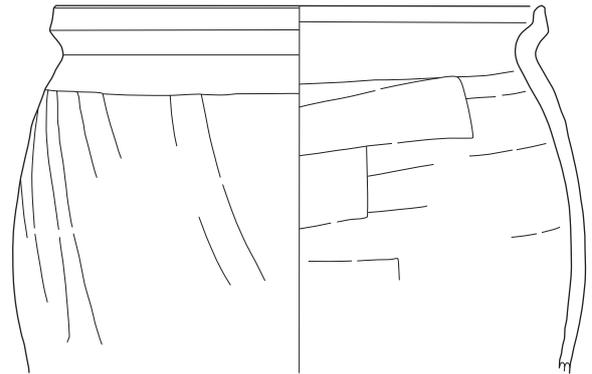
15

16

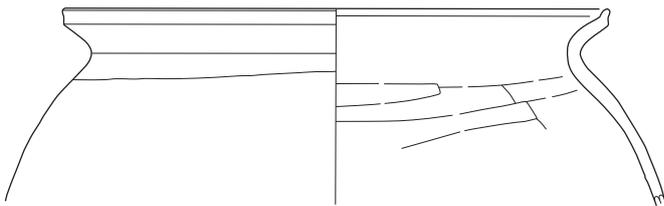
0 5cm



12



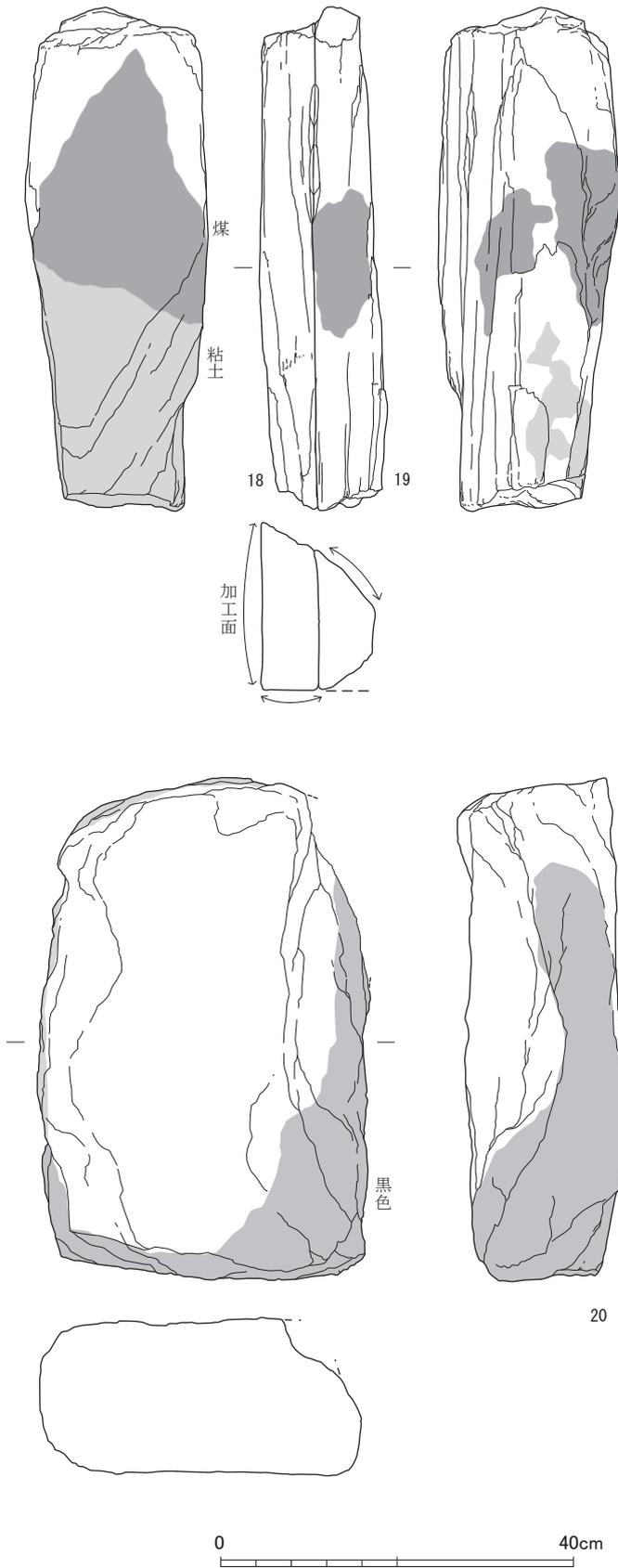
14



13

0 10cm

第 76 图 32 号竖穴建物出土遺物 (2)



第 77 図 32 号竪穴建物出土遺物 (3)

0.88mである。**床面** 全体に硬化している。**遺物** 須恵器・土師器が出土している。1の須恵器坏は体部下端と底部を回転ヘラケズリしている。体部下端は二次底部面を回転ヘラケズリによって調整している。底径・器高指数から見て8世紀第3四半期頃のものと思われる。**所見** 支柱穴が確認できないので、8世紀代の支柱穴のない竪穴建物と考えられる。

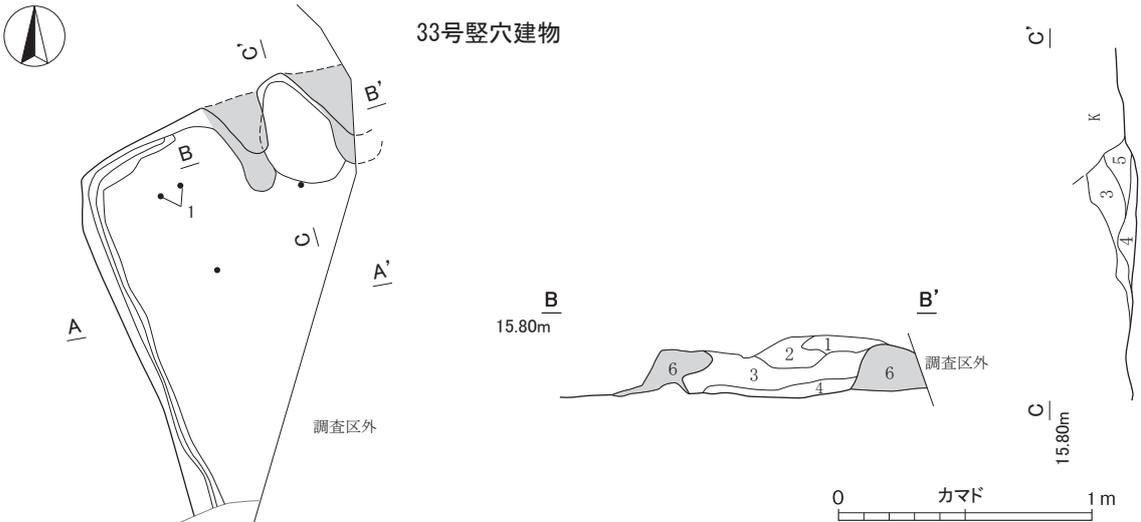
### 34号竪穴建物

(第80・81図, 表14, 図版10・29)

**位置** 西調査区西部E8・F8グリッドに位置する。**重複関係** 31号竪穴建物と重複し, 31号竪穴建物に北東部を掘り込まれている。**規模と平面形** 南北方向4.80m, 東西方向4.80mの方形。深さ0.1m。床面やカマドの半分以上攪乱によって壊されている。**主軸方向** N-12°-W。**覆土** 覆土は薄くローム粒の多い暗褐色土を主体としている。**ピット** 支柱穴・出入口ピットとも確認できなかった。**カマド** 北壁中央部にあり, 粘土の残存範囲として右袖半分が捉えられた。推定規模は幅約1.0m, 燃烧室幅約0.5m, 燃烧室奥行き0.65mである。**床面** 攪乱が激しく硬化面の範囲は捉えられなかった。**遺物** 土師器坏・甕が出土している。**所見** 竪穴建物としての規模は大きい, 残存状況が悪く柱穴が捉えられなかった。また, カマドの位置が北壁中央からやや西側に寄ることと, 袖部が竪穴内に突出する特徴がある。出土遺物は, 7世紀頃の土師器坏と8世紀後葉頃の土師器甕であるが, 竪穴建物のカマドの特徴から見て7世紀頃の土師器坏の年代が遺構の時期を示している可能性が考えられる。



33号竪穴建物

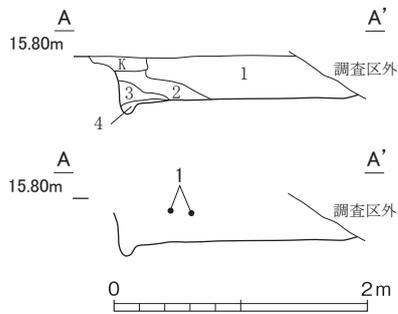


33号竪穴建物 A-A'

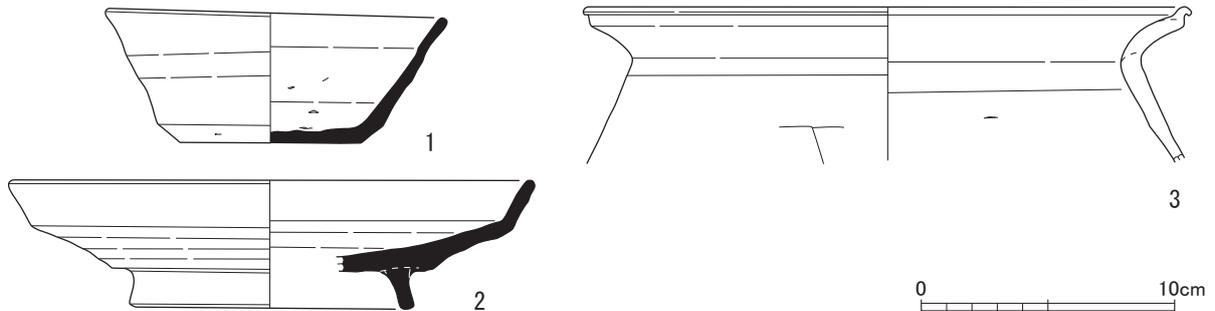
1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 締りあり
2. 10YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
3. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 軟らかい
4. 10YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, やや締りあり

33号竪穴建物 カマド B-B' C-C'

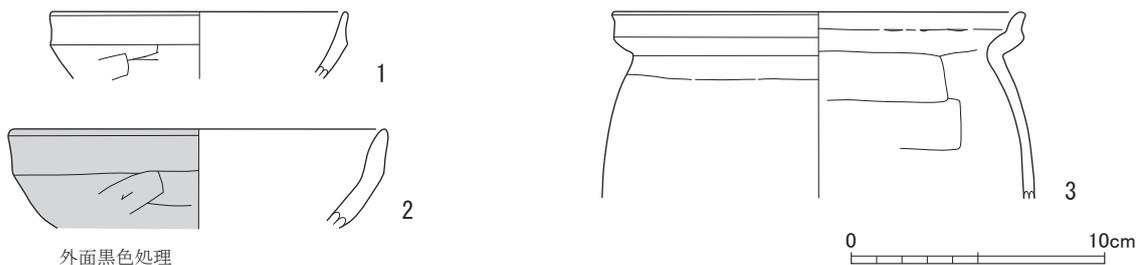
1. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり
2. 10YR3/2 黒褐色 粘土小ブロック少量, 締りあり
3. 5YR4/2 灰褐色 粘土小ブロック多量, 焼土粒少量, 焼土中ブロック中量, 軟らかい
4. 5YR4/3 にぶい赤褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒中量, 軟らかい
5. 5YR4/4 にぶい赤褐色 粘土・焼土小ブロック中量, やや粘性・締りあり
6. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック主体, 粘性・締りあり



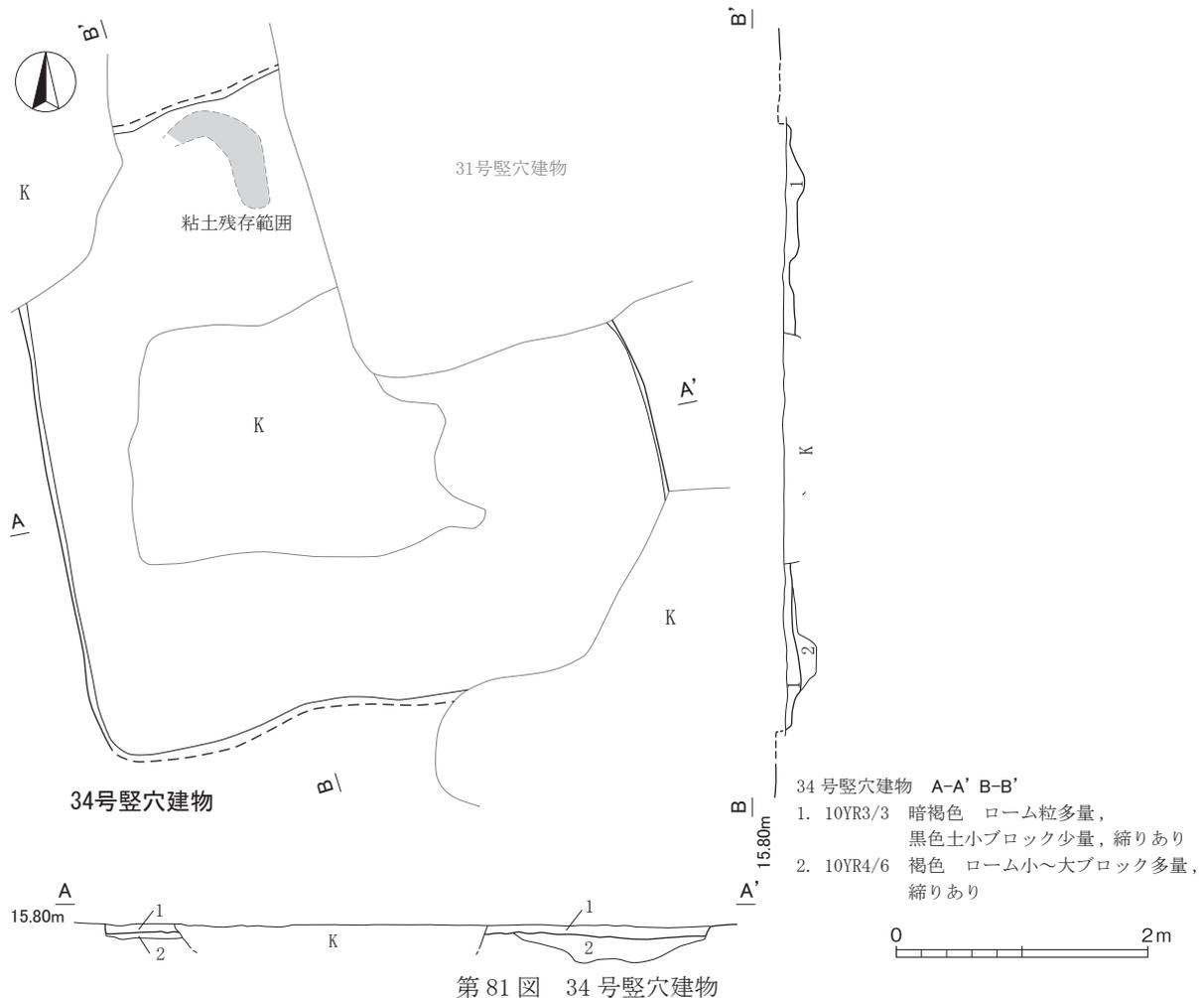
第 78 図 33号竪穴建物



第 79 図 33号竪穴建物出土遺物



第 80 図 34号竪穴建物出土遺物

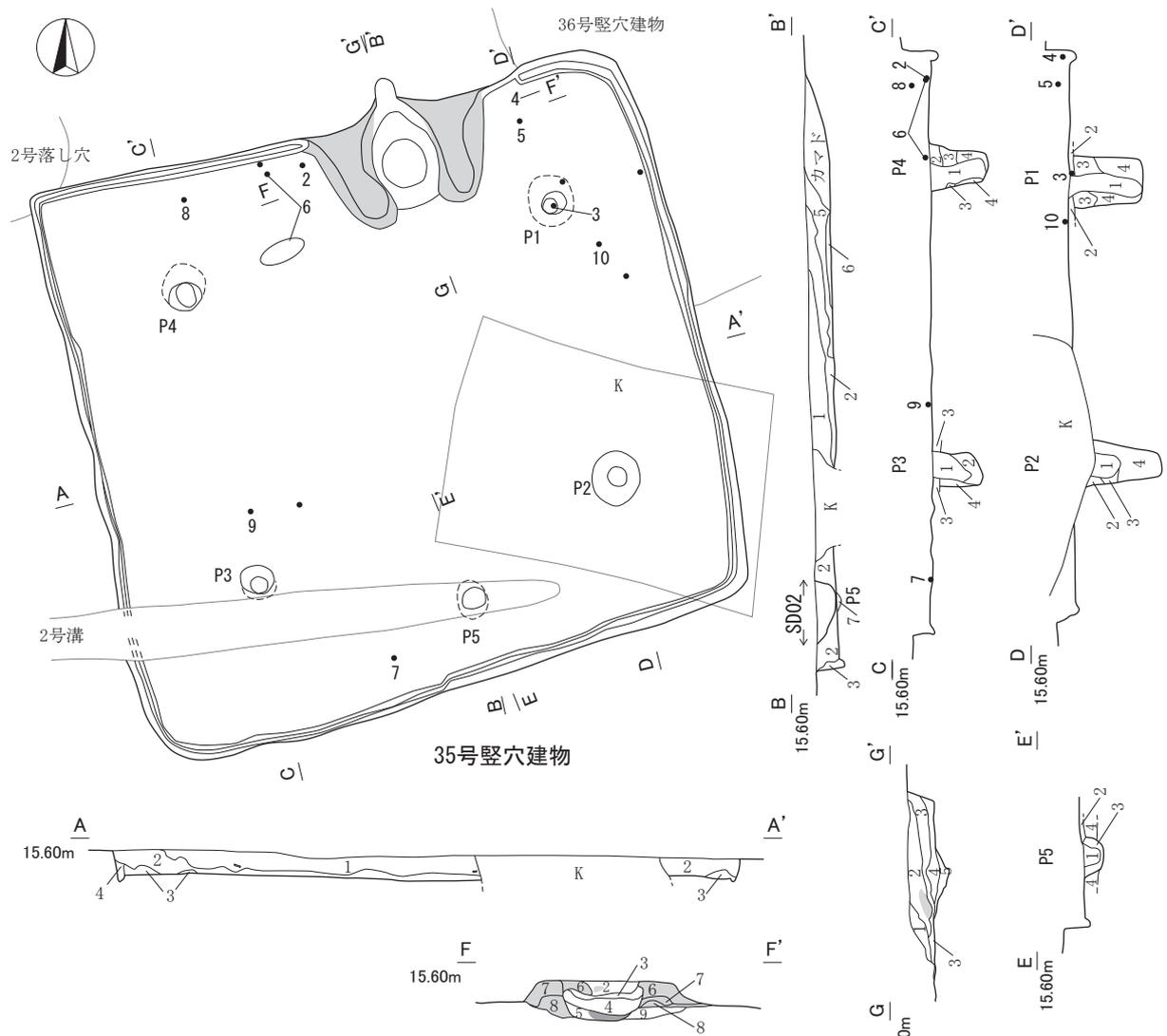


35号竪穴建物 (第82・83図, 表14, 図版10・29)

**位置** 東調査区南部 E10・F10 グリッドに位置する。 **重複関係** 36号竪穴建物と重複し、36号竪穴建物の南西部を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 南北方向 4.43m, 東西方向 5.15m の横長長方形。深さ 0.2m。 **主軸方向** N-14° -W。 **覆土** 覆土はローム粒やローム小ブロックを少量含んだ黒褐色土を主体としている。 **ピット** 主柱穴は P1～P4 まで, P5 は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部東寄りにあり, 規模は幅 1.5m, 燃焼室幅 0.54m, 燃焼室奥行き 1.03m である。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器・須恵器・土製品・石製品が出土している。土師器は坏・鉢・甕が, 須恵器は蓋・長頸瓶が, 土製品はカマド支脚が, 鉄製品は長頸鍬が出土している。 **所見** 土師器の坏・鉢・甕は 7 世紀の後葉頃のものと思われる。須恵器 2 点は, 胎土中の長石・石英の鉱物粒が微細で生焼け気味の焼成、色調も灰褐色と灰白色と似ており同じ窯の製品ではないかと思われる。蓋は木葉下窯跡 A 地点灰原出土品の中に類似器形のものがあるが、海綿骨針を含まないことや先に挙げた胎土・焼成の特徴から木葉下窯跡とは別の窯跡製品と考え、付近の 7 世紀後葉の須恵器生産窯としては東海村の御所内窯跡があり検討する余地があるように思う。

36号竪穴建物 (第84・85図, 表14, 図版10・30)

**位置** 東調査区南部 E10・E11 グリッドに位置する。 **重複関係** 35号竪穴建物と重複し、35号竪穴建物に南西部を掘り込まれている。 **規模と平面形** 南北方向 4.49m, 東西方向推定 4.40m の方形と見られる。深さ 0.1m。 **主軸方向** N-22° -W。 **覆土** 覆土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体としている。 **ピット** 主柱穴は



35号堅穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
2. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, 縮りあり
3. 10YR2/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, やや軟らかい
4. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, 軟らかい
5. 7.5YR4/2 灰黄褐色 粘土小・中ブロック多量, 黒褐色土中ブロック少量, 粘性・縮りあり
6. 7.5YR4/2 灰黄褐色 粘土主体, 粘性・縮りあり
7. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 軟らかい (P5 覆土)

35号堅穴建物 P1, P2, P4 C-C' D-D'

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム大ブロック主体, 縮りあり
3. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム主体, 縮りあり

35号堅穴建物 P3 C-C'

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR4/3 褐色 ローム主体, 軟らかい
3. 10YR3/4 暗褐色 ローム大ブロック主体, 縮りあり
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム主体, 縮りあり

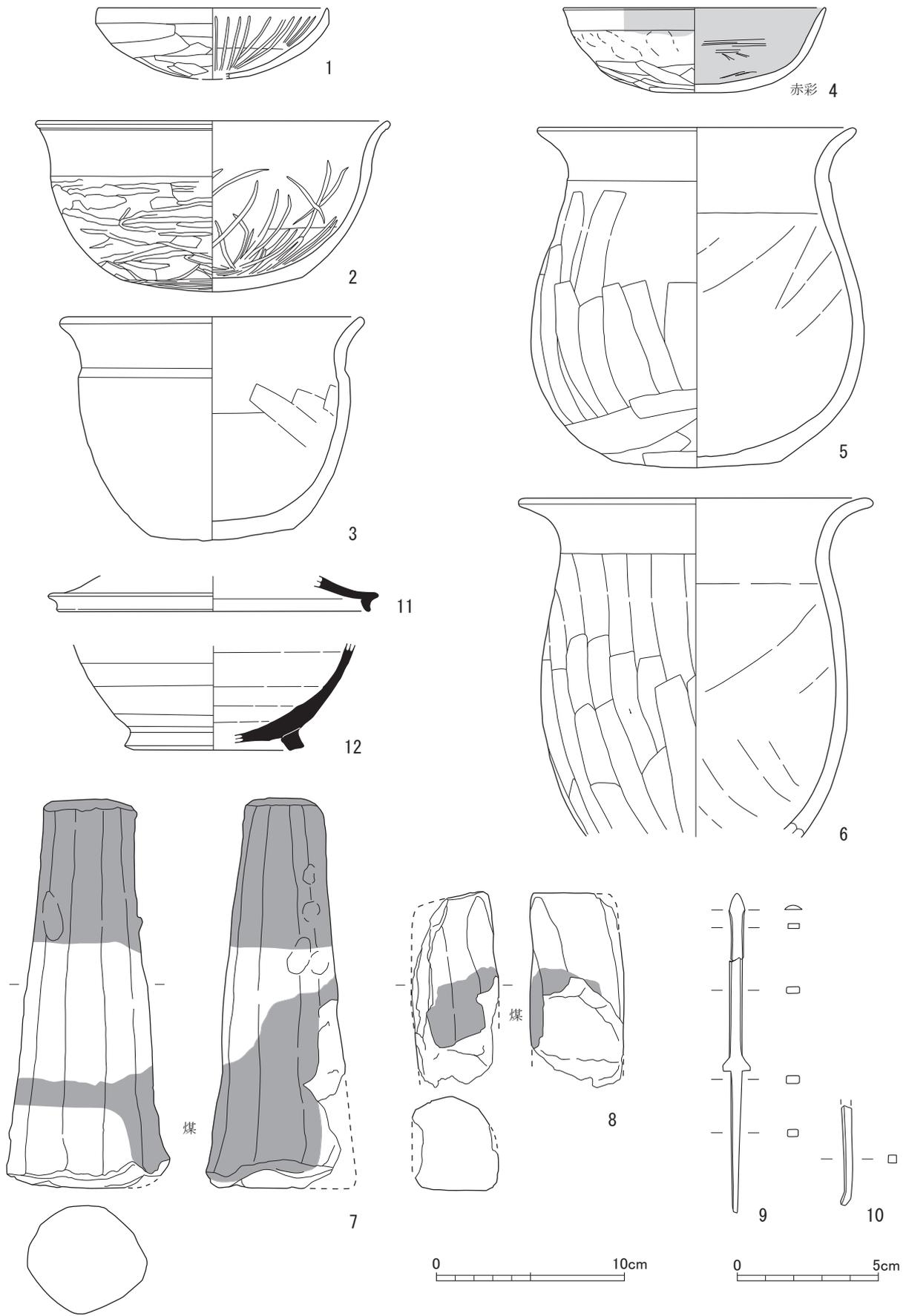
35号堅穴建物跡 P5

1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 7.5YR3/4 暗褐色 ローム中・大ブロック主体, 縮りあり
3. 7.5YR6/4 にぶい橙色 ローム小ブロック中量, 縮りあり
4. 7.5YR6/4 にぶい橙色 ローム小ブロック多量, 縮りあり

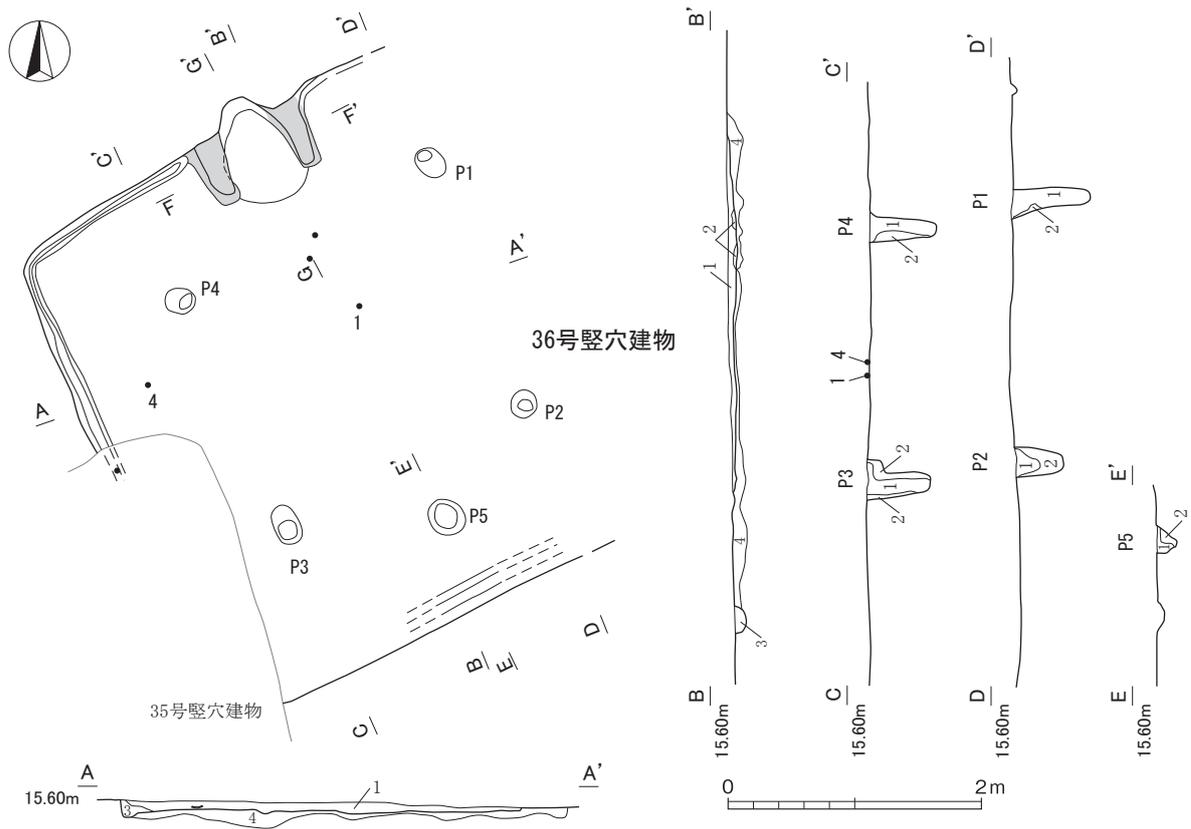
35号堅穴建物 カマド F-F'

1. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土粒多量, 粘土小ブロック多量, 粘性・縮りあり
2. 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
3. 5YR3/1 黒褐色 焼土小ブロック多量, 軟らかい
4. 5YR5/8 明赤褐色 焼土化層, 縮りあり
5. 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック多量, 炭化物粒極少量, やや軟らかい
6. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土小・中ブロック多量, 粘性・縮りあり
7. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
8. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土小ブロック主体, 粘性・縮りあり
9. 7.5YR7/2 明褐色 粘土大ブロック多量, 黒褐色土小・中ブロック多量, 粘性・縮りあり

第 82 図 35 号堅穴建物



第 83 图 35 号竖穴建物出土遺物



36号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 黒褐色土小ブロック少量，ローム粒中量，軟らかい
2. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土粒中量，やや締りあり
3. 7.5YR3/2 黒褐色 黒褐色土中ブロック主体，軟らかい
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 暗褐色土中ブロック多量，締りあり

36号竖穴建物 P1～P4 C-C' D-D'

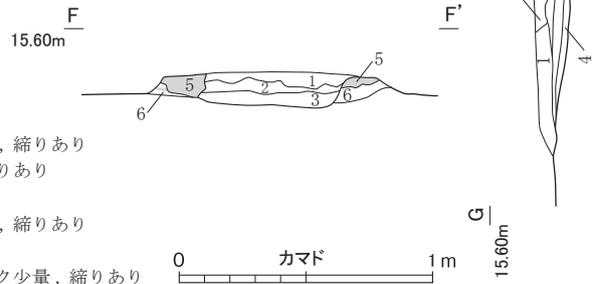
1. 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒少量，やや締りあり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック多量，締りあり

36号竖穴建物 P5 E-E'

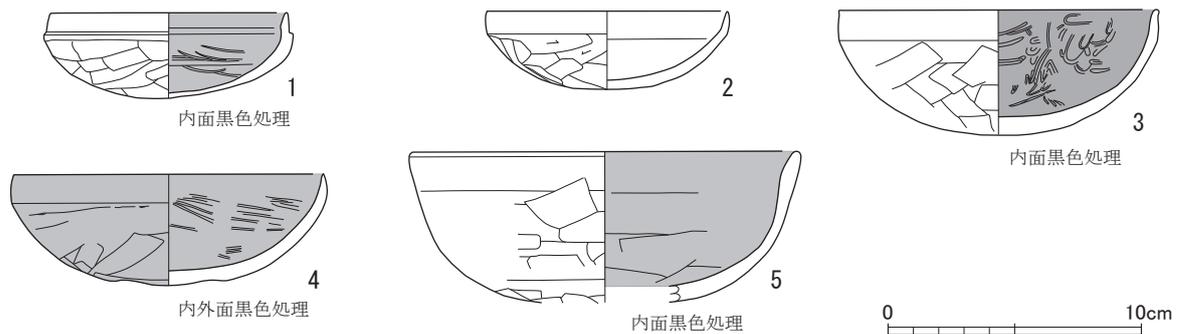
1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量，軟らかい
2. 10YR4/4 褐色 ローム主体，締りあり

36号竖穴建物 カマド F-F' G-G'

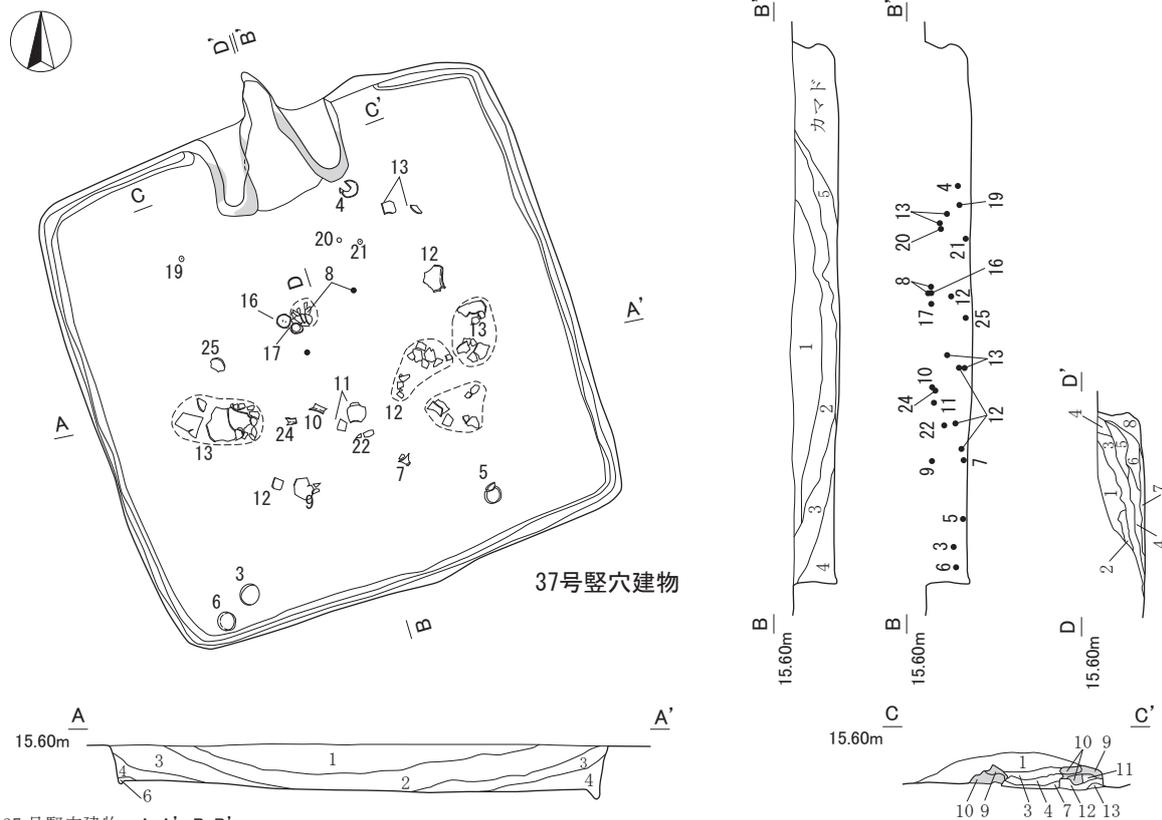
1. 7.5YR5/4 にぶい褐色 粘土大ブロック・焼土小ブロック少量，締りあり
2. 5YR4/3 褐色 焼土粒多量，焼土小ブロック中量，灰層，締りあり
3. 5YR3/1 黒褐色 ローム小ブロック中量，締りあり，掘り方
4. 5YR3/1 黒褐色 ローム小・中ブロック中量，炭化物粒少量，締りあり
5. 7.5YR7/2 明褐灰色 粘土大ブロック主体，粘性・締りあり
6. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小～大ブロック中量，粘土小ブロック少量，締りあり



第84図 36号竖穴建物



第85図 36号竖穴建物出土遺物



37号竪穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, 縮りあり
2. 10YR2/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 縮りあり
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, 縮りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
5. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土中・大ブロック多量, 縮りあり
6. 10YR3/3 暗褐色 ローム小・中ブロック多量, 黒色土中ブロック中量, 縮りあり

37号竪穴建物 カマド C-C' D-D'

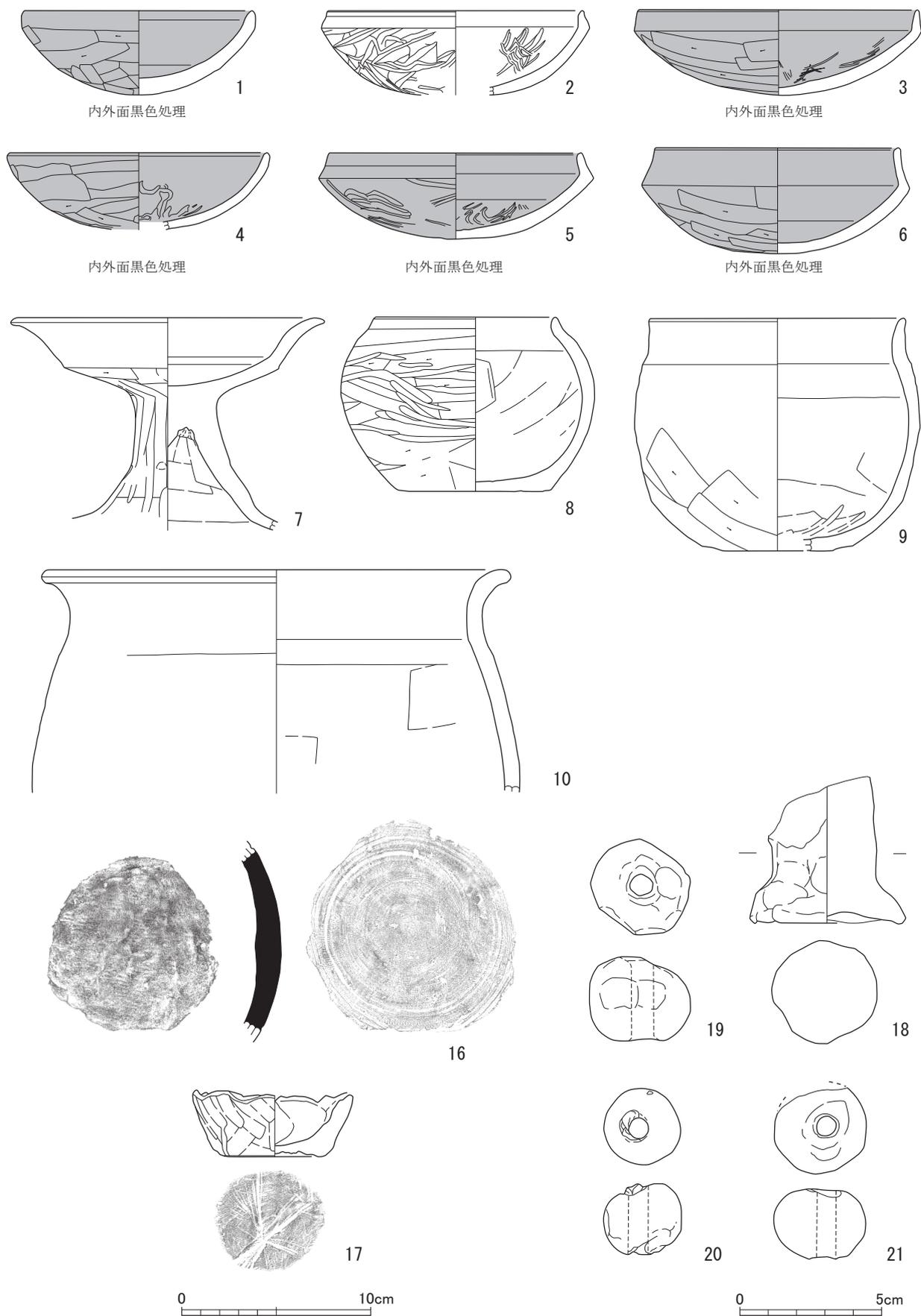
- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少量, 縮りあり</li> <li>2. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土粒・焼土粒中量, 縮りあり</li> <li>3. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土小・中ブロック多量, 縮りあり</li> <li>4. 5YR5/4 にぶい赤褐色 粘土大ブロック・焼土小ブロック多量, 縮りあり</li> <li>5. 5YR4/2 灰褐色 粘土小ブロック多量, 軟らかい</li> <li>6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム主体, 軟らかい</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 5YR3/1 黒褐色 灰多量, 粘土粒中量, 軟らかい</li> <li>8. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体, やや軟らかい</li> <li>9. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土粒中量, 縮りあり</li> <li>10. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり</li> <li>11. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土粒中量, 焼土小ブロック少量, 縮りあり</li> <li>12. 5YR3/3 暗赤褐色 粘土粒中量, 粘土小ブロック少量, 縮りあり</li> <li>13. 7.5YR3/2 黒褐色 粘土粒・ローム粒少量, 縮りあり</li> </ol> |
|--|--|

第86図 37号竪穴建物

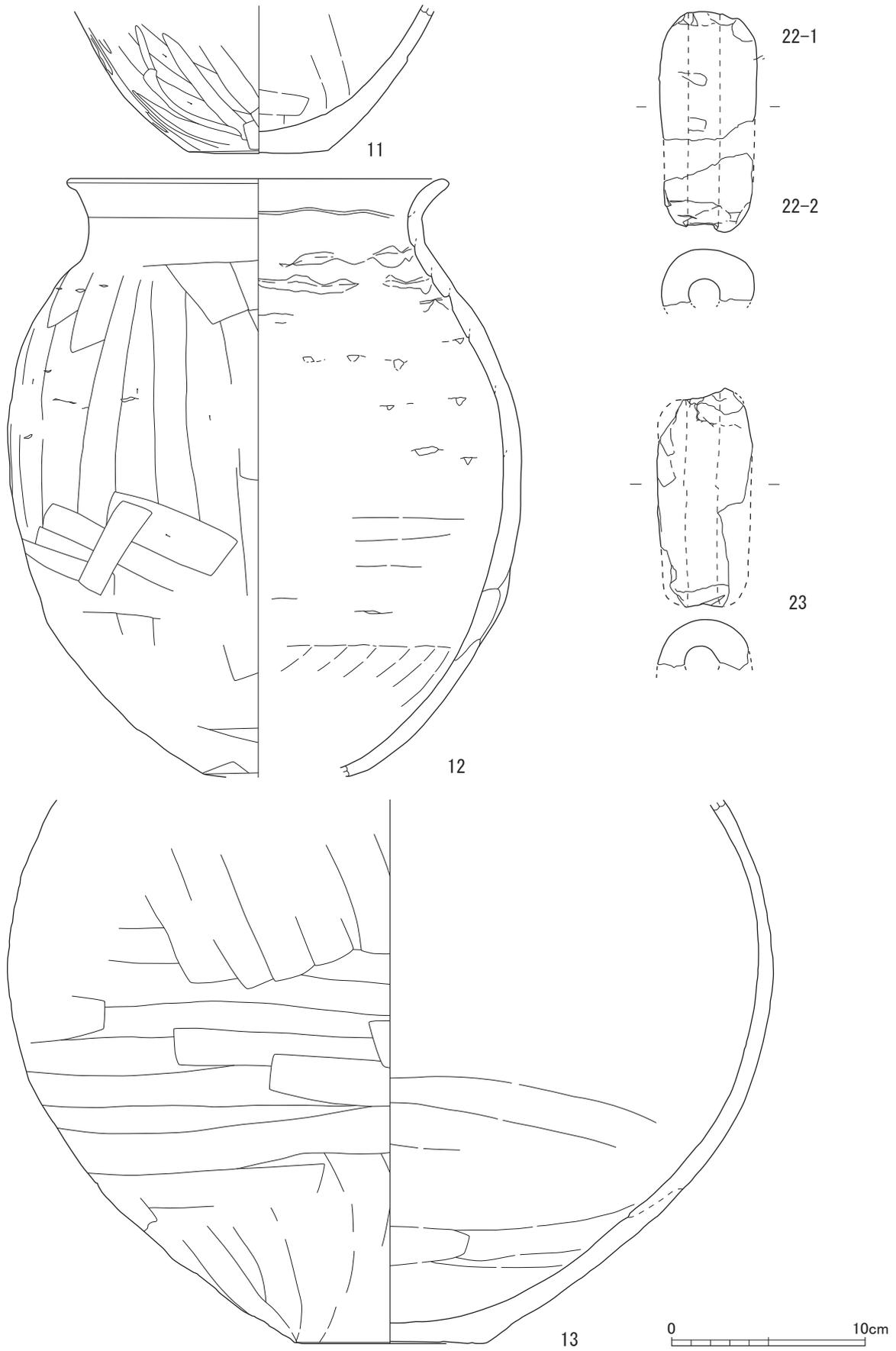
P1～P4。P5は出入り口に関係する穴と見られる。カマド 北壁中央部にあり、規模は幅0.81m, 燃焼室幅0.37m, 燃焼室奥行き0.78mである。床面 竪穴建物中央部付近がやや硬化している。遺物 土師器の坏・鉢が出土している。全体に内外面黒色処理したものが多く、坏は小型である。所見 出土遺物は7世紀中葉頃のものと思われる。

37号竪穴建物 (第86・87・図, 表5, 図版11・30・31)

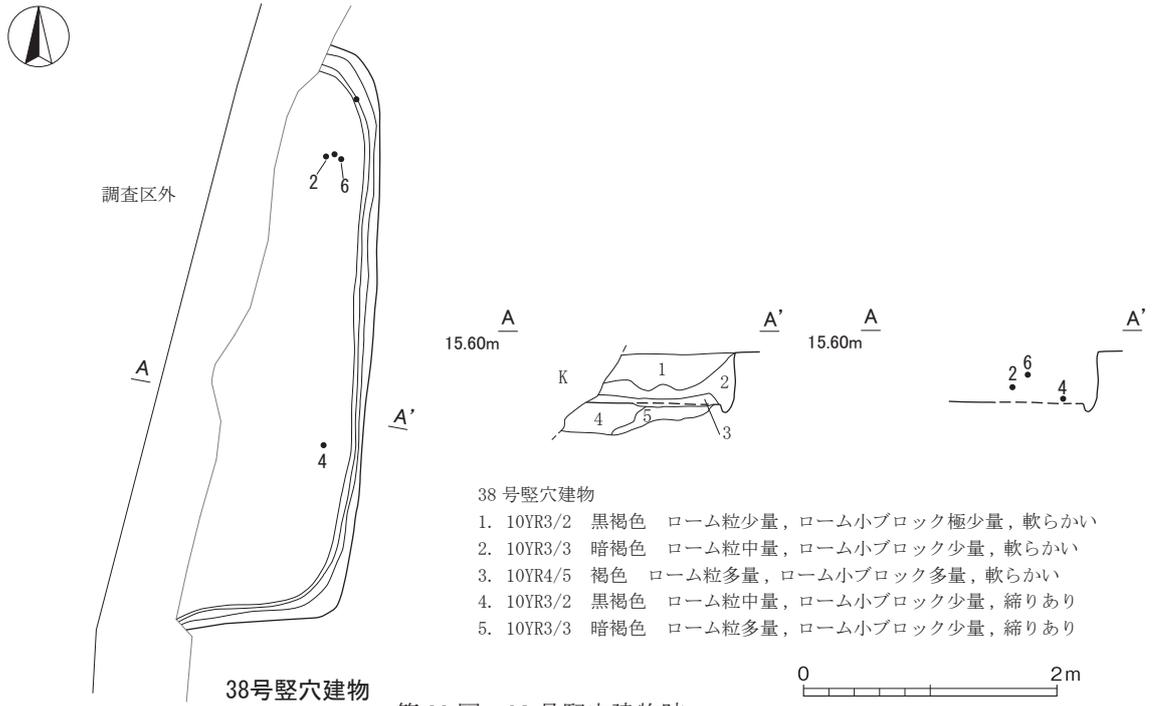
位置 東調査区中央部D10グリッドに位置する。規模と平面形 南北方向3.87m, 東西方向3.90mの方形。深さ0.34m。主軸方向 N-18°-W。覆土 覆土はローム粒・ローム小ブロックを主体とし、壁際ににぶい黄褐色ローム, 床を覆うように下層に黒褐色土, 上層に暗褐色土が堆積している。ピット 支柱穴・出入口ピットとも確認できなかった。カマド 北壁中央部にあり、規模は幅1.20m, 燃焼室幅0.46m, 燃焼室奥行き0.91mである。床面 全体に硬化している。遺物 土師器・須恵器・土製品が出土している。土師器の坏は



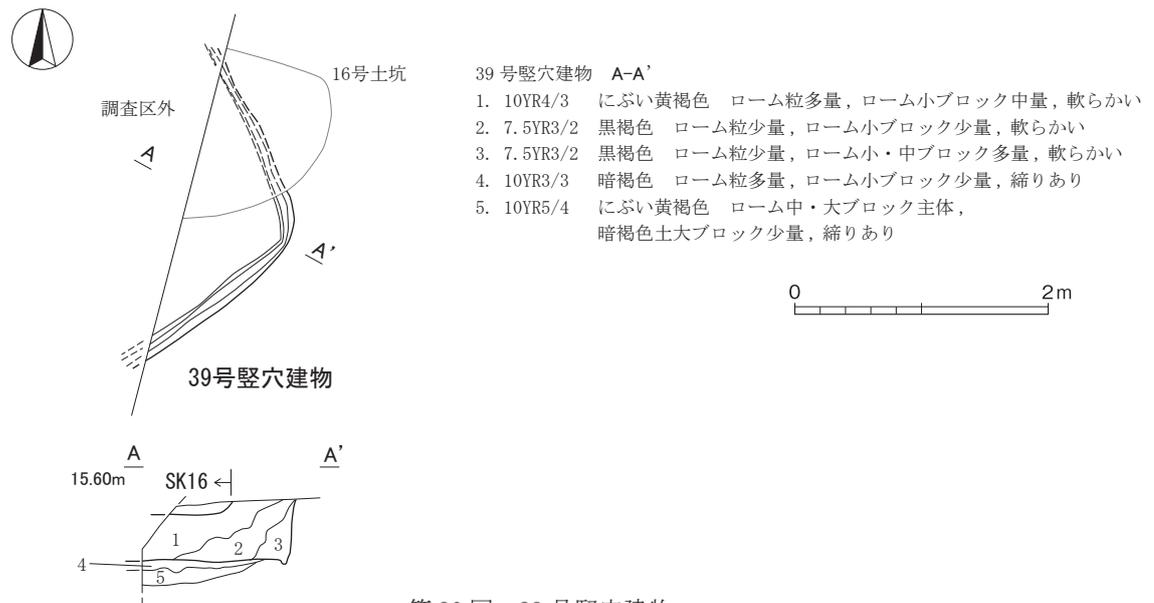
第 87 图 37 号竖穴建物出土遗物 (1)



第 88 图 37 号竖穴建物出土遺物 (2)



第 89 図 38 号竪穴建物跡

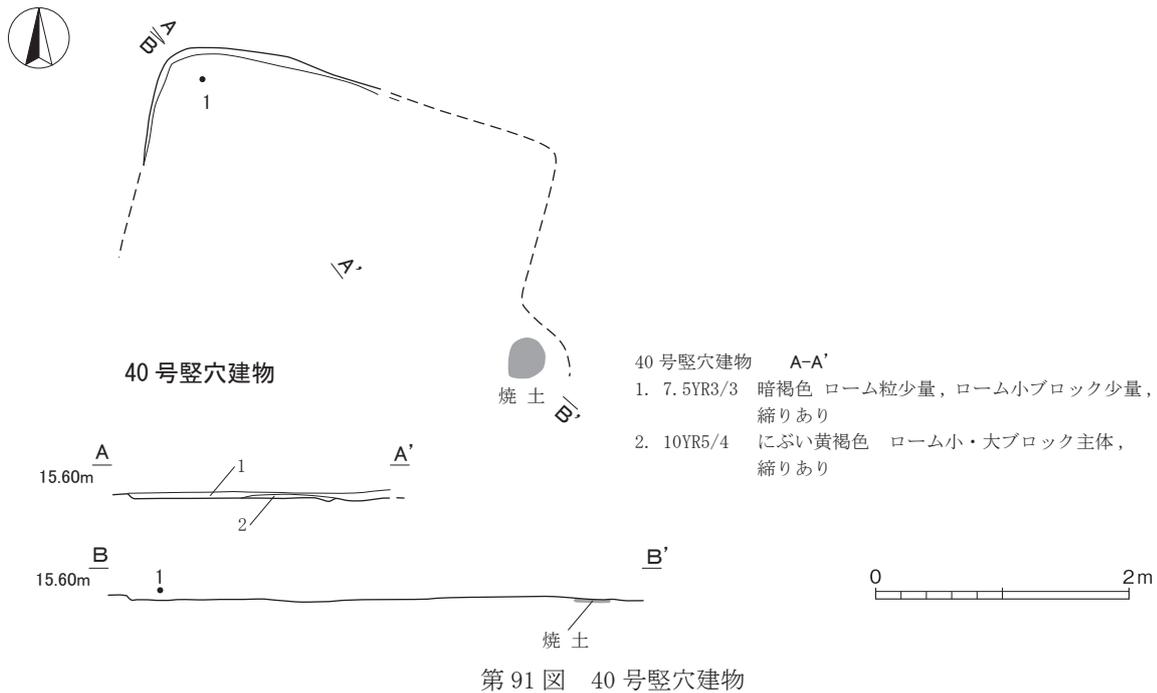


第 90 図 39 号竪穴建物

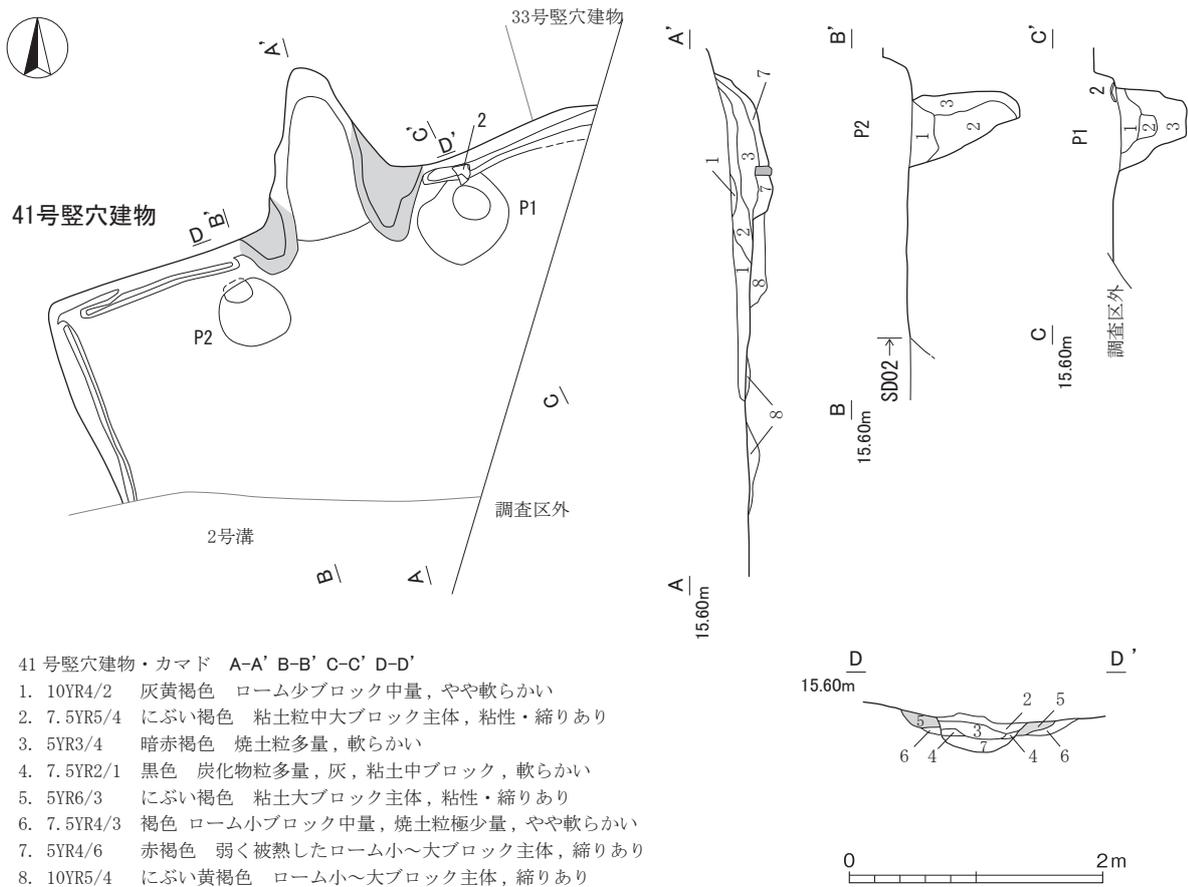
内外面黒色処理をした半球形の坏と須恵器模倣形の坏がある。高坏や甕に 6 世紀後半頃のやや古い形状の特徴が見られる。 所見 出土遺物は 6 世紀後半～7 世紀前半頃のものと思われる。

38 号竪穴建物 (第 89・93 図, 表 15, 図版 11・31)

**位置** 東調査区中央部 C10・D10 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 4.58m, 東西方向 1.20m 以上。深さ 0.43m。 **主軸方向** N-7°-E。 **覆土** 覆土は壁際にローム小ブロックを少量含む暗褐色土, 上層に黒褐色土が堆積している。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器坏・甕, 須恵器高台付坏・鉄製品の釘が出土している。 **所見** 須恵器高台付坏は 9 世紀第 2 四半期頃のもの, 土師器の坏は 10 世紀以降のものかと思われる。

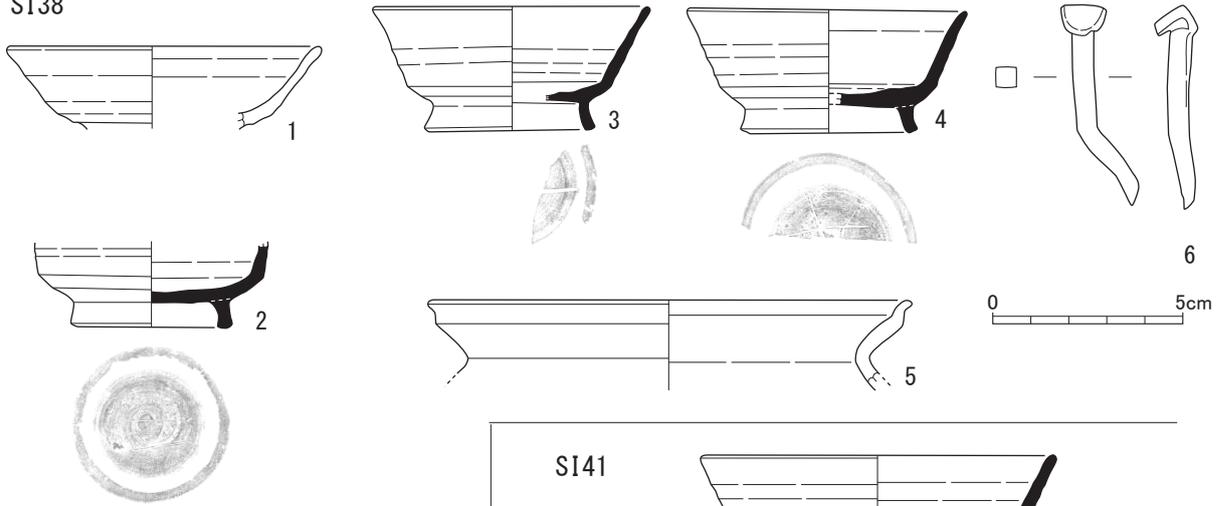


第91図 40号竪穴建物

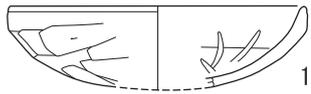


第92図 41号竪穴建物

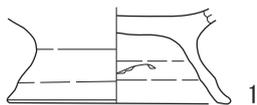
SI38



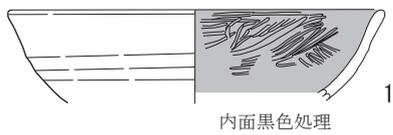
SI39



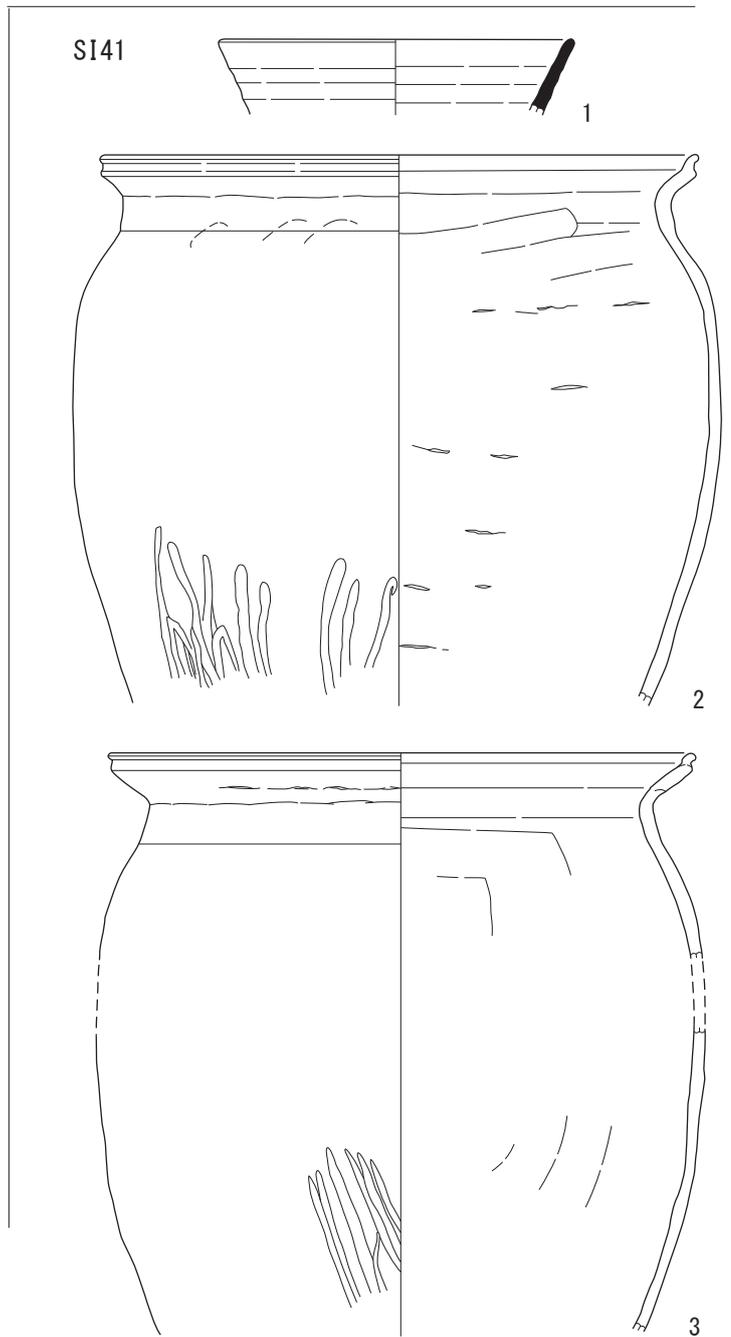
SI40



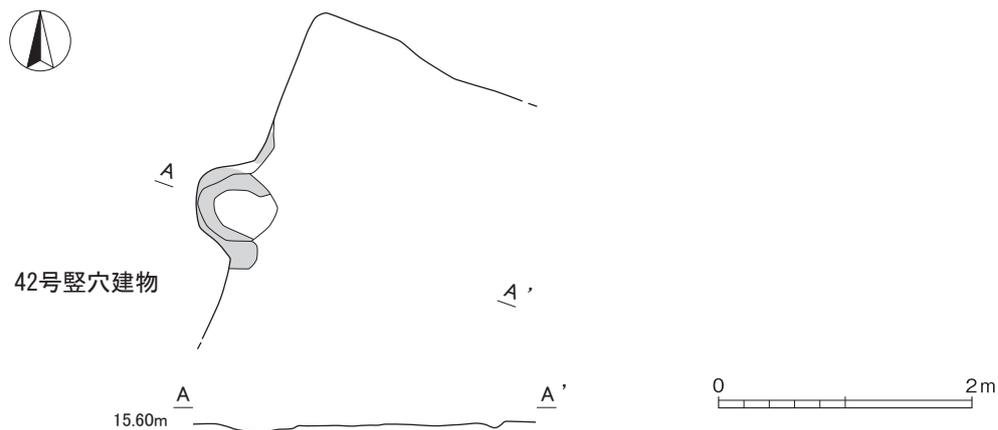
SI42



SI41



第 93 图 38・39・40・41・42 号竖穴建物出土遺物



第94図 42号竪穴建物

39号竪穴建物（第90・93図，表15，図版11・31）

**位置** 東調査区北部B10グリッドに位置する。**重複関係** 16号土坑と重複し，覆土を掘り込まれている。

**規模と平面形** 南北方向1.5m以上，東西方向1.6m以上。深さ0.36m。大半は調査区外に延びて道路によって削平されている。**主軸方向** N-34°-W。**覆土** 覆土は褐色土層を主体とし，壁際に黒褐色土・ロームブロック層が堆積している。**床面** 全体に硬化している。**遺物** 土師器坏が出土している。**所見** 出土している土師器坏は7世紀前半～中頃のものかと思われる。

40号竪穴建物（第91・93図，表15，図版31）

**位置** 東調査区中央部D11グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向1.8m以上，東西方向3.2m。深さ0.07m。**主軸方向** N-72°-W。**覆土** 覆土は薄くロームを少量含む暗褐色土が堆積している。**カマド** 北西隅から南東に3m程離れた位置に焼土化した径30cm程の範囲があり，カマドの火床部の残存と考えられる。そのためカマドは東壁側にあったと思われる。**床面** 硬化面は残存していない。**遺物** 土師器碗の高台部が出土している。**所見** 出土している土師器碗は足高高台碗で10世紀後半代のものかと思われる。

41号竪穴建物（第92・93図，表15，図版11・32）

**位置** 西調査区東部E9・F9グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向1.65m以上，東西方向4.96m。深さ0.3m。**主軸方向** N-16°-W。**覆土** 覆土はカマドの崩壊に伴う粘土を含む土層を主体として堆積している。**ピット** 主柱穴はP1・2でカマドに近い北壁寄りにある。**カマド** 北壁中央部にあり，規模は幅1.55m，燃烧室幅0.64m，燃烧室奥行き0.87mである。**床面** 全体に硬化している。**遺物** 土師器甕・須恵器坏片が出土している。**所見** 出土している土師器甕は9世紀前葉頃のものと思われる。

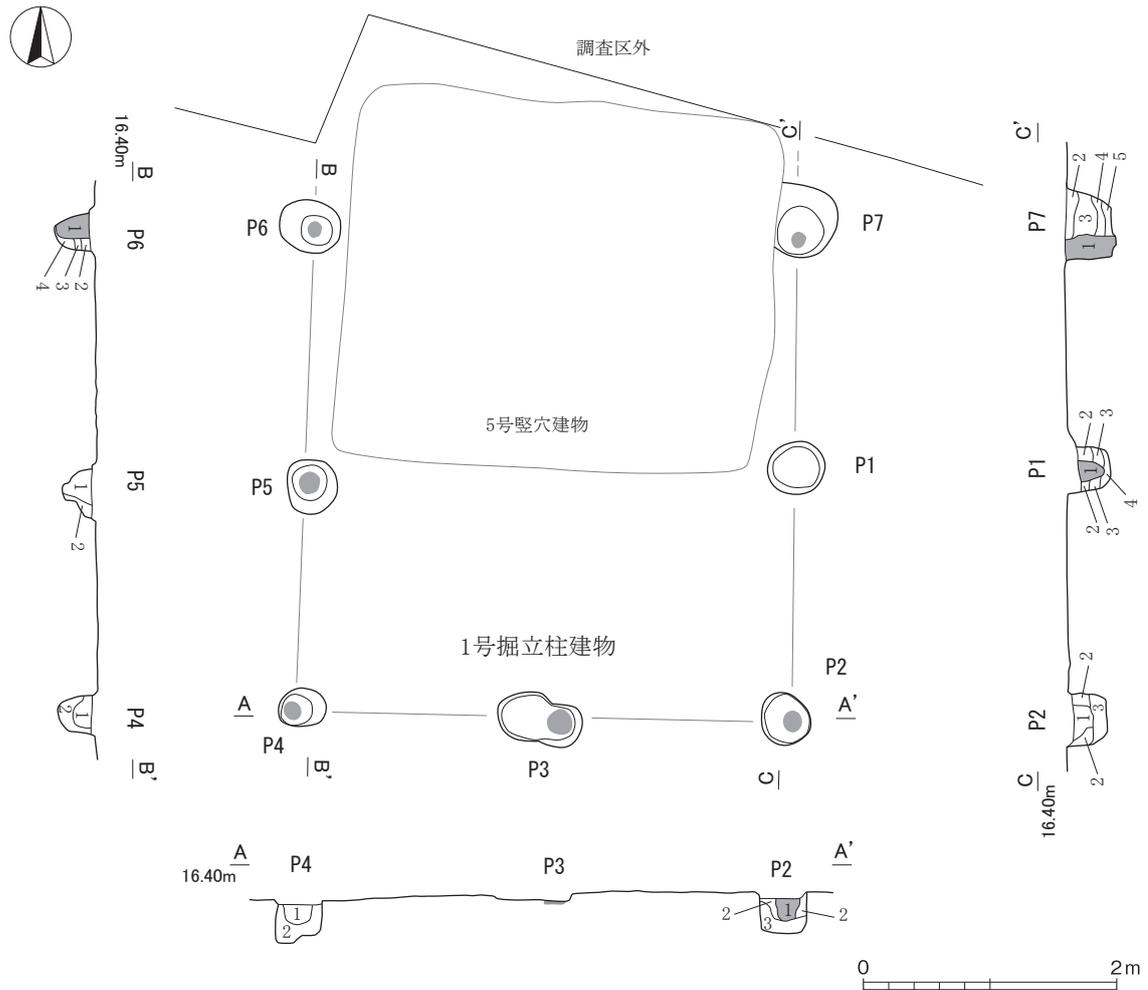
42号竪穴建物（第93・94図，表15，図版11・31）

**位置** 東調査区中央部D10・D11グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向2.8m以上，東西方向1.8m以上。深さ0.04m。**主軸方向** N-71°-W。**覆土** 覆土はほとんど確認できなかった。**カマド** 西壁側にあり，規模は幅1.13m，燃烧室幅0.34m，燃烧室奥行き0.49mである。**床面** 硬化面は残存していない。**遺物** 土師器碗が出土している。**所見** 出土している土師器碗は10世紀前半頃のものかと思われる。

## 第2節 掘立柱建物

1号掘立柱建物 (第95・98図, 表15, 図版12・32)

**位置** 西調査区北西部 D3・C3 グリッドに位置する。**規模と平面形** 桁行は2間分が確認され、さらに北に延びているものと思われる。梁間は2間で、柱間寸法は西から2.1mと1.8mである。桁行の柱間寸法は西側列が



### 1号掘立柱建物 P1

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
2. 10YR5/6 黄褐色 ローム小ブロック多量, やや縮りあり
3. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, やや縮りあり
4. 10YR5/6 黄褐色 ローム小ブロック多量, やや縮りあり

### 1号掘立柱建物 P2

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒中量, 軟らかい
3. 10YR5/6 黄褐色 ローム小・中ブロック主体, 黒褐色土小ブロック少量, 縮りあり

### 1号掘立柱建物 P4

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック中量, 軟らかい
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒多量, 軟らかい

### 1号掘立柱建物 P5

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック中量, 軟らかい
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック多量, やや縮りあり

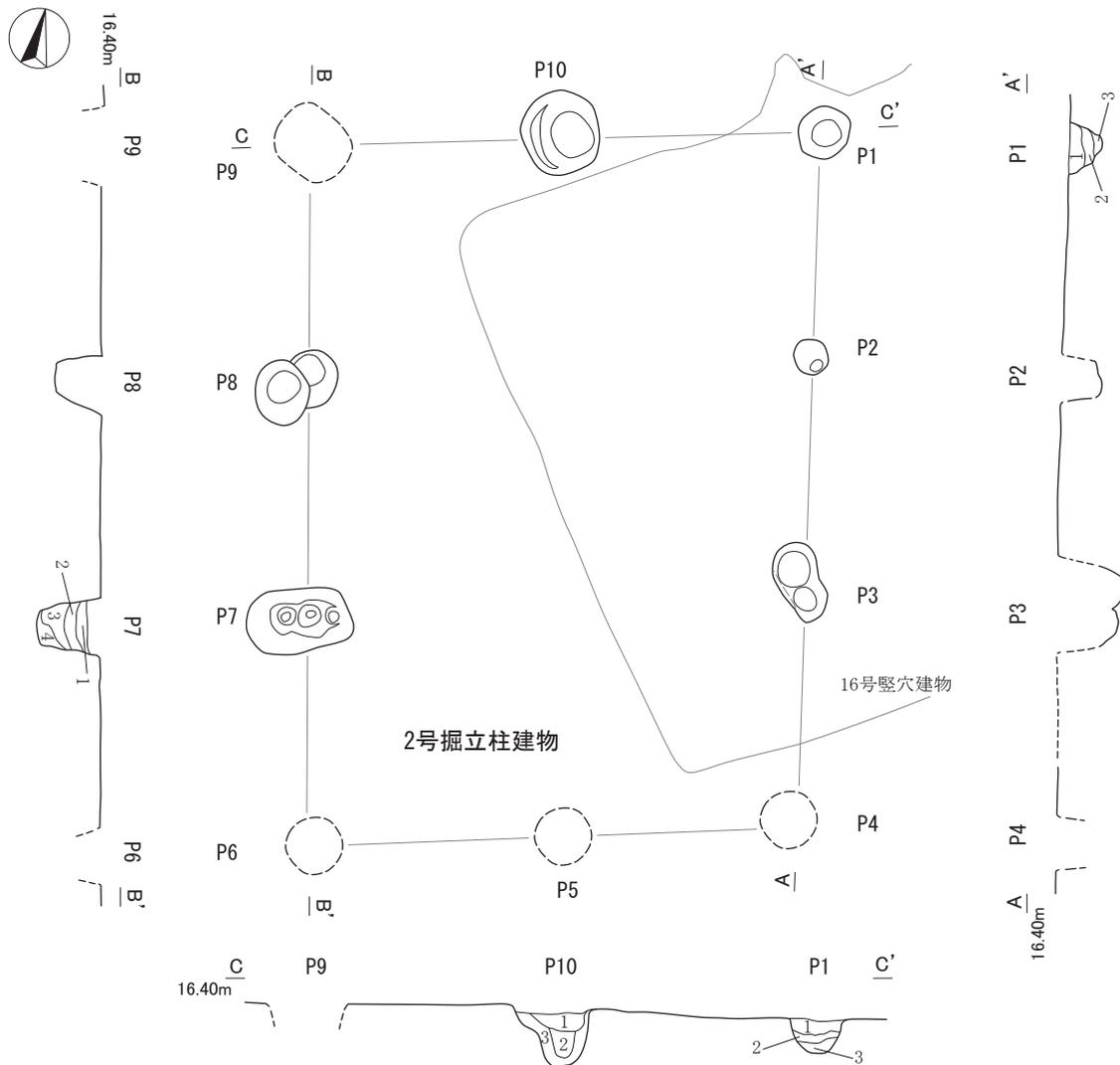
### 1号掘立柱建物 P6

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, やや縮りあり
3. 10YR5/6 黄褐色 ローム小ブロック多量, やや縮りあり
4. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, やや縮りあり

### 1号掘立柱建物 P7

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒多量, 軟らかい
2. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, 縮りあり
3. 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒少量, 縮りあり
4. 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 縮りあり
5. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, 縮りあり

第95図 1号掘立柱建物

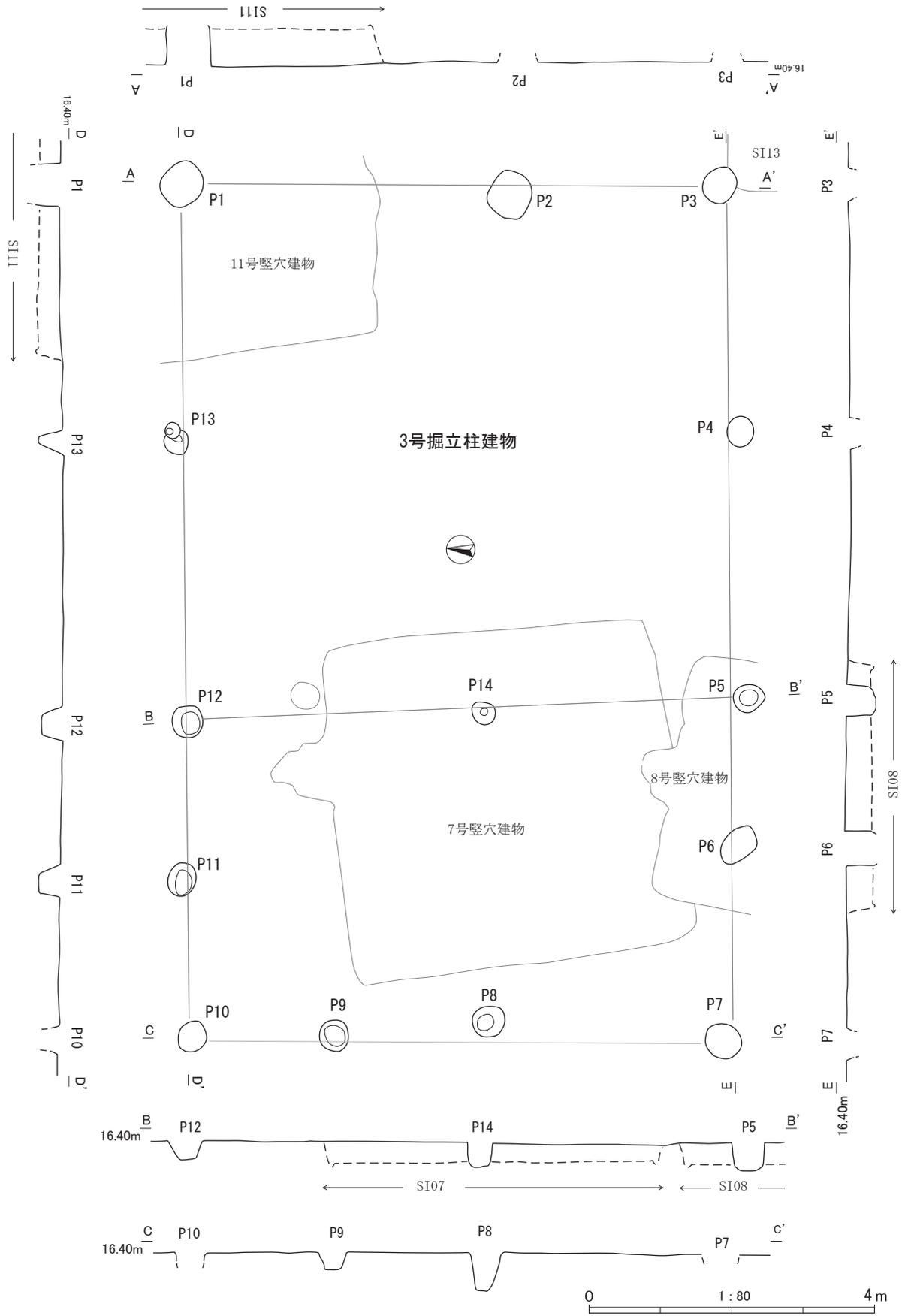


- 2号掘立柱建物 P1
1. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒少量, 粘性・縮りあり
  2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 粘土粒少量, やや縮りあり
  3. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック主体, 粘性・縮りあり
- 2号掘立柱建物 P7
1. 7.5YR4/4 褐色 ローム粒多量, 黒褐色土小ブロック極少量, 縮りあり
  2. 7.5YR4/4 褐色 ローム粒多量, 黒褐色土小ブロック少量, 縮りあり
  3. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒中量, 黒褐色土小ブロック多量, 縮りあり
  4. 10YR4/4 褐色 ローム主体, 縮りあり
- 2号掘立柱建物 P10
1. 7.5YR7/4 にぶい橙色 粘土主体, 粘土小・中ブロック, 粘性・縮りあり
  2. 7.5YR4/4 褐色 ローム粒中量, 軟らかい
  3. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒少量, 縮りあり

0 2m

第96図 2号掘立柱建物

南から1.8mと2.1mで、東側列は南から2.1mと1.8mである。主軸方向 N-1°-E。柱穴 平面形は楕円形で、深さは30cm前後である。P3だけ5cm程度の深さで他の柱穴と比べ極端に浅いが柱当たりは確認することができたので柱穴とした。柱痕はP1, P2, P6, P7で確認され、直径は15~20cmである。遺物 遺物は土師器甕・須恵器甕蓋の小片等が少量出土している。所見 出土している須恵器蓋は8世紀第4四半期頃のものかと思われる。



第 97 图 3 号掘立柱建物

2号掘立柱建物（第96・98図，表15，図版32）

**位置** 西調査区西部E4・D4グリッドに位置する。**規模と平面形** 梁間2間，桁行3間の南北棟である。柱間寸法は梁間が南から推定1.8mと1.95mと1.8mとなる。桁行は西から2.1mと1.95mである。**主軸方向** N—12°—W。**柱穴** 平面形は円形ないし楕円形で，深さは27～57cmである。**遺物** 遺物は図化できない須恵器坏の体部小片がP7・8から少量出土している。**所見** 出土している須恵器坏小片の内1点に内湾気味に立ち上がるものがあり9世紀後半頃の時期のものかと思われる。

3号掘立柱建物（第97・98図，表15，図版32）

**位置** 西調査区西部E2・E3・F2・F3グリッドに位置する。**規模と平面形** 東西方向12m，南北方向7.6mの東西棟である。桁行の柱間寸法は北側で2.2～4.0m，南側で2.2～3.8mで，梁間の柱間寸法は西側で2.1～3.4m，東側で3.0～4.6mである。**主軸方向** N—5°—W。**柱穴** 平面形は円形ないし楕円形で，深さは30～40cmである。**遺物** 遺物はP8から灰釉陶器長頸瓶の体部片が，P9からは青磁皿の体部小片が出土している。**所見** 古代の竪穴建物を切り込んでおり古代よりは新しく，柱穴から青磁皿の破片が出土していること，柱間寸法に一定の規則性がみられないことなどから中・近世の遺構の可能性があり，道路側溝の2・3号溝と主軸が平行しており，道路側溝は近世には埋没しているので近世か古くて中世の時期のものかと思われる。

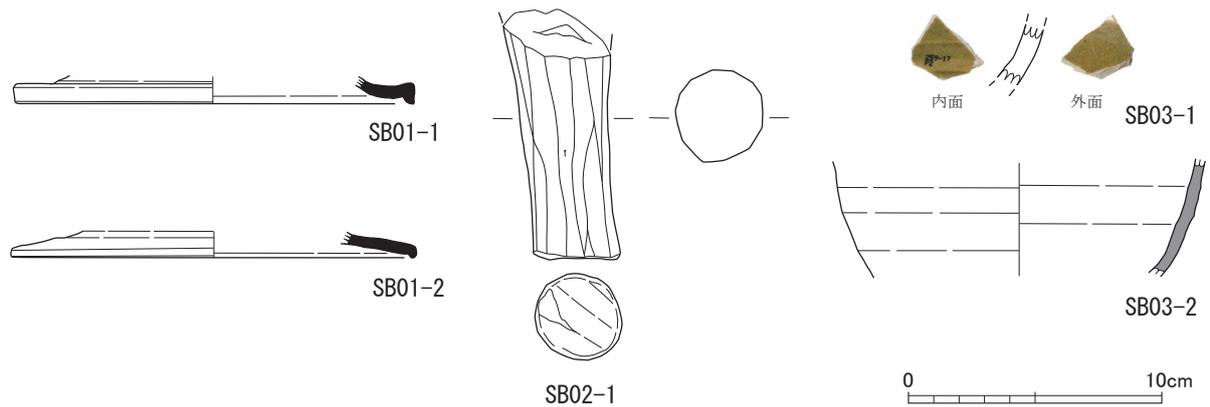
### 第3節 井戸

1号井戸（第99・100図，表16，図版11・32）

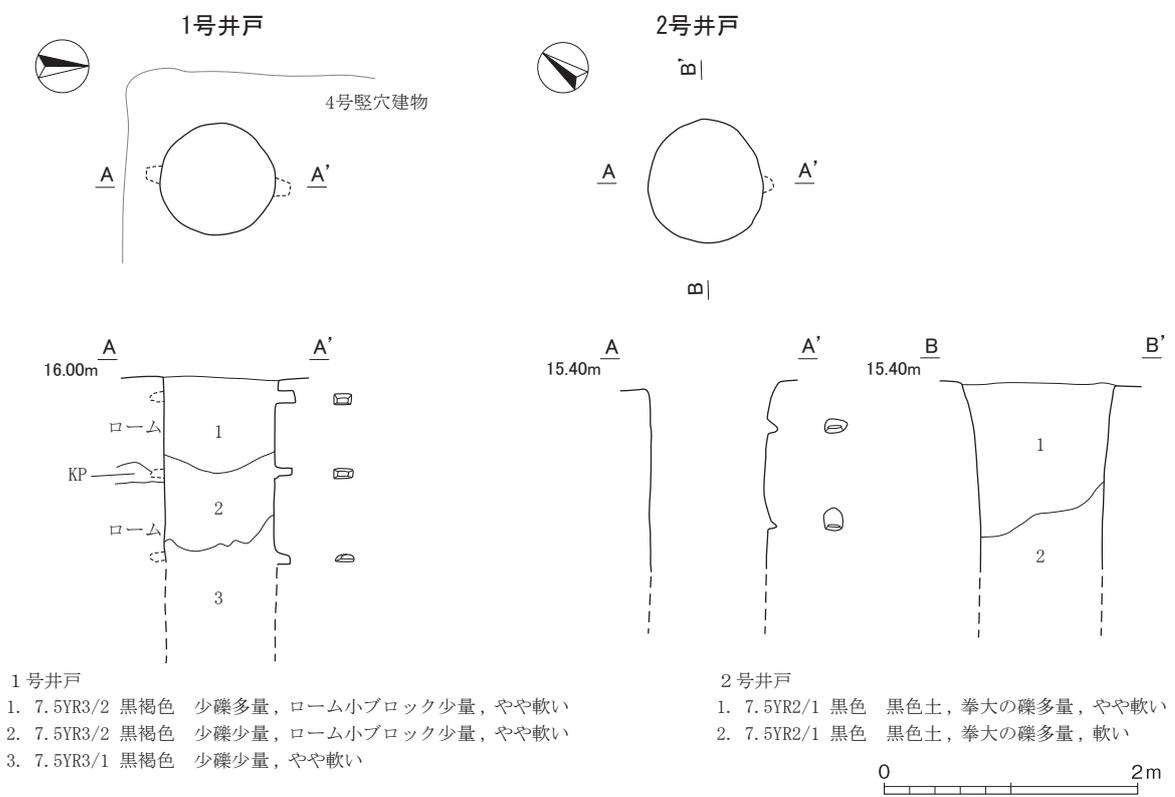
**位置** 西調査区西部D2グリッドにある。**重複関係** 4A・4B号竪穴建物と重複し両者を壊している。**規模と平面形** 径0.87～0.92mの円形で，深さ2.30m以上。**足掛けピット** 井戸の壁面に相対するように1対の足掛けピットが，鉛直方向60～70cmの高さの間隔を空けて確認されている。足掛けピットの入口は幅約15cm，高さ7～8cmの長方形で奥行き12～15cmである。**覆土** 覆土はローム小ブロックを少量含んだやや軟らかい黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から陶器の片口鉢が出土している。**所見** 出土している陶器の片口鉢は，瀬戸・美濃産の17世紀後半頃ののものかと思われる。足掛けピットは井戸の掘削か補修の際に井戸底まで上り下りするのに両方の穴に角材の先端を差し込んで梯子のようにして使用したものかと推測される。

2号井戸（第99・100図，表16，図版12・32）

**位置** 西調査区西部B11グリッドにある。**規模と平面形** 径0.88～0.96mのほぼ円形で，深さ2.0m以上。**足掛けピット** 井戸の片側壁面に高さ約80cmの間隔を空けて2段の足掛けピットが確認された。入口は方形・長方形で底面は奥に向かって平坦で，天井は奥に向かって低くなっていく。奥行きは7～8cmと1号井戸と比較すると浅くなっている。**覆土** 覆土はこぶし大の礫を多く含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から陶器の碗・皿・鉢・徳利，青磁の高台皿かと思われるもの，茶臼の上臼が出土している。**所見** 出土している2の陶器の皿は肥前陶器Ⅳ期の17世紀末～18世紀第3四半期頃ののものかと思われる。



第98図 掘立柱建物出土遺物



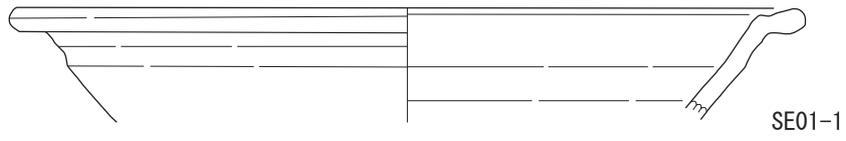
第99図 1・2号井戸

## 第4節 陥し穴

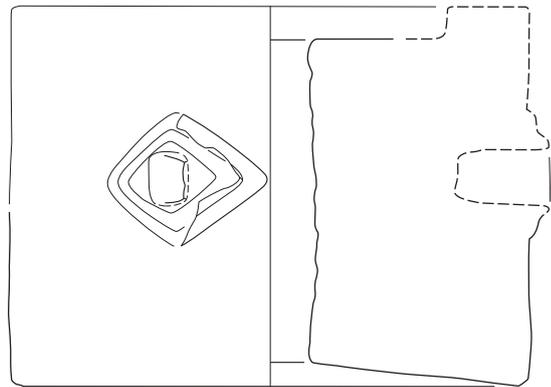
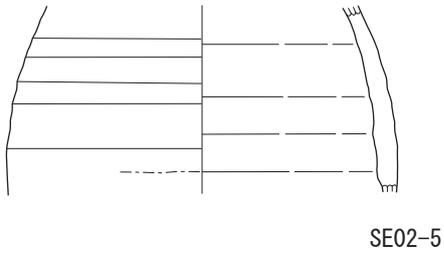
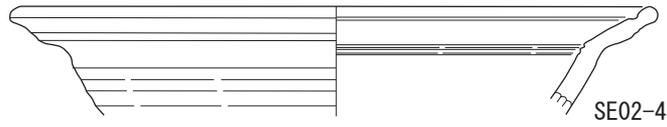
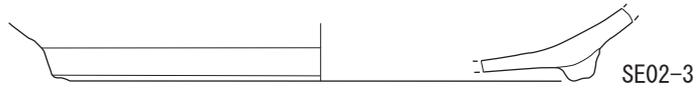
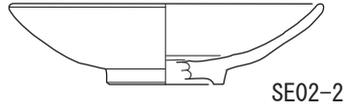
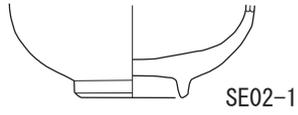
1号陥し穴 (第101図, 図版12)

**位置** 西調査区東部E8グリッドにある。**規模と平面形** 上端の長軸方向の長さ2.75m, 幅1.10mの長楕円形で, 長軸方向はくびれ部で長さ2.50m, 下端では長軸方向2.87m, 幅1.10mである。底面はほぼ平らである。深さは1.35m。**覆土** 覆土は上層がローム粒を含んだ軟らかい黒褐色土を主体とし, 下層はやや軟らかいこぶい黄褐色ロームを主体としている。**遺物** 覆土上層から縄文土器小片が2点出土している。2点とも加曽利E式期のものである。**所見** 形態から見て縄文時代の陥し穴と見られる。

1号井戸



2号井戸



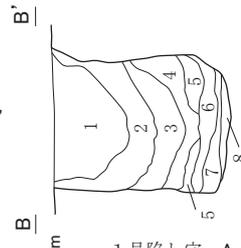
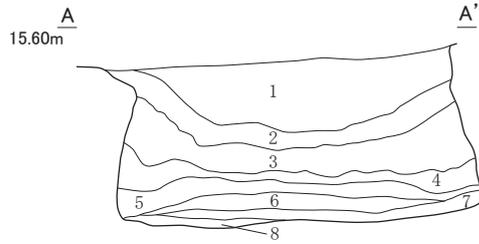
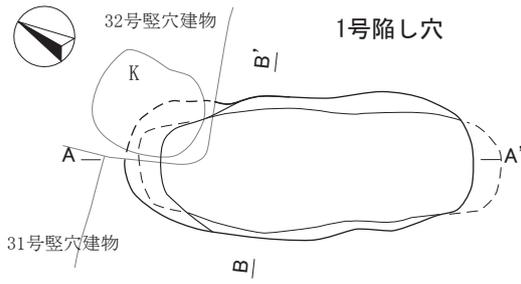
SE02-6



SE02-7

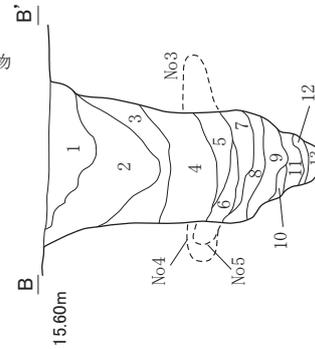
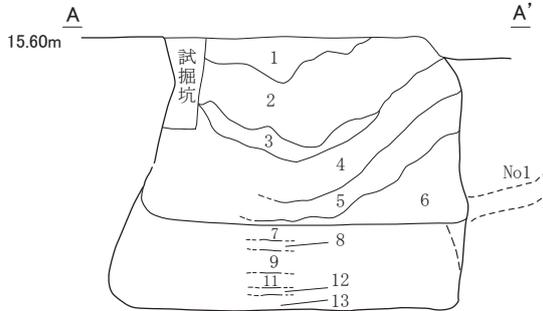
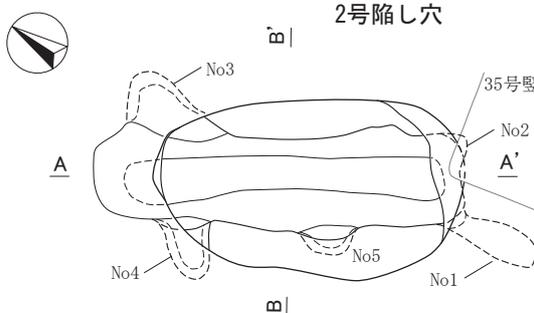


第100図 井戸出土遺物



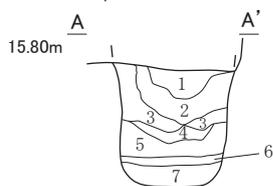
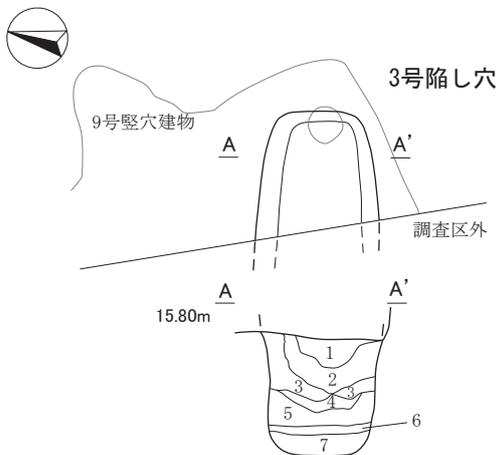
1号陥し穴 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 軟らかい
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム主体, ローム小~大ブロック多量, やや軟らかい
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム主体, 明黄褐色ローム大ブロック多量, やや軟らかい
4. 10YR5/5 にぶい黄褐色 ローム主体, ローム小~大ブロック多量, やや軟らかい
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム大ブロック主体, やや軟らかい
6. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小~大ブロック中量, やや軟らかい
7. 10YR5/5 にぶい黄褐色 ローム主体, ローム小~大ブロック多量, やや軟らかい
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム小ブロック主体, やや軟らかい



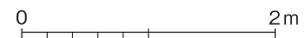
2号陥し穴 A-A' B-B'

1. 7.5YR4/3 褐色 ローム粒少量, 縮りあり
2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
3. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, やや軟らかい
4. 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒多量, 軟らかい
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム中大ブロック主体, 軟らかい
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム中大ブロック主体, やや軟らかい
7. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小~中ブロック中量, 縮りあり
8. 10YR6/4 にぶい黄橙色 ローム小ブロック主体, 縮りあり
9. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
10. 10YR6/4 にぶい黄橙色 ローム大ブロック主体, 縮りあり
11. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック多量, 縮りあり
12. 10YR6/4 にぶい黄橙色 ローム主体, 縮りあり
13. 10YR3/3 暗褐色 ローム小ブロック多量, 縮りあり



3号陥し穴 A-A'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック多量, 縮りあり
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体, 明黄褐色ローム大ブロック多量, やや軟らかい
4. 10YR5/5 にぶい黄褐色 ローム主体, ローム小・中ブロック中量, 黒色土小・中ブロック中量, 縮りあり
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム大ブロック主体, 縮りあり
6. 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 軟らかい
7. 10YR5/5 にぶい黄褐色 ローム大ブロック主体, 縮りあり

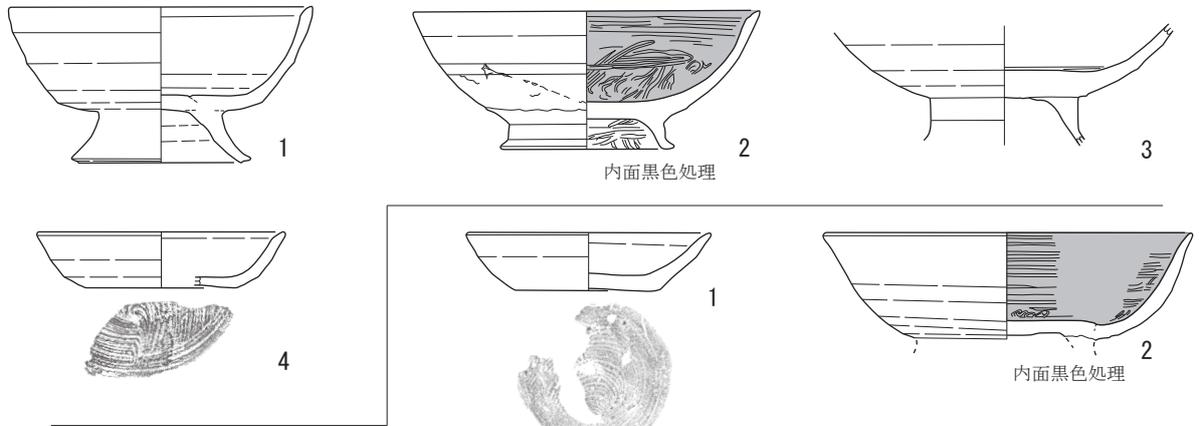


第101図 1・2・3号陥し穴

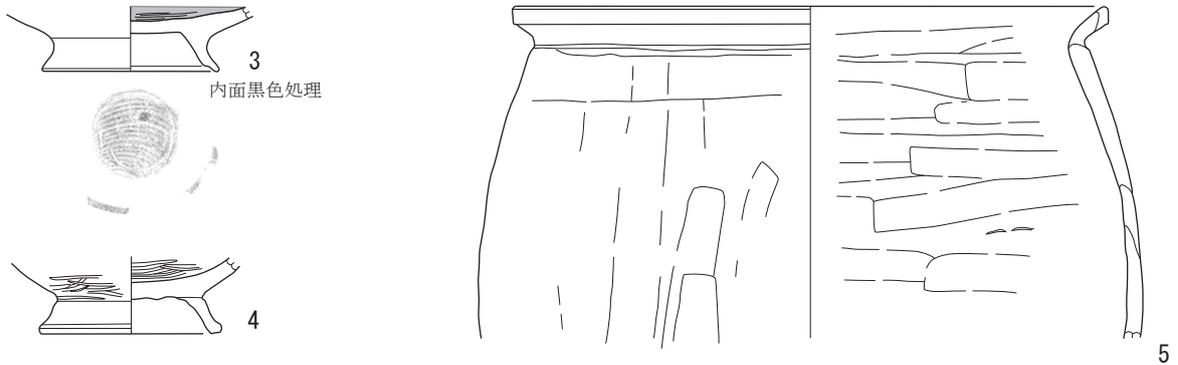
2号陥し穴



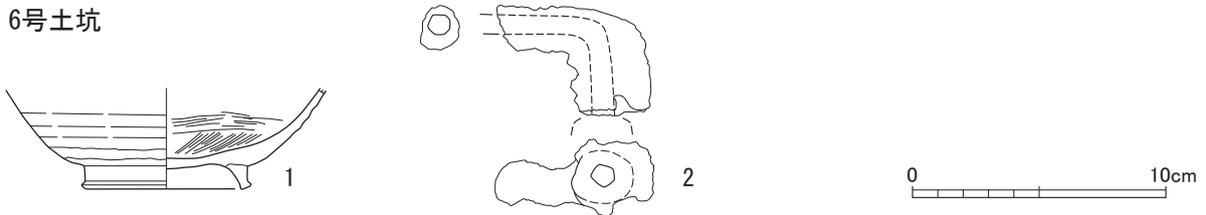
1号土坑



5号土坑



6号土坑



第102図 2号陥し穴・土坑出土遺物

2号陥し穴 (第101・102図, 表16, 図版12・32)

**位置** 東調査区南西部E10グリッドにある。**規模と平面形** 上端の長軸方向の長さ2.45m, 幅1.43mの長楕円形で, くびれ部で長さ2.25m, 下端では長軸方向2.75m, 幅0.18mである。底面は細い溝状で, 深さは2.15mである。

**覆土** 覆土は7～13層までは人為的な埋め戻し土層でほぼ水平に堆積し締りがある。7層まで埋め戻した後再度陥し穴として利用しており, 6層から上は自然埋没層と見られる。

**その他特徴** 7層上面で側壁に5か所の掘削痕跡が見られる。No.1掘削穴はトンネル状に上向きに傾斜して上り途中で終わっている。その他の穴も掘削したが途中で終了している。

**遺物** 出土していない。**所見** 当初, 細い溝状の底面の陥し穴として利用していたものを, 1号陥し穴のような少し幅のある平坦な底面に成形してから再度利用しているようである。二次利用の際に生じた側壁の掘削穴は, おそらく落下した小動物が壁面を掻き削って逃げようとして生じたものと推測される。

### 3号陥し穴（第101図，図版12）

**位置** 西調査区南西部F3グリッドにある。**重複関係** 9号竪穴建物の床下から確認された**規模と平面形** 長さ1m以上，幅0.97mの長方形と見られ，深さは1.40mである。**覆土** 覆土はロームのブロックを多く含んだにぶい黄褐色土を主体としている。**出土遺物** 出土していない。**所見** 切り合い関係と形態から見て陥し穴と見られる。

## 第5節 土坑

### 1号土坑（第102・103図，表16，図版13・32）

**位置** 西調査区西部C3・D3グリッドにある。**重複関係** 2号竪穴建物と重複し2号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長軸0.7m，短軸0.65m，深さ0.34mの楕円形。**覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含んだ黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から土師器の椀が3点出土している。**所見** 出土している土師器の椀類は，武田西埜遺跡127号出土遺物（佐々木1999）に類似しており10世紀第3四半期頃の時期のものと見られる。

### 2号土坑（第103図）

**位置** 西調査区西部D3グリッドにある。**重複関係** 2号竪穴建物と重複し2号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長軸0.69m，短軸0.62m，深さ0.1mの隅丸方形。**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ黒褐色土を主体としている。**遺物** 内面を磨いたロクロ成形土師器底部破片が出土している。**所見** 1・3号土坑と規模や深さが似ており，一列に並んでいるので何らかの関連があるものと見られる。

### 3号土坑（第103図）

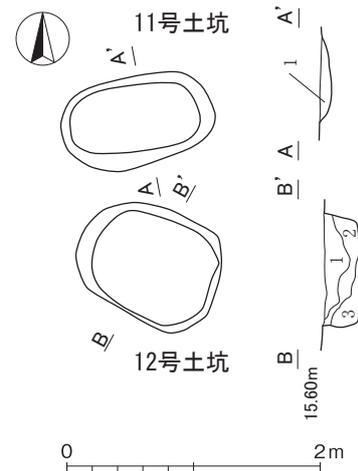
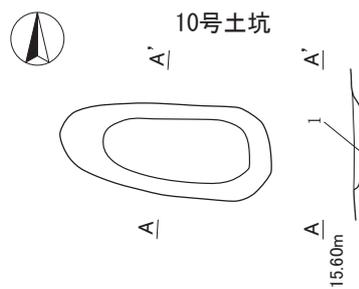
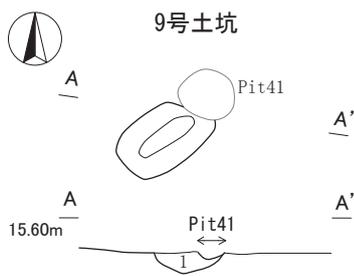
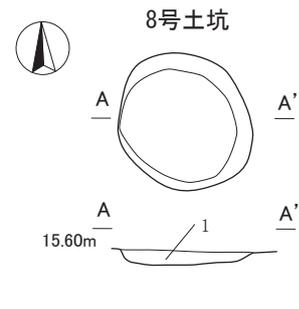
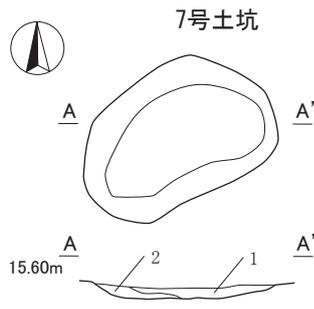
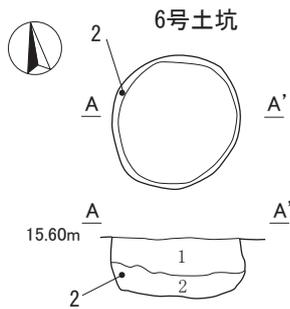
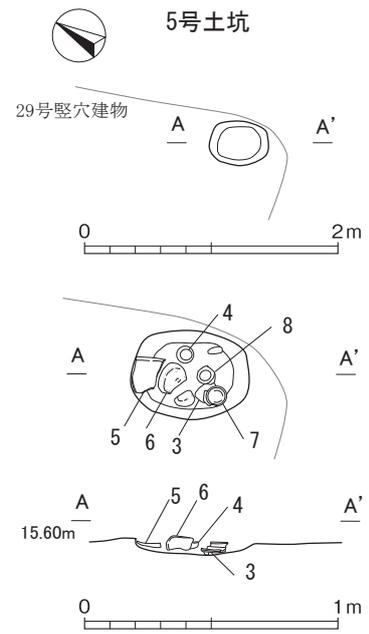
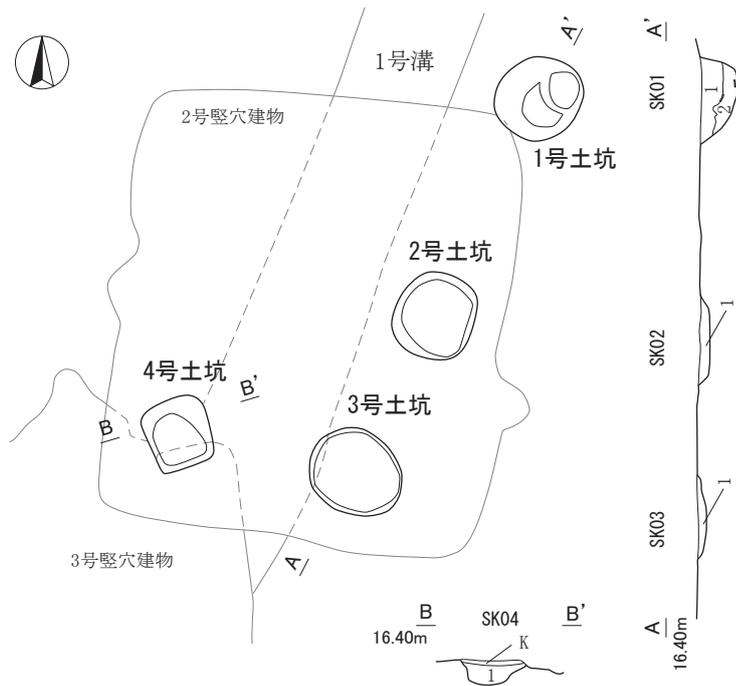
**位置** 西調査区西部D2・D3グリッドにある。**重複関係** 2号竪穴建物と重複し2号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長径0.78m，短径0.66m，深さ0.06mの楕円形。**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。**所見** 1・2号土坑と規模や深さが似ており，一列に並んでいるので何らかの関連があるものと見られる。

### 4号土坑（第103図）

**位置** 西調査区西部D2グリッドにある。**重複関係** 3号竪穴建物と重複し3号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長辺0.51m，短辺0.40m以上，深さ0.26m。**覆土** 覆土はローム粒を含んだやや軟らかい黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から土師器の皿片が出土している。**所見** 出土している土師器の皿片は9世紀頃のものかと思われるので，3号竪穴建物よりも新しく，2号竪穴建物よりは古い土坑の可能性が考えられる。

### 5号土坑（第102・103図，表16，図版13・32）

**位置** 西調査区東部F9グリッドにある。**重複関係** 29号竪穴建物と重複し29号竪穴建物の覆土を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸0.90m，短軸0.65m，深さ0.05mのや方形気味の楕円形。**覆土** 覆土は暗褐色・



1号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, やや締りあり
2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや締りあり

2・3号土坑

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒極少量, 締りあり

4号土坑

1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒中量, やや軟らかい

6号土坑

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
2. 7.5YR4/2 灰褐色 粘土小〜大ブロック多量, 焼土小ブロック少量, 軟らかい

7号土坑

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒極少量, 軟らかい
2. 7.5YR4/3 褐色 ローム主体, 軟らかい

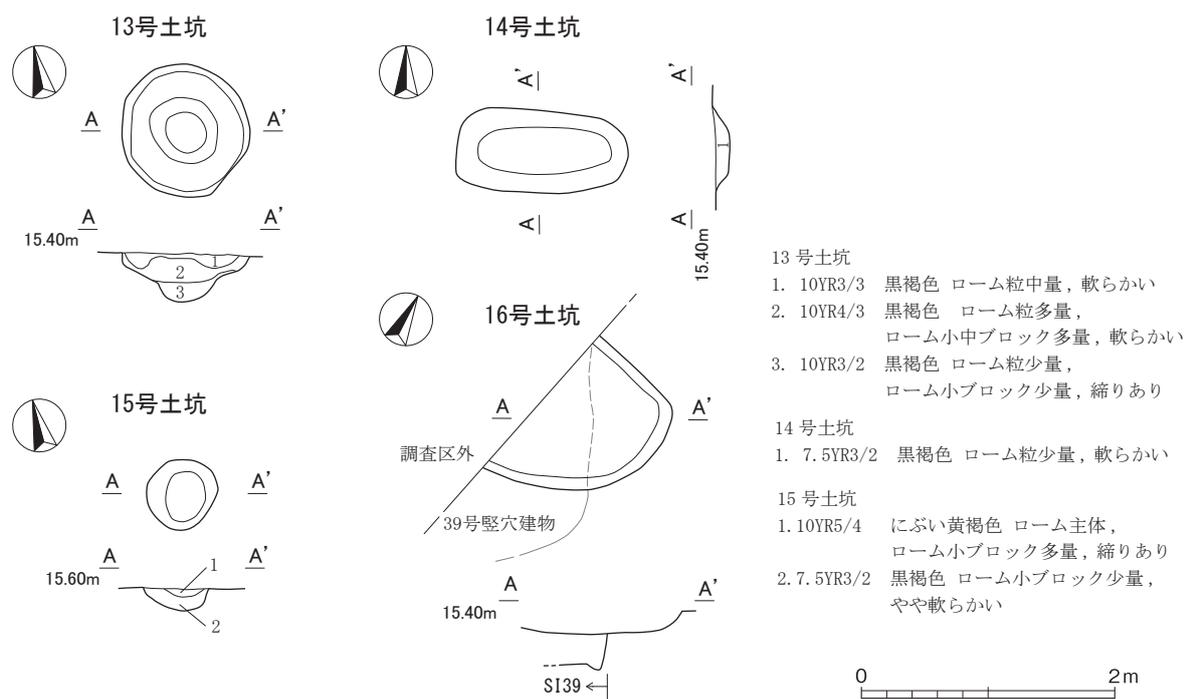
8・9・10・11号土坑

1. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒極少量, 締りあり

12号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
2. 10YR3/3 黒褐色 ローム粒中量, 軟らかい
3. 10YR3/3 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい

第103図 土坑(1)



第104図 土坑(2)

黒褐色土を主体としている。**遺物** 土師器の椀・小皿・甕がまとまって出土している。そのほかに重量830g程の斑れい岩の被熱礫が出土している。**所見** 10世紀後半頃、小土坑に完形のミニチュア土器を埋納したり、椀や小皿など祭礼に使用したと見られる土器をまとめて廃棄したりする例が、笠間市寺上遺跡の1・2号祭祀土坑や結城市下がり松遺跡383号土坑等で見られる。この土坑も椀・小皿等を祭礼に使用し廃棄した土坑の可能性が考えられる。

6号土坑 (第102・103図, 表16, 図版32)

**位置** 西調査区西部C10・C11グリッドにある。**規模と平面形** 長軸1.13m, 短軸1.01m, 深さ0.45mの楕円形の土坑。**覆土** 覆土は上層が軟らかい黒褐色土で, 下層には粘土の小～大ブロックを多量に含み, 焼土小ブロックを含む灰褐色粘土主体としている。**遺物** 覆土から土師器の椀と不明鉄製品が出土している。**所見** 土師器の椀は10世紀後半頃のものかと思われる。不明鉄製品は, クルル鉤の一部と思われる。

7号土坑 (第103図)

**位置** 西調査区西部C10グリッドにある。**規模と平面形** 長軸1.60m, 短軸1.09m, 深さ0.09mの長楕円形。**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。**所見** 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

8号土坑 (第103図)

**位置** 西調査区西部C11グリッドにある。**規模と平面形** 長径1.17m, 短径1.01m, 深さ11mのほぼ円形。**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ縮りのある黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から土師器の甕の小

片と7世紀頃の土師器坏口縁部小片が出土している。**所見** 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

9号土坑（第103図）

**位置** 西調査区西部C11グリッドにある。**規模と平面形** 長軸0.80m、短軸0.48m、深さ0.12mの長楕円形。

**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。

**所見** 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

10号土坑（第103図）

**位置** 西調査区西部C11グリッドにある。**規模と平面形** 長軸1.69m、短軸0.74m、深さ0.08mの長楕円形。

**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。

**所見** 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

11号土坑（第103図）

**位置** 西調査区西部C10グリッドにある。**規模と平面形** 長軸1.21m、短軸0.71m、深さ0.10mの長楕円形。

**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。

**所見** 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

12号土坑（第103図、図版13）

**位置** 西調査区西部C10グリッドにある。**規模と平面形** 長軸1.17m、短軸0.88m、深さ0.28mの方形気味の楕円形。

**覆土** 覆土はローム粒を少～中量含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から土師器甕の小片と酸化焰焼成の須恵器坏口縁部小片が出土している。

**所見** 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

13号土坑（第104図）

**位置** 西調査区西部B11グリッドにある。**規模と平面形** 長径1.07m、短径1.00m、深さ0.37mのほぼ円形。

**覆土** 覆土は上層がローム粒を少～多量、ローム小中ブロックを多量に含んだ軟らかい黒褐色土、下層はローム粒・ローム小ブロックを少量含んだ締りのある黒褐色土が堆積している。

**所見** 中層の黒褐色土中にはロームブロックを多量に含んで軟らかいため、木の根穴の可能性が考えられる。

14号土坑（第104図）

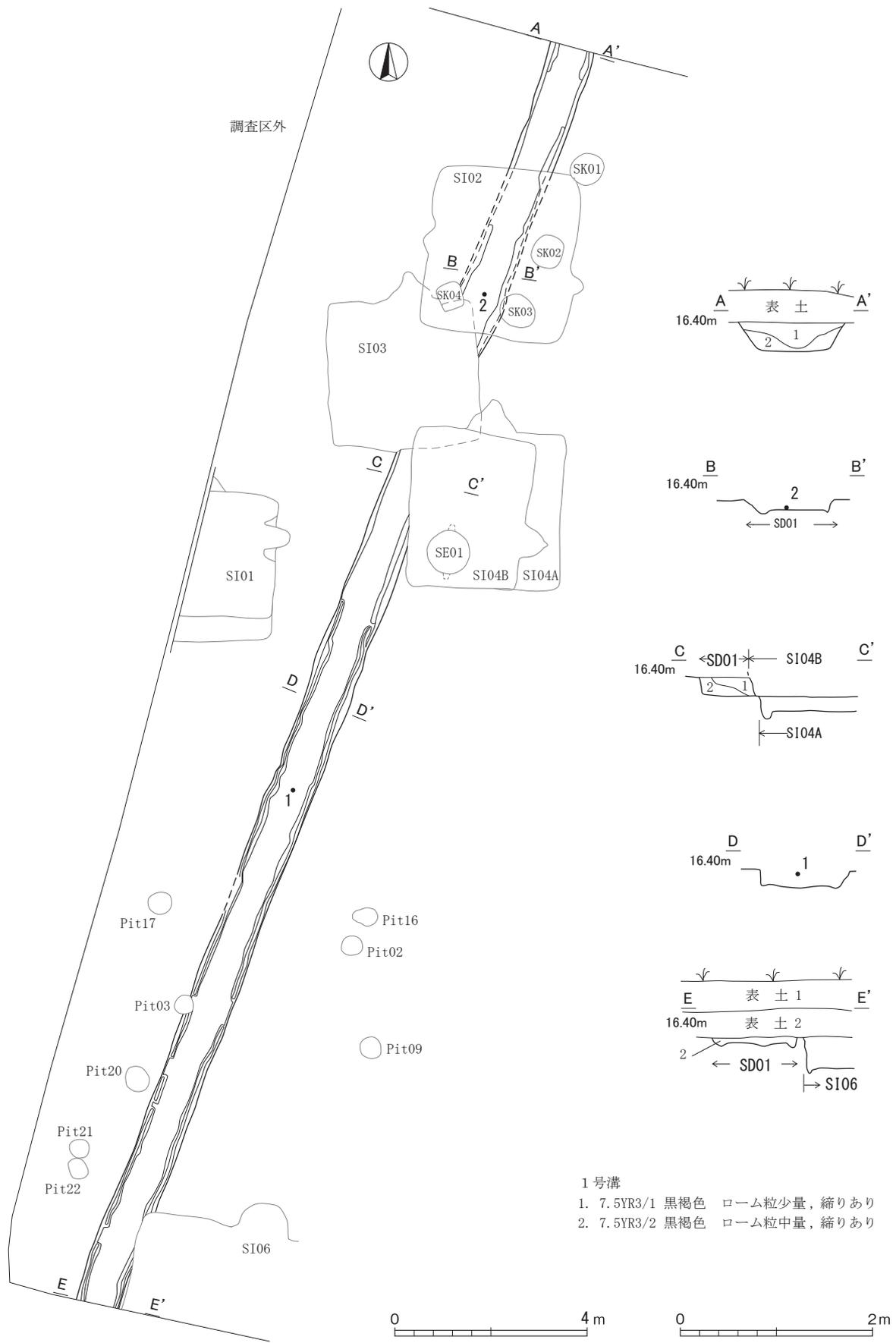
**位置** 西調査区西部B11グリッドにある。**規模と平面形** 長軸1.36m、短軸0.65m、深さ0.07mの長楕円形。

**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から底部糸切り調整の土師器小皿小片が出土している。

**所見** 土師器の小皿破片は10世紀後半頃のものだが、土坑は覆土が軟らかいことや周辺の土坑と形態的にも類似することから新しい時期の土坑とみられる。

15号土坑（第104図）

**位置** 西調査区西部D11グリッドにある。**規模と平面形** 長軸0.56m、短軸0.51m、深さ0.17mの楕円形。



- 1号溝
1. 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒少量, 縮りあり
  2. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, 縮りあり

第 105 図 1号溝

**覆土** 覆土は上層がロームを主体とする層で下層はローム小ブロックを少量含んだやや軟らかい黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。**所見** 覆土の状況から見て、木の根穴の可能性が考えられる。

#### 16号土坑（第104図）

**位置** 西調査区西部B10グリッドにある。**重複関係** 39号堅穴建物の覆土上層を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長径1.40m、短辺0.96m、深さ0.16mの楕円形の土坑。**覆土** 覆土はローム粒を含んだ軟らかい暗褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。**所見** 39号堅穴建物よりも新しく覆土も軟らかいため、新しい時期の土坑とみられ、近代の攪乱穴の可能性も考えられる。

## 第6節 溝

調査区内から溝は9条確認されている。1号溝と7号溝は単独の溝である。2～6・8・9号溝は道路に伴う側溝と考えられるので道路の項目で記述している。

#### 1号溝（第105・110図、表16、図版13・33）

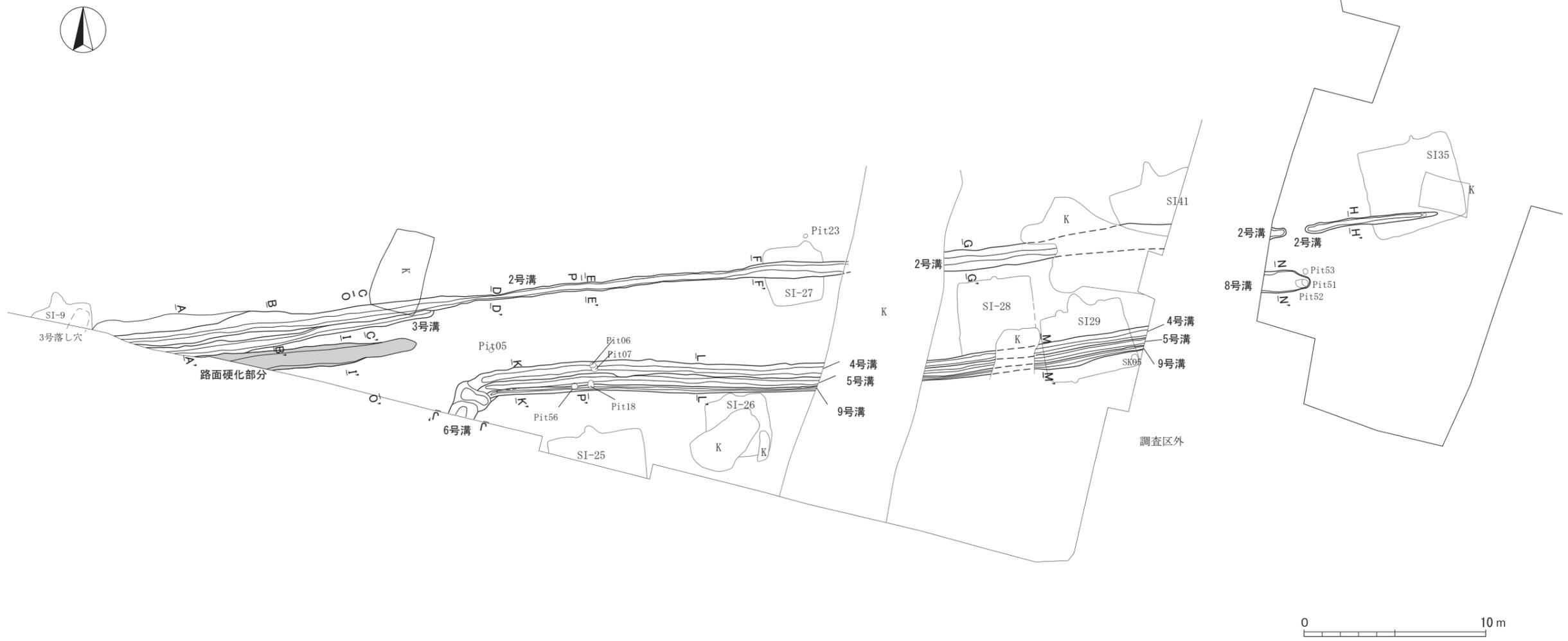
**位置** 西調査区西部F2～C3グリッドにかけて延びている。**重複関係** 2・3・4・6号堅穴建物と重複し、それらに壊されている。**走行方向** N—23°—Eで、南から北に向かって緩やかに下っている。**規模と形状** 上幅最大1.10m、下幅0.75m、深さ0.30m。底面は平坦で、側壁はほぼ垂直気味に立ち上がる。側壁直下に幅0.1m、深さ0.04mの溝の走行方向に沿った小溝がある。調査区内で長さ28m直線的に確認されており、調査区の南端と北端での比高差約4cmあり、北側に向かって非常に緩やかに傾斜しているものと見られる。**覆土** 覆土はローム粒を含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から土師器の甕、土製支脚、鉄製品の鏃が出土している。**所見** 土師器甕の形状は栃木県芳賀地域の6世紀末～7世紀初め頃のものに類似している。

#### 7号溝（第6図）

**位置** 西調査区西部F4～D5グリッドにかけて延びている。**重複関係** 16～20号堅穴建物と重複しそれら建物の覆土上層を掘り込んでいる。**走行方向** N—11°—E。**規模と形状** 上幅最大2.63m、下幅2.28m、深さ0.05m。底面は平坦で、側壁はやや傾斜して立ち上がる。**覆土** 覆土はローム粒を少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。**所見** 堅穴建物との切り合いはすべて7号溝が切っている。全体に浅く幅が一定しない溝で近代の攪乱とも平行しており新しい時期の溝の可能性はある。

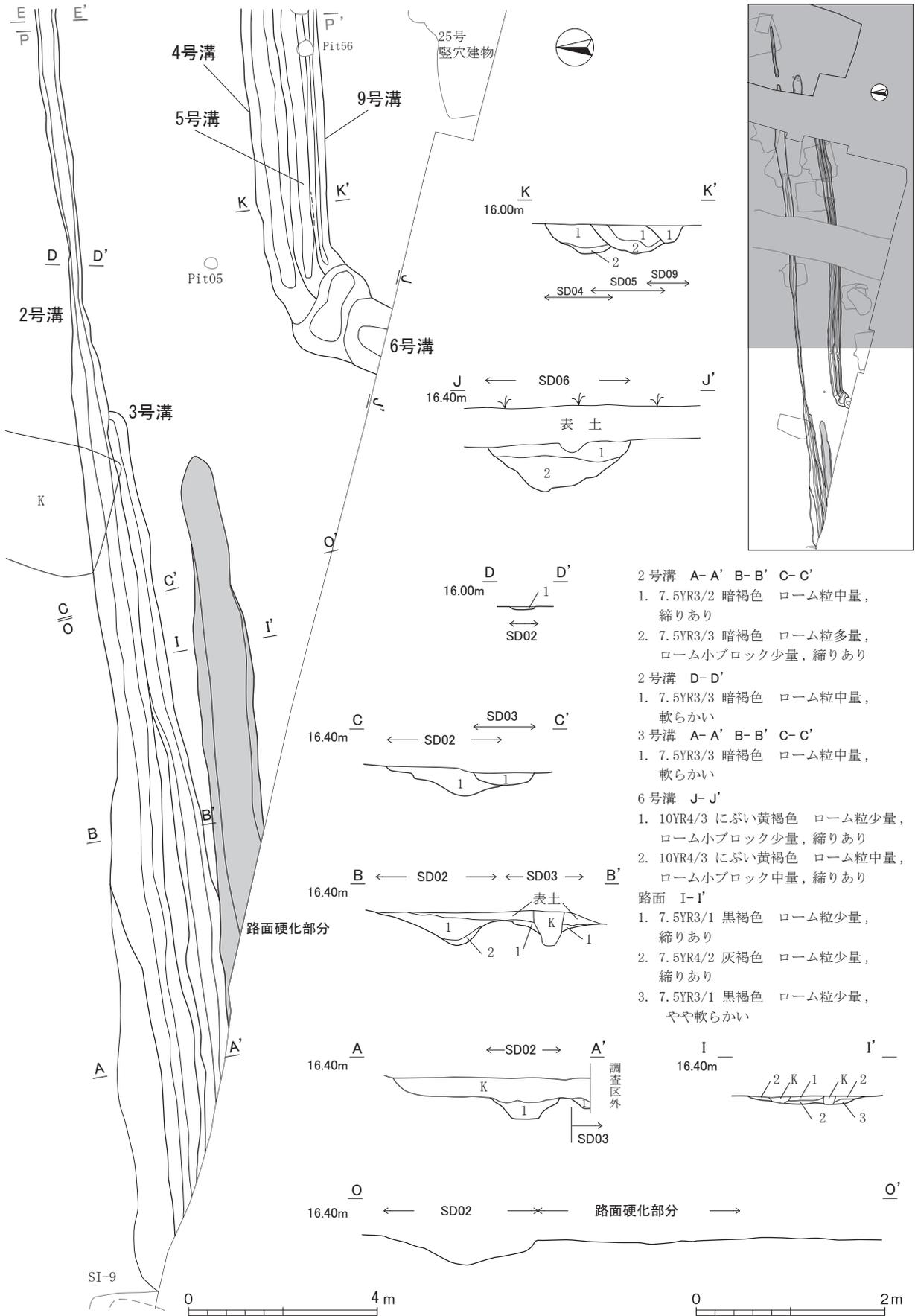
## 第7節 道路

道路とみられるのは西側調査区の南部F3からF10グリッドにかけて東西方向に幅5m余りの間隔で並行して走る溝があり道路側溝と見られるので道路関係溝として扱う。道路関係溝は繰り返し掘削されており北側で2条、南側で3条確認されている。北側の溝は2号溝が古く、新しい溝を3号溝とした。南側の溝は古い順に4・5・9号溝とした。

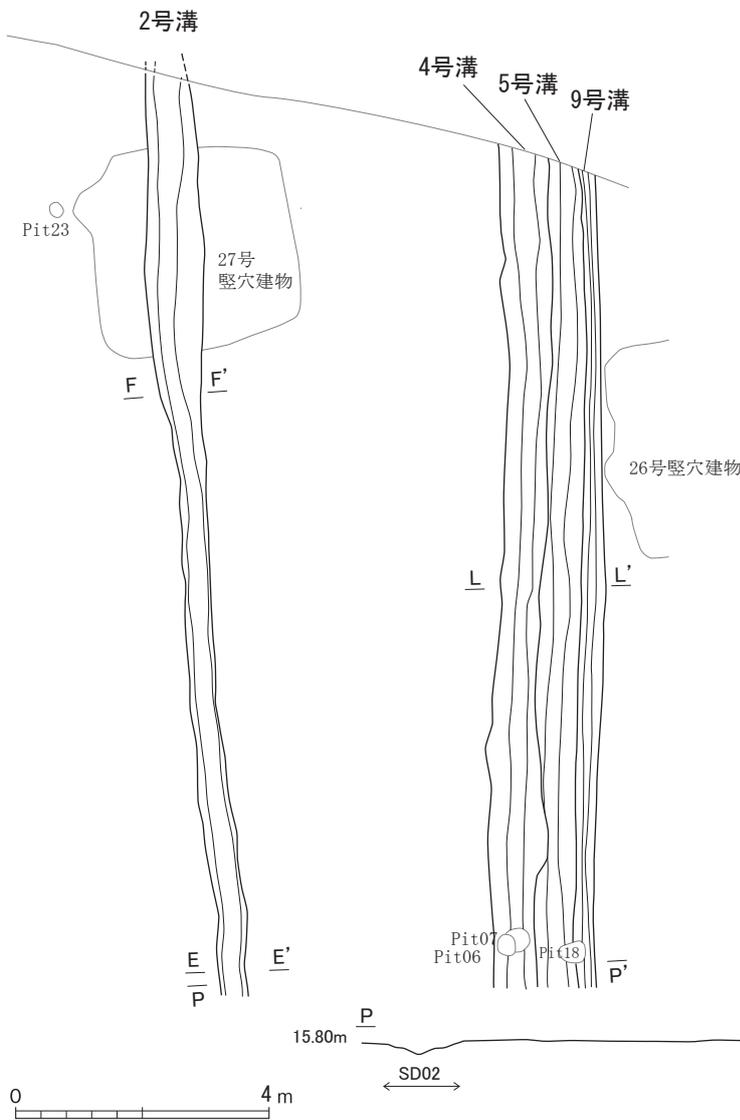
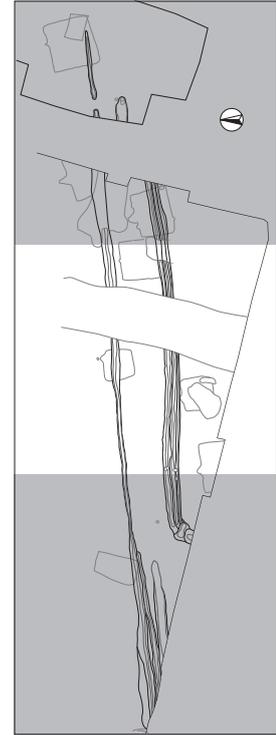
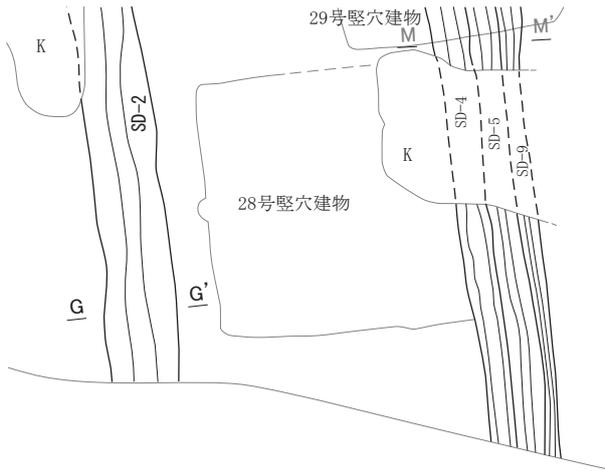


第106図 道路関連溝(2・3・4・5・6・8・9号溝)

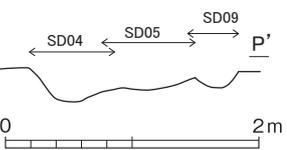
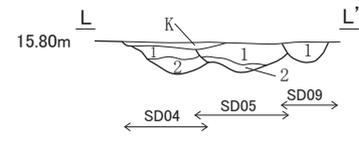
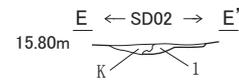
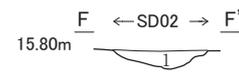
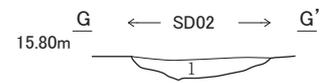




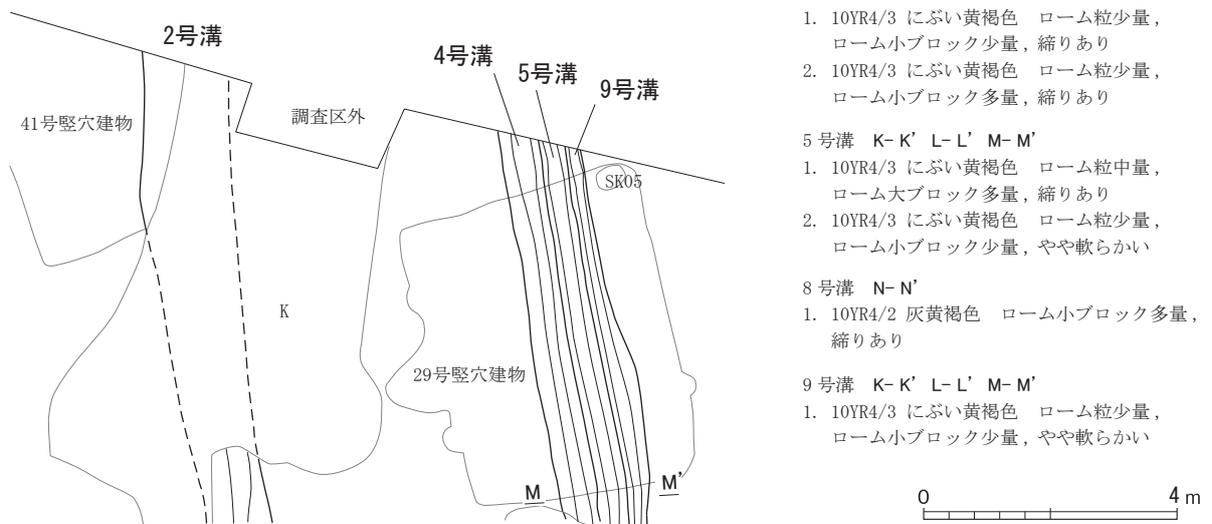
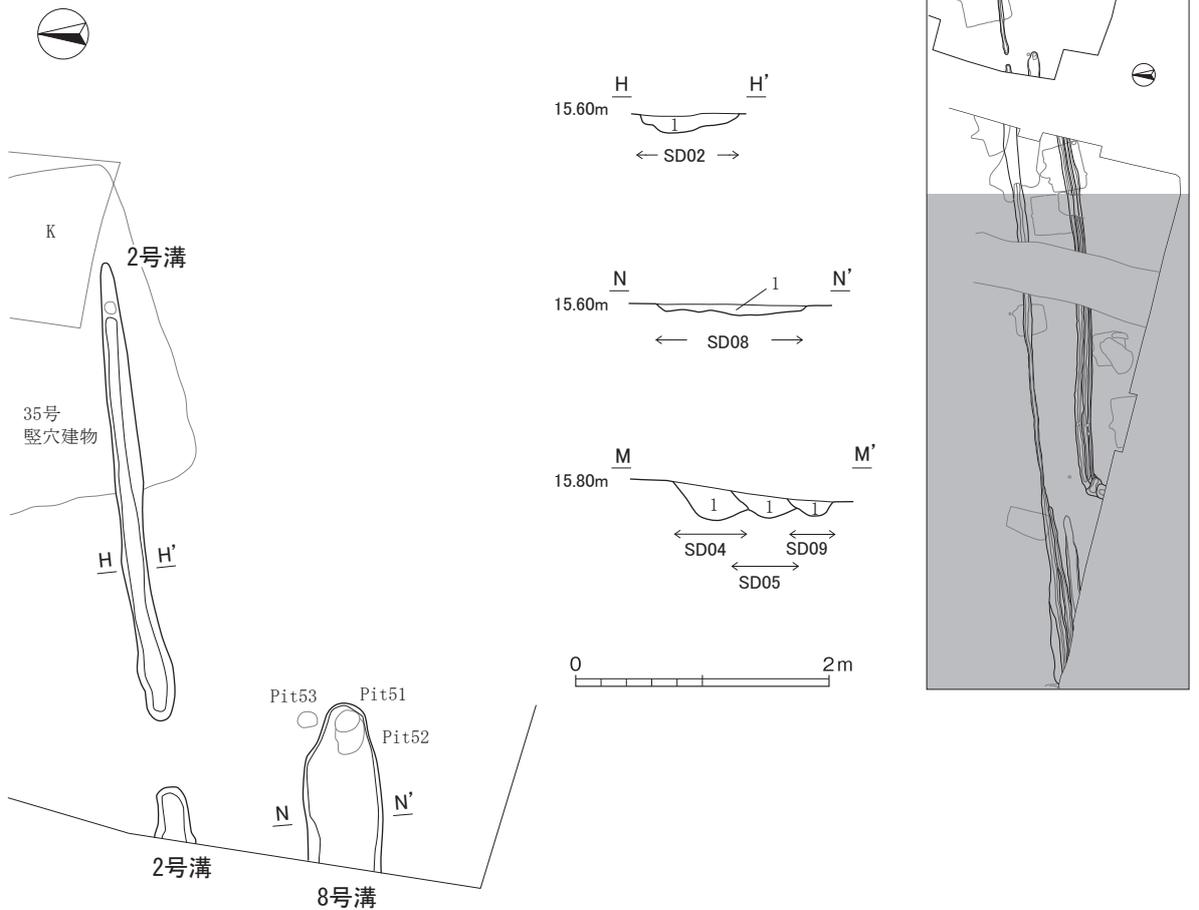
第107図 道路関連溝（西部分）



- 2号溝 G-G'
- 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、硬く締りあり
- 2号溝 E-E' F-F'
- 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量、軟らかい



第108図 道路関連溝（中央部分）



2号溝 H-H'

1. 7.5YR3/2 暗褐色 ローム粒多量,  
ローム小ブロック少量, 軟らかい

4号溝 K-K' L-L' M-M'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量,  
ローム小ブロック少量, 縮りあり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量,  
ローム小ブロック多量, 縮りあり

5号溝 K-K' L-L' M-M'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量,  
ローム大ブロック多量, 縮りあり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量,  
ローム小ブロック少量, やや軟らかい

8号溝 N-N'

1. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム小ブロック多量,  
縮りあり

9号溝 K-K' L-L' M-M'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量,  
ローム小ブロック少量, やや軟らかい

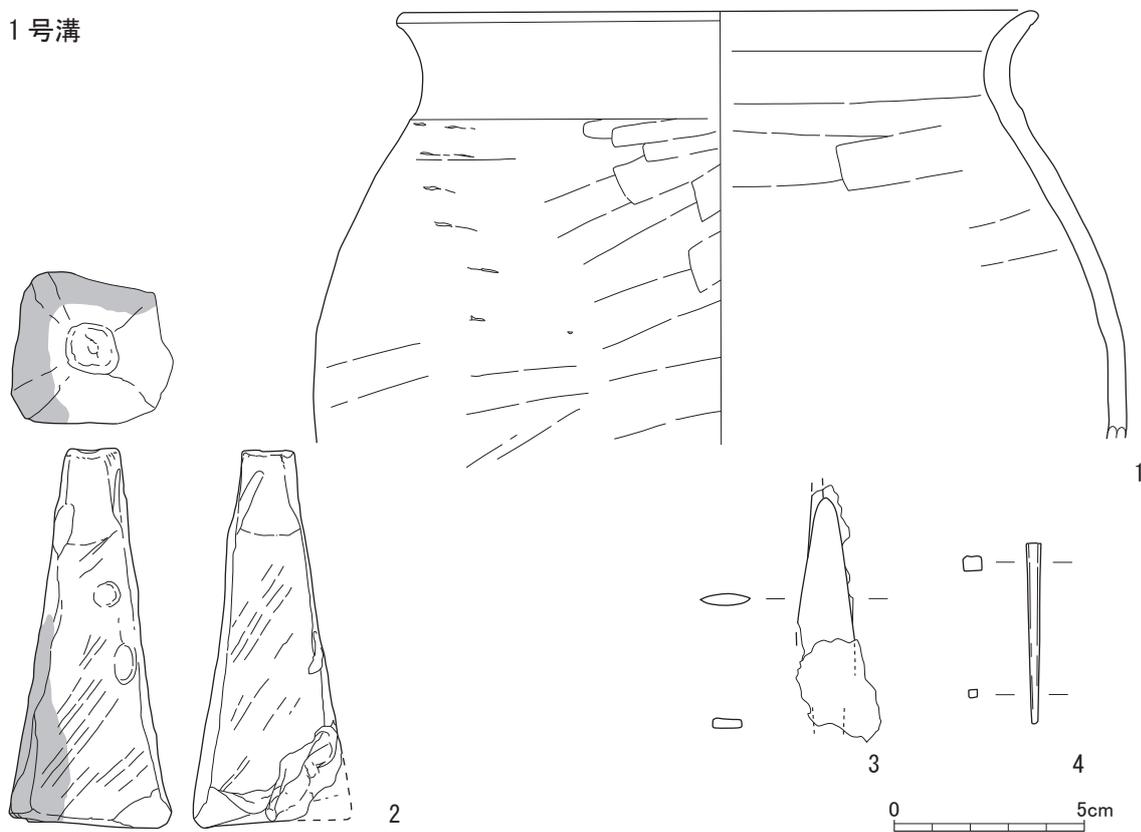
第109図 道路関連溝(東部分)

道路関係溝（第106・107・108・109・110図，表16，図版13・33）

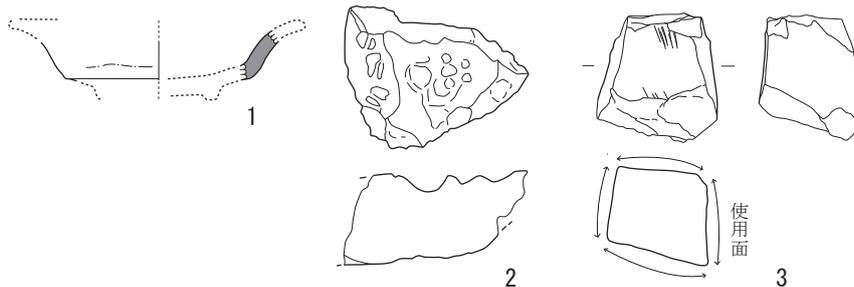
2号溝は27・35号竪穴建物と重複しそれらを壊し，3号溝に壊されている。走行方向はN-5°-Eで，東西方向に直線的に延びている。残存状況の良好な西側の地点で幅約0.7m，下幅約0.3m，深さ0.35m。底面は皿状で，側壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土はローム粒を含んだ軟らかい暗褐色土を主体としている。出土遺物は覆土から灰釉陶器小皿，鉄滓，砥石が出土している。灰釉陶器の小皿は井上喜久男編年の大塚I a期頃のものとされる。4号溝や5号溝と並行しており，新旧関係で4号溝と同時期の道路状遺構の側溝になるものと見られる。想定される道路路面幅は4～5mである。

3号溝は西調査区西部F3～F5グリッドにある。規模と形状は西部の残存状況の良好な地点で幅約0.9m，下幅約0.3m，深さ0.13m。底面は皿状で，側壁は緩やかに傾斜して立ち上がる。2号溝の南側を掘り込んでいる。覆土はローム粒を含んだ軟らかい暗褐色土を主体としている。覆土から鉄釉播鉢口縁部片が出土しており近世の時期のものと思われる。

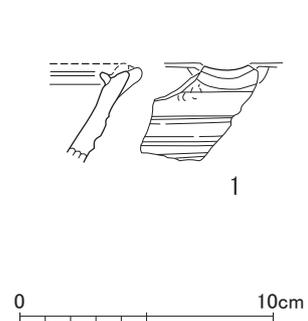
1号溝



2号溝



3号溝



第110図 溝出土遺物

4・5・9号溝は西調査区中央部F5～F9グリッドにかけてある。重複関係は28・29号竪穴建物と重複し竪穴建物の覆土を切り込んでいる。3本の溝は、4・5・9号溝の順番に新しく、古い溝の覆土を掘り込んでいる。走行方向は6号溝と接する西端からN—90°—Eの方向に直線的に延びて、F8グリッド付近でN—81°—Eの方向に屈曲し東方向に直線的に延びている。F9グリッドから西側は削平されたためか残存していない。規模は4号溝が幅約0.9m、深さ0.32m。5号溝は幅約0.9m、深さ0.29m。底面は皿状で、側壁は丸味をもって緩やかに立ち上がっている。9号溝は上幅約0.4m、下幅約0.1m、深さ0.29m、断面形は逆台形状である。覆土はローム粒やローム小ブロックを少量含んだにぶい黄褐色土を主体としている。これらの溝の覆土からは古代の土師器・須恵器の小片が出土している。明確な時期を示す出土遺物はないが4・5・9号溝は2・3号溝と平行して掘削されており2・3号溝と対になる近世の道路側溝になるものと思われる。

調査区西側の道路で、硬化した路面硬化部分については上幅が約2m、浅く窪んで下幅約1.5mで底面は非常に硬化しており踏みしめられた道路の路面の跡と判断した。側溝を伴う路面の跡というより、かつてあった幅の広い道路の名残りのような、道幅が狭くなっても利用していた跡のように見られる。東側調査区のF9・10グリッドには道路路面中央に8号溝とした幅広の浅い溝が見られ、道路の最も西にある硬化した路面の跡と幅や位置が似ており関連が考えられる。

## 第8節 ピット (第6・111図, 表3・16・17, 図版33)

ピットは全部で56基確認されている。このうち9基は整理の過程で掘立柱建物の柱穴に変更したため合計で47基である。分布は西側調査区の西端に5基、中央部南寄りに6基と東側調査区北部に30基余りと大きく3つの地区に分かれて分布している。西側調査区の南西端のP3・17・20～22は3号掘立柱建物の柱穴掘り方に類似しており、調査区外の西側に広がっていく掘立柱建物の可能性が考えられる。また、中央部の道路側溝に重なるP4～7・18・56は覆土が黒褐色土で軟らかく、道路側溝の時期に近い近世のピットではないかと思われる。さらに東側調査区のP30～56は非常に軟らかい覆土で配置的にも規則性がなくより新しい時期のピットになるものと思われる。

## 第9節 遺構外出土遺物 (第112・113図, 表17, 図版33)

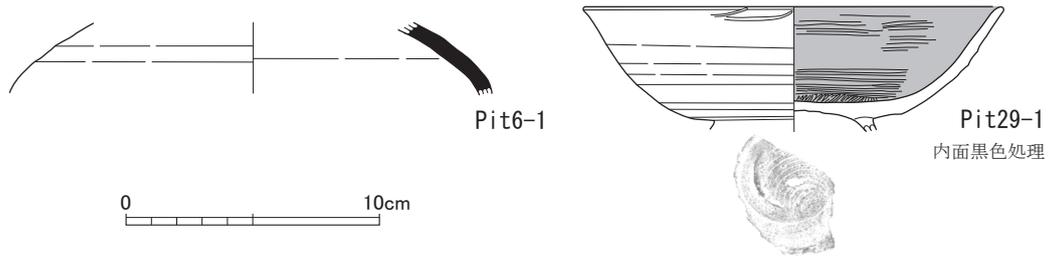
縄文土器は1～3が後期堀ノ内1式の深鉢、5・6が堀ノ内2式の深鉢である。縄文時代の石器は、7・9・10・13・14が砂岩製の磨石、8・12は安山岩製の磨石、10は花崗岩の扁平な自然円礫である。

古墳時代の19の須恵器は7世紀後半頃の湖西産フラスコ瓶の体部片である。奈良・平安時代の16の須恵器長頸瓶は体部下端に織物圧痕が見られる。長頸瓶の製作時にリング状の器台の上に布を被せ、それに製作途中の瓶を置いた際に圧痕が付着し、体部下端のナゲ消しが不完全であったため残されたものと見られる。17は須恵器小型短頸壺の体部と見られる。18は灰釉陶器長頸瓶の底部片である。

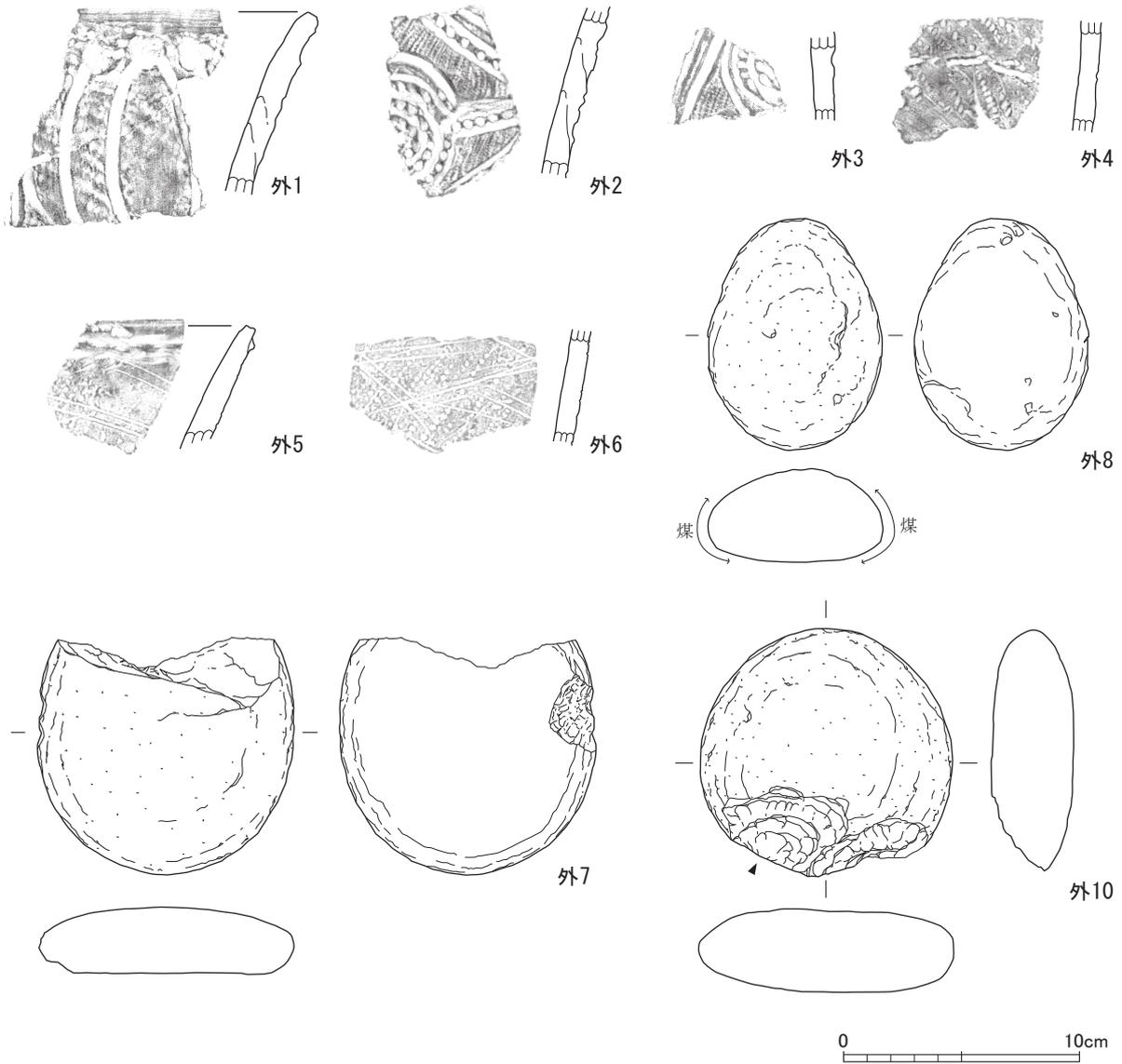
表3 ピット一覧表

番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考
1	E 3	SB03 の P12			
2	E 2	SB03 の P9			
3	E 2	39	38	33	
4	F 5	31	26	28	
5	F 5	26	23	16	
6	F 6	36	27	-	SD04 との切合不明
7	F 6	39	37	-	SD04 との切合不明
8	E 3	39	37	44	
9	E 2	SB03 の P8			
10	D 3	33	30	50	
11	E 3	37	30	70	
12	E 3	47	35	40	
13	E 3	19	17	37	
14	E 3	37	30	46	
15	E 2	SB03 の P11			
16	E 2	52	38	44	
17	E 2	49	46	33	
18	F 6	40	34	37	SD05 との切合不明
19	E 3	34	26	41	
20	E 2	56	48	40	
21	F 2	41	38	32	
22	F 2	44	30	-	
23	F 7	24	20	12	
24	D 4	SB02 の P10			
25	E 4	SB02 の P8			
26	E 4	SB02 の P8			
27	E 4	SB02 の P7			
28	F 3	欠番		3号落とし穴に変更	

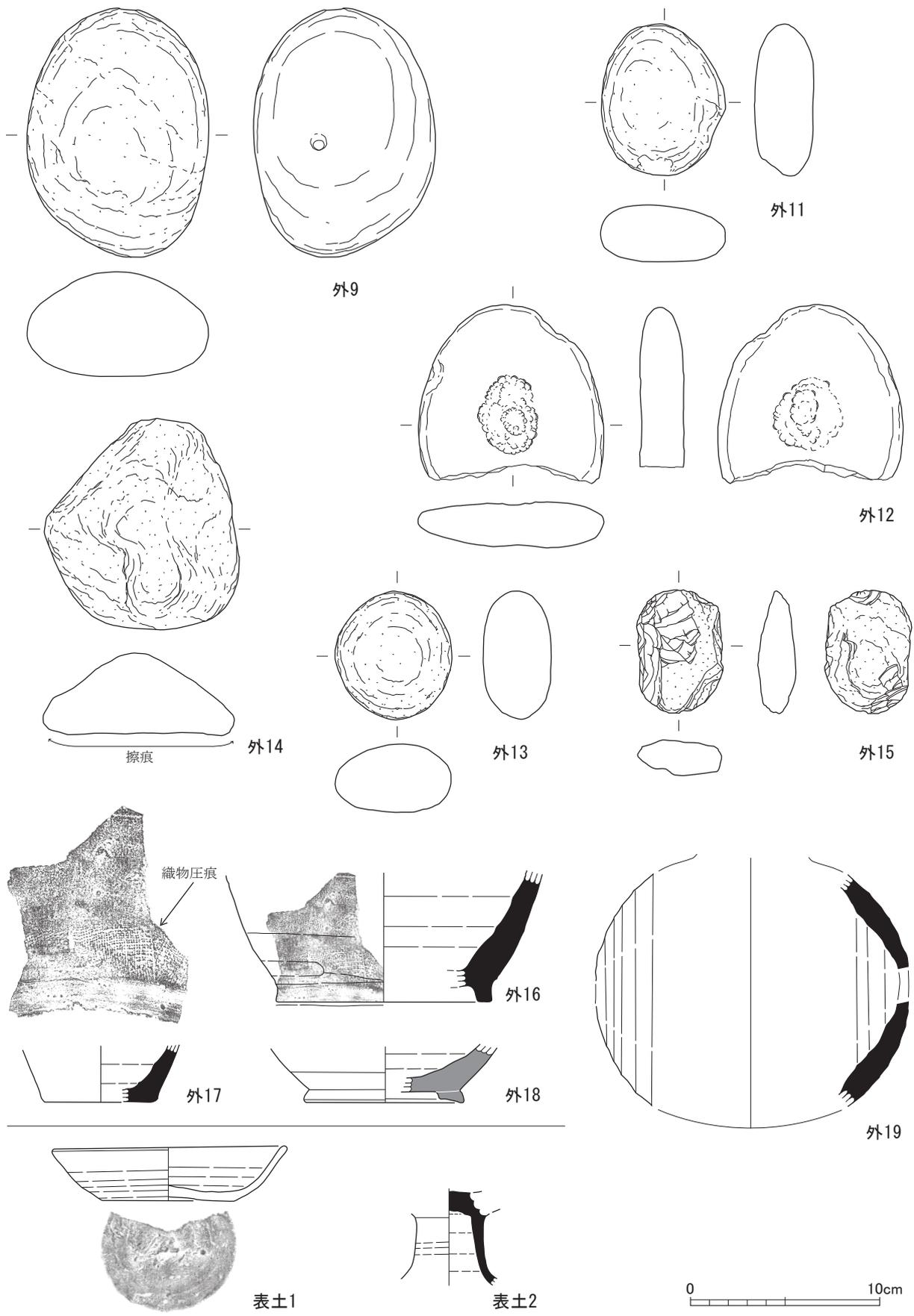
番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考
29	D 11	68	41	31	
30	B 11	20	18	14	
31	B 11	25	21	16	
32	B 10, 11	38	24	20	
33	B 10	31	31	19	
34	B 11	33	25	36	
35	B 11	32	30	32	
36	B 11	40	36	17	
37	B 11	35	34	12	
38	B 12	34	31	12	
39	B 12	31	24	6	
40	C 11	42	38	17	
41	C 11	44	40	26	SK09 を切る
42	D 10	43	31	28	
43	D 10	48	46	29	
44	C 10	29	25	49	
45	C 10	25	21	49	
46	C 10, 11	40	31	40	
47	C 11	36	32	27	
48	C 10, 11	26	24	22	
49	C 10	32	30	21	
50	C 10	29	23	26	
51	F 10	40	32	71	Pit52 を切る
52	F 10	58	45	22	Pit51 に切られる
53	F 10	31	24	10	
54	E 3	SB03 の P14			
55	D 24	35	30	49	
56	F 6	34	34	19	SD05 との切合不明



第111図 ピット出土遺物



第112図 遺構外出土遺物(1)



第113図 遺構外(2)・表土出土遺物

0 10cm

表4 出土遺物観察表(1)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調 内面 外面	残 存 率	出 土 地 点 注 記	備 考	
			単位 cm	(推定値) <残量>								
SI01B	1	土師器 碗	口径 底径 器高	(14.2) (7.3) 5.6	口縁部内外面の一部に黒色物が付着 (煤かタール), ロクロ成形 灯明皿転用か	石英多量, チャート 角丸大礫, 海綿骨針 角閃石	良好	黒褐色 橙色	60%	SI01B No2		
	2	土師器 碗	口径 底径 器高	- 8.3 <3.4>	内底面器面の荒れ ロクロ成形	石英多量 チャート	良好	橙色	脚台部 80%	SI01B No1		
	3	土師器 皿	口径 底径 器高	(14.0) 8.3 2.4	内面黒色処理・ミガキ 底部外面高台内朱墨付着 ロクロ右回転	石英多量 海綿骨針多量 チャート	良好	黒褐色 にぶい黄褐色	70%	SI01B		
	4	土師器 甕	口径 底径 器高	(13.8) - <8.0>	口縁部内外面ヨコナデ 体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	石英, チャート 金雲母	普通	橙色	口縁部破 片	SI01B Bカマド, B2区		
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	(21.1) (10.0) <29.0>	体部外面縦方向のヘラケズリ 内面縦方向ヘラナデ	石英, 角閃石 海綿骨針	良好	にぶい黄褐色	小破片4	SI01B1, 2区 カマド		
	6	土師器 甕	口径 底径 器高	- (9.7) <7.2>	内面ヘラナデ, 底部外面ヘラナデ 底部に指紋痕あり	石英, 角閃石 チャート 海綿骨針	普通	黒褐色 にぶい黄褐色	底部	SI01B No3		
	7	石製品 支脚	長さ	12.0cm	幅	10.2cm	高さ	9.2cm	重さ	445g	凝灰質泥岩	SI01B カマド
SI02	1	土師器 碗	口径 底径 器高	- (8.6) <3.6>	ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ	石英多量, 金雲母 海綿骨針	良好	灰黄褐色	高台部 1/2	SI02 No3 カマド A SI03		
	2	土師器 碗	口径 底径 器高	- (7.5) <2.6>	ロクロ成形 底部回転糸切りか	石英多量, 角閃石 海綿骨針, 金雲母	良好	橙色	高台部	SI02 貯No1		
	3	土師器 碗	口径 底径 器高	- (8.8) <3.7>	内面黒色処理・ミガキ 底部回転糸切後高台貼付け	石英, 角閃石 金雲母, 海綿骨針	良好	黒褐色 橙色	高台部 1/3	SI02 No1		
SI03	1	須恵器 坏	口径 底径 器高	(14.0) (8.5) 4.8	底部回転ヘラ切り後, 弱い一方ヘラケ ズリ 体部外面に焼成時の降灰痕, 逆位焼成	石英, チャート 海綿骨針	良好	灰色	50%	SI03 No2, 4区		
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	(14.3) 8.5 4.9	底部切り離し後丁寧な指ナデと一方ヘ ラケズリの併用 内面炭化物が付着, 灯明への二次転用か	石英, チャート 海綿骨針	やや不良	灰白色	50%	SI03 カマド, 4区		
	3	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	11.1 6.9 5.3	底部ヘラ切り・ヘラ削り痕を消す丁寧な ナデ調整	石英, チャート 海綿骨針	良好	灰白色 灰色	90%	SI03 No1		
	4	須恵器 盤	口径 底径 器高	21.8 14.3 4.1	黒色融出粒が暗褐色で小発砲が目立つ 還元物が鉄ではなくマンガンか 外底面墨痕	石英, 海綿骨針 黒色融出粒	良好	灰白色	80%	SI03 No6, No10 カマド, 4区		
	5	須恵器 蓋	口径 底径 器高	- - <1.6>		石英, チャート 海綿骨針多量	普通	灰黄色	25%	SI03 No7		
	6	土師器 甕	口径 底径 器高	(15.6) - <9.8>	体部外面ヘラケズリ, 内面ヘラナデ	石英多量, チャート 金雲母	良好	にぶい黄褐色 橙色	口縁~体 上部片	SI03 No9		
SI04A	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	(13.6) 6.4 5.0	底部回転ヘラ切り後ヘラナデ ヘラ記号「一」カ	石英, チャート 海綿骨針	普通	暗灰黄色	50%	SI04B No6 SI03 2区		
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.2 6.4 5.0	底部回転ヘラ切り後, 直交する二方向ヘ ラケズリ 底部ヘラ記号「六」	長石, 石英 チャート	普通	黄灰色	40%	SI04A No3 A2区		
	3	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.7 6.3 5.5	底部回転ヘラ切り後指頭によるオサ エカ 底部ヘラ記号「井」	石英, チャート	やや不良	灰黄色	70%	SI04A No1 SI04B No2 SI04B1区, 2区		
	4	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.0 6.3 4.3	底部一方ヘラケズリ 新治産	長石, 石英, 雲母	酸化焙 不明	黒褐色, 褐色	60%	カマド		
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	21.6 - <18.5>	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	白雲母, 石英 長石	良好	褐色 暗褐色	20%	SI04A No2 2区		
	6	土師器 甕	口径 底径 残高	(20.6) - <19.0>	体部外面ナデ, 内面上部縦方向の指ナ デ後横方向のヘラナデ 下半部横~斜め方向のヘラケズリ	白雲母, 長石 石英	良好	明赤褐色・黒 褐色	15%	SI04A2区		
	7	土師器 甕	口径 底径 器高	(19.2) 6.6 -	体上半部ヘラナデ, 下半部横方向のヘ ラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキの単位が不明瞭	長石, 石英 金雲母微粒	良好	黒褐色, 明赤 褐色, にぶい 黄褐色	30%	SI04A カマド No2 カマド No3, カマド SI04B No5 SI03 カマド		
	8	土師器 小型甕	口径 底径 残高	(13.6) - <8.3>	体部内外面ヘラナデ	金雲母	良好	黒褐色	20%	SI04A 2区		
	9	土師器 小型甕	口径 底径 残高	7.3 - <6.8>	体部外面ヘラケズリ, 内面ヘラナデ	長石, 石英	普通	にぶい黄褐色 黒褐色	15%	SI04A カマド No1 カマド		
	10	鉄製品 不明	長さ	<6.6>cm	幅	0.8cm	高さ	0.7cm	重さ	20.539g		SI04A カマド No5

表5 出土遺物観察表(2)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調 内面 外面	残 存 率	出土場所 注 記	備 考	
			単位 cm	(推定値) <残値>								
SI04B	1	土師器 小皿	口径 底径 残高	- 5.2 <1.0>	底部回転ヘラ切り離し、ロクロ右回転	石英粒多量	良好	橙色	底部片	SI04B 4区		
	2	土師器 小皿	口径 底径 器高	(10.5) (6.0) 2.2	底部回転糸切り	石英粒微量	良好	橙色 黒色	口縁部片	SI04B 2区		
	3	土師器 甕	口径 底径 器高	(20.2) - <9.8>	体部外面縦方向のヘラケズリ。内面横方向のヘラナデ	石英、長石、 チャート礫	良好	橙色 灰黄褐色	口縁部片	A区		
	4	鉄製品 釘カ	長さ	<4.0>cm	幅0.3cm 厚さ0.4cm 重さ2.082g					SI04B 4区		
SI05	1	須恵器 環	口径 底径 残高	(11.1) 6.7 3.8	体部下端回転ヘラケズリ 底部多方向手持ちヘラケズリ	長石、海綿骨針 チャート	良好	灰色	70%	SI05 No5		
	2	須恵器 環	口径 底径 器高	(13.1) 8.6 3.8	体部下端に浅い二次底部面をもち、弱い回転ヘラケズリ 底部は多方向に多数の手持ちヘラケズリ	長石、海綿骨針 チャート	普通	黄灰色	70%	SI05 No21		
	3	須恵器 環	口径 底径 残高	13.8 8.8 4.0	体部下端手持ちヘラケズリ 底部回転ヘラ切後回転ヘラケズリ	長石、石英 黒雲母、角閃石	普通	灰黄色 浅黄色	90%	SI05 No24		
	4	須恵器 高台付杯	口径 底径 残高	(11.8) 7.6 5.0	底部外面ヘラ記号「乙」。ロクロ右回転	長石、海綿骨針 チャート	良好	灰色	60%	SI05 No23		
	5	須恵器 高台付杯	口径 底径 残高	(17.0) (11.8) 5.6	高台端部外面摩耗	長石、石英 チャート	不良	灰黄色	40%	SI05 No1, 2区		
	6	須恵器 高台付杯	口径 底径 残高	(15.0) - <4.6>		長石、石英 チャート 海綿骨針	良好	灰色	40%	SI05 No6		
	7	須恵器 盤	口径 底径 残高	(23.0) (15.2) 3.2	底部外面ヘラ記号「く」	長石、石英 海綿骨針	良好	灰色	40%	SI05 No7		
	8	須恵器 甕	口径 底径 残高	- - <4.0>	胎土は精良で夾雑物が少ないが、海綿骨針を微量に含む	長石、石英 海綿骨針	良好	灰色		肩部片	SI05 No17	
	9	土師器 小型甕	口径 底径 残高	(15.8) - <13.0>	胎土中の雲母は黒雲母とみられる	長石、石英 雲母	良好	にぶい黄褐色 赤褐色	30%	SI05 No3, No15 1区		
	10	土師器 甕	口径 底径 残高	- - <16.7>	内面の横方向の調整が非常に整っており、ロクロ調整甕と思われる	長石、石英	普通	明赤褐色 黒褐色	60%	SI05 No22		
	11	土師器 甕	口径 底径 残高	22.7 10.4 31.6	胎土中の雲母は粒径が小さく、白銀光沢のものと金色光沢のものがある	長石、石英 雲母	良好	赤褐色	60%	SI05 No2, No16 No25, 1区		
	12	土師器 甕	口径 底径 残高	24.8 10.1 31.0	胎土中の雲母が微細	長石、石英 チャート、雲母	良好	橙色	90%	SI05 No25		
	13	土師器 瓶	口径 底径 残高	26.9 11.1 30.3	胎土中の雲母が微細で黒雲母のように見える	長石、石英 雲母	良好	赤褐色	80%	SI05 No20		
	14	土製品 支脚	高さ 幅 厚さ	<4.3> 4.6 4.5		長石、石英 チャート	良好	橙色		基部片	SI05 1区	
SI06	1	須恵器 環	口径 底径 残高	13.4 6.7 4.6	底部一方向ヘラケズリ 底部外面墨書文字「丸子」 新治窯産	長石、石英 白雲母	不良	オリープ黒色 にぶい黄色	80%	SI06 No12, 2区		
	2	須恵器 長頸瓶	口径 底径 器高	- (11.1) <19.2>	頸部2段接合	長石 海綿骨針	良好	灰色	60%	SI06 No7, No10 No11, No13 カマド2区		
	3	鉄製品 刀子	長さ	<2.0>cm< 8.8>cm	幅1.4cm 刃部厚0.2cm 茎部厚0.25cm 重さ11.539g					SI06 カマド No1		
	4	鉄製品 刀子	長さ	<6.6>cm	幅1.2cm 厚さ0.15~0.2cm 重さ5.855g					SI06 No4		
	5	鉄製品 刀子	長さ	<6.0>cm	幅2.0cm 厚さ0.2~0.1cm 重さ9.013g, 2つ折れの刀子茎部					SI06 No3		
SI07	1	須恵器 環	口径 底径 残高	14.2 8.0 4.9	二次底部面あり、底部回転ヘラケズリ ロクロ左回転	石英、チャート 海綿骨針	良好	灰色	60%	SI07 No13		
	2	須恵器 環	口径 底径 器高	(13.6) <8.9> 4.1	丸底気味、底部回転ヘラケズリ	石英、チャート 海綿骨針	やや不良	灰黄色	40%	SI07 No15 1区		
	3	須恵器 環	口径 底径 器高	(13.2) <8.6> 4.3	底部回転ヘラ切離し、無調整	石英 海綿骨針	良好	灰色	40%	SI07 No20 2区		
	4	土師器 甕	口径 底径 器高	(24.8) - <19.1>	体下半部ミガキ、内面ヘラナデ	石英、白雲母	良好	にぶい黄褐色	30%	No21, No22, 3区, 4区, P1, 下層, SI07		

表6 出土遺物観察表(3)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調 内面 外面	残 存 率	出 土 場 所 注 記	備 考
			単位 cm	(推定値) <残値>							
SI07	5	土師器 甕	口径 底径 器高	( 23.3 ) - < 15.4 >	体上半肩部にヘラあたり痕が目立つ 内面ヘラナデ	石英多量 チャート	普通	にぶい黄褐色 橙色	15%	SI07 No12, カト <sup>+</sup> 1区	
	6	土師器 甕	口径 底径 器高	( 23.0 ) - < 16.6 >	体上半肩部にヘラあたり痕が目立つ 内面ヘラナデ	石英 白雲母多量	良好	明赤褐色 橙色	10%	SI07 No25, カト <sup>+</sup> 4区	
	7	鉄製品 小札	長さ 幅 厚さ 重さ	10.2cm 1.6cm 0.1cm 5.125g	穿孔1					SI07 No25	
SI08	1	須恵器 高台付坏	口径 底径 残高	- 10.4 2.3	内面が平滑で転用硯として二次利用して いる可能性あり 底面高台内に墨痕	石英 チャート 海綿骨針	良好	灰色	底部片	SI08 カト <sup>+</sup>	
	2	土師器 甕	口径 底径 器高	( 13.7 ) - 6.1	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	石英多量 チャート 金雲母	良好	にぶい黄褐色 橙色	口縁部片	SI08 2区	
	3	石製品 砥石	長さ	<6.5>cm	幅 4.7cm 厚さ 3.0cm 重さ 99.936g, 凝灰岩製					SI08 No3	
SI09	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	( 13.2 ) ( 8.0 ) 4.7	底部回転ヘラ切り離し後周縁ナデ調整	石英, チャート	普通	灰色	40%	SI09 No1	
	2	須恵器 蓋	口径 底径 器高	( 15.9 ) - 4.9		石英, チャート 海綿骨針	普通	灰黄色	50%	SI09 No6	
	3	土師器 甕	口径 底径 器高	( 14.0 ) - < 10.0 >	口縁部外面指頭痕	石英, チャート 白雲母	普通	橙色	20%	SI09 カト <sup>+</sup>	
	4	土師器 甕	口径 底径 器高	( 21.0 ) - < 3.4 >	強い二次被熱と粘土の付着痕からカマド 構築材として二次利用されたと見られる	石英, チャート 白雲母, 角閃石	良好	にぶい黄褐色	口縁部片	SI09 カト <sup>+</sup>	
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	- ( 9.6 ) < 16.6 >	体部下半ヘラミガキ 内面ヘラナデ, 指頭痕あり	石英, 白雲母	良好	橙色 にぶい赤褐色	20%	SI09 No4, No5	
	6	瓦 丸瓦	長さ 幅	< 26.0 > ( 10.2 )	凸面は横方向ヘラケズリ 凹面は布目圧痕 還元焼成	石英	良好	灰色	60%	SI09 カト <sup>+</sup> No1	
SI10	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	14.3 9.0 4.7	底部周縁に丁寧な指腹によるナデ調整 口縁部にV字状の欠けと被熱痕あり 灯明皿に転用か	石英多量 チャート 海綿骨針	普通	灰色	90%	SI10 No3	
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.9 8.5 5.0	底部回転ヘラケズリ 外面下半から底部摩耗	石英 チャート	不良	灰白色	70%	SI10 No14 1区, 4区	
	3	鉄製品 紡錘車芯カ	長さ	16.9cm	直径 0.6cm 重さ 17.120g					SI10 No16	
	4	鉄製品 クルル鉤	把手部木質 - 長さ 9.8cm 幅 3.5cm 厚さ 3.3cm 解錠部 - 長さ 23.5cm 直径 0.7cm 軸部 - 長さ 5.5cm 径 0.7cm		解錠部から軸部にかけての鉄棒の断面形は丸味のある多面 体状 把手部の鉄芯は長方形断面に見える					SI10 No15	
	5	石製品 砥石	長さ	<8.3>cm	幅 5.3cm 厚さ 3.7cm 重さ 191.571g, 凝灰岩					SI10 No5	
SI11	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	13.8 8.1 5.1	底部回転ヘラ切後ナデ ロクロ左回転	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰色	70%	SI11 No18, 4区	
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.3 8.6 4.8	底部回転ヘラ切後丁寧なナデ 底部ヘラ記号「X」	石英, 角閃石 チャート 海綿骨針	不良	灰白色	70%	SI11 2区	
	3	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.5 8.8 5.0	体部下端はヘラによる丸味を持った調整 底部回転ヘラ切り後丁寧なナデ ロクロ左回転か	石英 チャート多量	不良	浅黄色	80%	SI11 1区 2区, 4区 SI15	
	4	須恵器 坏	口径 底径 器高	( 14.0 ) ( 8.7 ) 5.1	体部下端回転ヘラケズリによる丸味をも った調整 底部回転ヘラ切り後一方向ヘラケズリ	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰色	60%	SI11 No1	
	5	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	15.3 9.7 6.0	口縁部にV字状欠け 内面に朱線 ロクロ右回転	石英, チャート 海綿骨針や多量	普通	灰色	95%	SI11 No9	
	6	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	( 13.8 ) 8.8 6.2	底部外面高台内に朱墨と墨痕 ロクロ右回転。	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰色	70%	SI11 No10	
	7	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	( 13.9 ) ( 8.9 ) 5.4	底部外面高台内ヘラ記号「一」	石英, 海綿骨針	良好	灰白色	60%	SI11 No20 P4, カト <sup>+</sup> 1区	
	8	須恵器 コップ形	口径 底径 器高	( 9.4 ) ( 7.0 ) < 6.9 >	ロクロ左回転か	黒色融出粒	良好	灰白色	30%	SI11 カト <sup>+</sup> 4区	
	9	須恵器 蓋	口径 底径 器高	( 15.0 ) - < 2.8 >	ロクロ左回転	石英, チャート 海綿骨針	良好	灰色	60%	SI11 No2, カト <sup>+</sup> 1区, 3区, 4区	

表7 出土遺物観察表(4)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調 内面 外面	残 存 率	出 土 場 所 注 記	備 考
			単位 cm	(推定値) < 残値 >							
SI11	10	須恵器 蓋	口径 底径 器高	16.6 — < 2.4 >	ロクロ右回転か	石英, 海綿骨針	普通	灰色	50%	SI11 2区, 3区	
	11	須恵器 盤	口径 底径 器高	20.6 13.9 4.6	ロクロ左回転	石英, チャート 海綿骨針	良好	灰色	80%	SI11 No24, 1区	
	12	須恵器 盤	口径 底径 器高	(20.6) (12.2) 4.2	新治産 ロクロ右回転	白雲母多量	不良	灰黄褐色 にぶい黄褐色	35%	SI11 No5, 2区 3区	
	13	須恵器 盤	口径 底径 器高	(24.1) (18.3) 4.7	底部外面朱墨痕 ロクロ右回転	石英	良好	灰色	40%	SI11 No7, 2区	
	14	灰釉陶器 長頸瓶	口径 底径 器高	— — < 7.7 >	頸部2段接合	石英	良好	灰白色	頸部片	SI11 2区	
	15	須恵器 長頸瓶	口径 底径 器高	— — < 8.5 >	肩部に自然釉	石英, 長石 黒色小礫出物少量	良好	灰色	肩部片	SI11 1区 2区, 3区	
	16	須恵器 甕	口径 底径 器高	— — < 28.0 >	内面に長径7cm以上, 短径6cm以上の楕 円形あて具を使用している	長石, 石英 海綿骨針	良好	灰黄色 灰白色	体部70%	SI11 No23 SI07 3区	
	17	須恵器 円面硯	口径 底径 器高	(20.0) — < 3.3 >	脚部内面から脚端部に自然釉が掛かる	石英 長石微細粒少量	良好	灰色	脚部小片	SI11 4区	
	18	土師器 甕	口径 底径 器高	21.7 — < 28.5 >	体下半部ミガキ 肩部にヘラの当たり痕	石英多量 雲母少量	良好	にぶい橙色 にぶい黄褐色	60%	SI11 No11, No12 No13, No14, No15, 1区, 2区	
	19	土師器 甕	口径 底径 器高	(21.8) — < 20.6 >	体下半部ミガキ 肩部にヘラの当たり痕	石英, 白雲母 長石	良好	にぶい黄褐色	20%	SI11 No24, ｶﾞﾄﾞ 4区	
	20	土師器 甕	口径 底径 残高	(22.4) — < 7.5 >	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	石英 白雲母	良好	橙色	口縁部片	I11 P1, 4区	
21	鉄製品 飾り釘カ	長さ4.2cm 頭部幅1.2cm 体部幅0.8cm 体部厚さ0.55cm 重さ6.55g								SI11 No30	
SI12	1	土師器 小皿	口径 底径 残高	12.5 6.2 3.1	ロクロ成形 底部回転糸切り ロクロ右回転	長石, 石英 角閃石 金雲母微粒	良好	橙色	100%	SI12 No1	
	2	土師器 小皿	口径 底径 器高	10.0 7.0 2.5	ロクロ成形 底部回転ヘラ切離し ロクロ右回転	長石, 石英	良好	明黄褐色	85%	SI12 ｶﾞﾄﾞ No2	
	3	土師器 小皿	口径 底径 器高	10.4 5.6 2.3	ロクロ成形 底部回転糸切り ロクロ右回転	石英, 海綿骨針 金雲母微量	良好	にぶい黄褐色	70%	SI12 No2	
	4	土師器 小皿	口径 底径 器高	10.3 5.6 2.2	ロクロ成形 底部回転糸切り ロクロ右回転	長石, 石英	良好	橙色	60%	SI12 No6, 1区	
	5	土師器 小椀	口径 底径 器高	9.9 5.7 3.9	ロクロ成形 底部回転糸切り後ナデ 内面黒色処理・ミガキ	石英	普通	黒色 にぶい黄褐色	80%	SI12 No3	
	6	土師器 小椀	口径 底径 器高	10.7 6.4 4.2	ロクロ成形 底部回転糸切り後高台部貼付け 内面黒色処理・ミガキ	長石, 石英 海綿骨針	良好	黒色 にぶい黄褐色	100%	SI12 No20	
	7	土師器 椀	口径 底径 器高	— 8.1 < 4.8 >	ロクロ成形 底部回転糸切り 内面黒色処理・ミガキ	長石, 石英 チャート	良好	黒色, 橙色	60%	SI12 P1	
	8	土師器 椀	口径 底径 器高	(14.8) — < 4.3 >	ロクロ成形, 底部回転糸切り後ナデ 内面黒色処理・ミガキ 体部外面墨書「三」	長石, 石英 チャート	良好	黒色 明赤褐色	30%	SI12 No28	
	9	土師器 椀	口径 底径 器高	7.9 — 3.6	底部回転ヘラ切後高台部貼付け	長石, 石英 チャート 海綿骨針	普通	橙色	50%	SI12 No18, 2区	
	10	土師器 椀	口径 底径 器高	(16.2) — < 4.3 >		石英, チャート 金雲母	良好	明赤褐色 褐色	40%	SI12 No1, No2	
	11	土師器 足高椀	口径 底径 器高	16.1 (9.9) 6.8		石英, チャート 金雲母微粒	良好	にぶい黄褐色	90%	SI12 No13, No17 2区	
	12	土師器 足高椀	口径 底径 器高	— 10.6 < 6.7 >		長石, 石英 チャート	普通	橙色	脚部	SI12 No25, ｶﾞﾄﾞ	
	13	土師器 三脚土器	長さ 幅 厚さ	< 9.6 > 3.5 3.2	脚部片	長石, 石英 チャート 海綿骨針	良好	黄褐色	脚部	SI12 No8	
	14	土師器 三脚土器	長さ 幅 厚さ	< 9.5 > 3.6 3.3	脚部片	石英, チャート	良好	にぶい黄褐色	脚部	SI12 No23	
	15	土師器 甕	口径 底径 器高	(24.0) — < 9.1 >	体部内外面ナデ	石英, 長石 角閃石 チャート	良好	暗灰黄色	口縁部片	SI12 No11, ｶﾞﾄﾞ	
	16	土師器 甕	口径 底径 器高	23.6 (9.9) 29.7	頸部に指頭痕 体上半部ミガキ 下半部縦方向ヘラケズリ	長石	良好	黒褐色	80%	SI12 No?6, No10 No14, ｶﾞﾄﾞ No1 ｶﾞﾄﾞ, 2区	

表8 出土遺物観察表(5)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼成	色 調 内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備 考
			単位 cm	(推定値) <残値>							
SI12	17	土師器 甕	口径 底径 器高	( 19.2 ) - < 26.0 >	体部外面縦方向のヘラケズリ 内面斜め方向のヘラナデ	長石, 石英 海綿骨針	良好	橙色・灰黄褐色	40%	SI12 カット No1 SI12 カット No3	
	18	土師器 羽釜	口径 底径 器高	( 28.6 ) - -	鏝部, 下面煤付着	長石, 石英	良好	にぶい黄橙色	鏝部片	SI12 No12	
	19	鉄製品 刀子			長さ < 5.0 > cm 幅 1.0cm 厚さ 0.4cm 重さ 5.221g					SI12 No15	
	20	石製品 支脚			長さ 14.5cm 幅 9.5cm 厚さ 7.0cm 重 526g 凝灰質泥岩					SI12 No5	
	21	石製品 袖石			長さ 19.8cm 幅 14.6cm 厚さ 9.0cm 重さ 1.5kg 凝灰質泥岩					SI12 No6	
	22	須恵器 硯	口径 底径 器高	- - -	脚部の透し孔一か所, 透し孔を表現する沈線化した短い縦沈線 6 条残存	長石, 石英	良好	オリーブ灰色	脚部片	SI12 1 区	
SI13	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	( 13.0 ) 8.8 4.7	体部下端回転ヘラケズリ 底部回転ヘラ切後ナデ	石英, チャート 海綿骨針	不良	灰白色	60%	SI13 No27	
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	( 13.8 ) 8.3 3.9	底部回転ヘラ切り離し後一方向ヘラケズリ	石英 微細な白雲母	やや不良	にぶい黄橙色	60%	SI13 No33	
	3	須恵器 坏	口径 底径 器高	11.5 7.6 3.5	底部回転ヘラ切り離し後一方向ヘラケズリ 底部ヘラ記号「十」	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰色	完形	SI13 No11, No12	
	4	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.1 8.0 5.0	底部回転ヘラ切り離し後一方向ヘラケズリ	石英, チャート	不良	灰白色	70%	SI13 No25, 4 区	
	5	須恵器 坏	口径 底径 器高	( 13.6 ) 8.6 4.1	体部下端回転ヘラケズリ 底部回転ヘラ切離し無調整 底部外面墨書「大口」	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰色	70%	SI13 No4, 1 区	
	6	須恵器 坏	口径 底径 器高	- 9.3 < 1.9 >	体部下端ヘラケズリ 底部回転ヘラ切離し 底部外面墨書「天」(則天文字か)	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰白色	60%	SI13 No7	
	7	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	( 14.9 ) 10.0 5.9		石英, チャート 海綿骨針	やや不良	にぶい褐色 灰黄色	70%	SI13 No8	
	8	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	11.5 7.4 4.8		石英, チャート 海綿骨針	普通	灰色	80%	SI13 No20	
	9	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	21.7 13.7 8.3	底部一方向ヘラケズリ	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰白色 灰色	90%	SI13 No15, No17 1 区, 4 区	
	10	須恵器 蓋	口径 底径 器高	- - < 3.8 >	内面に重ね焼き痕跡の自然袖付着, 逆位焼成	石英, 海綿骨針	普通	黄灰色	30%	SI13 2 区	
	11	須恵器 長頸瓶	口径 底径 器高	- - < 8.4 >		石英	良好	灰白色 灰黄色	頸部片	SI13 No2	
	12	須恵器 長頸瓶	口径 底径 器高	- - < 6.5 >		石英	良好	灰白色	頸部片	SI13 No18	
	13	須恵器 長頸瓶	口径 底径 器高	- - < 8.5 >	脚部と坏部の接合面に回転糸切痕あり	石英, 海綿骨針	不良	灰白色	脚部片	SI13 No6	
	14	須恵器 甕	口径 底径 器高	22.1 - < 8.4 >	体部外面平行叩き, 内面掌圧痕	石英	良好	灰白色	口縁~頸部 片	SI13 No13, 29	
	15	須恵器 甕	口径 底径 器高	20.8 - < 6.4 >	白銀色の微細雲母を多量に含み, 金雲母も含む 胎土に精良さがある	石英, 金雲母 チャート	良好	にぶい黄色 灰黄色	口縁部片	SI13 No21, 23	
	16	土師器 甕	口径 底径 器高	( 6.4 ) - < 11.2 >	頸部内面に粘土紐巻き上げ接合痕を残す	石英, 金雲母	良好	褐灰色 にぶい赤褐色	20%	SI13 No30, 3 区	
	17	土師器 瓶	口径 底径 器高	( 29.0 ) ( 11.3 ) 30.7	体部下端横方向のヘラケズリ, 内面横方向のヘラ ナデ 体部の孔は焼成後穿孔で補修孔か	石英, 白雲母	良好	にぶい褐色 にぶい黄橙色	60%	SI13 No1, No3 1 区, 2 区	
SI14	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	- 6.6 < 4.1 >	底部回転ヘラケズリ	長石, 石英 海綿骨針	良好	灰黄色	40%	SI14	
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	14.8 - < 5.4 >	丸底。底部ヘラケズリ, 口縁部ヨコナデ, 体部に 無調整の部位あり。内面ヘラナデ	長石, 石英 金雲母	良好	にぶい黄褐色	口縁部片	SI14	
	3	須恵器 蓋	口径 底径 器高	14.6 - 2.9	新治窯産の返り蓋	長石, 白雲母	普通	にぶい黄色	95%	SI14 No1	
	4	土製品 支脚	高さ 幅 厚さ	< 9.7 > - -		長石, 石英 チャート	良好	灰黄褐色	40% ㇿ	SI14 No1	

表9 出土遺物観察表(6)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼成	色 調 内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備考			
			単位 cm	(推定値) < 残値 >										
SI15	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	14.0 8.8 4.8	底部回転ヘラ切り後ナデ	長石, 石英 角丸チャート 海綿骨針	不良	橙色, 灰白色	95%	SI15 No1				
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	(14.0) (8.5) < 4.9 >	底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ	長石 角丸チャート 海綿骨針	不良	灰白色	50%	SI15 No3				
	3	須恵器 坏	口径 底径 残高	(13.6) (8.4) 4.5	底部直交方向のヘラナデ状のヘラケズリ	長石, 石英 角丸チャート 海綿骨針	やや不良	にぶい赤褐色	40%	SI15 No9				
	4	須恵器 盤	口径 底径 器高	(23.0) (15.0) < 4.2 >	底部回転ヘラケズリ	長石, 石英 角丸チャート	普通	灰褐色	50%	SI15 No15				
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	- (9.0) < 30.5 >	体下半部外面ミガキ 内面指頭痕・ヘラナデ 最終調整前の下地調整が丁寧	長石, 石英 白雲母	良好	にぶい黄褐色	35%	SI15 No2, No8 No14, 2区, 3区				
	6	鉄製品 刀子	長さ	< 9.5 >cm	幅 1.1cm 厚さ 0.25cm 重さ 8.09g						SI15 No7			
	7	石製品 紡錘車	上面直径	5.1cm	下面直径	3.3cm	厚さ	1.7cm	孔径	0.8cm	重さ	55g	SI15 No13	
	8	石製品 砥石	長さ	< 3.6 >cm	幅	3.8cm	厚さ	2.0cm	重さ	35g	凝灰岩		SI15 4区	
SI16	1	土師器 坏	口径 底径 残高	13.1 - 4.7	体部外面ヘラケズリ 内外面黒色処理 内面ミガキ	石英	良好	黒褐色	80%	SI16 No19 2区, 3区壁溝				
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	12.9 - 3.3	体部内外面黒色処理 内面周回するミガキ	石英	良好	灰黄褐色 黒色	90%	SI16 No24				
	3	土師器 坏	口径 底径 器高	13.4 - 3.9	体部内外面黒色処理 内面周回するミガキ	石英	良好	黒色	30%	SI16 No11				
	4	土師器 坏	口径 底径 器高	20.4 - < 7.0 >	体部外面ヘラケズリ 内面放射状ミガキ	長石, 石英 チャート	良好	橙色	口縁部片	SI16 No10, 3区				
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	19.0 8.2 28.0	体部外面縦方向ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	長石, 石英	普通	赤褐色	60%	SI16 No7				
	6	土師器 甌カ	口径 底径 器高	20.0 - < 20.4 >	体部外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	長石, 石英	良好	明赤褐色	35%	SI16 No1, No3 No9, 2区, 3区P3				
	7	土師器 甕	口径 底径 器高	17.2 7.4 25.2	体部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	石英, 長石	良好	にぶい黄褐色	80%	SI16 No6, No7 No15, No21, No22 カト' , カト' A'内 1区, 4区, P4				
	8	土師器 甕	口径 底径 器高	20.4 6.3 15.0	体部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	長石 石英微粒多量	良好	明褐色	90%	SI16 No9 2区, 4区				
	9	土師器 甌	口径 底径 器高	(28.4) (8.6) (29.4)		長石, 石英微粒	良好	明褐色, 黒色	30%	SI16 1区 3区, 4区 P1				
	10	土師器 壺	口径 底径 器高	- 5.8 < 5.4 >	体部ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	長石, 石英	良好	黒褐色	底部~ 体下半部片	SI15 No5, 1区				
SI17A	1	土師器 甕	口径 底径 残高	(25.6) (10.2) -	体上半部外面横方向のヘラナデ 下半部縦方向ヘラケズリ 内面横方向ヘラナデ	長石, 石英 チャート, 金雲母	良好	にぶい黄褐色	底部 口縁部	SI17 カト' A No2, カト' A No3 4区				
SI17B	1	土師器 坏	口径 底径 残高	(13.0) (7.8) 4.2	ロクロ成形 底部回転ヘラ切り後ナデ状の弱いヘラケズリ	石英, 長石 チャート	良好	橙色	55%	SI17 No5				
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	(13.0) (9.1) 4.3	ロクロ成形底部回転ヘラ切り	石英, チャート 金雲母	良好	にぶい橙色	40%	SI20 No15				
	3	土師器 小皿	口径 底径 器高	11.3 7.0 2.6	ロクロ成形 底部回転ヘラ切り離し調整 ロクロ右回転	長石, 石英 チャート, 金雲母	良好	にぶい橙色	70%	SI17 カト' BNo2 4区				
	4	土師器 小椀	口径 底径 器高	9.8 5.4 4.4	ロクロ成形 内面黒色処理・ミガキ	石英, 長石, チャート 海綿骨針	普通	黒色 にぶい橙色	ほぼ完形	SI17 カト' ANo6				
	5	土師器 椀	口径 底径 残高	(14.0) 7.9 5.0	ロクロ成形 底部回転糸切り離し 内面黒色処理・ミガキ	石英, 海綿骨針	良好	黒色 にぶい黄褐色	60%	SI17 No2 カト' A No5				
	6	土師器 椀	口径 底径 器高	14.0 (7.2) 6.7	ロクロ成形 内面黒色処理・ミガキ	石英, 金雲母	良好	黒褐色 黒色 褐灰色	75%	SI17 No6 3区, 4区 カト' B No4 カト' B				
	7	土師器 椀	口径 底径 器高	14.2 7.2 6.5	ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ後高台貼付け 回転ナデ調整	石英, 海綿骨針 チャート	良好	黒色 にぶい黄褐色	70%	SI17 カト' A No1				
	8	土師器 椀	口径 底径 器高	(15.1) (8.2) 6.4	ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ後高台貼付け	石英, チャート 海綿骨針	良好	にぶい黄褐色	60%	SI17 カト' A No1 カト' A No4 SI20 カト'				
	9	土師器 椀	口径 底径 器高	(16.4) 9.0 6.4	ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ後高台貼付け 回転ナデ調整	石英, チャート 海綿骨針	良好	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	65%	SI17 カト' B 4区 SI20 カト' 3区, 4区				
	10	土師器 小型甕	口径 底径 器高	(10.8) - < 5.2 >	体部外面縦方向ヘラケズリ 内面ヘラナデ	石英, チャート	良好	にぶい黄褐色 黒色	口縁部片	SI17 4区				

表 10 出土遺物観察表 (7)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼成	色 調	内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備考
			単位 (推定値) cm	< 残値 >								
SI17B	11	土師器 甕	口径 底径 器高	( 16.4 ) - 11.6	体部外面ナデ, 内面横方向のヘラナデ 還元気味の硬質焼成	石英, チャート, 金雲母, 角閃石 海綿骨針	良好	灰褐色 にぶい黄橙色	口縁~ 肩部片		SI17 No1	
	12	土師器 把手	長さ	6.4cm	幅 1.9cm 中央部直径 1.8cm	石英, チャート	良好	橙色	把手部		SI17 No8	本体から 剥落
	13	石製品 支脚	長さ	12.8cm	幅 10.1cm 厚さ 7.4cm 重さ 1.2kg							SI17 カト' B
SI18	1	土師器 坏	口径 底径 残高	( 12.0 ) - < 3.6 >	体部外面ヘラケズリ, 内面ヨコナデ	石英, 角閃石	普通	橙色		50%	SI18 No2, No8 No9, 床下	
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	( 11.4 ) - < 3.5 >	体部外面ミガキ, 内面ミガキ	石英, チャート	良好	明赤褐色		30%	SI18 No7 床下	
	3	土師器 甕	口径 底径 器高	19.4 ( 7.5 ) 21.4	体部外面縦方向ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	石英, チャート	普通	赤色		80%	SI18 No1, No4 2区 カト'内	
	4	土師器 甕	口径 底径 器高	- 6.0 < 13.8 >	体部外面縦方向ヘラケズリ 内面ヘラナデ	長石, 石英 チャート	普通	黒褐色		40%	SI18 No6	
	5	石製品 砥石	長さ	<12.3>cm	幅 5.8cm 厚さ 4.5cm 重さ 355g 凝灰岩							SI18 No5
SI19	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	11.1 7.3 3.8	底部回転ヘラケズリ 底部ヘラ記号「一」 「十」	長石, 石英 チャート	普通	灰色		65%	SI19 No20	
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.6 8.3 4.1	体部下端回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	長石, 石英 海綿骨針	不良	灰黄色		80%	SI19 No24 覆土	
	3	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.8 7.2 4.6	体部下端回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	長石, 石英	良好	灰色		80%	SI19 No21 No23	
	4	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.6 7.4 4.6	底部回転ヘラケズリ 底部外面墨書「ナ」	長石, 石英 チャート 海綿骨針	良好	灰色	ほぼ 100%		SI19 No25	
	5	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.8 8.3 4.0	底部回転ヘラケズリ ロクロ左回転 ヘラ記号「一」	長石, 石英 チャート 海綿骨針	良好	灰色	完形		SI19 No14 1区	
	6	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.1 9.5 4.6	底部~二次底部面にかけて回転ヘラケズリ ロクロ右回転	長石, 石英 海綿骨針 黒色粒	普通	黄灰色 灰色		90%	SI19 No22, No23	
	7	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.6 9.1 4.8	底部回転ヘラケズリ ロクロ右回転	長石, 石英 チャート 海綿骨針	不良	にぶい黄色	ほぼ完形		SI19 No14, No19 覆土	
	8	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.4 8.9 4.1	回転ヘラ切り離し ロクロ左回転	長石, 石英 海綿骨針	不良	灰黄色		70%	SI19 No12 2区 覆土	
	9	須恵器 坏	口径 底径 残高	13.8 8.2 4.3	底部回転ヘラケズリ ロクロ右回転	長石, 石英 海綿骨針	良好	灰色	ほぼ完形		SI19 No16	
	10	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.4 9.5 4.3	底部回転ヘラケズリ ロクロ右回転	長石 黒色融出粒	良好	灰白色		50%	SI19 No21 1区	
	11	土師器 甕	口径 底径 器高	( 24.2 ) - < 11.9 >	体部外面ヘラナデ, 内面ヘラナデ 内面に一部指頭痕	長石, 石英 雲母	良好	にぶい黄褐色 灰黄褐色	口縁部片		SI19 No10	
	12	土師器 甕	口径 底径 器高	- 9.8 < 6.8 >	体下半部ミガキ 底部木葉痕	長石, 石英 白雲母	良好	にぶい黄褐色, 灰黄褐色 明赤褐色, 黒 褐色	底部片		SI19 No18	
	13	土師器 甕	口径 底径 器高	15.4 7.0 ( 20.3 )	体部内外面ヘラナデ 体下半部ヘラケズリ	長石, 石英 チャート	良好	明赤褐色 黒褐色		60%	SI19 1区 覆土	
	14	土師器 甕	口径 底径 器高	( 13.0 ) - < 9.6 >	体部外面ヘラケズリ 内面放射状のミガキ	石英, 長石 角閃石, 海綿骨針	良好	橙色		20%	SI19 覆土	
	15	土師器 甕	口径 底径 器高	21.8 10.0 22.4	体上半部外面縦方向のヘラナデ 下半部横方向のヘラナデ・ヘラケズリ	凝灰質泥岩細片カ 石英, 角閃石	良好	明赤褐色			SI19 No17 No18 1区	
	16	鉄製品 刀子	長さ	11.1cm	茎部幅 1.02 ~ 0.52cm 茎部厚 2.9 ~ 3.7mm 刃部幅 1.10cm 刃部厚 3.0mm 鎌区斜角 刃区ナデ角							SI19 No15
SI20	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	( 14.5 ) - 4.1	底部二方向手持ちヘラケズリは二次底部面 を消すように広く丁寧に行っている	石英, チャート	不良	灰黄色 灰白		60%	SI20 No11 3区	
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	14.3 9.5 4.7	底部回転ヘラケズリ, ロクロ右回転	石英, チャート 海綿骨針多量	普通やや良	灰色			SI20 No8	
	3	須恵器 坏	口径 底径 器高	( 14.5 ) 9.4 4.8	底部回転ヘラケズリで二次底部面を削って いる。体部のロクロ目頂部を回転ナデの二 次調整で平滑にしている	石英, チャート 海綿骨針多量	不良	灰白色		60%	SI20 No2 4区	
	4	須恵器 坏	口径 底径 器高	( 14.2 ) 9.2 4.8	底部回転ヘラケズリ, ロクロ右回転 体部のロクロ目頂部を回転ナデの二次調整 で平滑にしている	石英, チャート 海綿骨針多量	やや不良	灰色		60%	SI20 No16 4区, カト'火床	

表 11 出土遺物観察表 (8)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼成	色 調 内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備考	
			単位 cm	(推定値) < 残値 >								
S120	5	須恵器 蓋	口径 底径 器高	14.9 - 2.2	天井部 1/2 回転ヘラケズリ ロクロ右回転	石英, チャート 海綿骨針	不良	灰白色 浅黄褐色	ほぼ完形	S120 No9		
	6	須恵器 蓋	口径 底径 器高	(15.1) - 3.2	ロクロ左回転 内面に径 9.5 cm の高台融着痕と降灰痕あり 高台付坪との重ね焼き焼成	石英, 海綿骨針	良好	灰白色	50%	S120 カト カト火床 カト上層火床		
	7	須恵器 蓋	口径 底径 器高	(15.7) - 3.2	内面平滑化, 筆描き墨痕あり 転用硯としての利用か	石英, 海綿骨針	普通	灰白色	30%	S120 No7		
	8	須恵器 蓋	口径 底径 器高	(13.2) - < 2.6 >	天井部 1/2 回転ヘラケズリ ロクロ右回転	石英, チャート 海綿骨針	普通 やや不良	灰色	60%	S120 No3 4 区, SI17 3 区		
	9	須恵器 甕	口径 底径 器高	- - < 25.2 >	外面斜行する平行叩き 内面掌状のあて具痕	石英, チャート 海綿骨針	良好	黄灰色 褐灰色	20%	S120 No6		
	10	土師器 坏	口径 底径 器高	(12.6) - < 4.2 >	体部内外面ミガキ	石英, チャート 金雲母カ, 海綿骨針	良好	橙色	40%	S120 P1, P6 4 区		
	11	土師器 坏	口径 底径 器高	(12.6) - < 4.6 >	体部外面ヘラケズリ後ヘラナデ 内面ミガキ 内外面黒色処理か	石英, 海綿骨針	良好	黒色, にぶい橙色 黒色, にぶい黄褐色	20%	S120 2 区		
	12	土師器 甕	口径 底径 器高	(25.0) (8.0) -	体下半部ミガキ。底部木葉痕	石英, 白雲母 長石	良好	にぶい黄褐色 にぶい褐色	15%	S120 No14, No17 P1 1 区, 2 区, 3 区		
	13	土師器 甕	口径 底径 器高	(24.0) - -	体部丁寧なヘラナデ後下半部ヘラミガキ 内面横方向の丁寧なヘラナデ 体部二次被熱=カマド甕としての利用か	石英, 白雲母	良好	にぶい黄褐色 明黄褐色	15%	S120 No14, No17 カト, P1, P6 1 区, 3 区		
	14	土師器 小型甕	口径 底径 器高	(13.1) - 8.5	縦方向のヘラケズリ後ミガキ 体部外面ヘラ記号「十」。内面煤付着	石英	良好	灰褐色 灰黄褐色	15%	S120 No12		
	15	鉄製品 クルル鍵	長さ 16.8cm 幅 0.7cm 厚さ 0.6cm 重さ 50.6g	把手部長径・短径 3.3・(2.7)cm 把手部長さ < 8.0 >cm							S120 No18	
	16-1	石製品 基石	長さ 14.0mm 幅 12.3mm 厚さ 5.1mm 重さ 1.52g	石英				灰白色		S120 No1		
	16-2	石製品 基石	長さ 18.7mm 幅 15.6mm 厚さ 7.0mm 重さ 2.78g	石英				灰白色		S120 No10		
	16-3	石製品 基石	長さ 17.3mm 幅 12.9mm 厚さ 7.5mm 重さ 2.43g	石英				灰白色		S120 No10		
16-4	石製品 基石	長さ 16.7mm 幅 13.6mm 厚さ 9.5mm 重さ 3.10g	石英				灰白色		S120 No10			
16-5	石製品 基石	長さ 14.1mm 幅 11.1mm 厚さ 6.4mm 重さ 1.76g	メノウ				灰白色 / 半透明		S120 No10			
16-6	石製品 基石	長さ 15.0mm 幅 13.8mm 厚さ 5.8mm 重さ 1.95g	チャート				にぶい赤褐色		S120 No10			
16-7	石製品 基石	長さ 16.7mm 幅 16.6mm 厚さ 5.2mm 重さ 2.32g	角閃石片麻岩				灰オリーブ色 / 灰色		S120 No10			
16-8	石製品 基石	長さ 16.5mm 幅 13.8mm 厚さ 4.2mm 重さ 1.54g	黒色頁岩				暗灰色		S120 No10			
16-9	石製品 基石	長さ 15.6mm 幅 15.0mm 厚さ 5.2mm 重さ 1.87g	砂岩				暗緑灰色		S120 No10			
16-10	石製品 基石	長さ 17.5mm 幅 14.2mm 厚さ 4.9mm 重さ 1.94g	砂岩				暗緑灰色		S120 No10			
16-11	石製品 基石	長さ 21.9mm 幅 16.5mm 厚さ 5.3mm 重さ 2.89g	砂岩				暗緑灰色		S120 No10			
16-12	石製品 基石	長さ 19.3mm 幅 15.7mm 厚さ 6.6mm 重さ 2.50g	砂岩				オリーブ灰色		S120 No10			
16-13	石製品 基石	破砕片 重さ 0.82g	砂岩				灰色		S120 No10			
16-14	石製品 基石	長さ 16.4mm 幅 15.7mm 厚さ 6.3mm 重さ 2.33g	黒色頁岩				黒色		S120 No10			
16-15	石製品 基石	長さ 16.3mm 幅 12.4mm 厚さ 4.8mm 重さ 1.45g	変成を受けた凝灰岩カ				灰色		S120 No10			
16-16	石製品 基石	長さ 13.1mm 幅 10.3mm 厚さ 7.5mm 重さ 1.57g	黒色頁岩				オリーブ黒色		S120 No10			
16-17	石製品 基石	長さ 15.1mm 幅 13.4mm 厚さ 6.0mm 重さ 1.90g	角閃石片麻岩				灰オリーブ色 / 灰色		S120 No10			
16-18	石製品 基石	長さ 17.8mm 幅 13.2mm 厚さ 4.3mm 重さ 1.64g	黒色頁岩				暗灰色		S120 No10			
16-19	石製品 基石	長さ 16.0mm 幅 13.9mm 厚さ 4.8mm 重さ 1.63g	チャート				暗灰色		S120 No10			
16-20	石製品 基石	長さ 19.3mm 幅 14.2mm 厚さ 5.1mm 重さ 2.19g	黒色頁岩				暗灰色		S120 No10			
16-21	石製品 基石	長さ 17.5mm 幅 12.5mm 厚さ 4.6mm 重さ 2.01g	黒色頁岩				黒色		S120 No10			
16-22	石製品 基石	長さ 16.3mm 幅 14.2mm 厚さ 4.4mm 重さ 1.85g	角閃石片麻岩				暗灰色		S120 No10			
16-23	石製品 基石	長さ 18.1mm 幅 13.8mm 厚さ 4.9mm 重さ 1.87g	黒色頁岩				黒色		S120 No10			
16-24	石製品 基石	長さ 20.4mm 幅 12.5mm 厚さ 4.4mm 重さ 1.73g	黒色頁岩				黒色		S120 No10			
16-25	石製品 基石	長さ 17.7mm 幅 13.3mm 厚さ 3.4mm 重さ 1.25g	熱変成を受けた砂岩				暗緑灰色		S120 No10			
17	石製品 切子玉	長さ 18.9mm 幅 14.5 ~ 15.2mm 孔径 2.1 ~ 3.7mm 重さ 5.94g	水晶							S120 No19		

表 12 出土遺物観察表 (9)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼成	色 調		残存率	出土場所 注 記	備 考	
			単位 cm	(推定値) < 残値 >				内面	外面				
SI21	1	土師器 鉢	口径 底径 器高	( 19.4 ) - -	体部外面ヘラケズリ, 内面ヘラナデ	長石, 石英 チャート	良好	橙色, 黒色	口縁・体部片	SI21 覆土			
	2	土師器 甕	口径 底径 器高	( 22.6 ) - -	体上半部外面横方向のヘラケズリ 下半部縦方向のヘラケズリ・横方向のヘラナデ	長石, 石英 金雲母	良好	黒褐色	口縁 体部下半	SI21 4区, 覆土			
	3	土製品 支脚	器高 底辺 底辺	< 13.9 > 4.6 4.9	角錐形の下半部, 底辺はほぼ正方形 指頭痕	長石, 石英 チャート	良好	明褐色	70%	SI21 覆土			
SI22	1	須恵器 盤	口径 底径 器高	- - < 2.4 >		長石, 石英	良好	灰色	底部片	SI22 覆土			
	2	石製品 浮き	長さ 7cm 幅 5cm 厚さ 3.1cm 孔径 0.7cm 重さ 30g 軽石								SI22 No1		
SI24	1	須恵器 坏	口径 底径 器高	15.7 9.1 4.9	底部回転ヘラケズリ, ロクロ右回転 底部外面ヘラ記号「井」	長石, 石英 海綿骨針	良好	黄灰色 灰色	60%	SI24 No1			
	2	須恵器 坏	口径 底径 器高	( 13.2 ) ( 8.4 ) 4.0	底部回転ヘラケズリ	長石, 石英 海綿骨針	不良	灰黄色 灰白色	30%	SI24 No3			
	3	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	( 18.4 ) ( 12.0 ) 6.4		長石, 石英 海綿骨針	良好	灰色	20%	SI24 覆土			
	4	須恵器 蓋	口径 底径 器高	13.4 - 2.6	内面頂部付近に爪先の圧痕 5 か所あり	長石, 石英 チャート 海綿骨針	普通	灰色	55%	SI24 No2			
	5	須恵器 蓋	口径 底径 器高	23.2 - < 4.0 >	高温焼成のため外面は降灰による自然釉が斑 状に融出, 内面は金属成分由来の黒色融出粒	長石, 石英 チャート 海綿骨針	良好	黄灰色 黒褐色	60%	SI24 No4 P2			
SI25	1	土師器 坏	口径 底径 器高	( 14.6 ) - 3.9	体部指頭痕 底部ヘラケズリ内面ミガキ	石英, 角閃石	良好	橙色 にぶい黄褐色	40%	SI25 No4			
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	( 14.8 ) - ( 5.2 )	体部ヘラケズリ, 内面ナデ	石英, 片岩カ	良好	黒色 黒褐色	20%	SI25 2区覆土			
	3	土師器 坏	口径 底径 器高	- - < 3.4 >	内外面黒褐色	石英	良好	黒褐色	口縁部片	SI25 カマド 覆土			
	4	土師器 坏	口径 底径 器高	- - < 2.7 >	内外面黒色	石英	良好	黒色	口縁部片	SI25 1区覆土			
	5	土師器 坏	口径 底径 器高	- - < 2.3 >	内外面ミガキ 口縁部内外面黒色	精良	良好	黒色, 橙色	口縁部片	SI25 1区覆土			
	6	土師器 甕	口径 底径 器高	22.1 - < 31.4 >	体部外面ヘラケズリ, 底部付近器面剥離 内面縦方向のヘラナデ	長石, 石英 角閃石	良好	黒褐色 明赤褐色	40%	SI25 No2, カマド			
	7	土師器 甕カ	口径 底径 器高	( 24.8 ) - < 9.9 >	体部外面ヘラケズリ, 内面ヘラナデ	石英, 長石 チャート	良好	橙色 黒色	口縁部片	SI25 No1			
	8	鉄製品 鎌	長さ < 16.5 > cm 刃部幅・厚 1.8cm・0.3cm 茎部幅・厚 3.5cm・0.5cm								SI25 No3		
SI26	1	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.4 8.4 5.0	底部回転ヘラ切り後ナデ, 体部下端胎土中の砂 粒が動かなくなるまで乾燥させてから, 回転方 向に磨るようにヘラを当てて丸味を持たせる	白色, 石英 チャート 海綿骨針	普通 やや不良	灰オリーブ色	50%	SI26 4区			
	2	瓦 平瓦	長さ 幅 厚さ	< 5.8 > < 4.4 > 2.0	四面布目, 凸面ナデ	石英, 長石礫	還元焰 焼成 良好	灰色	-	SI26 4区			
SI27	1	鉄製品 鎌	長さ < 3.6 > cm 幅 0.4cm 厚さ 0.35cm 重さ 2.1 g 鉄鎌の茎部分								SI27 覆土		
	2	須恵器 蓋	破片長	< 4.0 >	内面は平滑化し, 端部の折り返し部もすり減っ て残存せず 内面を転用硯として再利用か	海綿骨針多量	普通	明緑灰色	小片	SI27 覆土	写真のみ 掲載		
SI28	1	土師器 蓋	口径 底径 器高	( 22.0 ) - < 2.9 >	内面黒色処理・ミガキ	石英, 金雲母	良好	黒色 橙色	口縁部片	SI28 No1, 2区			
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	- ( 9.6 ) < 1.4 >	底部回転糸切り	石英	良好	にぶい黄褐色 橙色	底部片	SI28 1区			
SI29	1	須恵器 坏	口径 底径 残高	( 11.6 ) ( 6.7 ) 4.3	底部回転ヘラケズリ, ロクロ右回転	石英, 海綿骨針	良好	灰色	40%	SI29 No5			
	2	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	11.0 6.5 5.1	底部外面高台内墨書「奉」	石英, 海綿骨針	良好	灰色	完形	SI29 No6			
	3	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	- 9.6 < 1.8 >	底部外面高台内ヘラ描き「井」 内面平滑なため転用硯か	石英, チャート 海綿骨針多量	良好	灰白色	底部片	SI29 No8			
	4	土師器 甕	口径 底径 器高	( 14.4 ) - < 6.1 >	ロクロ成形, 内面黒色処理・ミガキ 体部外面墨書「□井」 底部高台内ヘラ記号「一」カ	石英, 雲母 海綿骨針	良好	黒色 明黄褐色	40%	SI29 3区			
	5	須恵器 小瓶	口径 底径 器高	5.1 5.3 11.7	口縁部内面と肩部に降灰による濃い緑色の自然 釉	石英	良好	灰色	完形	SI29 No4			
	6	土師器 鉢	口径 底径 器高	- ( 12.8 ) < 2.0 >	体下端部ヘラケズリ 内面黒色処理	石英多量, 角閃石 海綿骨針	良好	黒色 橙色	底部片	SI29 1区			

表 13 出土遺物観察表 (10)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調 内面 外面	残 存 率	出 土 場 所 注 記	備 考
			単位 (推定値) cm < 残値 >								
SI29	7	土師器 甕	口径 底径 器高 < 20.4 > - < 25.4 >		体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	石英, チャート 雲母	良好	橙色 にぶい黄橙色	20%	SI29 カマド	
	8	土師器 小型甕	口径 底径 器高 -		体下半部ヘラケズリ, 内面ヘラナデ	石英, 金雲母	普通	暗褐色	体下半部片	SI29 カマド	
	9	鉄製品 鎌	長さ<5.0>cm 幅<3.2>cm 厚さ0.2cm 重さ12.219g							SI29 P3	
	10	鉄製品 鎌	長さ<3.3>cm 幅3.0cm 厚さ0.4cm 重さ8.320g							SI29 No2	
	11	鉄製品 鎌	長さ<9.6>cm 刃部幅0.9cm 頸部幅・厚さ6・4.5cm 茎部幅・厚さ0.5・0.45cm 重さ38g							SI29 No7	
	12	鉄製品 釘	長さ5.7cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 重さ4.1g							SI29 P4 覆土	
	13	石製品 紡錘車	直径<4.3>cm(4.7)cm 厚さ<0.85>cm(1.5)cm 粘板岩							SI29 1区	
SI31	1	土師器 杯	口径 底径 器高 (14.0) (8.0) 4.6		ロクロ成形 内面黒色処理・ミガキ	石英, 海綿骨針 雲母	良好	黒色 橙色	50%	SI31 1区, 2区 3区	
	2	土師器 甕	口径 底径 残高 (23.6) - 7.4		体部上半部外面ヘラナデ, 内面ヘラナデ	石英, チャート 雲母	良好	橙色	口縁部片	SI31 No2	
	3	鉄製品 刀子	長さ<3.1>cm 幅0.75cm 厚さ0.3cm 重さ1.491g 切先片							SI31 カマド内	
	4	石製品 砥石	長さ<10>cm 幅5cm 厚さ1.7~5cm 重さ225g 凝灰岩							SI31 No6	
SI32	1	須恵器 小型杯	口径 底径 残高 (10.0) (5.2) 3.3		底部回転ヘラ切り後一方ヘラケズリ 底部外面ヘラ記号「卅」	石英, チャート 海綿骨針	やや不良	灰黄色	40%	SI32 No15	
	2	須恵器 小型杯	口径 底径 残高 (9.8) (5.8) 3.4		底部回転ヘラ切り, 底部ヘラ記号「二」 体部墨書「西口」	石英	普通	灰黄色	30%	SI32 3区	
	3	須恵器 杯	口径 底径 残高 13.3 7.1 4.5		底部回転ヘラ切り, ヘラ記号「六」 焼き歪みあり	石英, チャート 海綿骨針	良好	褐灰色	80%	SI32 No5	
	4	須恵器 杯	口径 底径 残高 14.8 6.4 5.0		底部ナデ調整。	石英, チャート	普通	灰色	70%	SI32 No12 2区, 床面	
	5	須恵器 杯	口径 底径 残高 13.4 6.6 4.4		底部回転ヘラ切り後ナデ 底部外面を朱墨顔料の擦り皿として二次 転用か	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰色	完形	SI32 No14	
	6	須恵器 杯	口径 底径 残高 14.4 6.3 4.5		底部回転ヘラ切り後ナデ ヘラ記号「六」	石英, チャート 海綿骨針	やや不良	灰黄色	60%	SI32 No3 P4, 4区	
	7	須恵器 杯	口径 底径 残高 (14.0) (6.1) 5.7		底部回転ヘラ切り後ナデ 底部外面平滑化 顔料の擦り皿として二次転用か	石英, チャート 海綿骨針	普通	灰黄色	50%	SI32 No16	
	8	須恵器 杯	口径 底径 残高 13.8 6.8 5.1		底部回転ヘラ切り 底部外面ヘラ記号「ロ」 内底面墨書「林」	石英, チャート 海綿骨針	不良 酸化燻	橙色 にぶい橙色	80%	SI32 No2	
	9	須恵器 長頸瓶	口径 底径 残高 -		外面緩やかな回転のヘラケズリヘヘラナ デ 底部緩やかな回転ナデ	石英	普通	灰色	60%	SI32 No7 3区, 4区	
	10	須恵器 甕	口径 底径 残高 -		外面平行叩き 内面あて具としての掌圧痕	石英, 海綿骨針	良好	灰黄色	体下半部片	SI32 No10 No11	
	11	須恵器 甕	口径 底径 残高 -		外面平行叩き 内面あて具としての掌圧痕	石英, 海綿骨針	良好	褐灰色	体下半部片	SI32 No9	
	12	土師器 甕	口径 底径 残高 (22.0) -		体上半部ナデ 下半縦方向に掻き上げるヘラケズリ 内面横方向のヘラナデ	石英, 金雲母	良好	にぶい黄褐色 にぶい橙色	20%	SI32 No13 2区, 4区	
	13	土師器 甕	口径 底径 残高 (21.6) -		体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	石英, 白雲母	良好	橙色	口縁部片	SI32 No17 カマド, 1区	
	14	土師器 甕	口径 底径 残高 (19.4) -		体部外面やや斜め縦方向のヘラナデ 内面横方向のヘラナデ	石英, チャート 海綿骨針, 角閃石	良好	にぶい褐色 橙色	口縁部片	SI32 カマド 4区	
	15	鉄製品 火打金	長さ<3.8>cm 幅<2.3>cm 厚さ0.2cm 重さ4.869g							SI32 2区	
	16	鉄製品 刀子	長さ<5.3>cm 刃部幅・厚さ0.8・0.4cm 閥部幅1.5cm 茎部幅・厚さ0.7・0.5cm 重さ7.4g							SI32 No1	
	17	鉄滓	小さく打割された椀型滓片 重さ23.5g							SI32 4区	写真のみ 掲載
	18	石製品 カマド袖石	長さ28.7cm 幅10.3cm 厚さ7.0cm 重さ2.56kg							SI32 No24	
	19	石製品 支脚カ	石材としては18に接合するが, 使用状況はそれぞれ別々に使用されている							SI32 No6	
	20	石製品 カマド袖石	長さ28.7cm 幅18.4cm 厚さ9.0cm 重さ3.41kg, 凝灰質泥岩							SI32 No23	

表 14 出土遺物観察表 (11)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調 内面 外面	残 存 率	出 土 場 所 注 記	備 考
			単位 cm	(推定値) <残値>							
SI33	1	須恵器 坏	口径 底径 器高	13.4 7.0 5.2	底部回転ヘラケズリ 体部下端ヘラケズリ ロクロ左回転	長石, 石英 海綿骨針 チャート(角丸礫)	普通	青灰色	70%	SI33 No3, No2 1区	
	2	須恵器 盤	口径 底径 器高	(20.7) (11.2) 5.1		長石, 石英 黒色融出粒多量	良好 高温焼成	緑灰色	20%	SI33 1区	
	3	土師器 甕	口径 底径 器高	(24.0) - -	体部外面ヘラナデ, 内面ヘラナデ 胎土金雲母は器表面に附着しているように見える	長石, 石英 金雲母	良好	にぶい黄褐色	口縁部片	SI33 1区	
SI34	1	土師器 坏	口径 底径 器高	(11.8) - <2.7>	体部外面ヘラケズリ 内面ヨコナデ	長石, 石英	良好	にぶい黄褐色	口縁部片	SI34 1区	
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	(15.0) - <4.0>	体部外面ヘラケズリ 内面から口縁部外面黒色処理	長石, 石英	良好	黒褐色	口縁部片	SI34 3区	
	3	土師器 甕	口径 底径 器高	(16.2) - <7.4>	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	長石, 石英 チャート	良好	橙色	口縁部片	SI34 床下	
SI35	1	土師器 坏	口径 底径 器高	(12.2) - <3.8>	体部外面ヘラケズリ, 内面放射状ヘラミガキ	長石, 石英	良好	にぶい黄褐色	35%	SI35 3区, 4区	
	2	土師器 鉢	口径 底径 器高	(18.9) 9.6 9.2	体部外面ミガキ 内面ミガキ	長石, 石英 角閃石	良好	明赤褐色	50%	SI35 No7, カト <sup>+</sup> 1区, 4区	
	3	土師器 鉢	口径 底径 器高	(16.2) 7.5 12.0	体部内面のヨコナデが深く入る 体部外面器面剥落 内底面器面剥落	長石	普通	明赤褐色	50%	SI35 No3	
	4	土師器 坏	口径 底径 器高	(14.0) - 4.6	体上半部ヘラナデ, 底部ヘラケズリ 内面黒色処理・ミガキ	長石, 石英 チャート, 角閃石		明赤褐色	50%	SI36 No5	
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	17.0 9.0 18.3	体部外面上半ヘラナデ, 下半ヘラケズリ 内面ヘラナデ	長石, 石英 チャート	良好	明赤褐色 赤褐色	60%	SI35 No14 3区	
	6	土師器 甕	口径 底径 器高	18.8 - <18.2>	体部外面上半ヘラナデ, 下半ヘラケズリ 内面ヘラナデ	長石, 石英 チャート	良好	にぶい黄褐色 橙色	40%	SI35 No6, No8 4区	
	7	土製品 支脚	口径 上径 下径	20.8 4.8 8.6		長石, 石英	良好	明黄褐色	50%	SI35 No13	
	8	土製品 支脚	口径 底径 器高	<10.5> 4.6 <4.6>		長石, 石英	良好	赤褐色	80%	SI35 No10	
	9	鉄製品 鏝	長さ	11.4cm	鏝身長 6.4cm 刃部幅・厚 0.6×0.2cm 茎部長・最大幅・厚 5.0×0.5×0.3cm 重さ 5.1g				ほぼ完形	SI35 No12	
	10	鉄製品 鏝	長さ	<3.6>cm	幅 0.35cm 厚さ 0.35cm 重さ 1.8g				茎の一部	SI35 No5	
SI36	1	須恵器 蓋	口径 底径 器高	(17.6) - -		長石, 石英	やや不良	灰白色	口縁部片	SI35 4区	
	2	須恵器 長頸瓶	口径 底径 器高	(9.6) - -	胎土は比較的精良 焼成不良	長石, 石英細粒	不良	灰白色	底部片	SI35 4区	
	3	土師器 坏	口径 底径 器高	9.4 - 3.4	器面内外とも摩耗しているが本来内外面とも黒色処理か	チャート	良好	黒色 黒色, にぶい 黄褐色	50%	SI36 No3 4区	
SI37	1	土師器 坏	口径 底径 器高	(9.4) - 3.1	底部ヘラケズリ, 内面ヨコナデ	石英, チャート	良好	にぶい黄褐色 灰色	40%	SI36 3区	
	2	土師器 坏	口径 底径 器高	(12.6) - 5.0	底部ヘラケズリ 内面黒色処理・ミガキ	長石, 石英	良好	黒色, 浅黄色 にぶい黄褐色	30%	SI36 4区	
	3	土師器 坏	口径 底径 器高	(12.2) - 4.4		石英, 海綿骨針	良好	橙色, 黒色 にぶい黄褐色, 黒色	35%	SI36 No4	
	4	土師器 坏	口径 底径 器高	(15.4) - -		石英, チャート	良好	黒色 にぶい黄褐色	30%	SI36 4区	
	5	土師器 坏	口径 底径 器高	(12.0) - 4.5	体部外面ヘラケズリ 内面ヨコナデ 内外面黒色処理	石英, チャート 角閃石	良好	にぶい黄褐色 ~黒色	30%	SI37 1区	
SI37	2	土師器 坏	口径 底径 器高	13.6 - <4.5>	体部外面ヘラケズリ後粗雑なミガキ 内面粗雑なミガキ	石英, チャート 海綿骨針	良好	明黄褐色	35%	SI37 1区	
	3	土師器 坏	口径 底径 器高	(14.9) - 4.6	底部外面ヘラケズリ 内面ミガキ 内外面黒色処理	石英, チャート 角閃石	良好	黒褐色~黒色	ほぼ完形	SI37 No22	
	4	土師器 坏	口径 底径 器高	13.9 - <4.1>	体部外面ヘラケズリ 内面ミガキ, 内外面黒色処理	石英, チャート 角閃石, 海綿骨針	良好	にぶい褐色 ~黒色	80%	SI37 No1	
	5	土師器 坏	口径 底径 器高	13.3 - 4.6	体部外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ, 内外面黒色処理	石英, 角閃石 海綿骨針	良好	灰黄褐色 ~黒色 にぶい褐色 黒色	ほぼ完形	SI37 No10	
	6	土師器 坏	口径 底径 器高	13.0 - 5.7	底部ヘラケズリ 器全体を研磨 内外面褐色気味の黒色処理	石英, チャート 角閃石, 海綿骨針	良好	にぶい褐色 ~黒色 にぶい黄褐色 ~黒色	90%	SI37 No23	
	7	土師器 高坏	口径 底径 器高	(16.6) - 11.4	坏部内外面ヨコナデ 脚部外面ヘラケズリ	石英, チャート 角閃石, 海綿骨針	良好	橙色 (坏部内面: にぶい黄褐色)	80%	SI37 No9 カト <sup>+</sup> 中 <sup>+</sup> カト <sup>+</sup> 1区 2区 表探	
	8	土師器 鉢	口径 底径 器高	(9.8) 8.0 9.3	体部外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	石英多量 チャート 角閃石, 海綿骨針	良好	明赤褐色 橙色	60%	SI37 No11, No27	
	9	土師器 鉢	口径 底径 器高	(13.6) (8.0) 12.4	体部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 無頸	石英多量 角閃石多量 海綿骨針	良好	にぶい橙色	40%	SI37 No20	

表 15 出土遺物観察表 (12)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼成	色 調 内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備考
			単位 cm	(推定値) < 残値 >							
SI37	10	土師器 甕	口径 底径 器高	( 24.9 ) - < 11.9 >	胴上半部ミガキ 胴部下半部ヘラケズリ後粗いミガキ	石英, 角閃石 海綿骨針	良好	にぶい黄橙色	口縁部片	SI37 No17 No25 4区	
	11	土師器 甕	口径 底径 器高	- 7.2 < 7.7 >		石英, チャート 角閃石, 海綿骨針	良好	橙色	底部片	SI37 No19 2区	
	12	土師器 甕	口径 底径 器高	19.8 ( 8.5 ) < 31.1 >	胴部外面縦方向のヘラケズリ 胴部中位横方向のヘラケズリ	石英多量, チャート	普通	にぶい黄褐色	80%	SI37 No5 No6 No7 No8 No11 No21 No24 1区 2区 3区 4区	
	13	土師器 甕	口径 底径 器高	- 10.0 < 28.3 >	胴部外面ヘラケズリ後ナデ 器面荒れ	石英, チャート	普通	浅黄色 灰黄色	下半部の 40%	SI37 No2 No3 No6 No7 No8 No24 1区 2区 3区 4区	
	14	土師器 甕	口径 底径 器高	- - -		石英, 長石	普通	にぶい褐色 黒色	胴部片	SI37 No24	写真の み掲載
	15	土師器 甕	口径 底径 器高	- - -		石英, チャート	良好	橙色	胴下半部片	SI37 No11 1区 2区 4区	写真の み掲載
	16	須恵器 提瓶	口径 底径 器高	- - < 10.8 >	外面カキ目 内面同心円文あて具痕	石英, 海綿骨針	良好	灰色	体部片	SI37 No12	
	17	手捏土器	口径 底径 器高	8.5 5.3 3.6	全体指ナデ 底部松葉状植物圧痕	石英, 海綿骨針	良好	にぶい黄褐色	ほぼ完形	SI37 No13	
	18	土製品 支脚	口径 底径 器高	- 5.6 < 5.2 >	底面のみを広げた円柱形 全面指頭痕	白色粒多量	良好	黒色	下部	SI37 No11	
	19	土製品 丸玉	高さ	3.0cm	直径 3.2 ~ 3.5cm 孔径 0.8cm 重さ 35g	白色・石英粒多量	良好	黒色	完形	SI37 No26	
	20	土製品 丸玉	高さ	2.5cm	直径 2.7cm 孔径 0.7cm 重さ 15g	緻密	良好	橙色	完形	SI37 No28	
	21	土製品 丸玉	高さ	2.5cm	直径 0.6cm 孔径 0.6cm 重さ 20g	白色・石英極小粒 多量	良好	橙色	90%	SI37 No4	
	22	土製品 円柱状土鍾	長さ	- cm	直径 (5.0)cm 孔径 1.7cm 重さ 132.43g	白色・石英極小~小 粒多量, 赤色粒少量	良好	にぶい橙色	2片	SI37 No18 2区	
23	土製品 円柱状土鍾	長さ	11.4cm	直径 4.7cm 孔径 1.7cm 重さ 99.13g	石英中粒少量, 石英・ 白色極小粒多量, 赤色粒多量	良好	にぶい橙色	30%	SI37 2区		
SI38	1	土師器 坏	口径 底径 器高	( 13.4 ) - -		石英 金雲母を含む 微砂粒	良好	橙色	口縁部片	SI38 1区	
	2	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	- 6.2 -	底部回転ヘラケズリ 底部外面ヘラ記号「二」	長石, 石英 チャート 海綿骨針	やや不良	灰白色	高台部片	SI38 No2	
	3	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	( 11.0 ) ( 6.7 ) 5.0	底部回転ヘラケズリ 底部外面ヘラ記号「一」	長石, 石英 海綿骨針 チャート	普通	灰色	30%	SI38 1区	
	4	須恵器 高台付坏	口径 底径 器高	( 11.0 ) ( 7.0 ) 5.0	底部回転ヘラケズリ 底部外面ヘラ記号「升」カ	長石, 石英 海綿骨針	良好	灰色	40%	SI38 No1	
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	( 19.1 ) - -		長石, 石英	良好	にぶい褐色	口縁部片	SI38 1区	
	6	鉄製品 釘	長さ	5.3cm	幅 0.55cm 厚さ 0.55cm 頭部 1.2cm 重さ 8.3g					SI38 No3	
SI39	1	土師器 坏	口径 底径 器高	( 11.8 ) - ( 3.5 )	底部ヘラケズリ 内面ミガキ	石英, 長石 角閃石, チャート	良好	にぶい褐色	口縁部片	SI39 7ヶ土	
SI40	1	土師器 椀	口径 底径 器高	- 8.8 -	足高高台	微細な長石・石英粒 鉄分粒 海綿骨針	良好	にぶい褐色	高台部	SI40 No1	
SI41	1	須恵器 坏	口径 底径 器高	( 14.0 ) - -	外面黒色付着物	微細な長石・石英粒 海綿骨針, チャート 黒色粒	良好	青灰色	口縁部片	SI41 2区	
	2	土師器 甕	口径 底径 器高	( 23.5 ) - -	頭部指頭痕 体部外面幅広の雑なミガキ	長石, 石英 金雲母微量	良好	にぶい橙色	15%	SI41 No1, 1区 カト	
	3	土師器 甕	口径 底径 器高	( 23.5 ) - -	体下半部外面ミガキ 内面ヘラナデ	長石, 石英 白雲母	良好	明褐色	10%	SI41 カト 掘り方	
SI42	1	土師器 椀	口径 底径 器高	( 14.9 ) - -	ロクロ成形 内面黒色処理・ミガキ	石英, 長石 チャート	普通	黒色 褐色	口縁部片	SI42 覆土	
SB01	1	須恵器 蓋	口径 底径 器高	( 15.8 ) - -		長石, 海綿骨針 酸化粒	良好	灰色	口縁部片	SB01-P5	
	2	須恵器 蓋	口径 底径 器高	( 16.0 ) - -		長石, 白色片岩 海綿骨針	良好	灰色	口縁部片	SB01-P6	SB01-P5
SB02	1	土師器 三脚土器	口径 底径 器高	- - < 9.9 >		長石, 石英	良好	赤褐色	脚部	SI16 No20	SB02-P1
SB03	1	青磁 皿カ	口径 底径 器高	- - -		磁器胎土	良好	オリーブ灰色 断面: 明緑灰色	体部片	P2	SB03-P9
	2	灰軸陶器 長頸瓶	口径 底径 器高	- - -	体上半部に淡緑色自然釉	緻密 目立つ含有鉱物粒 なし	良好	緑灰色	体部片	P9	SB03-P8

表 16 出土遺物観察表 (13)

遺構	番号	種別 器種	法 量		観 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調	内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備 考
			単位 cm	(推定値) < 残値 >								
SE01	1	瀬戸 片口鉢	口径 底径 器高	( 31.6 ) - -	瀬戸美濃産力 17世紀後半	緻密	良好	浅黄橙色		口縁部片	SE1 77土	
SE02	1	唐津 碗	口径 底径 器高	- 4.1 -	雑巾掛け, 現川産, 1700 ~ 1740 年代	緻密	良好	暗グレー灰色		底部片	2号井戸	
	2	陶器 皿	口径 底径 器高	( 12.4 ) ( 4.6 ) 3.2	青緑釉輪壳皿, 肥前産 1650 ~ 1730 年代	緻密	良好	灰褐色		40%	2号井戸	
	3	陶器 大皿	口径 底径 器高	- ( 21.4 ) -	志野織部皿, 瀬戸・美濃産 1600 ~ 1670 年代	緻密	良好	灰白色		底部片	2号井戸	
	4	陶器 大鉢	口径 底径 器高	( 25.5 ) - -	三島手鉢, 唐津産 17世紀後半 ~ 1710 年代	緻密	良好	にぶい黄橙色		口縁部片	2号井戸	
	5	陶器 德利	口径 底径 器高	- - -	鉄釉, 五合德利, 瀬戸・美濃産 17世紀後半	緻密	良好	にぶい赤褐色 黒褐色 断面: 灰白色		肩部片	2号井戸	
	6	青磁 皿	口径 底径 器高	- - -		きわめて緻密	良好	オリーブ灰色 断面: 明緑灰色		体部小片	2号井戸	
	7	石製品 茶臼	直径 ( 22.0 ) cm	高さ ( 15.0 ) cm	上白片 砂岩カ					上白破片	2号井戸	
SX02	1	縄文 深鉢	口径 底径 器高	- - -	縄文帯と無文帯を沈線で縦に区画 加曽利 E 式	白色・石英粒多量	良好	黒色 浅黄色		胴部片	SX02	
	2	縄文 深鉢	口径 底径 器高	- - -	縦沈線で縄文 ( 単節 L R ) を区画 加曽利 E 式	白色粒多量	良好	黒褐色 にぶい黄橙色		胴部片	SX02	
SK01	1	土師器 椀	口径 底径 器高	( 12.0 ) 7.1 < 6.2 >		長石, 石英 海綿骨針	良好	にぶい黄橙色		40%	SK1 No3	
	2	土師器 椀	口径 底径 器高	( 13.6 ) 6.7 5.5	内面黒色処理・ミガキ 底部高台内ミガキ	長石, 石英 海綿骨針	良好	明赤褐色		40%	SK1 No1	
	3	土師器 椀	口径 底径 器高	- - < 4.8 >		石英, チャート	良好	褐色		40%	SK1 No2	
	4	土師器 小皿	口径 底径 器高	( 9.8 ) ( 6.0 ) 2.2		金雲母	良好	にぶい褐色		25%	SK1	
SK05	1	土師器 小皿	口径 底径 器高	( 9.6 ) 5.8 2.3	底部回転糸切, ロクロ右回転	長石, 石英 チャート	良好	橙色		60%	SI29 2区 SK5 77土	
	2	土師器 椀	口径 底径 器高	14.6 - < 4.3 >	内面黒色処理・ミガキ	長石, 石英 チャート	良好	にぶい黄橙色		60%	SK5 77土 SI29 2区	
	3	土師器 椀	口径 底径 器高	- 7.0 < 2.5 >	内面黒色処理・ミガキ 底部回転糸切り	長石, 石英 チャート	良好	浅黄色		底部片	SK5 No6	
	4	土師器 椀	口径 底径 器高	7.2 - < 3.0 >	内面黒色処理・ミガキ 内底面ナデ	長石, チャート 海綿骨針	良好	明赤褐色		底部片	SK5 No3	
	5	土師器 甕	口径 底径 器高	( 23.6 ) - < 13.3 >	体部外面縦方向ヘラナデ 内面横方向のヘラナデ	石英 輝石, 黒雲母	良好	にぶい黄褐色, 黒褐色		口縁部片	SK5 No4	
	6	石 被熱礫	長さ 13.1cm	幅 10cm	厚さ 4.7cm	重さ 830g				煤の付着した破砕礫	SK5 No8	写真のみ 掲載
SK06	1	土師器 椀	口径 底径 器高	- ( 6.6 ) < 4.0 >	内面ミガキ	石英礫 金雲母微粒多量	良好	橙色		40%	40%	
	2	鉄製品 クルル鉤カ	軸部推定直径 0.9cm	把手部推定直径 2.4 ~ 2.1cm	錆膨れが著しい 本体の軸部分は直角に折れ曲がる					軸の 屈曲部か	SK6 No1	
SD01	1	土師器 甕	口径 底径 器高	( 25.2 ) - -		長石, 石英	良好	にぶい橙色		口縁部破片	SD1 No1, 77土	
	2	土製品 支脚	高さ 幅 厚さ	15.1 6.3 6.0		長石・石英極小粒多 量, チャート 海綿骨針少量	良好	上面: 橙色 下面: 黒色		90%	SD1 No4	
	3	鉄製品 鐵	長さ < 6.0 > cm	幅 1.4cm	厚さ 0.3cm	重さ 7.3g					SD1 北確認面	
	4	鉄製品 鐵	長さ < 4.9 > cm	幅 0.2 ~ 0.4cm	厚さ 0.2 ~ 0.4cm	重さ 2.273g					SD1 北カクソ	
SD02	1	灰釉陶器 小皿	口径 底径 器高	- - -		緻密	良好	灰白色 釉: 淡緑色		体部小片	SD2 2区	
	2	鉄滓 椀形滓	長さ 7.2cm	幅 5.6cm	厚さ 3.6cm	重さ 161g					SD2 77土	
	3	石製品 砥石	長さ 5.1cm	幅 5.2cm	厚さ 4.0cm	重さ 115g	砂岩カ				SD2 2区	
SD03	1	陶器 挿鉢	口径 底径 器高	- - -		緻密	良好	灰褐色		口縁部片	SD3 1区	
Pit6	1	須恵器 長頸瓶	口径 底径 器高	- - -		長石, 石英 海綿骨針	良好	緑灰色 暗青灰色		肩部片	P6	
Pit29	1	土師器 椀	口径 底径 器高	16.6 - < 5.0 >	底面一方向きガキ後体部内面回転方向の丁寧な ミガキ 内面黒色処理, 底部回転糸切り	石英, 長石少量	良好	黒色 橙色		30%	P29	

表 17 出土遺物観察表 (14)

遺構	番号	種別 器種	法 量	観 察 所 見	胎 土	焼成	色 調 内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備 考
			単位 (推定値) cm < 残値 >							
遺構外	1	縄文 深鉢	地紋の縄文はヘラナデで軽く消され、口縁直下の円形窪みの列に向かって沈線で幾何学文を描く 堀之内 1 式	微細砂粒 角閃石	良好	にぶい黄橙色 黒褐色	口縁部片	SI11 2 区		
	2	縄文 深鉢	地紋の縄文に沈線で区画文と渦巻文を描き、沈線間にできた幅の狭い隆帯上に刻みを入れる 堀之内 1 式	白色粒・石英多 海綿骨針	良好	橙色 黒色	胴部片	SI21 3 区		
	3	縄文 深鉢	地紋の縄文に沈線で区画文と渦巻文を描き、沈線間にできた幅の狭い隆帯上に刻みを入れる 堀之内 1 式	緻密 白色粒極少	良好	にぶい褐色	胴部片	SI015 3 区		
	4	縄文 深鉢	単節 R L 縄文を地紋とし、絡条体による捺糸文を施す 堀之内 2 式	白色粒・ 石英微粒多	良好	赤褐色	胴部片	SI13 4 区		
	5	縄文 深鉢	単節 R L 縄文を地紋とし、半截竹管で平行斜線を描く 堀之内 2 式	緻密 白色粒極少	良好	明黄褐色	口縁部片	SI08 4 区	6 と同一 個体	
	6	縄文 深鉢	地紋に半截竹管による 2 重沈線 堀之内 2 式	白色粒・ 石英微粒多	良好	にぶい黄橙色	胴部片	SI13 1 区	5 と同一 個体	
	7	石器 磨石・叩石	長さ 10.2cm 幅 10.8cm 厚さ 2.8cm 重さ 470g 砂岩					SI13 No10		
	8	石器 磨石・叩石	長さ 9.9cm 幅 7.4cm 厚さ 4.0cm 重さ 405g 安山岩					SI12 No24		
	9	石器 磨石・叩石	長さ 13.3cm 幅 9.6cm 厚さ 5.6cm 重さ 1000g 砂岩					SI18 7 土		
	10	石器 礫器	長さ 10.6cm 幅 10.8cm 厚さ 3.6cm 重さ 555g 花崗岩					SI19 7 土		
	11	石器 磨石	長さ 8.1cm 幅 6.5cm 厚さ 3.0cm 重さ 230g 砂岩					SI16 1 区		
	12	石器 磨石	長さ 9.6cm 幅 9.8cm 厚さ 2.4cm 重さ 330g 安山岩					SI16		
	13	石器 磨石	長さ 6.9cm 幅 6.2cm 厚さ 3.7cm 重さ 205g 砂岩					SI11 No29		
	14	石器 磨石	長さ 11.3cm 幅 10.3cm 厚さ 4.3cm 重さ 515g 砂岩					SI37 4 区		
	15	石器 未製品	長さ 6.6cm 幅 4.5cm 厚さ 2.0cm 重さ 65g ホルンフェルス					SD4 3 区		
	16	須恵器 長頸瓶	口径 - 底径 ( 11.3 ) 器高 < 6.8 >	外面体部下端に織物圧痕	長石、黒色融出粒	良好	オリーブ 灰色	底部片	SD2 1 区	
	17	須恵器 壺	口径 - 底径 ( 6.0 ) 器高 -	小型短頸壺力 濃い緑色自然釉	長石、黒色融出粒	良好	オリーブ 灰色	底部片	SD2 1 区	
	18	灰釉陶器 長頸瓶	口径 - 底径 ( 8.5 ) 器高 -		緻密、黒色微粒	良好	灰褐色	底部片	SD3 1 区	
	19	須恵器 長頸瓶	口径 - 底径 - 器高 -	フラスコ形	精良	良好	灰白色	体部片	SI07 3 区	湖西古窯 跡群産力
表土	1	土師器 坏	口径 ( 12.4 ) 底径 7.0 器高 2.9	底部回転ヘラ切り	長石、石英	良好	にぶい黄橙色	60%	表採	
	2	須恵器 高坏	口径 - 底径 - 器高 < 5.0 >	小型短脚高坏	長石、石英	良好	灰色	脚部片	表土	

## 第4章 総括

東前原遺跡第17地点からは縄文時代の陥し穴3基、古墳時代の竪穴建物10軒、奈良平安時代の竪穴建物33軒、掘立柱建物2棟、土坑7基、中世～近世の道路跡1条、掘立柱建物1棟、近世の井戸2基、時期不明の土坑9基、ピット47基が確認されている。出土遺物は、縄文時代中・後期の土器、古墳時代後期の土師器・須恵器・土製品、奈良平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品・石製品・土製品、近世の青磁・陶磁器・石製品が見られる。

### 東前原遺跡第17地点の時代ごとの概要

本調査地点の土地利用の開始は、縄文時代後期の陥し穴の構築である。3基の陥し穴の内1・2号陥し穴は長軸方向が北西から南東方向を向き、2基が同じ向きに約15mの間隔を持って並んでおり同時期の陥し穴と見られる。3号陥し穴も同時期のものとするとも西南西から東北東方向に直線的に並んでいる。2号陥し穴は最初に溝状陥し穴として深く掘られており、その後深い部分を埋めて底面を平坦にしてより浅く造り直しをしている。新しく造った陥し穴の底面には、落下した小動物が逃れようとして側壁を掘り込んだような大きさの穴が多数見られた。

その後、古墳時代後期に集落が成立し奈良・平安時代に続いている。奈良時代は本調査地点で集落が最も隆盛した時期である。竪穴建物からなる集落は11世紀まで続いている。

中・近世の遺構としては、道路跡が東西方向に延びている。僅かに出土している遺物からは16世紀頃から近世にかけての時期の可能性が考えられる。道路の主軸方向と合わせて北側に3×4間の不等間の掘立柱建物とさらに北側に17世紀後半頃かと思われる井戸がある。17～18世紀頃の井戸は東側の調査区の北部にもあり道路沿いに生活空間があったものと見られる。

### 古代の集落の開始と変遷（第114図）

本調査地点において集落の始まりは古墳時代後期に至ってからである。最初の竪穴建物は6世紀の後葉頃、西側調査区の西寄りに建てられた大型の16号竪穴建物である。同時期に調査地区西端に南北方向に直線的な溝が掘られている。溝は側壁面がほぼ垂直に立ち上がり、側壁直下に小溝が掘られており、区画溝というよりは側板を立てて水を流しているかのような溝である。集落の成立に伴い導水をするなど周辺の施設環境を整えているのかもしれない。東側調査区には床に柱穴も出入り口ピットも持たない中型の37号竪穴建物が時期的にやや遅れて見られる。最初に成立する16号竪穴建物のある場所は6世紀末から7世紀初めころにかけて中核となった場所と見られ、17A・18号竪穴建物へと変遷していく。一方7世紀の中頃になるとやや大型の25号竪穴建物や34号竪穴建物が西側調査区の東寄りに成立し、36号竪穴建物が東側調査区に造られる。その後東側調査区では7世紀末に36号竪穴建物から35号竪穴建物へと遷り変わる。

8世紀前葉になるとかつて古墳時代の集落成立当初中核と見られた地点に大型の20号竪穴建物が造られる。さらに8世紀第2四半期頃を中心に竪穴建物が急増している。竪穴建物の配置は東西・南北方向に5～10mの間隔を空けて建てられ、最初に成立した20号竪穴建物の西に大型の7・11号竪穴建物、11号竪穴建物の北側に中型で4本柱穴を持つ10号竪穴建物が造られている。それらを中心にして4本柱を持たない5・13・15・16号竪穴建物が南北に2棟ずつ見られる。4本柱を持った床面積の大きな竪穴建物は構造的にもしっかりとした主屋であると想像でき、小振りでカマドと出入り口ピットしかない家は簡素な構造の家であったのではないかと見られる。同時期の茨城県南部の遺跡では大型竪穴建物ばかりが主体で、小型の無柱の竪穴建物と組んで存在するというのは珍しいと思われる。また、最盛期であった8世紀第3四半期頃に営まれた11軒の竪穴建物が8世紀後葉にまとまって廃絶している。火災の痕跡も見られず、まとまっただけの廃絶にはなんらかの原因があったのではない

だろうかと思われ。単に集落内の別の場所に建て替えが行われた可能性もあるが、なんらかの力が働いていずれかの地に集団移動した可能性もあるかもしれない。あるいは主屋が竪穴建物から掘立柱建物に変わった可能性もあるだろうかと思われ。

8世紀後葉には前代に中核となっていた地点の周囲に小型の3・9・22号竪穴建物が存在している。掘立柱建物柱穴から出土した須恵器蓋小片から見て1・2号掘立柱建物は8世紀後葉～9世紀前葉の時期の可能性が考えられる。掘立柱建物は2×3間の南北棟で倉庫と考えられる建物だが、前代までの中核地に建てられた掘立柱建物はこのエリアの北側に掘立柱建物の主屋があるのではないかと考えられる。

9世紀前葉頃には西側調査区の東端に竪穴建物が4軒まとまって見られ、壁寄りに支柱穴を持つ大型の29・41号竪穴建物の2軒と支柱穴のない28・31号竪穴建物の2軒である。集落の中心は西側調査区の東端部に移ったように見受けられる。この時期の竪穴建物で特徴的なのは支柱穴をこれまでの位置からずらして、北壁寄りの位置に移動する構造のものが目立つ点である。県西部や県南部でも9世紀になると北壁・南壁寄りに支柱穴の位置をずらして、南北方向に長い（出入り口側から見て縦長の）竪穴建物に形態を変化させているが、水戸市域の9世紀前半の竪穴建物の中には、北側の支柱穴2本だけを北壁寄りに移動している例が目につく。

9世紀中葉には8号竪穴建物が1軒のみ見られる。9世紀後半代には壁寄りに支柱穴の位置をずらした構造を受け継ぐ大型の32号竪穴建物が東端地区にあり、西側調査区西端にも小～中型の竪穴建物3軒が見られる。

10世紀前半代には1B・4B・17B・38・42号竪穴建物の4軒が見られる。その後、10世紀後半から11世紀の初めまで竪穴建物は確認できず集落としては一旦途絶えてしまい、11世紀第2四半期頃に12号竪穴建物1軒のみが見られる。竪穴建物はこれを最後に姿を消し、集落としての姿はたどれなくなる。

#### 東前原遺跡出土遺物について（第115図）

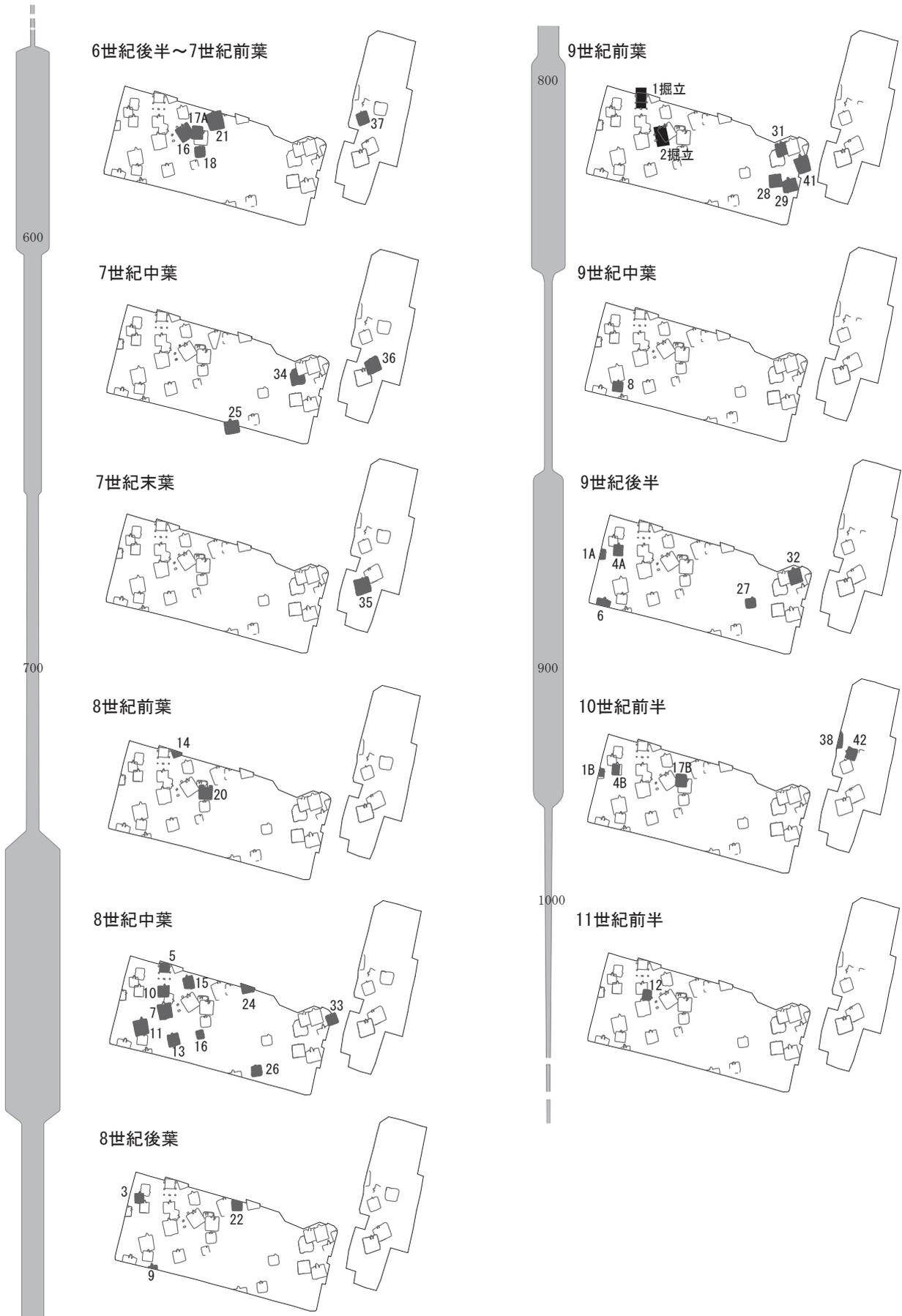
##### 1 古墳時代（6～7世紀）の出土遺物

東前原遺跡から出土している古墳時代後期の6世紀後葉頃から7世紀にかけての土器の概要と特徴についてまとめたいと思う。

6世紀後葉頃と見られる16号・37号竪穴建物出土の土師器類は坏・鉢・甕・甗・高坏があり、坏は内外面を黒色処理し内面にミガキをかけたものが多い。茨城県内ではこのような形状・特徴の坏はこの時期頃から一気に広まる。甕は球胴形、甗はやや長胴気味、16号竪穴建物5の甕は胴下半部に最大径を持つ下膨れである。高坏はやや長脚で器高が高く坏口縁部が外反して開いている。高坏の坏部の形状は福島県中通地方の栗囲式古段階の高坏に似ており（柳沼1989）、下膨れの甕などとともに栗囲式古段階の土器群との関連が窺える。16・37号竪穴建物の出土遺物の時期は須恵器を伴う遺跡との比較からTK209段階頃の時期のものと見られる。

次の7世紀中葉頃の建物は25・34・36・39号竪穴建物があげられる。36号竪穴建物の土師器の坏は内外面黒色処理が1点、内面にのみ黒色処理したものが3点あり、小振りで無彩のものが1点ある。25号竪穴の坏は無彩のものと内外面黒色処理のものが半々くらいあり、39号竪穴建物の坏は黒色処理がほどこされていない。7世紀中頃には黒色処理の退化傾向が窺えるようである。

7世紀第4四半期頃と見られる35号竪穴建物出土遺物は無彩で内面に放射状のミガキを施したやや小振りの坏と赤彩の坏、須恵器の蓋・壺が特徴的である。土師器の坏に放射状の丁寧なミガキを施すのは飛鳥時代に畿内で流行しておりその影響があるのであろうか。35号竪穴建物からは木葉下窯跡群産とは異なる須恵器2点が出土している。須恵器の蓋は水戸市木葉下窯跡群A地点灰原から出土したものに形状は類似しており、時的には木葉下窯跡群の最も古い段階頃のものと同一時期のものと見られるが、高台のついた壺の体下半部とともに胎土の特徴が木葉下窯跡群産のものとは異なっている。蓋と壺の胎土は大きめの鉱物・岩片粒を含まない微細粒を主



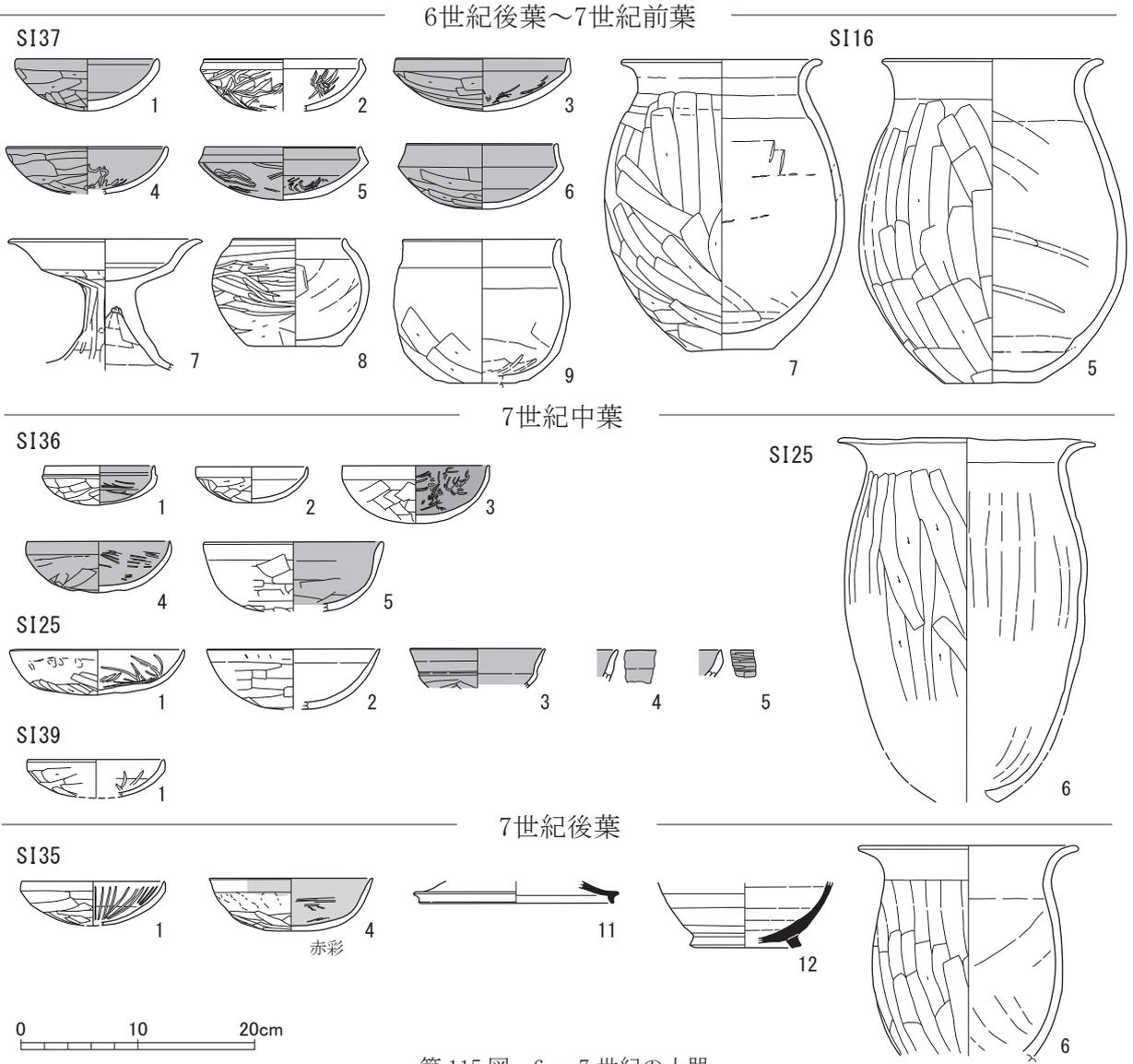
第114図 古墳～平安時代の集落変遷図

体とした精良な胎土で、焼成はやや不良で灰白色という共通した点があり同一窯の生産品かと思われる。木葉下窯跡群とは別の窯で本遺跡から距離的に近く、時期的にも近い条件を勘案すると東海村御所内窯産の可能性を想定してみたい。木葉下窯跡群で大量生産が始まる前の生産量が少なめな段階の流通品ではないだろうか。

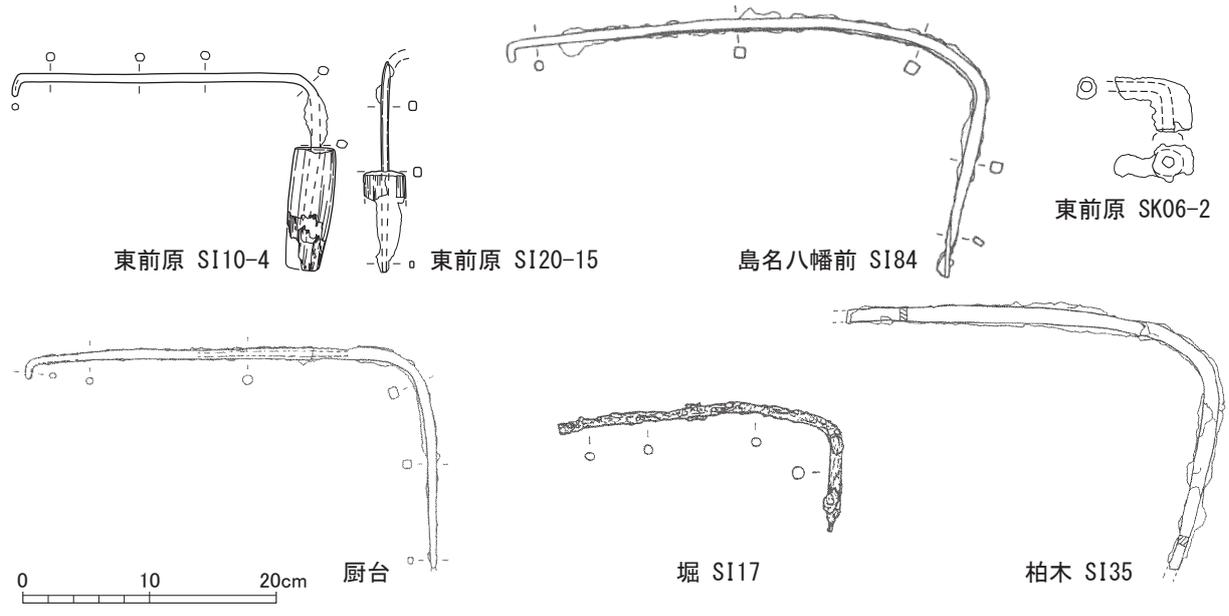
## 2 奈良・平安時代の出土遺物について

奈良・平安時代の出土遺物の中でも特異な遺物について触れておきたい。10・20号竪穴建物からはクルル鉤が出土している。茨城県内の奈良・平安時代のクルル鉤の出土例は第116図に示したが、8世紀代の鹿嶋市厨台遺跡出土例は、先端六角形、開錠部八角形、軸部で四角形に面取りされている。本遺跡の8世紀中葉の10号竪穴建物例では先端から開錠部にかけて全体に丸味を持ち多面体のようにも見える。9世紀代の島名八幡前遺跡例では開錠部で四角く面取りされており、10世紀の柏木遺跡例も開錠部長方形である。開錠部断面は円か多面形から面取りした四角形に変化しているようである。これらのクルル鉤出土の竪穴建物は倉庫の管理に係る者の家であったと見られる。調査区内に同時期の管理すべき倉庫は見られないので、本遺跡内のどこか別の地点か、近隣遺跡にあったものと思われる。近接する大串遺跡は、掘込み地業による礎石建物跡や規模の大きな掘立柱建物が複数確認されている。それらの遺跡との関連性を考えてもよいのではないだろうか。

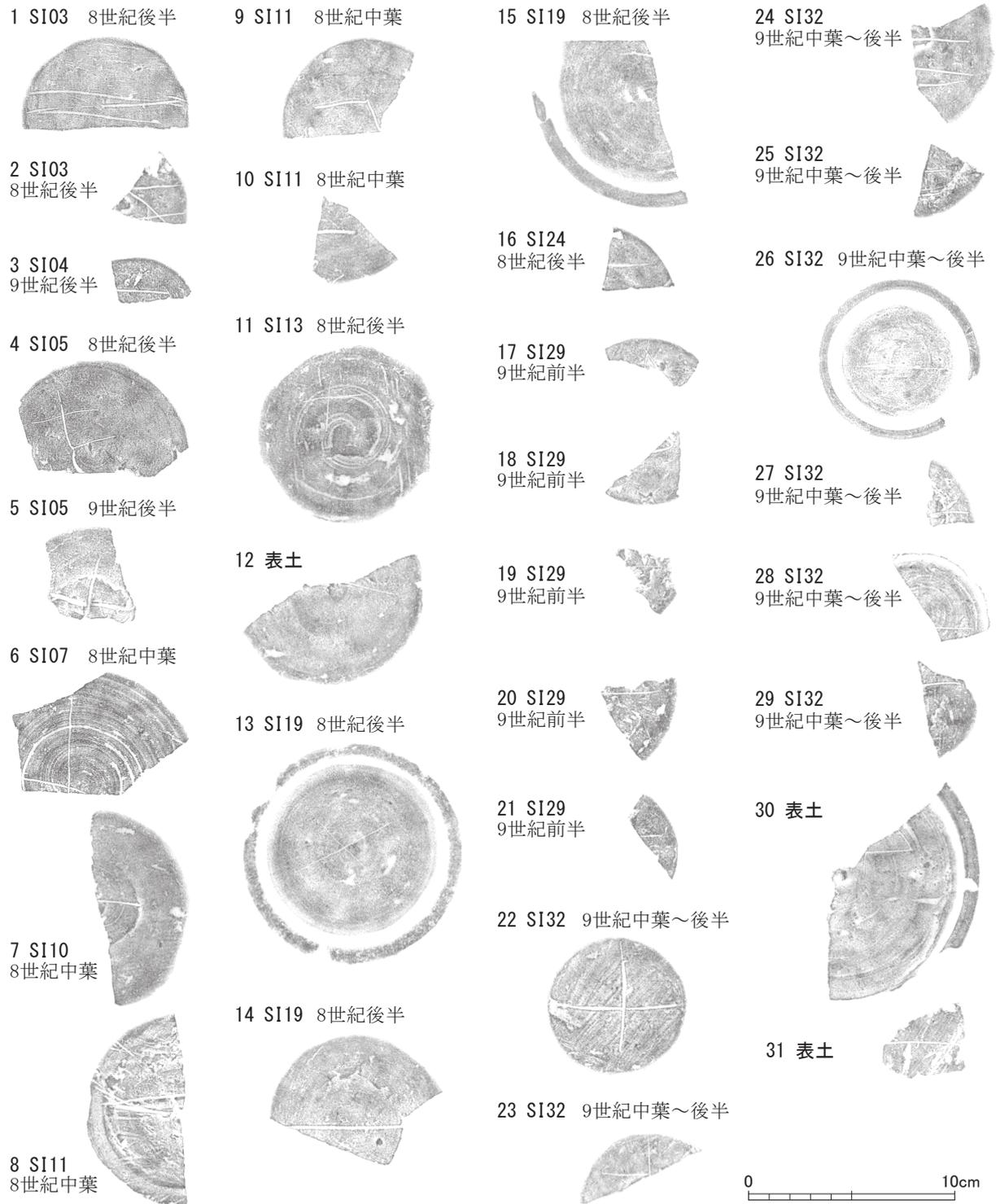
20号竪穴建物からは、水晶製切子玉が出土しており、竪穴建物の廃絶に伴ってカマド前面で祭礼を行っていたと見られ、切子玉を8世紀前半まで所持し祭祀に使用していたと思われる。同じ竪穴建物の床面からは扁平で小型の自然石が全部で25個出土している。色調は黒色・暗灰色のものが多く白色や赤色もある。出土状況は拳大の範囲にまとまって出土しており、小袋に入っていたかのような出土状況である(第54図)。石材は、第56図・図版26の16-1,2,3,4が石英、5がメノウ、6,19がチャート、7,17,22が角閃石片麻岩、8,14,16,18,20,21,23,24が黒色頁岩、9,10,11,12,13が砂岩、15が熱変成を受けた凝灰岩カ、25が熱変成を受けた砂岩である。類例を探ると藤原京跡出土の「基石」とよく似ている。藤原京出土の基石は藤原京右京三条三坊の邸宅跡の建物柱抜き取り穴から30個まとまって袋か容器に入れられていたような状態で出土している。白石18個、黒石19個で、白石がチャート、黒石が黒色頁岩と砂岩からなっているという。松村恵司氏はその用途について基石なのか双六子なのか決定できないものの、その他の京内出土例も含めて基石としての使用を推測している(松村1998)。出土個数は藤原京例30個、本遺跡例25個で、両者ともあまり多くはない数の石をまとめて保管していたことになる。廃棄の時点までに失われたものも当然考えられるが、囲碁の場合白黒合せて100個以上の数を使用するので、基石としてはあまりにも少なすぎる。そのため30個程の石数で使用した盤双六の双六子を想定する方が理解しやすいのではないだろうか。当時の世情を見ると、『日本書紀』天武14(685)年9月に宮廷内で博戯の会を催したと記されており、宮廷内で催された博戯の遊戯具は盤双六と考えられている。また、持統3(689)年12月には「双六を禁ずる」という禁令が出ている。つまり当時双六は賭博の道具として宮中でも使われ、禁例が出る程一般庶民にも流行していたようである。藤原京出土の基石と本遺跡出土の石が頁岩、砂岩を使用し似た形状や色合いを見せており、都で流行著しい盤双六を手に入れ使用している可能性も考えられるのではないかと思われる。基石(双六子)の産地については、20号竪穴建物例では那珂川や久慈川、八溝山系などで入手可能であり、文献資料からも常陸国内において鹿島の基石、藻島の既の近くの海岸で黒・白石の採取など常陸国内産の可能性が考えられるが、都を中心に大流行している状況が先行してあるので、初期の石の採取地は都に程近い海岸部などからの供給で、流布されている可能性も考えられるのではないだろうか。20号竪穴建物の出土遺物から見えてくるのは、古墳時代的な祭祀具と信仰を持ちながら、倉庫の管理に携わるような公的な職を持ち、盤双六のような都での流行をいち早く取り入れ生活している人物の姿である。これは律令期の地方下級役人の生活の様相を示しているのではないかと思われる。



第115図 6～7世紀の土器



第116図 茨城県内出土のクルル鉤



※ 番号は、表 18 の一覧表に同じ

第 117 図 須恵器ヘラ記号集成図

最後に、集落として最も充実している 8～9 世紀の時期には、水戸市木葉下窯跡群を主体とする須恵器坯の底部にはヘラ記号が多くみられるが、それらについて本編であげられなかったものを集成して掲載しておきたいと思う。(第 117 図・表 18)

表 18 須恵器へラ記号一覧表

No	遺構	種類	記号	位置	時期
1	SI03	須恵器 坏	乙	底部外面	8C 後半
2	SI03	須恵器 坏	乙	底部外面	8C 後半
3	SI04B	須恵器 坏	ト	底部外面	9C 後半
4	SI05	須恵器 坏	七	底部外面	8C 後半
5	SI06	須恵器 坏	十	底部外面	9C 後半
6	SI07	須恵器 坏	十	底部外面	8C 中葉
7	SI10	須恵器 坏	一	底部外面	8C 中葉
8	SI11	須恵器 坏	×	底部外面	8C 中葉
9	SI11	須恵器 坏	ㄟ	底部外面	8C 中葉
10	SI11	須恵器 坏	一	底部外面	8C 中葉
11	SI13	須恵器 坏	×	底部外面	8C 後半
12	表土	須恵器 坏	一	底部外面	一
13	SI19	須恵器 高台付坏	×	底部外面	8C 後半
14	SI19	須恵器 坏	一	底部外面	8C 後半
15	SI19	須恵器 高台付坏	一	底部外面	8C 後半
16	SI24	須恵器 坏	一	底部外面	8C 後半

No	遺構	種類	記号	位置	時期
17	SI29	須恵器 坏	×	底部外面	9C 前半
18	SI29	須恵器 坏	∩	底部外面	9C 前半
19	SI29	須恵器 坏	二	底部外面	9C 前半
20	SI29	須恵器 坏	一	底部外面	9C 前半
21	SI29	須恵器 坏	一	底部外面	9C 前半
22	SI32	須恵器 坏	十	底部外面	9C 中葉 - 後半
23	SI32	須恵器 坏	十	底部外面	9C 中葉 - 後半
24	SI32	須恵器 坏	三	底部外面	9C 中葉 - 後半
25	SI32	須恵器 坏	二	底部外面	9C 中葉 - 後半
26	SI32	須恵器 高台付坏	一	底部外面	9C 中葉 - 後半
27	SI32	須恵器 坏	×	底部外面	9C 中葉 - 後半
28	SI32	須恵器 高台付坏	一	底部外面	9C 中葉 - 後半
29	SI32	須恵器 坏	一	底部外面	9C 中葉 - 後半
30	表土	須恵器 高台付盤	十	底部外面	一
31	表土	須恵器 坏	一	底部外面	一

参考・引用文献

- 秋元吉郎校注 1958「常陸国風土記」『風土記』日本古典文学大系 2 岩波書店  
 伊東重敏 1976『大六天古墳（森戸古墳群第 12 号墳）』茨城県東茨城郡常澄村教育委員会  
 井上喜久男 1992『尾張陶磁』ニューサイエンス社  
 井上義安 1985『水戸市下畑遺跡 市道酒門 8 号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
 井上義安 1994『水戸市大串遺跡 市道常澄 8-1495 号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市  
 井上義安 1998『伊豆屋敷跡確認調査報告書 墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸地方埋蔵文化財研究会  
 井上義安・金子浩正 1996『水戸市大串遺跡 常澄中学校増改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市  
 井上義安・千葉隆司 1995『水戸市北屋敷古墳 市道常澄 7 - 0057 号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市  
 太田有里乃・土生朗治 2015『小原遺跡（第 3 地点） 都計道 7・6・1 号外 3 路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
 小川和博・大淵淳志・川口武彦・木本挙周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学 2008『大串遺跡（第 7 地点）一介護老人保健施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会  
 橿原市教育委員会 1997『藤原京右京三条三坊（かし教委 1996-13 次）『かしはらの歴史をさぐる 5 平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査速報展』  
 樫村宣行 1995『一般国道 6 号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 梶内遺跡』財団法人茨城県教育財団  
 川口武彦 2005「水戸市下入野町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第 27 号 婆良岐考古同人会  
 川口武彦 2008「水戸市百合ヶ丘町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第 30 号 婆良岐考古同人会  
 川口武彦・小川和博・大淵淳志 2002『水戸市元石川町所在 小仲根遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
 合田芳正 1999『古代の鍵』考古学ライブラリー 66 ニュー・サイエンス社  
 齋藤 洋・米川暢敬 2016『小原遺跡（第 16 地点） 都市計画道路 7・6・1 号線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
 佐々木義則 1999「茨城県北半部における土師器碗の形式変遷」『婆良岐考古』21 号 婆良岐考古同人会  
 田口一郎・土生朗治 2014『上佐野船橋遺跡 5』高崎市文化財調査報告書第 338 集 高崎市教育委員会  
 中山信名 1979『新編常陸国誌』宮崎報恩会  
 土生朗治 2014『下り松遺跡』結城市教育委員会  
 松田政基ほか 2012『寺上遺跡』笠間市教育委員会  
 松村恵司 1998「藤原京の「基石」」『季刊 明日香風』第 65 号（財）飛鳥保存財団  
 増川宏一 1978『盤上遊戯』ものと人間の文化史 29 法政大学出版局  
 三浦京子 1990「群馬県における 8～11 世紀の黒色土器について」『東国土器研究』第 3 号 東国土器研究会  
 水戸市教育委員会 1999『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書（平成 10 年度版）』  
 梁木 誠・田熊清彦 1989「栃木県の彩色土器について」『東国土器研究』第 2 号 東国土器研究会  
 柳沼賢治 1989「福島県中通り地方の土師器」『シンポジウム 福島県に於ける古代土器の諸問題』万葉の里シンポジウム実行委員会・鹿島町教育委員会





